

桐生市地名考

桐生市立図書館

発 刊 に あ た り

このたび島田一郎氏が苦節 40 年に及ぶ調査・研究を集約した『桐生市地名考』がまとまり、ここに発刊の運びとなりました。わがふるさと桐生市は時代の変遷を経て、現在の「まち」のなりあいを形成しています。そして、それぞれの地名のいわれには、永年の歴史があり、由来にも深い意味があります。また、時代と共に消えていった地名もあります。

島田氏がこの研究に着手されたのは、柳田國男氏の『地名の研究』に触発されて、2 字から 3 字で構成された地名の深い意味あいに心を動かされたのが、きっかけと伺っております。

地名考の資料収集・調査には、ひとかたならぬ多大の労力と時間を費やされたことと、心より、敬意を表する次第です。特に、字（あざ）の確定及び小字（こあざ）の範囲の確定では、数えきれない程の有識者や地元の古老の話を元にした様ですが、歴史を経ていることですので、話の内容にも微妙な違いもあり大変な御苦勞があったと推察いたします。

御承知のとおり、平成 9 年 3 月に『桐生市小字名索引』を発刊しましたが今回は本文部分が約 260 ページにも及ぶ大作の発刊です。桐生市の字と小字を分け、すべてに解説をつけた研究書の発刊は桐生市ではもちろん、全国でも初めてであると思われます。

この刊行を期に、市民の方々が桐生市の歴史をふりかえり、桐生市への愛着を深めていただくと共に、子供達にも「ふるさと桐生市」の地名のおこり、成り立ちなどを学習する教材として活用されることを御期待申し上げます。

おわりに、『桐生市小字名索引』と『桐生市地名考』の原稿のすべてを快く、桐生市に御寄付いただいた島田一郎氏に心より感謝申し上げ、発刊のあいさつといたします。

桐生市教育委員会 教育長

矢 村 晋 一

地名に魅せられて 40 年

私と地名との出会いは 30 歳の頃読んだ柳田國男氏の「地名の研究」でした。（それ迄の読書遍歴は多岐に涉っておりましたが長く心をひかれた部門はありませんでした）特に氏の考証に心をうたれたのでした。（但し私の研究が進むにつれ象牙の塔に籠り現地調査をしていない考証のあることに気付きました。地名の研究は現地調査が最初です）僅か 2～3 字で構成される地名にこれ程迄の意味が含まれているのかと心をおどらせたのを覚えております。これが契機で全国各地の地名考の収集を始め、収集困難な雑誌掲載文献などは国立国会図書館からコピーを取り寄せる程の凝り様で何時の間にか日本の収集家の一人となっておりましたが読者の域を出ず唯楽しみに読んでいただけでした。但し私が一番知りたい桐生市の地名考の無いのが残念で何時の日か自分で作るしか無いという大それた決心をしたものでした。遠い未来と思っていた老後は忽ち来てしまいました。

50 歳を過ぎ一人息子が歯科医院を開業したのを契機に家業に区切りをつけ、せめて生^{セイ}をうけた桐生市の地名考だけはと調査に着手したのでした。最初の仕事は小字^{コアザ}の範囲（地番は字単位で平地の字にすべてつけ、そのあと山の字をつけております）の確定でこれは地番で行いました。土地台帳を持っている法務局・市役所が作るのは簡単ですが個人の私が作るには骨の折れる仕事でした。特に小字制度を廃止した、旧市内・旧境野村の復元が大変でした。次は小字の読み方の確定ですが地元古老間でも微妙に違うところがあり戸惑いました。この二つの部門を併せて「桐生市小字名索引」として平成 9 年 3 月に図書館より発刊致しました。これは市民よりも官公庁で利用され特に読み方については基本となりました。この本も手間隙がかかるので桐生市以外には無い様です。

基本資料が出来たので目的の語源解明の為、市内各地へ調査に出掛け古

老より小字以外に字^{アザ}のあること、及び、水帳^{ミスチョウ}（検地帳ともいう）が旧名主の家に保存されていることを知りコピーさせて頂き、不明の水帳分は山田郡誌の字を利用して字台帳を作りました。栃木県から桐生市へ合併した旧菱村・旧入飛駒については長期間国違いのせいもあり字の収集が出来ませんでした。次に大変な作業は字と小字を結びつけることでした。字は江戸時代末迄生まれたままで続いている地名ですが、明治6年7月28日地租改正法が公布され長く続いた米納が金納に変わり徴税の必要上、土地一筆毎に字を単位として地番をつけ、字限^{アザキリズ}図を作ることとなり字を一定以上の大きさにする必要から合併が全国的に行われ、新字名には合併字中の一字名を用いる方法と、地名を表す本来の意味を失った新しい字名を用いる方法とに分かれました。いずれにしても地名解明には旧字の位置確認が絶対条件ですので私の推定も含めて時間をかけて解決致しました。他に字名だけを新字名に変えた所（如来堂村・下新田村）もありました。

小字は明治21年4月25日市制・町村制が公布され、命令により全国的に大合併が行われ合併により消えた旧町村名に大字をつけ新町村内の大区域名としました。この結果従来の字では大字とまぎらわしくなる為、小字と改めました。

ようやく字と小字がつながり本来の地名解明に入ることになりましたが地元古老が語源を全く（「清水」だけは知っておりました）知らないのです。私は現地を歩けば地元古老からヒントを探り出せると簡単に考えており、今迄の読者の立場で読んでいた知識では歯が立ちませんでした。且て柳田國男氏が弟子に常々地名の研究程難しいものはない、そして名誉にもお金にもならないから絶対に手を出すなと言われた実感を味わいました。調査を一時ストップし今度は研究者の立場で数年間勉強しました。江戸期以前の資料にも目を通しました。そして再調査に出掛け山中と廃村に住んでいて市街地の息子と同居した老人探しも仕事の一つでした。幸い10年程前でしたので面会が出来、60～70年前の状況を聞き出すことが出来ま

した。当時お世話になった古老はすべて物故されました。危機一髪ですべて調査が出来たのです。所が執筆中の知識の集積で書いた原稿ですので数年後に読んでみますと全てが気にいらぬのです。書き直すこと7回に及びました。地名に魅せられてから40年かかりましたが今迄の日本の地名考には無い字と小字を別け且つその全部に学術的解説を付けた第二作「桐生市地名考」を発刊することが出来ました。この手法が今後の日本の地名考の主流となることを期待してやみません。

読者諸兄姉に於かれまして「桐生市小字名索引」と共に内容についての御叱正をお待ちしております。現在第三作「桐生市歴史考」の原稿を整理中です。

平成12年1月

著者 島田一郎

目 次

桐生市の成立	1			
村名考	4			
字・小字考	17			
イマ 今	イズミ 泉	ムラ 村 (仲町1～3丁目、東1～7丁目、浜松町2丁目の一部、 東久方町2・3丁目の一部)	18	
モト 本	ジュク 宿	ムラ 村 (元宿町の一部、巴町1・2丁目の一部、宮前町1・2丁目の一部、 堤町2・3丁目の一部、末広町の一部、稲荷町の一部、美原町の一部)	21	
ツツミ 堤	ムラ 村 (堤町1～3丁目の一部、小曽根町の一部、永楽町の一部、 宮前町1・2丁目の一部、元宿町の一部、巴町1・2丁目の一部、 末広町の一部、宮本町2丁目の一部)	23		
ムラ 村	マツ 松	ムラ 村 (宮本町1・2丁目の一部、宮本町3・4丁目、末広町の一部、 永楽町の一部、小曽根町の一部、堤町1丁目の一部)	26	
シン 新	シュク 宿	ムラ 村 (新宿1～3丁目、浜松町1丁目、2丁目の一部、琴平町の一部、 小梅町、稲荷町の一部、三吉町1～2丁目、錦町1～3丁目、 桜木町、織姫町、美原町の一部、清瀬町、元宿町の一部)	28	
サカイ 境	ノ 野	ムラ 村 (境野町1～7丁目、広沢町間ノ島、琴平町の一部)	30	
カミ 上	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町1丁目)	32
カミ 上	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町2丁目)	34
カミ 上	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町3丁目)	36
ナカ 中	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町4丁目)	40
シモ 下	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町5丁目)	43
シモ 下	ヒロ 広	サワ 沢	ムラ 村 (広沢町6丁目)	47
イツ 一	ボウ 本	ギムラ 木村	(広沢町7丁目から旧毛里田村大字吉沢小字唐沢の一部を除く)	54
シモ 下	ヒサ 久	カタ 方	ムラ 村 (東久方町1丁目、東久方町2・3丁目の一部、西久方町1～2丁目、 天神町1～3丁目、宮本町1丁目の一部)	56

カミヒサカタムラ 上久方村	(梅田町1丁目、平井町一平井・平井入口・鬼窪・躑躅窪・宮沢・赤城沢・桑沢・大沢・平井沢一)	58
アサベムラ 浅部村	(梅田町2丁目)	68
コウザワムラ 高沢村	(梅田町3丁目)	69
フタワタリムラ 二渡村	(梅田町4丁目の一部)	78
フタワタリムラオシヤマ 二渡村忍山	(梅田町4丁目の一部)	82
ヒコヤマムライリヒコヤマ 飛駒村入飛駒	(梅田町4丁目に合併)	91
ヒコヤマムライリヒコヤマ 飛駒村入飛駒入組	(梅田町5丁目に合併)	97
ヤマチムラ 山地村	(梅田町5丁目の一部)	102
ヒガシオグラムラ 東小倉村	(川内町1丁目)	116
ニシオグラムラ 西小倉村	(川内町2丁目)	121
スナガムラ 須永村	(川内町3丁目)	125
タカツドムラ 高津戸村の内桐生市に合併分	(川内町4丁目)	131
タカツドムラ 高津戸村の内大間々町に合併分		133
シモニタヤマムラ 下仁田山村	(川内町5丁目第1町会)	137
ナカニタヤマムラ 中仁田山村	(川内町5丁目第2町会)	142
カミニタヤマムラ 上仁田山村	(川内町5丁目第3町会)	144
ナグキムラ 名久木村	(川内町5丁目第4町会)	154
ニョライドウムラ 如来堂村	(相生町1丁目)	163
シモシンデンムラ 下新田村	(相生町2丁目)	168
テンノウジョクムラ 天王宿村	(相生町3丁目)	173
カブツチョムラ 蕪町村	(相生町4丁目)	175
アマヌマシンデン 天沼新田	(相生町5丁目)	177
ヨネザワムラ 米沢村	(菱町1丁目の一部)	178
オトモムラ 小友村	(菱町1～3丁目の一部)	179
オトモムライシキ 小友村一色	(菱町2丁目の一部)	184
シモビンムラ 下菱村	(菱町2～3丁目の一部)	186

<small>シモビシムラナカザト</small> 下菱村中里 (菱町4丁目)	190
<small>カン ビシ ムラ</small> 上菱村 (菱町5丁目)	192
<small>アザ</small> 字さくいん	195
<small>コアザ</small> 小字さくいん	211
現行町名さくいん	224
町別小字表 (一町が一村で成立している町以外の、町を構成する小字名)	226
荒戸新町「字」推定図	234
桐生市域村名変遷図	235
桐生市江戸時代町村図	237

桐生市の成立

荒戸^{アラト}の地名は「観応元年（北朝）・正平五年（南朝）（1350）桐生国綱が柄杓山城要害のため荒戸野に下瀬堀^{シモトロホリ}（新川）を通ず」（庭軍記）が初見のようです。

荒戸は桐生川と渡良瀬川にはさまれた桐生市最大の原野なので開拓には大用水路が必要であったので、周辺は追々開拓されましたが、中央部は最後まで残っていたため荒戸（人手の入らぬ自然のままの原野の意）の地名で呼ばれていました。

元亀2年（1571）元宿町（当時堤村）の渡良瀬川沿いの放光原^{ホウコウハラ}（小字は原）の住民が大水害を（集落が本流になった）うけ回復不能のため、同じ川沿いでも、すでに土砂が堆積して台地化している南方の原を開拓して、最勝寺を屋敷頭^{カシラ}に東へ延びる形の屋敷（集落）を形成して、新宿（新しく大きい集落のある村の意）村なる村名をつけ下瀬堀（新川）以南を村域として荒戸村より分村しました。由良氏^{ユラ}が天正11年（1583）本領新田庄（足利尊氏が新田義貞を滅ぼし宿敵の領地新田郡を地上より抹殺し勢多郡新田庄としたが江戸期元禄4年（1691）に新田郡が復活した）への近道^{チカミチ}として久方村^{クボ}町屋より下瀬堀（新川）迄の直線路「中道^{ナカミチ}」を作りました。由良氏は後北条氏に攻撃され天正11～13年（1583～1585）にわたり戦いましたが利あらず天正14年（1586）新田領から桐生領へ退去することで和議が成立しました（曹源寺濫觴記）。穀倉の新田領を放棄したため食料不足になり、桐生領最大の原野荒戸が原の開拓にせまられ、大堰用水を延長し中道の両側で久方村内（本町1・2丁目）に集落（新町）を天正17年（1589）頃までに作りました。

このことは天正18年（1590）3月作成の山田郡村々人別帳に「新町」があることで証明できます。天正18年（1590）徳川領となるに及んで、大堰用水の延長も進み荒戸が原は急速に開拓されました。8年後の慶長3年（1598）桐生領高辻で「新町」を荒戸新町に変更していることは新町が荒戸村地内（本町3～6丁目）迄進んでいることを示しています。又、高辻に荒戸今泉村・荒戸本宿村・荒戸堤村・荒戸村松村が出現

したことは、荒戸村が荒戸連合村に変わったことを示しています。

慶長10年(1605)徳川幕府代官手代大野八郎右衛門が来桐し、引き続き開拓を進め慶長15年(1610)迄に完成し、同年完成祝いに天満宮に宝殿を奉納しています。

寛文7年(1667)の水帳名も^{ミズチョウメイ}荒戸村ですので荒戸連合五村は、まだ続いていたようです。^{ホン}本水帳から荒戸新町の区分けとして1～6丁目・横町がでています。寛文13年(1673)水帳から連合五村は一村別になり、村名も荒戸新町、今泉村、本宿村、堤村、村松村になっておりますので荒戸村はなくなりました。

天和2年(1682)の水帳から桐生新町となりました。この「桐生」は旧桐生領54か村の親郷故に命名したのであって桐生氏の氏・地名には関係ありません。荒戸新町が誕生して荒戸村を東西に分断したため、東荒戸・西荒戸なる呼称は江戸期から昭和初期迄用いられていたようです。

明治新政府が発足すると、徳川時代の検地帳が不正確なため全国一斉に土地の再調査を命ぜられるなど旧来の小村では村政が成り立ち難くなったため、全国一斉に第一次の大合併が始まり旧荒戸村のうち大村桐生新町を除く、今泉村、本宿村、堤村、村松村の小4村が、明治6年1月10日合併し荒戸では^ジ字が悪いとして安楽土村と改名しました。

安楽土村の字名政策で特に変わっていることは次の字から^{アザ}谷戸を取っていることです。他村には一か所もありません。常木・柿ノ木・清水・赤坂・東・西久保・砂田・宮・蟬。^{トウシヨ}当初、^{バンヤシキ}番屋敷の制度が出来ましたが、すぐに番地制度に変わり現在まで続いています。

明治22年4月1日市制・町村制による第二次大合併が行われ、安楽土村・桐生新町・新宿村・下久方村と上久方村の内、平井町になった9字(平井・平井入口・鬼窪・躑躅窪・宮沢・赤城沢・桑沢・みようヶ沢・平井沢)が合併し桐生町となり旧四村は旧名に大字を冠した新名称(大字安楽土村・大字桐生新町・大字新宿村・大字下久方村)になりました。大正6年1月1日に大字名より町村を省く(町村名と大字名とが同じではまぎわらしく間違い易いため山田郡一斉に行った)ことになり、大字安楽土・大字桐生・大字新宿・大字下久方になりました(時期は異なりますが全国で行われました。)

大正10年(1921)3月1日桐生町は桐生市となりましたが、^{アザ}字に変更はありませんでした。昭和4年8月1日、大字を廃止して61町を設置しました。昭和8年4月1日、境野村を合併し、境野町とし62町となりました。昭和12年4月1日、広沢村を合併し大字を廃止して1～7丁目を設置し69町になりました。町村合併促進法の制度により、昭和29年10月1日、相生村、川内村(大字高津戸の25小字が大間々町に合併した)、梅田村を合併し大字を廃止して、相生町1丁目～5丁目・川内町1丁目～5丁目・梅田町1丁目～5丁目を設置し84町になりました。同年8月1日、境野町より間ノ島の渡良瀬川右岸を分割して広沢町間ノ島とし85町になりました。昭和30年8月9日、山田郡毛里田村大字吉沢小字唐沢の一部を広沢町7丁目に編入しました。昭和34年1月1日、足利郡菱村を合併し大字を廃止し、菱町黒川・菱町上菱の2町を設置し、87町になりました。昭和43年4月1日、安蘇郡田沼町大字飛駒の一部入飛駒を編入し、梅田町4・5丁目に分割編入しました。昭和44年7月1日、境野町は小字を廃止し1丁目～7丁目を設置し、93町になりました。昭和41年3月1日、東町・泉町・高砂町・旭町・常盤町・川岸町・芳町・諏訪町・今泉町・安楽土町・清水町の11町を廃止し、仲町1丁目～3丁目・東1丁目～7丁目の10町を設置し92町になりました。昭和44年7月1日、錦町3丁目を設置し、新宿通りの町名を新宿に改名し栄町を浜松町2丁目に合併しました。昭和49年1月1日、東・西堤町を1丁目～3丁目に、永楽町1丁目～4丁目を永楽町に、小曾根町1丁目～3丁目を小曾根町に、宮本町を宮本町1丁目～4丁目に、末広町1丁目～3丁目を末広町に変更し、89町になりました。昭和52年3月1日、三吉町を三吉町1丁目～2丁目に変更し、90町になりました。

平成3年8月1日、菱町黒川・菱町上菱を菱町1丁目～5丁目に変更し、93町になりました。大字は全部なくなり、小字は広沢・相生・川内・梅田・菱町及び旧市内で未だ住居表示を行っていない町のみになりました。

尚高砂町・川岸町・旭町・泉町・東町・宮本町の一部が残っているのは、本町4～6丁目住居表示を実施する時に合併する為に残してある区域で町として成立しているわけではありません。

村 名 考

今泉村（イマイズミムラ）

荒戸野には昔から水田が作れる程の水量のある川がなかったので水田化されなかったが、兎堰用水・大堰用水などが引かれ水田化されてくると特に下流の今泉地区で今迄湧水のなかった所から用水・水田からしみ込んだ水が湧出し始めたので、「新しい清水が湧き始めた村」の意の村名となった。村名以前の天正年代東勝寺が山号に今泉山を使用しているが初見である。今泉村は全国に43か所あった。県内では他に伊勢崎市・月夜野町・吉井町の3か所にあった。

本宿村（モトジユクムラ）

西荒戸（堤・本宿・村松村を併せた区域）はもとは堤村一村だった。本宿村が堤村から分村した時は、本宿・堂屋敷・宮前を併せた区域を原屋敷モトヤシキと呼んでいた。戦国時代丸山が柄杓山城の出城（出丸山デマルヤマ）であった時、番頭バンガンラ新居氏が、日常住む丸山の麓にあった屋敷を麓屋敷フモトヤシキと呼んでいたが後世なまってもとやしき（原屋敷）と呼ぶようになった。一般には本屋敷と書き全国各地にある。江戸期になると中世の屋敷地名を現代的な宿地名に換えることが流行し、当村の場合原屋敷が村域の半分を占めるため原屋敷村とすべきところを現代的な本宿村とした。本宿村は県内では他に吾妻町・下仁田町の2か所にあった。

堤 村（ツツミムラ）

上野国名跡志に「吾妻鏡の堤五郎は此の邑人ならん」とあることから1100年代から堤地名があったと推定でき、広沢・小倉・須永村と共に桐生市内では古い地名である。もとは西荒戸（堤・本宿・村松村を併せた区域）は堤村一村であったが、慶長3年（1598）本宿・村松村が分村した為、現在の小区域となった。堤村は吾妻山の西支脈の南麓に発達した村で沢が浅いため水量が少なく開田出来ない区域であった為、早くから東ノ入・西ノ入・岩ノ入・天津沢の各沢毎にいくつもの堤を作り沢水を溜めて開田した。桐生市内で溜池が上広沢村と共に多い地区である為、堤の多い村の意の堤村とした。江戸期には堤村の東側迄大堰用水西堀が延長された。堤村は日本に21か所あった。

村松村（ムラマツムラ）

物見山より南へ伸びる支脈を村松山（後世桐生が丘）といいその先端に延暦15年（796）官社に昇格した美和神社が祀られている。陽成天皇の元慶2年（878）4月、奥州の夷^{エミシ}が叛乱した時、その討伐の命を受けた上野国押領使南淵秋郷は美和社に戦勝を祈願し、叛賊平定の後、報賽の印として松苗千株を神山の美和山に寄植した。後世繁茂して桐生が丘は松山と化した為、村人は叢松山^{ムラマツ}と呼んだ。時は移り叢松山の故事が忘れられ村松山と書かれるようになった。慶長3年（1598）堤村から分村した時、村松山に沿って発達した村の意から村名とした。村松村は日本に10か所あった。

新宿村（シンシュクムラ）

元龜2年（1571）渡良瀬川の洪水により左岸堤村^{つづみむらホウコウ}放光原（現在の小字・原）の集落が流失、その後も集落地が流路となってしまったので南方の河岸段丘ではあるがすでに台地化し、まばらであるが人家もでき、浄運寺^{ぜんしんアイシン}の前身哀愍寺も永禄元年（1558）広沢村田中より水害をさけて移転してきている現在地へ八幡宮と共に集団移住し、最勝寺を建立し村の形態も整ったので新川を境に南側が荒戸村より天正年間（1572～1593）分村し、新しく出来た村の意の新宿を村名とした。新宿村は県内では館林市に1か所、日本に4か所あった。

境野村（サカイノムラ）

上・下野両国の境を流れる桐生川右岸と渡良瀬川左岸の河岸段丘で出来た境野原を開拓して出来た村の意を村名とした。上野国郡村誌は永禄年間（1558～1570）置村としているが、次の四氏等が江戸期に開拓を始めているので、慶長3年（1598）の桐生領高辻に境野村が出来ているのが正しいようである。

文禄2年（1593）足利氏の旧臣新井土佐守の子孫諏訪を開拓

文禄4年（1595）桐生氏の旧臣鹿貫将監の子孫浜ノ京天神台を開拓

慶長元年（1596）由良氏の旧臣高橋丹波守浜ノ京を開拓

慶長2年（1597）桐生氏旧臣関口尾張守の子孫三ツ堀を開拓

昭和8年4月1日桐生市へ合併し桐生市境野町となる。

昭和29年8月1日境野町間ノ島のうち渡良瀬川右岸分が独立して広沢町間ノ島となる。

昭和44年7月1日小字を廃止して1～7丁目を設置する。
境野村は日本に5か所あった。

広沢村（ヒロサワムラ）

山田郡のうち大間々から始まり八重笠に至る渡良瀬川右岸の地形を眺めると広沢丘陵の北側の河岸段丘（広沢）のみが15～6の沢が365日絶え間なく沢水を供給しているので広い湿地（沢は湿地の意）の台地の意の広沢の地名がついた。

その命名は早く「延暦15年（796）広沢賀茂神社官社に任ぜられる」とあり、広沢氏、広沢郷、広沢山、広沢御厨などにつかわれており地元では一番知られている地名なのですんなり村名になったと思われる。その範囲は如来堂・広沢・一本木村を併せた区域で最初に如来堂村が次に一本木村が分村したがいつ頃かはさだかでない。但し「由良成繁天正2年（1574）新田領広沢・一本木・如来堂村を桐生領へ加える」の資料から天正2年以前であることはたしかである。

由良領が徳川領になった翌年天正19年（1591）の検地の時、上・下広沢村に分村した、その時の村境の一つが中広沢村のオノ神（オノ^{サカイ}境の換字）である。

慶長3年（1598）桐生領惣辻改の時、上・下広沢村の間を割いて中広沢村を置いた。

明治9年（1876）地租改正実施の時、上・中・下広沢村が合併して広沢村となる。

明治22年（1889）4月1日広沢村・一本木村が合併し広沢村大字広沢村・大字一本木村となる。

此の時、一本木村の地番に5000番を加えて広沢村の地番と同一番地が出来ぬように配慮した。一本木村地内に5000番のつかない1～49番地（山根）があるのは、下広沢村の山根が飛地として一本木村内に入っていたからで現在は旧一本木村の区域である広沢町7丁目に入っている。一本木村の大久保・坊ヶ入は飛地として下広沢村に入っていたが現在は広沢町6丁目に入っている。

大正6年（1917）大字にも村がついては正式名称の村とまぎらわしいので山田郡は一斉に村を除いたので広沢村大字広沢・大字一本木となる。

昭和12年（1937）4月1日桐生市へ合併し大字を廃止して広沢町1～7丁目となる。

昭和29年（1954）8月1日境野町より渡良瀬川右岸の間ノ島上・下河原

を合併し広沢町間ノ島が出来た。

昭和30年(1955)8月9日毛里田村大字吉沢小字唐沢の一部を広沢町7丁目編入し、5365～5413番地となった。

広沢村は日本に3か所(東京都・静岡県・兵庫県)あった。

一本木村(イッポウギムラ)

一本木は全国に分布している地名で県内にも沢山あるが、何の木でどこにあったのかがはっきりしていない。市内でも上広沢村の伊勢崎道のはた(現在は藤生の一部)にあった^{アザ}字であるがやはり不明である。推測ではあるが太田道のはたに目標となる大木(何の木かは不明)が一本生えていることからついた村名。一本木はもとは広沢村の一部であった。その根拠は、

1、明治4年一本木・吉沢村羽石山秣山出入書に「本村はもと広沢村と一村たり」とあること。

2、(1)広沢村の飛地山根が一本木村内にある。

(2)一本木村の飛地大久保・坊ヶ入が広沢村内にある。

両村の飛地が入りまじっているのはここだけで、いかにも不自然である。

3、普通村境は尾根であるが、ここは沢を境にしており不自然である。

4、本村広沢村の鎮守賀茂神社を分村一本木村の鎮守としている。同じ例は名久木村が分村の時、本村仁田山村の鎮守赤城神社を鎮守として勧請している。

後半は広沢村の解説と同じである。一本木村は日本に5か所あった。

久方村(クボムラ)

旧桐生領付近で歴史に登場した武家133家の^{ウジ}氏の起源を調べたところ132家は屋敷地の地名を名乗っているところからのこる一氏(桐生氏)も地名を名乗ったと推定できる。

桐生市付近の川名も調べてみたが、68川中桐生川以外はすべて地名を名乗っているところからも桐生なる地名があったと推定できる。

桐生川も上流の山地村・二渡村では明治頃迄は水源の地名を名乗って根本川と呼んでいた。このことは今倉にあった根本山神社の里宮大正院に参拝した信者の詠んだ次の歌も証拠の一つである。

根本川流れも清き水なれば不浄の躰もここで灑がん
身も清く心も清く根本川灑ぐ日々の罪垢

根本川は浅部村の栗生^{クリユウ}で高沢川を合流し、栗生が転化した桐生を名乗り、桐生川と呼ばれそのはたの集落が桐生村となった。その後桐生村を領地とした佐野氏の分家が桐生を名乗った。

日本では桐生を氏とした家系はわが桐生氏のみであり、地名の桐生は飛騨国大野郡灘郷桐生村と近江国栗太郡桐生村の二村のみである。

二村のうち近江国桐生村の発生がおどろくなかれ、わが桐生村の発生と同一なのである。即ち栗太郡栗生を源流とした川が栗生の転化した桐生を名乗り下流の川沿いに発達した集落が桐生村を名乗り、村の後の山を桐生岳という。桐生川は下流の治田村で金勢川^{コンゴ}と合流し草津川となり琵琶湖に注いでいる。この桐生は平安中期の歌人で、三十六歌仙の一人でもある清原元輔の歌（朝まだき桐生の岡に立つ雉は千代のひつきのはじめなりけり）が初見で、以下

天正11年（1583）浅野長政知行地きりう

寛永11年（1634）近江国寛永石高帳桐生村

栗太郡桐生村一栗太郡上田上村大字桐生一栗太郡瀬田町桐生一大津市上田上桐生町となっている。

飛騨国大野郡灘郷桐生村（岐阜県高山市桐生町）は、慶長10年（1605）飛騨国郷帳桐生村が初見。宮川（一ノ宮水無神社沿いを流れている川）沿いに発達した集落。地名語源は不明である。

梅田村郷土誌に寛正3年（1462）古河公方足利成氏柄杓山城へ来りしことを光榮とし公方村と改名するとあるが天下の公方様の名を村名とすることは絶対にありえないと思い日本の旧村名を調べたが、一村もなかったため梅田の公方村も初めから久方村^{クハタ}だったと思われる。現在残っている資料もすべて久方村である。慶長2年（1597）上・下久方村に分かれてから上・下久方村^{ヒサカタ}と言うようになったと思われる。久方村は日本で当村のみ。

浅部村（アサベムラ）

承応年間（1652～1655）上久方村より分村し、村の中心集落字浅部を村名とした。

浅は緩傾斜地。部は辺の濁音化で所、桐生川（もとは根本川）右岸の緩傾斜地。浅部村は日本に1か所（宮城県中田町）あった。

高沢村（タカサワムラ）

承応年間（1652～1655）上久方村より浅部村と共に分村した。上久方村のうち一番大きくて高い位置にある沢でついた地名。地名索引（明治17年刊）・市町村大字読方名彙（大正14年刊）・梅田郷土史（明治43年刊）も「タカサワ」としている。山田郡誌（昭和14年刊）は高沢村にだけ読み方をふるのをやめている。高のつく地名はすべて「タカ」と呼んでいる。

山田郡一帯に雷雨を降らす雷雲は当沢内雷神岳（嶽山・現在の鳴神山）の上空で形成されているので山頂に雷神を祭神とする郡内一の雷神岳神社を祀っているのでついた地名。当社の別当新蔵院も山田郡一か所の祈願所になっている。高沢村は日本に3か所ある。

二渡村（フタワタリムラ）

天正元年（1570）の由良成繁書状に二渡村のあることからそれ以前の成立で、山地村との村境に諸沢が両村にまたがってあることから山地村から分村したと思われる。村名の二渡は浅部村の字二渡は初めは二渡村区域の字だったので、それを借りて村名とした。その後、承応年間（1652～1655）浅部村が上久方村から分村した時、村域がせまいので二渡村が譲渡した。

二渡は本来、ニワタリと読む地名で渡し場につける東北地方固有の地名で現在も小字が沢山残っている。天正（1570）以前、塩竈神社を奉じて東北地方より上菱村に移住した小島氏が荷物を持って根本川（桐生川）を渡って対岸へ行くには地形上字二渡しかないので故郷の渡し場地名ニワタリをつけた。二渡村開村の時字二渡を借りて村名とした。後世「ニワタリ」が「フタワタリ」に読み換えられた。二渡村は日本に1か所（鹿児島県宮之城町）あった。

二渡村忍山（フタワタリムラオシヤマ）

天正18年（1590）の上野国山田郡村々人別帳には押山村とあり一村として独立していたが、寛文12年（1672）の水帳では二渡村忍山になっており、82年間に二渡村に合併したと思われる。

押山（忍山）は残馬^{ザマ}山の別名で村名になっている。残馬山は座間村の境にあるので勢多郡の呼称であり、忍山^{オシヤマ}は忍山村の境にあるので山田郡の呼称である。押山とは山腹が崩壊して土砂を押し流す山の意。

忍山とは村内で一番高い山なのに、まわりの山に邪魔されて集落から見えない山の意。忍山村も日本で当村のみ。押山村は愛知県稲武町にあった。高山彦九郎「忍山湯旅の記」では63戸の人家があったという。

山地村（ヤマチムラ）

天正元年（1570）由良成繁の書状が初見である。初めは二渡村の区域も含んでいたと思われる。

山ばかりで平地のない村の意。山地村は日本に1か所（和歌山県有田市）あった。

飛駒村入飛駒（ヒコマムライリヒコマ）

上遠原郷^{カミトウバラゴウ}がいつ飛駒村に改名したか不明である。飛駒は低間^{ヒキマ}の転で山間の盆地をいう。飛駒の本村は南北3キロメートル、東西1キロメートルの盆地で飛駒盆地と呼ばれている。入飛駒がいつできたか不明であるが入は奥を意味し飛駒本村の山奥の意。飛駒村は日本で当村のみ。

小倉村（オグラムラ）

智明上人が帰国した元久元年（1205）に小倉の上人といわれた所から小倉の地名はすでにあった。その後、開村がいつかは不明で、天正18年（1590）3月作成の上野国山田郡村々人別帳が初見である。慶長3年（1598）長峰山の分水界と下^{シモ}は小倉川を境にして東・西に分村した。

小倉山とは小倉峠のある吾妻山の南西に伸びる支脈の端の山で先端が絶壁となり渡良瀬川に落ちている。

小は接頭語。倉は岩壁で、岩壁のある山の意。小倉村は日本に12村あった。

須永村（スナガムラ）

「久寿3年（1156）須永御厨建立」とあるので、その頃から須永の地名はあったがいつ開村したかは不明である。

須は州の換字で砂の意。渡良瀬川が洪水の度^{タビ}に砂を運んできて左岸に細長く自然堤防を作ったことから地名となり村名になった村。須永村は日本で当村のみ。

自然堤防は東・西小倉村区域迄続いていた。

高津戸村（タカツドムラ）

上野国志の高津戸要害山の条に「堀川天皇の御代（1100年前後）山田七郎吉之住し……」とあることから、その頃から高津戸の地名はあったが開村がいつかは不明である。

高は集落のある川岸段丘。津戸は小字の通度と同じで渡し場の意。渡し場の崖上の台地に集落のある村の意。高津戸村は日本に1か所（千葉県千葉市）あった。

仁田山村（ニタヤマムラ）

上野国志に「堀川院の御代（1100年前後）に山田七郎吉之仁田山を領有する」とあることから、その頃から仁田山の地名はあったが開村がいつかは不明である。天正3年（1575）仁田山村から下仁田山・名久木村が分村し、慶長3年（1598）中仁田山村分村の時、仁田山村は上仁田山村に改名した。

「里見義胤四世の孫氏連は仁田山を領有し仁田山氏を名乗り、足利尊氏の四男基氏関東管領として下向の時相従ひ、鎌倉に下って住す」とあることから仁田山氏は仁田山の地名を借りている。上仁田山村^{クロンタ}黒新田山に^{アザ}字黒新田が、名久木村^{クロンタ}黒仁田山に^{アザ}字黒仁田久保がある。黒は田の畔^{クロ}の換字で山の意から山腹に猪鹿などのぬた場のある山の意。畔は田を山脈の形で分けていることから山の意に用いられる。

新田・仁田は沼田^{ニタ}の^{ニタ}転で猪鹿などが虫よけに体に泥をぬるにた場のある湿地の意から、猪のにた場のある山々に囲まれている村の意。仁田山村は日本で当村のみ。

名久木村（ナグキムラ）

天正3年（1575）仁田山村より分村した。

名久は崩（ナグ）の換字で崩れ易い意。木は処^コの転で所の意を示す接尾語。
土砂崩れをおこす山々に囲まれている村の意。名久木村は日本で当村のみ。

山田村（ヤマダムラ）

明治9年（1876）地租改正実施の時、今後小村では村の維持が成り立ち難いと、もと仁田山の村名で一村だった上・中・下仁田山村・名久木村の四村が合併し、もとの村名を使わずに山田村になった。村名の由来は文化元年（1804）桐生新町の絹買い商新居甚兵衛が宣伝のため白滝姫と山田^{オノコ}男の恋物語を上仁田山村岩本鎮座の白滝神社にかかる伝説のように潤色し、神影・伝説を印刷して桐生新町産の絹に巻き込み販売した為、全国的に知られた山田を村名とした。同時に仁田山川も山田川に換えた。山田村は日本に82か所あった。

如来堂村（ニョライドウムラ）

元久2年（1205）師法然上人から拝領した阿弥陀如来像を牛の背に乗せ京都から長途の旅を続け、領地小倉郷の2キロメートル手前で広沢氏の領地広沢郷（後のその一部の如来堂村）桜塚迄来て堂を建て拝領の本尊を安置して、家来共々領地へ帰って来るだろうか。法然上人絵伝によれば帰国後すぐ菴室を建て、西に一町餘をへだてて一間四面の阿弥陀堂を建て日夜修行に励んだとあり、こちらの方が説得力がある。

阿弥陀堂は元禄6年（1693）西小倉村寺前へ移転し崇禅寺となった。広沢古事談によると、承久3年（1221）11月9日広沢義実の二男戸賀崎三郎が竜台（広沢村竜台は後年西半分が如来堂村が分村の時分割された）に阿弥陀堂（児見山系図では如来堂）建立とある。

菴主は園田智明法師大王院二代目見住す、とあるのが後世間違がわれたのである。その後、広沢氏は没落し保護者を失った阿弥陀堂は風雨にさらされ荒れ果てたので、竜台の東、藤生に屋敷を構えた堀越氏が本尊の阿弥陀如来像を自宅に安置し、天正9年（1581）浄運寺二代目住職存誉聞岬に贈ったのが現在の本尊である。

如来堂村は広沢村からいつ分村したかは不明だが1569年以前であることは確かである。阿弥陀如来像を祀ったお堂のあった村の意。如来堂村は日本に1か所（福島県会津若松市）あった。

下新田村（シモシンデンムラ）

古来、下新田村（相生町2丁目）と上新田村（大間々町）・旧蕪町村（天王宿村区域も含んでいた）を合わせた区域は吹弘野（冬、北風の激しく吹きあれる未開墾の平地）と呼ばれたが、戦国時代には追々開発の手が入るようになると新田原と呼ばれ、江戸時代の慶長3年（1598）新田原の下の区域は大野八右衛門の命により、上広沢村の津久井氏が開拓して氏神愛宕社を勧請した。同じ頃、森田氏も開拓して薬王寺を開基している。

上の区域（大間々町）は大間々草創六人衆が開拓したといわれている。そうして慶長10年（1605）上・下新田村・旧蕪町村は同時に開村している。新田は江戸期の開墾地をいう語で上・下新田村のように水田のない所の地名にもなっている。上・下は標高によりついている。

新田原の下の区域を開拓して出来た村の意。下新田村は日本に15か所あった。

天王宿村（テンノウジクムラ）

蕪町村の東側の未開拓地を対岸須永村の藍原氏が主になって開拓し寛文9年（1669）天王宿村として分村した。

村名は宿（街道に面し村で一番大きい集落をいう）に村の鎮守として牛頭天王社を勧請したのでついた村名。天王宿村は日本で当村のみ。

蕪町村（カブツチョムラ）

大間々旧道沿いに発達した村で、寛文3年（1663）の水帳には加仏丁村と書いている。

慶長3年（1598）大野八右衛門に新田原（もとは吹弘野といわれた）の開拓を命ぜられ渡良瀬川対岸高津戸村の桜井氏が主になって、その北側地区（旧蕪町村）を開拓し、上・下新田村と同時に慶長10年（1605）開村した。村名は村の最大の集落屋敷が河岸段丘崖下にあるのでついた。旧蕪町村は天王宿村域を含んでいた。

蕪は傾く^{カム}の換字で崖をいう。町^{チョウ}は崩壊地名。垂直の河岸段丘なので、度々崩壊する崖下に集落のある村の意。蕪町村は日本で当村のみ、字では二渡村忍山にある。

天沼新田（アマヌマシデン）

上新田村雨沼と下新田村内の村境の野原を開拓して延享2年（1745）分村した。村名は雨沼の未開墾地を開拓して出来た村の意。本村の雨沼をさけて天沼新田とした。

上新田村雨沼では地下水位が9月頃から上がり、自然に湧出して沼のようになるのでつけた地名。その水は天沼新田堀上地区に流入し1か月位沼のようになる。天沼新田は日本に1か所（埼玉県川越市）あった。

米沢村（ヨネザウムラ）

米沢村は天正18年（1590）にはすでに存在していた村で村名は村で最大の集落米沢を名乗った。安政年間一村として成り立ち難く、米沢川を境に東側の入小屋・鹿野イリゴヤカノが小俣村に西側が小友村に分村合併した。米沢村は日本に9か所あった。

小友村（オトモムラ）

天正18年（1590）以前に下菱村から分村した。村名は小友川に沿って長く続く唯一の傾斜地についているアザ字を名乗った。

小友は落面オトモの換字で、落オトはおとすの省略形で傾斜地。面モは接尾語で所の意。長い傾斜地のある村の意。小友村は日本に9か所あった。

小友村一色（オトモムライシキ）

一色は慶長3年（1598）には存在した村で、細川氏の家老一色縫之助の屋敷があったのでつけた村名。一色村は日本に14か所あった。

菱 村（ヒシムラ）

応永19年（1412）細川丹後守入部の時、すでに菱村は存在していた。弘治2年（1556）桐生祐綱より星野小六宛の書状「上菱の……」があることから1412～1556年間に上・下菱村に分村した。

菱は岸の転で桐生川は（左岸）菱側の山麓を削り岩壁を作りながら流れているのでつけた村名。因みに（右岸）桐生側は対称的に平地なので、菱の岩壁が特に目立って村名になった。菱村は日本で当村のみ。岸は岩壁の意。

下菱村中里（シモビシムラナカザト）

慶長3年（1598）には存在した村で村名は村の中心集落名を名乗ったので村名としての意味はない。中里村は日本に31か所あった。

黒川村（クロカワムラ）

明治9年（1876）地租改正実施の時、もはや一村では運営が成り立ち難いので、下菱村と小友村はもと一村であったので合併した。村名は二村の境を流れている黒川（本名は菱川）を名乗った。合併の時に村名を下菱にすることを拒んだため、菱川の俗称である黒川を村名とすることで合意した。このため、川の名迄黒川になった。

明治22年の市制・町村制により、黒川村と上菱村は合併し菱村（大字黒川村、大字上菱村）となり、最初の村名と村域に戻ったわけである。黒川村は日本に29か所あった。

梅田村（ウメダムラ）

（日本随筆大成）松浦静山著 甲子夜話

「文政9年（1826）上州山田郡梅田之里佐羽清右衛門と申者之庭に……」
地誌編輯材料取調所足利郡黒川村（明治16年）の資料等により江戸末期には梅田の称呼は一般的に使われていた。但し、梅田の地名の語源は不明であった。

梅原はもとは桐生川の川原で宮内を加えた倍の広さを持っていた。一般的には西方寺から東側桐生川迄見渡せる限りを梅原と呼んでいた。梅田村で唯一の大平原である。大堰用水が出来ると追々水田化され、江戸中期頃には梅原は大水田地帯に変わったので住民は梅田と呼ぶようになった。

明治22年（1889）4月1日市制町村制による第二次大合併が全国一斉に行われた時、上久方村・浅部村・高沢村・二渡村・山地村が合併し新村名は江戸末期には江戸に迄知られている有名新地名梅田を名乗った。西方寺は翌23年山号を梅田山に換えている。梅田村は日本に11か所あった。

川内村（カワウチムラ）

梅田村と同日、東・西小倉村・須永村・高津戸村・山田村が合併し、新村名は渡良瀬川の内側にある村の意の川内村とした。川内村は日本に6か所あった。

相生村（アイオイムラ）

梅田村と同日、如来堂村・下新田村・天王宿村・蕪町村・天沼新田が合併し、新村名は名木^{メイボク}で知られる相生ノ松を名乗った。相生村は日本に3か所あった。

字・小字考

字

自分の田畑に名を付ける必要から^{アザナ}畔名と呼ばれたが、後世^{アザナ}字に転化し下略の^{アザ}ザと呼ぶことで定着した。現在は^{アザナ}アザナと言う場合は字名と書くようになった。

古くは平安時代の荘園文書に始まり大閤検地以降制度的意義を持つようになった。

現在^{アザ}字と言う場合は江戸期の検地帳（水帳）に記されている字のみを言う。法令上の字は大字・小字を含んでいる。

小字

明治9年（1876）地租改正に於いて字を一つの丈量範囲としたので、小さい字は数か所を合併して標準化した。そして新字名には数か所の中の一つの字名をつけたり、数か所以外の字名をつけたりしたので、平安以降字の持っていた由緒が消えてしまった。又江戸期のままの字もあるので、今後小字の調査を始める人は三種類の仕分けが必要である。

明治21年（1888）町村制公布により町村の大合併が行われ、合併により消えた旧各町村の上に大字をつけ新町村の下に書くことにした。同時に旧来の字を小字と改め、大字との区分を明確にした。

今 泉 村 (イマイズミムラ)

(仲町1～3丁目、東1～7丁目、浜松町2丁目の一部、

東久方町2・3丁目の一部、 * 町別小字表1、2、5参照)

字	小 字	地名語源 (寛文13年(1673)の水帳 ^{アザ} の字による)
イシ 石	ツカ 塚	石 塚 昔桐生川の川原だった所なので耕地の間の所々に耕地にするため邪魔な石を拾って捨てた場所が塚のように小山をしているためついた地名。
こやはら	コ ヤ ハ 小 谷 原	荒戸が原を開拓するために作った大堰・兎堰用水等の桐生川への排水口にあたるので、いくつもの排水路が湿地を作りながら流れていたためについた地名。 原は川原の略。谷は湿地の意。
ぞうどの	ゾウ トノ 蔵 殿	小谷原と同じに各用水の排水口にあたるため湿地帯をなし桐生大炊介祐綱手植の柳の根本の大清水を始めとしていくつもの湧水があるためについた地名。 ぞうは湿地を示す沢の転。殿は棚の転で平地の意。
ヤク シ トウ 薬 師 堂	薬 師 堂	薬師如来を安置した薬師堂を円墳の上に作ったため付近の地名となった。薬師堂は正保4年(1647)大蔵院境内へ移転したがその後も現在地でも祀られ、二本の榎が古墳上にあるため、二本榎の薬師とも、堂が南を向いているため南向き薬師とも呼ばれ信仰者が絶えない。
ツネキ カイト 常木谷戸		常はツエ(潰)の転で崖崩れの意。 木はキハ(際)の下略ではたの意。谷戸は集落。 台地のはた(新川沿い)が渡良瀬川の洪水のたびに分流となるため洪水によって削られるためついた地名。 はたが崖になっている台地に集落が出来た区域。 谷戸は本来谷の入口付近をいう地名であるが、地形上人が住み良い所なので最初に集落が出来た為集落名に変化し、後世には平地に出来た集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
カケ シタ 欠 下		洪水の時は渡良瀬川の分流になる為、川になってしまう所で、常木の台地の崖端が洪水で崩される崖下にある低地。
	ツネ キ 常 木	明治9年地租改正の時、常木谷戸・欠下を併せて常木とした区域。
タカ タ 高 田	高 田	大堰用水本町5丁目分流が今泉村への入口にあたる区域についた地名。用水の村の入口付近につく地名で各地にある。

字	小 字	地名語源
あぶく田	ア フ ク タ 阿武久田	<p>^{アブクダ} 泡田ともかく。 大堰用水本町2丁目分流が通るようになったため伏流水が湧き出している水田が出来たためについた地名。湧水と共に空気が出ているのでついた地名。</p>
やなせ	ヤ ナ セ 梁 瀬	<p>由良氏家臣丹州産梁瀬太郎が、荒戸村高橋氏に聳入し梁瀬の姓にて分家し屋敷を構えた所が地名になった。 (高橋丹波守由良信濃守家門梁瀬太郎を孫娘の婿とす。) 梁瀬太郎一村一か寺の大寺今泉山東照寺を開基。</p>
シ 清 水	シ ミス 清 水 サイカチ ハラ 槐 原	<p>湧水点がいくつもあるのでついた地名。 寛文水帳当時は川原で利用されなかった為、字はなかった。その後、開拓されるようになってから字がついた隣村下菱村へ行く道が通っていた為、村境に邪霊疫病が入ってくるのを防ぐためサエノカミ(塞神)と共に槐を植えたのが広がった川原。</p>
	ホー イ 保 井	<p>寛文水帳当時は川原で利用されなかった為字はなかった。保はホ(秀)の替字で突き出たものの意。井は用水の意。用水を取水する為、桐生川の中まで取水堤を作っているためついた地名。</p>
	ス ワ ノ マエ 諏訪ノ前	<p>寛文水帳にはない。 諏訪神社の境内を含め南側の区域。</p>
	トノ カイ ト 殿 谷 戸	<p>寛文水帳にはない。殿は棚の転で高い意から堤。谷戸は集落。 兎堰用水、大堰用水2・5丁目分流などに囲まれているので用水沿いに堤を作っている集落。</p>
イシ 石 田	石 田	<p>もとは、桐生川の川原だったので石の多い所。 ただし、その後地質が良くなって上田・上畑・中畑のみの区域。</p>
ツチ 土こぼし	ツチ コホ シ 土 溢 シ	<p>土が清水にとけて流れ出している所。もとは沼があったという。大堰用水本町2丁目分流が通っているため伏流水が湧き出した区域。</p>

字	小 字	地名語源
<small>キシノオ</small> きしの尾	<small>キシノオ</small> 雉子ノ尾	<p>大堰用水本町2丁目分流が最初に今泉村に入る所で用水を曲げて流すため石垣で堤を築いてある所。きしはキリ（断）イシ（石）の略。尾は細の意でここでは用水をいう。</p>
<small>コマカイト</small> 駒 谷 戸	駒 谷 戸	<p>コマ（駒）はコロ（転）マ（間）の略で曲がっている意。谷戸は集落。久方村との境になっている道が半円状に曲がっている所に来た集落。</p>
<small>トウショウジ</small> 東 正 寺	<small>トウショウジマエ</small> 東勝寺前	<p>東照寺・東性寺とも書く。東正寺のある付近。その後、東勝寺に改名した。天正元年（1573）梁瀬太郎開基東性坊開山と今泉古事談にあるので最初は東性寺とも思われる。</p>
<small>スワウシロ</small> 諏 訪 後 <small>カワラ</small> 川 原	<small>スワウシロ</small> 諏訪ノ後 川 原 <small>ヨシケ</small> 吉 毛	<p>諏訪神社の後（北）側の区域。 桐生川の川原だった区域。</p>
<small>シユツホンハラ</small> 十 本 原	十 本 原	<p>葦は悪しに通ずるので吉の字を用いた。寛文水帳の時はなかった地名。ケ（毛）は場所を示す接尾語コ（処）の転。桐生川の川原で葦の生えている湿地。川原の一部を分割して吉毛とした区域。</p>
<small>カノマエ</small> 鹿 ノ 前	鹿 ノ 前	<p>十本の木が生えている桐生川の川原。十本の木が何であるかははっきりしないが、字内に二本杉の稲荷（因幡稲荷）があるので杉の可能性が高い。</p>
<small>カノマエ</small> 鹿 ノ 前	鹿 ノ 前	<p>スカ（砂処）→シカ→カと転じた。桐生川のはたが洪水のたびに流れてきた砂で自然堤防のように高くなっている区域。</p>

本 宿 村 (モトジユクムラ)

(元宿町の大部分、巴町1・2丁目の一部、宮前町1・2丁目の一部、堤町2・3丁目の一部、末広町の一部、稲荷町の一部、美原町の一部 * 町別小字表2、3参照)

字	小 字	地名語源 (寛文13年(1673)の水帳の ^{アザ} 字による)
スナ ^タ カ ^{イト} 砂田谷戸		<p>谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。スナ(砂)はスナ(少)いの略。</p> <p>僅か一町程の水田のある所に出来た集落。</p>
	砂 田	<p>明治9年の地租改正の時、谷戸は古い用語として廃止した。いわれは前項が正しい。</p>
ニ タ ト ^{コロ} 仁 田 所	仁 田 所	<p>ヌ(沼)タ(処)と同じで湿地。</p> <p>村松沢川・大堰用水などの末流^ヤ八津川の流れている湿地。</p>
ハ ^ハ ナカ 馬 場 中	馬 場 中	<p>馬場はママと同じで崖をいう語。中は場所を示す語。</p> <p>新川のはたが崖になっている区域。</p>
イマ イ シ ^{ユク} 今 井 宿	今 井 宿	<p>宿は砦のはたに出来た集落につく地名。</p>
イ ^ン チョウ ^タ 一 丁 田		<p>明治初期は、面積は17000坪(6町弱)あるが耕地は畑が300坪。</p> <p>地名のついた頃は一丁程の耕地のあった区域。</p>
	一 丁 田	<p>久保田(6000坪)が独立して11000坪程になった区域。</p>
	ク ホ ^タ 久 保 田	<p>周囲より低くなっている所。6000坪程で一丁田より分割した区域。</p>
ロク タン ^タ 六 反 田		<p>地名のついた頃は六反の耕地があった区域。</p>
	ロクタンカ ^{イト} 六反谷戸	<p>後に集落が出来たので改名した。谷戸は集落。</p>
ヒ ツ ^メ 樋 爪	樋 爪	<p>樋は用水(大堰用水)爪(ツメ)は詰(ツメ)の換字で終わる意。</p> <p>大堰用水の分流が堤村の東堀に合流する区域。</p>

字	小 字	地 名 語 源
モト ヤ シキ 原 屋 敷		<p>モト（原）はフモト（麓）の略。</p> <p>丸山の砦の番頭（バンガシラ）新居氏が普段住んでいた屋敷があったのでついた地名。</p>
	モト シ ^ニ ユク 本 宿	<p>原屋敷ではいかにも古いので本宿村の中心地でもあるので村名に改名した。</p>
	トウ ヤ シキ 堂 屋 敷	<p>本宿に改名する時、修験高沢院の境界が独立した区域。（3741坪）</p>
ミヤ シタ 宮 下		<p>白髭神社を祀っている区域。</p> <p>境内地は木ノ下で旧堤村内であるが昔は宮下であった。</p>
	ミヤ マエ 宮 前	<p>宮下を宮前に換えただけでいずれも神社のある区域をいう地名である。</p>
ヤナギ カ ^ニ イ ト 柳 谷 戸	柳 谷 戸	<p>ヤナギ（柳）はヤナ（築）・木の換字で土手を示す語。ギは接尾語で場所を示す。</p> <p>堤村から流れてくる東堀に土手が築いてある所にある集落。</p>
	マル ヤマ 丸 山	<p>戦国時代に柄杓山城の出丸があった山なので出丸山と呼ばれていたが、後世山の形が丸いこともあって、丸山というようになった。</p> <p>丸山・円山・砦円山・天津山・清閑山・聖眼寺山・砦山・浅間山・赤岩山・寄居山・富士山の11に呼ばれている。</p> <p>寛文水帳の時は、なかった地名。山麓を両毛鉄道を通すため崩したので、昔と山容が変化している。</p>
	ハラ 原	<p>渡良瀬川の川原の略でもとは放光原<small>ホウコウハラ</small>と呼ばれ集落があり、新宿の八幡宮なども祀られていたが、元龜2年（1571）の洪水で流されて以来川原の区域。</p> <p>寛文水帳以後に開拓され地名が復活した区域。</p> <p>放光の渡があったことで知られている。</p>

堤 村 (ツツミムラ)

(堤町1～3丁目の一部、小曾根町の一部、永楽町の一部、宮前町1・2丁目の一部、元宿町の一部、巴町1・2丁目の一部、末広町の一部、宮本町2丁目の一部、 * 町別小字表3参照)

字	小 字	地名語源 (寛文13年(1673)の水帳 ^{アザ} の字による)
<small>カキノキカ^{イト}</small> 柿木谷戸	<small>カキ ノ キ</small> 柿 ノ 木	<p>谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落地にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。</p> <p>浄運寺所有地6丁目391～397はもとは柿ノ木。</p> <p>柿はカケ(欠)の換字で崖の意。</p> <p>キ(木)はキハ(際)の略。谷戸は集落。</p> <p>台地の端が新川の洪水の時に崩されて崖になっている所にある集落。</p> <p>明治9年地租改正の時、谷戸は古い用語として取っただけでいわれは同じである。</p>
<small>シ ミス^{カ^{イト}}</small> 清水谷戸	<small>シ ミス^{カ^{イト}}</small> 清 水	<p>大堰用水を引いて来た為、清水が湧き出た付近に集落が出来た区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、谷戸は古い用語として取っただけでいわれは同じである。</p>
<small>フカ マチ</small> 深 町	<small>フカ マチ</small> 深 町	<p>フケ(沮)マ(間)チ(地)で湿地の意。</p>
<small>ヌマ タ</small> 沼 田	<small>ヌマ タ</small> 沼 田	<p>沼は鷺沼の略。タ(田)は場所を示す。鷺沼のある区域。沼のあった頃はサギのえさ場だった。</p> <p>小字赤坂と折石を併せた区域。</p> <p>琴平山の赤土の山麓を仁田山道旧道(今もある)が通っていて、その道端に集落が出来てついた地名。</p>
<small>アカサカカ^{イト}</small> 赤坂谷戸	<small>オリ イシ</small> 折 石	<p>赤坂谷戸の東半分が独立した区域。</p> <p>琴平山の山麓の仁田山道のはたに折れた形の大石があるのでついた地名。</p> <p>現在は通行の邪魔になるので割って取り除いた。</p> <p>オリイシ(降石・織石)とも書き、琴平山の山頂から段々に降りて来た石ともいわれている。</p>
	<small>アカ サカ</small> 赤 坂	<p>赤坂谷戸の西半分をいい明治9年の地租改正の時、谷戸は古い用語として取っただけでいわれは同じである。</p>

字	小 字	地名語源
<small>ヒカシ カイト</small> 東 谷 戸	<small>ミ トウ</small> 御 堂	<p>吾妻山支脈の分水界を境に村松村の小曾根と接している。堤村の東側の山麓に集落の出来た区域。</p> <p>東谷戸の南側を分割して御堂（現在は墓地しかないが御堂が出来たのでついた地名。）の出来た区域。東谷戸の20%程度の区域。</p>
<small>ヒカシ</small> 東	<small>トビ ノ ス</small> <small>トビ ノ 巣</small>	<p>東谷戸の北側80%程度の区域で、明治9年地租改正の時谷戸は古い用語として取っただけでいわれは同じである。</p> <p>とびは鳶のかな書きで飛びの換字で崩壊地名。山崩れで押し流された土砂の推積した区域。</p>
<small>ニシク ホ カイト</small> 西久保谷戸	<small>ニシ ク ホ</small> 西 久 保	<p>ニシ（西）はニジ（滲）むの換字で湿地。村の中心にある低湿地に集落の出来た区域。</p> <p>明治9年地租改正の時に、谷戸は古い用語として取っただけでいわれは同じである。</p>
<small>ニシ ノ イリ</small> 西 ノ 入	<small>ニシ ノ イリ</small> 西 ノ 入	<p>西山のはたから奥へ入った山腹をいう。西は西山の略。</p>
<small>ニシ ヤマ</small> 西 山	<small>ニシ ノ イリ</small> 西 ノ 入	<p>ニシ（西）はニジ（躰）るの換字で、度々山崩れをおこす山。</p> <p>小字の西ノ入は西ノ入と西山を合わせた区域を単に西ノ入と呼んだだけなのでいわれは字の項が正しい。</p>
<small>コ ホウ キ</small> 五 本 木	<small>コ ホウ キ</small> 五 本 木	<p>御坊基→御坊木→五本木と変化しているが、旧聖眼寺のあった所の意なので、ごぼうぎと読むべきである。木は場所。</p> <p>その後、旧聖眼寺のあった所だけをいうようになった。</p> <p>五本木の下の意で、旧聖眼寺境内の東側が木ノ下として独立した区域。明治9年地租改正の時に、本宿村宮下の白髭神社境内（2151番地）だけが木ノ下に合併した。</p>

字	小 字	地名語源
カ ^イ ト ぼう谷戸	ホ ^ウ カ ^イ ト 坊 谷 戸	坊は寺をさし、ここでは旧聖眼寺をいう。 旧聖眼寺の隣りに出来た集落のある区域。
ゼ ^ン ダ ^ナ ぜんだな	セ ^ン タ ^ナ 膳 棚	小さい（1671坪）階段状傾斜地。 膳棚は階段状傾斜地に付く地名で各地にある。
イ ^ワ ノ イ ^リ 岩 ノ 入	岩 ノ 入	入口が岩壁で狭くなっているくぼ。 奥が千畳敷きといわれる広い山腹なので万ヶ入 ^{マンガイリ} ともいわれている。
アマ ツ サ ^ワ 天 津 沢	天 津 沢	天津は雨水の意。沢は低湿地。 渡良瀬川の流路が南に変わったため、旧流路が低湿地となり 洪水の時にだけ川になる堤町三丁目の平地の区域全体をいう。
タ ノ イ ^リ 田 ノ 入	田 ノ 入	田は棚の換字。 階段状の形をした細長いくぼで、上に溜池を作り棚田に利用 している。
トウケ ^テ 峠	峠	東小倉村へ山越する峠道の通っている小倉山の東腹。
	ナカ シ ^マ 中 島	渡良瀬川の中州が固定して島になった区域。 寛文水帳の時は無かったが、その後耕地になった為地名のつ いた区域。

村 松 村 (ムラマツムラ)

(宮本町1・2丁目の一部、宮本町3・4丁目、末広町の一部、永楽町の一部、
小曾根町の一部、堤町1丁目の一部 * 町別小字表3参照)

字	小 字	地名語源 (寛文13年(1673)の水帳 ^{アザ} による)
ホソ 細	タ 田	細 田
		ホソ(細)はホソ(防)くの換字。 大雨の時、村松沢の水が一度に押し寄せるため川端に土手を築いてある区域。
マカ ^リ	ク	曲 田
		曲 田
		大堰用水を西幼稚園の所で本宿村へ引く為大きく曲げた区域。
チョウ ^ノ	ツカ	長ノ塚
		長ノ塚
		長は長者の略で長者の墓と言われている円墳のある区域。 1259番地に長ノ塚と呼ばれる5坪程の円墳があり、周囲に庚申塔が4・5基あったが、明治40年頃所有者の野村氏が掘ったが何も出てこなかった。跡地は水田にした。
ト ^イ	シタ	土井下
		土井下
		土井は土居の換字。 大雨の時、村松沢の水が一度に押し寄せるため川端に土手を築いてある東側の区域。
ミヤ	カ ^イ ト	宮谷戸
		宮谷戸
		美和神社の付近で集落の出来た区域。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
		ミヤ 宮 前
		宮前
		宮谷戸を宮前に改名した所。美和神社の参道のある区域。
ミヤ	タ	宮田
		宮田
		美和神社の宮田(神社の維持に必要な費用を賄うため氏人が交替で耕す神社の水田)のある区域。
セミ	カ ^イ ト	蟬谷戸
		蟬谷戸
		セミ 蟬
		明治9年の地租改正の時に谷戸を取った。 故に語源は蟬谷戸と同じ。
サラ	ク ホ ^ク	皿久保
		皿久保
		皿状の浅いくぼのある区域。
ムラ	マツ サ ^ワ	村松沢
		村松沢
		村松沢を貫流している村松沢川の上流(八坂神社以北)が山間に入り沢になっている区域。

字	小 字	地名語源		
マツ 松	タテ 立	マツ（松）はマツチ（眞土）の語幹でねばつちの意。 タテ（立）はタツの連用で台地をいう。 山腹の崩壊でねばつちの台地が出来た区域。 このねばつちで日本織物株式会社の工場などの、煉瓦を対岸の平久保で焼いて作った。その跡地に養老院松立寮が出来た。		
ホソ 細	ネ 根	観音山の先端が細く山麓へ突き出した所で観音堂・光明寺のある区域。		
シ 清	ミズ ^{ハタ} 水	吾妻公園の沢奥で清水の湧出している付近。畑は端の替字		
トイ 樋	タ ^マ 田	吾妻公園の入口付近で沢奥の清水を引いて水田を作っている区域。戸井田ともかく。		
	ト ^ウ 堂	マエ 前	細根・清水畑・樋田の三か所を合併して明治9年地租改正の時に堂前とした。観音堂の前の区域という意。 (後世観音堂の寺域に光明寺が出来た。)	
ト ^ウ と	ノ う	イリ ノ入	入はこの場合は奥の意。観音堂の後の山（ ^{ウシロ} 観音山）をいう。	
コ 小	ソ 曾	ネ 根	雷電山から琴平山迄、低く長く続いている吾妻山の支脈小曾根山の区域。 曾根はイシオネ（石尾根）の略で岩石で出来ている尾根。	
	ア 吾	ス ^マ 妻	アズマヤ 四阿ともいう。 南側（桐生方面）から見た山頂の形が、あずまやの形をしているためついた地名。寛文水帳にはなかった地名。	
	ト ^ウ 堂	ト ^{コロ} 所	堂所山という。堂は頭の換字で山頂。所は床口の換字で平地。吾妻山の隣の山頂がたいらになつてゐる山。寛文水帳にはなかった地名。	
	イワ 岩	キ 木	ト ^ウ 戸	タテイワ 岩木戸山をいう。立岩と呼ばれる木戸の形をした大岩壁のある山。 寛文水帳にはなかった地名。 東小倉村へ通ずる村松峠道を境に南が堂所、北が岩木戸。

新宿村 (シンシュクムラ)

(新宿1～3丁目、浜松町1丁目、浜松町2丁目の一部、琴平町の一部、小梅町、稻荷町の一部、三吉町1～2丁目、錦町1～3丁目、桜木町、織姫町、美原町の一部、清瀬町、元宿町の一部

* 町別小字表2、3参照)

字	小字	地名語源 (寛文7年(1667)の水帳 ^{アザ} の字による)
モン 門	クチ 口	新宿村を貫流し終えた新宿堰用水の各分流が境野村境で一か所に集められた所。ここから改めて三ッ堀(境野村)へ流れているので水の出入り口の意で水門のこと。
ミナミ 南	ホリ 堀	新宿堰用水の分流南堀の南側で東西は中・下宿の幅で渡良瀬川迄の間をいう。
シモ 下	ハラ 原	南堀の南側で南堀向から境野村迄の間。村の一番下 ^{シモ} にあたるのでついた地名。下川原の略。神明宮(現在は八幡宮境内にある)があったので太神原・大神宮原とも呼ばれた。
ミツツ ^カ 三ッ塚	ホリ 堀	明治9年地租改正の時、下原を合併した区域。
カイト 開戸	ムコウ 向	東西が上宿の幅で上宿から渡良瀬川迄の区域。三ッ塚の集落から分割して新集落を作った区域。
ミナミ 南	ホリ 堀	東西が中・下宿の幅で南堀迄の区域。
マエ 前	マエ 前	下宿の一部で定善寺から門口迄の区域。277～297番地をいう。地租改正の時、下宿に合併した。
テラ 寺	シタ 下	新宿村の中心の集落なのでついた字。上は最勝寺から下は定善寺迄の間の区域。上・中・下宿を併せた区域から寺下を除いた区域。298～462番地をいう。宝永年中(1704～1711)に新宿堰用水が出来た時に屋敷を上・中・下宿に替えた。
ヤ 屋	シキ 敷	後世屋敷は古い地名なので宿に換えたが、織物業が盛んになるにつれて人口が増え一字としては大きくなりすぎたので上・中・下に分割した下の区域(298～340番地)。但し、明治9年地租改正の時、寺下(277～297番地)が一字としては小さすぎるので吸収した。
	シモ 下	シユク 宿
	ナカ 中	シユク 宿
	カミ 上	シユク 宿
		屋敷を上中下に分割した中の区域(34～414番地)。
		屋敷を上中下に分割した上の区域(415～462番地)。

字	小 字	地名語源
キタ 北 ヒカ ^シ	ウラ 裏 ウラ 裏	北 裏
東	裏	東 裏
コヤ 後	ハラ 原	後 原
ハマ 浜	ノ ノ ハラ 原	浜 ノ 原
セキ 関	シタ 下	関 下
トウ 稲	カ カ マエ 前	カミ 上
たうか塚	ツカ 塚	ハラ 原
川 除 下	川 除 下	川 除 下
ウラ 上	ノ 野 ハラ 原	上 野 原
吹	フケ ^ハ 上 ハラ 原	新 ^{シン} 田 ^{テン} 原 ^{ハラ}
三	ツ ツ ツカ 塚	吹 上 原
	川 ^{カワ} 島 ^{シマ} 原 ^{ハラ}	三 ツ 塚
		川 島 原
		上宿の幅の北側で新宿堰用水の分流北堀迄の区域。
		中・下宿を併せた幅の北側で北堀迄の区域。
		中宿の幅で北堀と新川の間区域。 新宿村が荒戸村だった時は小谷原の一部であったが、新宿村が新川を境に分村した時、小谷原の新川以南の区域が同字でまぎわらしいので後原と書いて読みを同じコヤハラとした。もと小谷原だった区域という意。
		上宿の幅で北堀から新川迄の区域。平らな川原の意。浜は川原の意。
		新宿用水を南北に分流した部分から東側は上宿及び浜ノ原の一部迄の区域。用水の関口から下の区域の意。
		天和2年(1682)雷電社(雷電山)を関下の常見氏が屋敷神として勧請したので神社のある原の意で神原と改名した。神原が後世上原に替わった区域。その後、現地(稲荷塚)に移転し新宿村の雷電神社となった。
		トウカヅカ 十日塚稲荷より東へ浜ノ原迄の区域。
		十日塚稲荷を含めて西へ川除下迄の区域。
		明治9年地租改正の時、稲荷前とたうか塚を合併して稲荷塚とした区域。
		新川(下瀬堀)右岸で稲荷塚の西側の堤の内側に川除が築いてある区域。 川除は江戸時代の水害防止施設名で洪水に際して堤を守り、水勢を衰えさせるために堤防から川中に向かって張り出す形で造られた円く細長く竹で編んだ籠の中に石を詰めしたものや、杭木で囲んだ中に石を詰め張り出すものである。
		渡良瀬川の低下により付近で一番高くなった川原。
		新川の分流口付近で最後に開拓された川原。
		渡良瀬川左岸で風当たりがよいので、吹き上げられた砂が砂山を作っている川原。
		最勝寺から西側で円墳が、三つまとまってあるのでついた地名。
		寛文水帳の時はまだ出来ていなかった。その後出来たもので中島ともいわれ、中島ノ ^{ワタシ} 渡なども使われている。

境 野 村 (サカイノムラ)

(境野町1～7丁目、広沢町間ノ島、琴平町の一部 * 町別小字表2、4参照)

字	小 字	地名語源 <small>(寛文水帳不明のため^{アザ}字は採用できませんでした)</small>
	ハマ ノ キョウ 浜 ノ 京	<p>浜は川ばたの平地。京は境の替字で、この場合は上野・下野の国境。 上野・下野両国の境を流れている桐生川沿いの平らな川原。</p>
	マン ミヤ 松 宮	<p>阿夫利神社境内に幟旗の柱を支える石柱がある。お宮はないがお祭りの時には、祭神を小俣の石尊社へ迎えに行った。幟は祭典の日に当たる七夕の日に立てて、盆の16日迄立てていた。この間松宮の住民総出で道普請を行い、子供たちには供物の菓子など配って盛大に祝った。祭り宮が後世転化して松宮となり地名となった。</p>
	ナカ ト ^ノ オリ 中 通	<p>足利街道(旧道で学校側)の両側で^{カミ}上は三ツ堀賀茂神社参道から、^{シモ}下は祥雲寺入口の道迄の区域。 境野村の中央を通っているので地名になった。</p>
	ス ツ 諏 訪	<p>鎮守諏訪社(下諏訪社)を祀ってあるので地名になった区域。</p>
	シタ オ トモ 下 小 友	<p>小友村小友を上中下に分けた下の区域で桐生川が、明治5年の大雨の時北側(現在地)へ流路を変えたため境野村側の飛地となったが、明治9年の地租改正時の飛地解消政策により合併した区域。</p>
	ヌマ ノ ウエ 沼 ノ 上	<p>もと桐生川だった所が流路が変わって陸地になったが特に深くなっていた所が沼になった区域。</p>
	トノ ハ ^ノ ヤシ 殿 林	<p>殿はタナ(棚)の転で台地。 桐生川にそって雑木林になっている台地。</p>
	ミ ツ ホ ^ノ リ 三 ツ 堀	<p>もとは上中下三ツ堀に分かれていたが、明治9年地租改正の時より三ツ堀になった。 新宿村門口より流入する用水が三ツに分かれて流れている区域。</p>

字	小 字	地名語源
	<small>ハマノキョウニシハラ</small> 浜ノ京西原	<p>浜の京と浜の京天神台との間で、もと渡良瀬川の流れていた所なので、川なりの低地になっており清水も数か所湧き出し深く掘れている所が沼になっている区域。 ニシ（西）はニジ（滲）むの換字で清水の湧き出ている所。原は川原の略。</p>
	<small>ハマノキョウテンシ^ンダ^イ</small> 浜ノ京天神台	<p>浜ノ京西原の南側渡良瀬川沿いの天満宮を祀ってある台地。天満宮は浜ノ京（境野町7丁目）1813番地（境内地144坪）にあったが明治末年浜ノ京賀茂神社に合祀され今はない。</p>
	<small>アイノ シマカミカ^ラワラ</small> 間ノ島上河原	<p>寛永元年（1624）の洪水の時、流れが変わり間ノ島ができた。その後、亦流れが変わり、上・中広沢村と地続きになり、上広沢村と接する所を上河原という。</p>
	<small>アイノ シマシモカ^ラワラ</small> 間ノ島下河原	<p>中広沢村と接する所を下河原という。 間ノ島上・下河原は昭和29年8月1日より広沢町間ノ島となった。</p>
	<small>セキ</small> <small>ネ</small> 関 根	<p>新宿村を三川に分かれて利用されてきた新宿堰用水が役目を終え一川（芦川）に合流して境野村へ流入する堰のあるところ。</p>

上 広 沢 村 (カミヒロサワムラ)

(広沢町1丁目分)

字	小 字	地名語源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アヅ} による)
シヨウ ニン ウシロ 上 人 後	上 人 後	上人塚のある上人北側の区域。
ナカ サト ウシロ 中 里 後	中 里 後	中里の北側の区域。北をうしろという。
カワ ク ホ 川 久 保		昔渡良瀬川が流れていた所なので川なりに低くなっている区域。
カワ ハタ 川 端		川久保のうち旧道沿いの一段高い区域。 薬師堂付近の集落が広沢用水の分流を井戸代わりに使うため階段をつけた水場を作った区域。
	川 久 保	明治9年の地租改正の時に、川久保・川端を併せて川久保とした区域。
ウシロ ヤ 後 谷		南側の河岸段丘竜台（現在は赤石の一部）に源姓広沢氏の阿弥陀堂があったので、お堂の後（北側崖下）の渡良瀬川の川床だった低地。
タ ナカ 田 中		藤生寄りの旧道のはたで現在の後谷のうちで一段高くなっている区域で水田地帯の意。 2719番地に浄運寺の前身玉念の建てた小菴があった。
カモノダイ 加茂ノ台		旧道の南側で藤生と中里後にはさまれた区域。 加茂の台塚といわれる円墳の上に賀茂神社が祀ってある区域。 賀茂神社は明治42年比呂佐波神社に合祀され、塚は平地にされ旧境内地は特定出来ない。
	後 谷	明治9年地租改正の時、後谷・田中・加茂ノ台を併せて後谷とした区域。2751～2756番地。

字	小 字	地名語源
フ シュ ウ 藤 生		<p>フジ（藤）はフチ（縁）の換字。ウ（生）は場所を示す。小字藤生の北側を通っている旧道端（河岸段丘端）が崖になっている区域。崖下に新田用水の最初の頃の取水口があった。渡良瀬川のはたの意。現行藤生内の東側の区域。</p>
イッ ホウ キ 一 本 木		<p>旧伊勢崎街道沿いに目標となる一本の大き木が生えている区域。現行藤生内の西側の区域。木の種類は特定出来ない。</p>
	藤 生	<p>明治9年地租改正の時、藤生・一本木を併せて藤生とした区域。</p>
ヒキ イレ サワ 引 入 沢	引 入 沢	<p>新桐生台地上谷津の湧水を引いて水田を耕作している区域。</p>
アカ イシ 赤 石		<p>アカ（赤）はアカ（散）つの語幹。石は磯の換字でかつてこの付近を渡良瀬川が流れていた意。現行赤石内の南側中島の崖下の区域をいう。崖くずれをおこしている崖下の区域。</p>
リュウ タイ 竜 台		<p>現行赤石内の北側後谷境の旧道に沿った区域。リュウ（竜）は流の換字で、竜台は渡良瀬川沿いの河岸段丘なので洪水の時に崖はたをくずされる台地の意。</p>
	赤 石	<p>明治9年地租改正の時、赤石と竜台と併せて赤石とした区域。</p>

上 広 沢 村 (カミヒロサワムラ)

(広沢町2丁目分)

字	小 字	地 名 語 源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} の字による)
ヤ ツ 谷 津	谷 津	台地(渡良瀬川河岸段丘)で一番低い区域で清水の湧出している湿地。
サク 作 な し	アタ コ ヤマ 愛 岩 山	サクは畑のさくを切る意から浅いくぼ。 愛岩山はゆるやかな傾斜でくぼのない山腹なのでつけた地名。 山頂に愛岩神社を祀ってあるのでつけた地名。 明治9年地租改正の時、作なしは字名にふさわしくないと換えた区域。愛岩神社は明治42年境内社と共に合祀し今はない。
シュク 宿		現行中島の高台の区域。 隣りの本屋敷に源姓広沢氏の館(3127番地)があり、そのはたに発達した集落。
モト ヤ シキ 本 屋 敷		源姓広沢氏の館(下広沢村彦部氏の館と同じ規模)があった為つけた地名。 この館には文禄年間(1592~1596年)下広沢村竹ノ下より津久井氏が移転している。
	ナカ シマ 中 島	明治9年地租改正の時、宿と本屋敷を併せて中島と換えた区域。 中島は東側の平地から見た時、島のように見えるのでつけた地名。
カナ イ カミ 金 井 神	金 井 神	金井太左衛門を神として祀ってある区域。 その境内をマトバといっている。祭り場→マツバ→マトバと変化した語。 天文22年(1553年)茶白山砦は上杉謙信の攻め落とすところとなり由良家家臣番頭金井太左衛門は番衆共討死す。その後、金井氏はよく戦ったことで地元住民より神に祀られた。
ミ ヨ サワ 三 夜 沢		3301番地に宮城村三夜沢の赤城神社を分祀したのでつけた地名。
シメ タカハラ メ 太 原		シメタ(メ太)はシメタ(湿田)の換字で湿地。 昔の広沢川は浅かったので降雨の時などすぐ氾濫した。 広沢川左岸の氾濫原の湿地。

字	小 字	地 名 語 源
シ タン タ 四 反 田 ナカ サト 中 里 トイノモト 戸井ノ元 ナカ サキ 長 崎 ム サク 無 作 ナカ シマ マエ 中 島 前	 三 夜 沢 中 里 上 人 上 人 前 中 島 前	<p>広沢川左岸の湿地。 地名の出来た頃は四反程の水田があった区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、三夜沢・メ太原・四反田を併せて三夜沢にした区域。</p> <p>上広沢村の中心にあり住み良い山麓に出来た集落。</p> <p>トイ（戸井）は樋の換字。 広沢用水が掛樋で広沢川の上を越える区域。 本来中里前と呼ばれる区域であったが、広沢用水が掛樋で越える所は、ここだけなので知名度があるのでつけた地名。 下の広沢川へも水を落とせる仕掛けになっている。</p> <p>明治9年地租改正の時、中里と戸井ノ元を併せて中里にした区域。</p> <p>中島から長く岬のように舌状台地が突き出ている先端の区域。</p> <p>上人塚（3414番地にある円墳で基底7_トル・高さ3_トルで石槨あり）の略。 古墳のことを昔上人を生きながら埋めた塚だという伝承が地名になった区域。</p> <p>上人の南側で広沢川迄の区域。南を前という。</p> <p>中島の南側のゆるやかな傾斜地でくぼのないことからついた地名。サクナシ（作無）の意である作なしの字があるので無作とした区域。サクは畑のさくを切る意から浅いくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、地名が良くないので中島の前に当たるので中島前と替えた区域。</p>

上 広 沢 村 (カミヒロサワムラ)

(広沢町3丁目分)

字	小 字	地 名 語 源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} による)
サカ 坂	モト 本	台地東側の傾斜地付近をいう。坂道のふもとの意。
ツシ ^ニ 辻	トウ 堂	ヒキ ^リ 日限地蔵の付近に宝珠院の前身ともいわれる辻堂のあった区域。常林寺へ入る辻にあった為辻堂といわれた。
クホ ^ニ カイト 久保谷戸		坂本の台地下で広沢用水沿いに出来た集落。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化し、後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
カシ ^ニ ヤカイト 鍛冶屋谷戸	坂 本	坂本・辻堂・久保谷戸を、明治9年地租改正の時に併せて坂本にした区域。
		上・下広沢村の間に中広沢村を新立した時、半分が中広沢村鍛冶谷戸になった区域。谷戸は集落地名。鍛冶はカジ(噓)るの語幹で崩壊地名。足垂山の山麓が崩れて出来た平地に出来た集落。
	カシ ^ニ カイト 鍛冶谷戸	明治9年地租改正の時、字名だけ換えた区域。
テラ 寺	マエ 前	大雄院(3580番地)・観音院(3578番地)・禪双寺(3577番地)の三つの寺が並んでいる区域。
ミス ^ニ 水	クチ 口	常林寺(ジョウレンジ・津久井氏墓所・3585番地)に池があり、池のはたより清泉湧出して飲料水となす。依って水口の地名起こる。水口の池は3584番地。
トオ 遠	ホリ 堀	東堀の替字で(砦)の東側を守るため水口の水で東堀を作った区域。
	寺 前	明治9年地租改正の時、寺前・水口・遠堀を併せて寺前にした区域。
ヨリ 寄	イ 居	戦国時代茶臼山が砦山だった時の武士たちが普段住む麓の館。その後、天正18年(1590)由良氏が滅び農村の一集落に変じた区域。
ヤト ^ノ 宿	マエ 前	宿ノ前・宿ノ後はもとは一つでシュク(宿)は砦のはたに出来た集落をいう地名。平和な江戸期になり宿の人口が増え阿弥陀堂通りで東西に分割した東の区域。分割以後シュクの意味が不明になり、ヤドと呼ぶようになった。現在阿弥陀堂はなくなり、墓地のみになっている。
ヤト ^ノ 宿	アト 後	阿弥陀堂通りの西側の区域。
	寄 居	明治9年地租改正の時、寄居・宿ノ前・宿ノ後を併せて寄居にした区域。

字	小 字	地名語源
イチ キ 一 木		上広沢村一番のかれたことがなく水田も耕せることも出来る大量の湧水のある区域。 水くみの労働がなく農耕用水の心配のない所は村一番の集落地だった。溜池二つは名主津久井氏が独力で作った。
ニシ ノ マエ 西 ノ 前		西堀ノ前の略で一木の湧水を利用して寄居の西側を守る堀のある区域。
	一 木	明治9年地租改正の時、一木・西ノ前を併せて一木とした区域。
アカ キ ^ハ ハ ^キ ヤシ 赤 城 林		明治43年3月1日赤城神社の境内に上広沢村の殆どの神社を合祀して比呂佐和神社と改名した。 鎮守赤城神社の森のある区域。
アカ キ ^マ マエ 赤 城 前		赤城神社の東側参道のある区域。
	赤 城 林	明治9年地租改正の時、赤城林・赤城前を併せて赤城林とした区域。
ナカ イ 中 居	中 居	広沢川右岸の平地中央に出来た集落。
チ フ ^ノ シタ 治部ノ下		チブ（治部）はツブ（潰）の転で浸食地形。 古庭の入沢川が洪水の時、両岸を浸食する区域。
	コ テイ 古 庭	明治9年地租改正の時、古庭ノ入の入口に当たるのと治部ノ下ではいかにも名前が悪いので、いわれには関係なく改名した区域。
オカ ノ ウエ 岡 ノ 上		現行岡ノ上内の北側の傾斜地（台地の中心地は向鳥居）。
オカノ ウエマエ 岡ノ上前		岡ノ上東側岡下の区域。
	岡 ノ 上	明治9年地租改正の時、岡ノ上・岡ノ上前を併せて岡ノ上とした区域。
ソリ マチ 反 町		ソリは焼畑地名。マチ（町）は待の替字。 焼畑休耕中の畑の呼び名。

字	小 字	地名語源
ソリ マチ ヒカ ^シ 反 町 東		反町内東側の区域4018～4022番地。 神明と中居には含まれている区域。
	反 町	明治9年地租改正の時、反町・反町東を併せて反町とした区域。
ミヤ マエ 宮 前	宮 前	神明宮を遷座した宮脇の前に当たる区域。 (最初は神明宮は神明に勧請された。)
シン メイ 神 明		最初に神明宮を勧請した区域。 現行神明内の清水寄りの区域。
マチ タ ^ク 町 田		町田は祭り田の転で、神明宮のお祭りをするための費用を捻出する為に氏子が交替で耕す田。 神明宮の祭り田のある区域で神明内の中居寄りの区域。
	神 明	明治9年地租改正の時、神明・町田を併せて神明とした区域。
シ ミズ ^ク 清 水	清 水	清水の湧出している低地。湧水点は4162番地。 広沢川の源流。清水へは阿左美沼から岡登用水が流れてくる。
ハギ ^ク ワラ 萩 原		ハギ(萩)はハギ(剥)の換字。 南高校の丘と笠懸町境の沢との間に土砂崩れで出来た原野。 沢は阿左美沼より流れてくる小川。
オオ ク ホ ^ク 大 久 保		南高校南側の傾斜地。
ミヤ ワキ 宮 脇		南高校北側の山麓(4218番地792坪)に神明より神明宮が遷座してついた地名。(南高校入口の区域。)
	ミヤ ノ ウエ 宮 ノ 上	明治9年地租改正の時、萩原・大久保・宮脇を併せて宮ノ上とした区域。 神明宮の境内が一番低いので、付近というのを上と表現した区域。
テラ ノ イリ 寺 ノ 入		岡ノ上と宮ノ上の間の細長い曲がっている沢の部分という。 入口が狭く曲がっている沢を入という。 入口左側に大雄院の前身大 ^ク 王 ^イ 院 ^ウ があったのでついた地名。

字	小 字	地名語源
ムカイ トリ イ 向 鳥 居		<p>向鳥居は現行寺ノ入の内、明治9年の合併以前に呼ばれていた岡ノ上団地の殆どを占めている区域で、南側広沢丘陵の鞍部にある黒石峠<small>クロイシ</small>と向き合う位置にある為ついた地名。鳥居はタオリ（山の稜線の低いくぼんでいる為、峠道の通っている所）の転。</p>
ヤノ メ カ イリ 屋ノ目ヶ入		<p>ヤノ（屋ノ）はヤノ（菴）の換字で湿地。目は狭い区域。向鳥居と東側の雷電山との間にある湿地の狭い沢。西古庭沢のことで現在は埋め立てられ岡ノ上団地の一部になっている。</p>
コ テイノ イリ 古庭ノ入	寺 ノ 入	<p>明治9年地租改正の時、寺ノ入・向鳥居・屋ノ目ヶ入を併せて寺ノ入とした区域。</p> <p>コテはクテ（窪手の義）の転で湿地。雷電山の東側を曲がりながら入っている大きな沢で奥が三つに分かれている湿地。（樹徳幼稚園建設の時、基礎を掘ったら水が湧出し止まらなくて困った。）</p>
ハチ オウ シ 八 王 子		<p>現古庭ノ入の入口から雷電山迄の間の区域。下ノ八王子社は4349番地。上ノ八王子社は雷電山山頂にある。</p>
ミトウノ イリ 御堂ノ入	古庭ノ入	<p>明治9年地租改正の時、古庭ノ入・八王子を併せ、次の茶臼山を独立させた区域。</p>
アシ タレ 足 垂	チャ ウス ヤマ 茶 臼 山	<p>標高293.8<small>ト</small>。天文年中金山城主山頂に遠見番所を置くことあり、山頂に砦を築く為土木工事を行うと茶臼の形になる為、各地にある茶臼山は殆ど砦である。</p>
アシタレノ イリ 足垂ノ入	御堂ノ入	<p>御堂庵から山腹（茶臼山）の間に曲がりながら入っている沢。三堂ノ入ともかく。</p> <p>足は山麓（茶臼山）垂れは急傾斜。山麓が崩壊して急傾斜している区域。</p> <p>ここの入りは奥。足垂山（茶臼山の一山腹）をいう。</p>
	足 垂	<p>明治9年足垂・足垂ノ入を併せて足垂とした区域。</p>

中 広 沢 村 (ナカヒロサワムラ)

(広沢町4丁目)

字	小 字	地名語源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} の字による)
モミ 粃	ヤマ 山	高山彦九郎の赤城行に「もみ山の切通しを経て」とあり、当時から峠は切通しになっていた。モミ(粃)は揉の替字で崩壊地形。土砂崩れを起こしやすい山々の区域。
カナ 金	ハ ^{タケ} 畑	齋場入口西側の焼畑のある山腹。
ウマ 馬	イラス ^マ 不 入	金畑の奥の馬が登れないほど急な山腹。
ヒ 火打久保	ウチク ホ ^マ	ヒ フチ 火打は樋縁で川端をいう。 釈山ノ入の最初のくぼで榎入沢川はたの緩やかなくぼ。上ノ平の南側。
タテ 立	イワ 岩	齋場入口の西側の岩壁で下に、立岩神社のある区域。
オニノ キト ^マ 鬼ノ木戸		立岩の上のくぼで入口の両岩壁が、木戸のように狭くなっている区域。
	モミ 粃	ヤマ 山
		明治9年地租改正の時、粃山・金畑・馬不入・火打久保・立岩・鬼ノ木戸を併せて粃山とした区域。
ヒカ ^シ ノ 東ノ前	マエ	中広沢村には東西二か所の ^{コウサツバ} 高札場があり、その東の高札場の区域。
イシ 石	タ ^タ 田	榎入沢川のはたで、川の氾濫 ^{フビ} の度に石を置いていかれた為石の多い区域。 下広沢村だった時、5丁目石田と一緒だった区域。
	東ノ前	明治9年地租改正の時、東ノ前・石田を併せて東ノ前とした区域。
タ ^イ 台		北側の低地5丁目上福島から見ると崖上の台地であることがはっきりする。
フク 福	シ ^マ タ ^イ 島 代	代は台の替字で台地。福島 ^{シマ} の南隣りの台地。
	台	明治9年地租改正の時、台・福島代を併せて台とした区域。
フク 福	シ ^マ 島	中広沢村新立の時、下広沢村福島 ^{シマ} が中・下広沢村に分割された区域。 フク(福)はフケ(沮)の転で湿地。 まわりを低湿地に囲まれ島のように見える台地。
	福	島

字	小 字	地名語源
ツカ 塚	コシ 越	塚は円墳（2005番地）コシは付近。古墳のある区域。古墳は新道を作る時、埋土に使い今は水田になっている。
ウケ 請	ハ 場	広沢郷が昔、地頭 ^{ソノダ} 園田氏の請所であった時の名残が字として残っている区域。 請所とは室町期地頭が荘園 ^{シタジ} の下地支配の権限を委任されて ^{シヨウ} 定額 ^{ガク} 年貢納入を契約した請負地。
シ タン タ 四 反 田		最初は四反の水田しかなかった区域。
シ タンタ ^{ミチ} 四反田道		四反田の西側の道に沿った区域。
	四 反 田	明治9年地租改正の時、四反田・四反田道を併せて四反田にした区域。
フシ ^ノ 藤 ノ	キ 木	フジはフチ（縁）の転。 広沢用水のはたの区域。
ア ス ^キ 小 豆	タ 田	アズ（土舟）キの替字で崩壊地名。 靱山の山腹の土砂崩れで出来た傾斜地を開墾した区域。
ナカ 中	ノ メン ノ 免	定免村で上中下の税制の中の評価の村であった名残りが字として残っている区域。
	藤 ノ 木	明治9年地租改正の時、藤ノ木・小豆田・中ノ免を併せて藤ノ木とした区域。
ク ク ^ツ 久 々	サワ 沢	クグはクグ（屈）むの略で曲がる意。 広沢川が曲流している区域。
ヤ 屋	ウラ マエ 浦 前	姥沢（もと鍛冶谷戸）2270番地付近に寛文年間建立の西光院及び開基者で名主の藤生治郎左衛門の屋敷があるので、姥沢川対岸を屋浦（屋敷のこと）前とした。
	ニシ 西	西高札場（2152番地甲）のある区域。西は西高札場の略。
う う	バ ^ワ ば 沢	ウバ（姥）はウバ（奪）うの略。4604～4699番地。土砂崩れして急傾斜している沢。

字	小 字	地名語源
ウラ 上	テ ^{エラ} 平	山頂が平らな山の区域。(その結果広沢配水地が設けられた。)
カシ ^{カイト} 鍛冶谷戸	ヤシ キ マエ 屋 敷 前	明治9年地租改正の時、屋浦前・西・うば沢・上平を併せて屋敷前とした区域。
ニシ ノ イリ 西 ノ 入	ウハ ^サ 姥 沢	<p>2211～2280番地。慶長3年(1598)上下広沢村の間に中広沢村を分村した時、上広沢村鍛冶屋谷戸を二つに分割した区域で、同名では都合が悪いので鍛冶谷戸にした区域。鍛冶はカジ(噛)るの語幹で崩壊地名。明治9年地租改正の時、上中下広沢村が合併した時、上広沢村の鍛冶屋谷戸を鍛冶谷戸とした為、同名となるので姥沢にした区域。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。</p> <p>4573～4603番地。八王子神社から西へ曲がりながら入っている沢。明治9年地租改正の時、上中下広沢村が合併した時、下広沢村にも西ノ入りがある為、姥沢に改名した区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、上中下広沢村が合併し鍛冶谷戸・西ノ入を併せて姥沢とした区域。姥は奪うの替字で崩壊地形をいう。沢の東側が特に崩れ易く度々崩壊している沢で今は上部が土砂で埋まり通行不能の為沢の東側の尾根に道が出来ている。</p>
フカ 深	マチ 町	フカはフケ(沮)の転で湿地。泥深い水田地帯。
ムカイ 向	タ ^タ 田	久保谷戸の住民が広沢川対岸(向い側)に水田を作った区域。
ハツ タン タ ^タ 八 反 田	八 反 田	延宝の水帳では三反しかないが命名の頃は八反の田があったと思われる区域。
サン チョウ メン 三 丁 免	三 丁 免	三分一定額の税(豊凶に拘らず)を納めしめる村。南北朝以後鎌倉幕府の御料所に広沢郷が編入され、年貢三分二御免の地であった名残が字に残っている区域。 <small>サンジ^{ヨウメン}</small> 三定免 が正しい用語。
マエ 前	タ ^タ 田	塞ノ神を祀ってある所の前に当たる水田区域。
サイ ノ カミ 才 ノ 神	前 田	才は塞の換字。広沢村が上・下広沢村の頃の村境で、下広沢村より疫病・悪霊などが入るのを防ぐ目的で道端に塞ノ神を祀った区域。
	前 田	明治9年地租改正の時、前田・オノ神をあわせて前田とした区域。

下 広 沢 村 (シモヒロサワムラ)

(広沢町5丁目分)

字	小 字	地名語源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} の字による)
ニシ ノ イリ 西 ノ 入		賀茂神社の南側から西へ曲がりながら入っている大きい沢。 中・下広沢村の秣山があった。
シ ^ャ クス ^レ 蛇 崩		大蛇が山腹から出てくるとき大きい土砂崩れを起こすという伝承から、蛇の字は崩壊を表す。 西ノ入を入るとすぐ左へ曲がり左側最初の山腹の土砂崩れで急傾斜している山。
イソ ノ イリ 磯 ノ 入		蛇崩 ^{カミ} の上隣り。イソは石の転。 崩れた山腹の岩石で埋まっている曲がりながら入っている沢。
シ ^ャ - ナ 蛇 穴		西ノ入の行き止まりの山腹が大きく崩れ急傾斜している区域。
イシ ハラ 石 原		各所から崩れでた岩石で埋まっている西ノ入川の川原。
	西 ノ 入	明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、西ノ入・蛇崩・磯ノ入・蛇穴・石原を併せて西ノ入とした区域。
フク シ ^マ 福 島		慶長3年(1598)中広沢村が新しく出来た時に分割された区域。フク(福)はフケ(沮)の転で湿地。 昔渡良瀬川の中島だった所で、まわりを川床だった低湿地に囲まれている東西に長い島のように見える台地。
フクシ ^マ ク ホ ^ク 福島久保		福島の西南榎入沢川の流入する低地。 もと渡良瀬川だった区域。
ク ホ ^ク タ 久 保 田		福島久保の下隣り ^{シモ} の水田区域。 もと渡良瀬川だったくぼ地に作った水田区域。
おいせはら		久保田の下隣り ^{シモ} 、庚申塔を祀ってある。1263番地に神明宮を勧請した区域。 神明宮は江戸期に賀茂神社境内に遷座した。

字	小 字	地名語源
コウ 高 かせ		<p>おいせはらの下^{シモ}（福島久保の東端）北田の崖下の低地。 コウ（高）は川の換字。かせはキシ（岸）の転。 彦部氏の分家が川にはさまれ、島のような台地に屋敷を構えた区域。</p>
アズマ ヤ 東 屋		<p>アズマヤ^{アズマヤ} ニシハ^{ニシハ} 四阿の換字。西場氏の先祖が1286番地付近（福島の東端）に墓地と四阿（粗末な家）を作り出家した区域。</p>
フクシマシモノ ハラ 福島下ノ原		<p>福島の北側で下に位置する渡良瀬川右岸の川原。原は川原の略。</p>
	フク シマ 福 島	<p>明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、福島・福島久保・久保田・おいせはら・高かせ・東屋・福島下ノ原を併せて福島とした区域。</p>
キタ タ 北 田	北 田	<p>北はケタ（桁）の転で崖。 福島側が崖になっている台地で水田地帯になっている区域。</p>
タカ タ 高 田		<p>権兵衛堀が下広沢村へ入る入口に当たる上田^{ジョウデン}の多い区域。</p>
ヨシ タ 吉 田		<p>高田^{シモ}の下隣りで、地名のように上田^{ジョウデン}の区域。</p>
フチ ノ ウエ 淵 ノ 上		<p>淵は崖をいう。吉田の下^{シモ}で福島の崖上の台地。</p>
	テン シン 天 神	<p>明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、高田・吉田・淵ノ上を併せて天神とした区域。 1408番地に天神社を祀ってあるのを地名とした。</p>
コ タン タ 五 反 田		<p>地名のついた頃は、五反ほどの水田があった区域。 現行五反田のうち榎入沢川はたの区域。</p>
マチ タ 町 田		<p>五反田内の東側。マチダ（町田）はマツリダ（祭田）の転で北隣りの天神社の祭祀を行う資金を作る為氏が耕作する宮田のある区域。</p>
イシ タ 石 田		<p>夏保ノ入沢左岸にあるため、洪水の時など土石が流されてくるので、石の多い水田地帯。中広沢村が出来た時に石田の西半分が中広沢村石田になった。</p>

字	小 字	地名語源
ナツ ホ ^マ マエ 夏 保 前		地名の通りで夏保の前に当たる区域。
	五 反 田	明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、五反田・町田・石田・夏保前を併せて石田とした区域。
ニ チョウ タ ^マ 二 丁 田		現行二丁田内の西側で地名のついた頃、二丁程の水田のあった区域。
オシ キリ タ ^マ 押 切 田		現行二丁田内の東側でオンダシ（押出）と同じで、洪水の時など杉ノ入の土砂が流入して被害を受ける水田地帯。
シ タン タ ^マ 四 反 田		地名のつく頃は四反程の水田のあった区域。 現行二丁田内の中間の区域。
	二 丁 田	明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、二丁田・押切田・四反田を併せて、二丁田とした区域。
ヤマ サ ^キ 山 崎		現行夏保内の山腹の先端が突出している区域。 現行夏保内の西側の区域。
ナツ ホ ^マ 夏 保		夏保ノ入川の両岸の区域。ナツ（夏）はナズ（撫）の転で崩壊地名。夏保ノ入の山腹の土石流で埋まって出来た傾斜地。
ウチ タ ^マ 内 田		ウチダ（内田）はウチデ（打出）の転で、杉ノ入の出口付近なので洪水の時、土石流が押し出るので埋まる区域。
ニシノ カイ ト ^マ 西 海 道		彦部屋敷の堀の西側の区域。 かいどは屋敷の外まわりをいう地名。
アツ タ ^マ 熱 田		福巖寺東側の ^{テウスヤマ} 手白山に熱田神社が祀ってあった区域。 現在は彦部屋敷に遷座している。
	夏 保	明治9年地租改正の時、上・中・下広沢村が合併し、山崎・夏保・内田・西海道・熱田を併せて夏保とした区域。

字	小 字	地 名 語 源
イケ 池	タ 田	夏保ノ入沢の奥にある湧水池の水を利用している水田のある区域。
ヤマ 山	タ 田	夏保ノ入の途中から左へ入る沢にある階段上の水田のある区域。
お お	クマン 熊	イリ 入
モミ 粃	ヤマ 山	夏保ノ入
モミ 粃	ヤマ 山	夏保ノ入
スギ 杉	ノ ノ	イリ 入
キリ 切	ク 久	ホ 保
キリ 桐	ク 久	ホ 保

下 広 沢 村 (シモヒロサワムラ)

(広沢町6丁目分)

字	小 字	地名語源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} による)
リュウ ト 里 う ど		<p>利宇土とも書く。流土の換字。 竜土山が度々土砂崩れを起こしその被害を受けた山下の区域。一度大崩壊があって今の台地が出来たといわれている。</p> <p>竜土山の東腹に山ノ神を祀ってあるのでそのふもとをさす地名。山麓に神社を祀ってある区域につける地名。</p> <p>閉ずる沢の意で入口が狭く、閉じているように見える山ノ上沢(山ノ神を祀ってある沢)の旧名。</p>
ヤマ ノ ネ 山 ノ 根		
サワ とつら沢		
ホウ カイ ト 坊 谷 戸		<p>現行竜土の西側で、大防ヶ入の入口付近。もと寺がありその付近に集落の出来た区域。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。</p>
	リュウ ト 竜 土	<p>明治9年地租改正の時、里うど・山ノ根・坊谷戸・とつら沢を併せて竜土とした区域。</p>
さ ぐ り		<p>サクル(抉)の連用形で溝状に掘る意。もと渡良瀬川だったので川なりに細長くくぼんでいる区域。</p>
ナカ ハラ 中 原		<p>中川原の略で、もと渡良瀬川の中州だった区域。</p>
	サ クラ 佐 倉	<p>明治9年地租改正の時、さぐり・中原を併せて佐倉とした区域。佐倉はさくる(抉)でさぐりと似ているからであろう。</p>
カノエ ツカ 庚 塚		<p>渡良瀬川の川原なので開墾のとき出た石を捨てて出来た5~60坪の石塚の上に庚申塔の建ててある区域。</p>
オ カン ハタ 大 川 端		<p>オ(大)は御の換字。新田堀^{ニツタ}が幕府の用水なので御をつけて御用水と呼んでいる。新田堀^{ニツタ}を水汲場として利用する為、階段をつけてある区域。</p>
	庚 塚	<p>明治9年地租改正の時、庚塚・大川端を併せて庚塚とした区域。</p>
カワ クホ 川 窪		<p>もと渡良瀬川だったので川なりに長くくぼんでいる区域。</p>
	カワ ク ホ 川 久 保	<p>明治9年地租改正の時、川窪を川久保に替えた区域。</p>

字	小 字	地名語源
あ く と		<p>アク（灰汁）ト（処）で崖下の水の溜まっている湿地。下田の北側の崖下のもととは渡良瀬川だった低湿地。</p>
ワ タ 和 田		<p>賀茂沢川が曲流している付近。ワタ（曲処）の転。和田の中に下賀茂神社（459番地）があり境内をみよち（宮内）という。</p>
カワ そ り 川		<p>ぞりの転で賀茂沢川のはたが崩れている所。</p>
シモ タ 下 田	アキ ト 肥 土	<p>明治9年地租改正の時、あくと・和田・そり川を併せて肥土にした区域。和田の中に下賀茂神社（459番地）があり境内をみよち（宮内）という。</p>
カ モ サワ 賀 茂 沢		<p>賀茂沢川右岸の区域。</p>
オオ カイ ト 大 谷 戸	下 田	<p>明治9年地租改正の時、下田・賀茂沢を併せて下田とした区域。</p>
ハチ マン バタ 八 幡 畑	大 谷 戸	<p>大はアフ（仰）ぐの語幹で崩壊地名。山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地にあとから出来た集落。</p>
マエ ハタ 前 畑		<p>八幡前とも言う。最初は賀茂沢川右岸の崖の中段に八幡社を勧請した。現在は舞台の上に遷座している。八幡社のある賀茂沢川右岸の台地。</p>
ヤ シキ マエ 屋 敷 前		<p>鍛冶ヶ入の尾根（前山）に雷電社を祀ってあるその前に当たる区域。前山とは賀茂神社の前にある山。雷電神社を祀ってある。標高194.3m。</p>
		<p>鍛冶ヶ入のくぼの入口付近に舞台屋敷と呼ばれた周東一族の長者の屋敷があったので、その付近を屋敷前と呼んだ。</p>

字	小 字	地名語源
<p>フ 舞</p> <p>タイ 台</p> <p>ミヤ ハハラ 宮 原</p> <p>ミヤ ノ シタ 宮 ノ 下</p> <p>おやまふし</p> <p>ホソ マエ タ 細 前 田</p> <p>タケ ノ ウチ 竹 ノ 中</p> <p>ミヤ ハハラ 宮 原</p>		<p>明治9年地租改正の時、八幡畑・前畑・屋敷前を併せて舞台とした。</p> <p>円台ともいわれ640番地にある祭祀跡。</p> <p>東西26^{トル}・南北23^{トル}、4周の高さ、東2^{トル}・西4^{トル}・南2.5^{トル}・北5^{トル}。往時は賀茂沢の水を湛水せりという。</p> <p>昔、源頼義・義家のいずれかが奥州の乱を討伐の途次、式内賀茂神社に戦勝を祈願し、賊を平げ、帰途再び奉幣し、神楽を奏したる時、神楽殿とした遺跡と伝える。</p> <p>賀茂神社を祀ってある林。</p> <p>賀茂神社の前、賀茂入沢川に沿って広沢用水迄の区域。</p> <p>賀茂神社の西側神の山の北側山麓の区域。</p> <p>おやま（御山）は神の山なので、御をつけている。 ふしはフチ（縁）の転。</p> <p>ホソはホソ（防）くの語幹で、戦国期彦部屋敷の正面を守るため泥深い水田にしておいた区域。</p> <p>土塁に囲まれた中に竹林のある豪族屋敷をいう地名。^{ヒヨベ}彦部屋敷をいう。ほかに竹が丘・^{センショウダ}千松台・台ともいわれている。</p> <p>竹が丘 彦部屋敷の西側が竹林になっているため。</p> <p>千松台 5ページ村松村の説明と同じ。賀茂山から彦部屋敷にかけて千本の松苗を植えたという伝承から。</p> <p>台 千松台の略</p> <p>明治9年地租改正の時、宮原・宮ノ下・おやまふし・竹ノ中、細前田を併せて宮原とした区域。</p> <p>彦部屋敷は源平時代に藤姓広沢氏が築いたといわれ、戦国時代には先に住んでいた一族の彦部加賀守の砦であった。</p>

字	小 字	地名語源
しめつくし	シメツクシ 七五三盡	下賀茂神社の境内は、ここ迄という杭が建ててあった区域。 明治9年地租改正の時、しめつくしを七五三盡に換えた区域。
こぶた原	ハラ コブタハラ	こぶはクボ（窪）の転。 もとは渡良瀬川 <small>ワクラセ</small> だった低湿地の野原。
トウ マエ 堂 前	コブタハラ	古くは東方寺の隠居寺原（原はこぶた原の略）ノ寮があったが廃寺となり地藏堂が建てられた。現在は堂もなく須永氏の墓地となっている（980番地）。地藏堂のある区域。
トモノ スケハラ 友ノ助原	コブタハラ トモ ノ スケ	明治9年地租改正の時、こぶた原・堂前を併せて小婦田原とした区域。
トモ ノ スケ 友 之 助	トモ ノ スケ	トモ（友）は共の換字。スケ（助）はスカ（州処）の転。 渡良瀬川右岸の川原を共同で開拓した区域。
カミ ノ ヤマ 上 ノ 山	トモ ノ スケ 友 之 助	明治9年地租改正の時、友之助原を友之助に換えた区域。 三唐 <small>サンカラ</small> …友之助の一部の俗称。正しくはミト <small>ミト</small> で水門 <small>ミト</small> と書き、 待堰 <small>マチゼキ</small> （新田用水）の水門 <small>スイモン</small> のあることからついた俗称。 三唐川 <small>サンカラガワ</small> …正しくはミト川で、渡良瀬川の流れが洪水で右岸から左岸に変わったため、新宿村大神宮原の本流から待堰水門まで分流した人口の河流をいう。本流に堰を作って分流した。 待堰 <small>マチゼキ</small> …人工の三唐川から新田堀に取水するため設けた堰の名。宮城県に待井堰がある。
カミ ノ ヤマ 上 ノ 山	ミヤ ノ ウラ	賀茂神社のうしろ（西側）の神ノ山をいう。上は神の替字。 愛宕社を祀ってあるのでいう。
タ ナカ 田 中	ミヤ ノ ウラ 宮 ノ 裏	賀茂神社の裏側。 明治9年地租改正の時、上ノ山（神ノ山）を宮ノ裏に換えた区域。
タ ナカ 田 中		水田に囲まれた家のある所。現行田中内の東側の区域。

字	小 字	地名語源
タケ ノ シタ 竹 ノ 下		<p>現行田中内の西側の区域。 竹ノ下には津久井氏の屋敷があり、その後氏神の愛宕神を奉じて上広沢村本屋敷に移転した。 竹ノ中（豪族屋敷名でここでは竹林のある彦部屋敷）の下に当たるので竹ノ下の地名が出来た。</p>
カ シ ^ノ イ リ かちの入 マエ ヤマ 前 山	田 中 カ シ ^ノ カ ^ノ イ リ 鍛冶ヶ入 オオホ ^ノ ウカ ^ノ イ リ 大防ヶ入 リュウ ト ^ノ イ リ 竜 土 入	<p>明治9年地租改正の時、田中・竹ノ下を併せて田中とした区域。</p> <p>かちはカジの転でカジ（囓）るの語幹で崩壊地名。ここでは入は奥をいう。山腹の崩壊している所から奥の山。</p> <p>山腹に雷電社を祀ってある付近。賀茂神社の前にある山。標高 1934.3 ㍎</p>
チョウシ ^ノ ヤ 長者かいと	鍛冶ヶ入 大防ヶ入 竜 土 入 長 治 ヶ 入	<p>明治9年地租改正の時、かちの入・前山を併せて鍛冶ヶ入と換えた区域。</p> <p>水帳に無い地名。坊谷戸から奥の山腹の意であるので防ヶ入とつけるべきであるが、大防ヶ入の奥に一本木村の飛地の坊ヶ入があるのでそれと比べて大きいので大防ヶ入とした区域。入口に坊（寺院）があったのでついた地名。</p> <p>昔は価値がなかったので水帳に無い地名。竜土の奥の山の区域。</p> <p>チヨウはチャブス→ツブ（潰）すの意で崩壊地名。ジヤ（者）は蛇で崩壊地名。カイトは峽処で山間の小平地をいう。山腹が土砂崩れして傾斜地になった所に出来た集落。</p>
ヤマ ネ 山 根	山 根	<p>明治9年地租改正の時、なぜ長者かいとかの語源がわからぬので単純に換えた区域。</p> <p>ちようじは長者と同じ意味だが、入は奥をいう語で山腹が土砂崩れしている山腹から奥の山の区域。</p> <p>山麓に神社を祀ってある区域につく地名。東山の山麓鎮守原に賀茂神社を祀ってある区域。一本木村の区域にある下広沢村の飛地。現在は広沢町7丁目に編入されている。</p>

字	小 字	地 名 語 源
ホ ^ン 坊	ムカイ 向	坊は賀茂坊 ^{ホウラクジ} 法楽寺の賀茂坊の略。向は川をはさんで向き合っている所。法楽寺から賀茂沢川をはさんで、向き合っている南側の台地（650番地付近）。
ヤス メ 休 メ 石		愛宕山の久保入口付近の道ばたに高さ1 ^ト ・上の幅1 ^ト ・5 ^ト ・下の幅3 ^ト の山形の石がある。賀茂神社の ^{ゴノウジ} 御降神の神事の時に、御輿の休憩所になってついた地名。一時飯塚家の庭石に使ったが、現在は賀茂神社の境内にある。
オオ ク 大 久 保 ノ ケ ヤマ 野 毛 山		愛宕山東腹の大きいくぼ。 ノケはヌケ（抜）の転で崩壊地名。標高207.7 ^ト 山の大崩壊で、三角の形をしている岩山。
サワ たつや沢		立岩沢(タツヤ沢)で立岩山（大きな岩石が立っている形をした山）と野毛山との間の沢、休メ石から東南の方向に入る沢。
オキ ^ノ ク ホ ^ノ 萩ノ久保		オギ（萩）はウギ（剥）の転で崩壊地名。立岩沢の途中から東へ入る奥が、二俣に分かれて崩壊により急傾斜している山腹。
タカ ノ ス 鷹 ノ 巢		萩ノ久保の南側の山で、タカが飛び立つ時の気流などを考えて巣を作る山、鷹ノ巢山の略。標高230.6 ^ト
トノ ヤマ サワ 殿 山 沢		たつや沢から鷹ノ巢山の西側へ真っ直ぐ入る殿山の東側の沢。
ホラ カ ^ノ イリ 洞 ケ 入		たつや沢の萩ノ久保の入口をすぎ、殿山沢の入口をすぎて西へ入る入口の狭い急傾斜の沢で菅塩村へ行く峠道の通っている沢。
トノ ヤマ 殿 山		殿山沢と洞ヶ入の間の山頂が棚（平らで細長い）の形をしている山。標高212.6 ^ト
ア タゴ ヤマ 愛 岩 山		津久井氏が彦部屋敷道下の竹ノ下に居住した時氏神愛宕社を加茂ノ入に勧請。標高220.8 ^ト

字	小 字	地名語源
アカ サカ 赤 坂 シュウハチマカ ^リ 十八曲リ		<p>たつや沢から^{スカ、シヨウ}菅塩峠道が山にかかる^{アカツチ}赤土の登り坂付近をいう。峠道が山麓にかかる所によくある地名。</p> <p>菅塩峠道が峠近くのツヅラ（九十九折）道になっている区域。</p>
タツ ヤ 立 岩 カ ^イ イリ マミケ入 スケガタ		<p>立岩山の略。大きな岩石が立っているような形をした山。立岩沢とマミケ入との間の山。標高 203.9^{メートル}</p> <p>マミはムジナの異名。立岩山西側に、ムジナの巣穴のように細長い山腹の崩壊により急傾斜していて曲がりながら入っている沢。</p> <p>台待窪の奥が三つに分かれている右側の沢。スケはス（直）ぐの転で急傾斜。ガタはカタ（片）の意で片側。右側の山腹が急傾斜している沢。</p>
タ ^イ マチ クホ ^ク 台 待 窪 ウマ カ ^エ シ 馬 返 シ ナカ ^オ ネ 長 尾 根 ケンジ ^ガ イリ 源次ヶ入 イシ かわご石くぼ		<p>かわご石で神事に用いる榊をのせた御輿をかつぐ輿丁が待機しているくぼ。</p> <p>スケガタの左隣りの急傾斜していて馬をつれて行けない山腹。</p> <p>スケガタと馬返シの間の細長い尾根。</p>
	カ モ ノ イリ 加茂ノ入	<p>源次ヶ入の途中から右に入る二俣に分かれている右側のくぼで奥に幅3^{メートル}・長さ3.3^{メートル}・高さ1.2^{メートル}の大石がある。その石に賀茂神社の神が降臨したのを祭典前日に迎えに行く。</p> <p>賀茂神社から奥の区域。明治9年地租改正の時、坊向・休メ石・大久保・野毛山・たつや沢・萩ノ久保・鷹ノ巣・殿山沢・洞ヶ入・殿山・赤坂・十八曲り・立岩・マミケ入・スケガタ・台待窪・馬返シ・長尾根・源次ヶ入・かわご石くぼを併せて加茂ノ入とした区域。正しくは賀茂ノ入</p> <p>※大久保・坊ヶ入は現在は広沢町6丁目の区域だが村制の当時は一本木村だったので一本木村（広沢町7丁目）に入っている。</p>

一本木村 (イッポウギムラ)

(広沢町7丁目)

字	小字	地名語源 (延宝2年(1674)の水帳 ^{アザ} の字による)
コシ 腰	マキ 卷	<p>ヨシザ^ワ 吉沢 村境の新田堀^{ニツタ}水門流堰より取水した用水が、曲流している付近。この用水の末流は渡良瀬川へ合流している。</p> <p>ヤナギ(柳)はヤナ(籾)ギ(木)の換字で堤。原は川原。渡良瀬川に堤を築いてある付近の川原。</p> <p>天保11年(1840)7月矢場堰御用水新堀割を通したので柳原を新堀に換えた区域。</p> <p>柳原の北側。渡良瀬川の旧川床を水田にした区域。</p> <p>間ノ田が新堀の前(南側)になったので換えた区域。</p> <p>さぐりはサクル(挾)の連用形で溝状に掘る意。さぐり(もと渡良瀬川だったので川なりに長くくぼんでいる区域)と一本木用水(友之助で新田堀から分流した用水)をはさんで向き合っている区域。</p> <p>向さぐりの西側、村で一番上^{カミ}にある川原。</p> <p>佐倉と一本木用水をはさんで向き合っている区域。明治9年地租改正の時、さぐりを、佐倉に換えたので自然に向佐倉となった。向さぐりと上原を併せて向佐倉とした区域。</p> <p>太田街道の南側に並んでいる集落。</p> <p>太田街道の北側に並んでいる集落。</p> <p>鎮守賀茂神社の北側の台地下山ノ上沢(山ノ神沢)はたの区域。</p> <p>下広沢村境の新田堀で取水し、新田堀沿いに流し、東沢寺前から新田堀へ流入する東沢へ合流する^{クルマホ^リ}車堀(名主の岡田家の水車を回すために作った用水)に岡田家が使う水汲場を作っている区域。</p>
ヤ ナ キ ^ツ 柳	ハ ^ラ 原	
シ ^ン 新	ホ ^リ 堀	
アイ ノ 間ノ	タ 田	
ムカイ 向さぐり		
カ ミ 上	ハ ^ラ 原	
ムカイ 向	サ クラ 佐 倉	
ヤ シキ 屋敷	マエ 前	
ヤ シキ 屋敷	ウラ 裏	
マエ 前	ハタ 畑	
カワ 川	ハ ^タ 端	

字	小 字	地名語源
ウラ ト ^オ リ 浦 通		鎮守賀茂神社と東沢寺間を山根に沿って通っている裏通。
ウフ ^ス ハラ 鎮 守 原		5335～5340番地。 鎮守賀茂神社の林のある東山山麓の台地。 明治42年11月30日広沢村宮原賀茂神社へ合祀す。
ヤ シキ ハラ 屋 敷 原		東沢寺付近（5331～5334番地）の部落共有林。
	ヤシ キ ト ^オ リ 屋 敷 通	明治9年地租改正の時、屋敷前・屋敷裏・前畑・川端・浦通・鎮守原・屋敷原を併せて屋敷通とした。
オオ ク ホ ^ト 大 久 保	大 久 保	とつら沢（山ノ上沢）の途中から西側竜戸入の中へ入っているくぼで下広沢村の中にある一本木村の飛地で竜土入の竜土山にあるくぼ。現在は広沢町6丁目に編入されている。
ホ ^ウ カ ^イ イリ 坊 ケ 入	坊 ケ 入	下広沢村の大坊ヶ入の奥にある一本木村の僅か一筆の飛地のくぼ。大坊ヶ入の入口に寺があったのでついた地名で、この奥を意味する。現在は広沢町6丁目に編入されている。
カラ サワ 唐 沢	唐 沢	モ ^リ タ ^ク ヨシ ^サ フ 毛里田村大字吉沢小字唐沢のうち唐沢の左岸の一部が広沢町7丁目に編入された区域。 山腹が雨水を吸いこむ砂や石で出来ている為、普段沢水が流れていない山で瀬 ^{カレ} 沢山と書くべきところが唐沢山となった。
		※山根は現在は広沢町7丁目の区域だが村制の当時は下広沢村だったので下広沢村（広沢町6丁目）に入っている。

下久方村 (シモヒサカタムラ)

(東久方町1丁目、東久方町2・3丁目の一部、西久方町1～2丁目、
天神町1～3丁目、宮本町1丁目の一部 * 町別小字表3, 5参照)

字	小字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳の字による)
オカ ショウ 岡 城	岡 城	付近で台地になっている所に桐生親綱の家老茂木馬之助の館があり砦のようなので城といわれた。
オ ヤ ヤ シキ 大谷屋敷	大谷屋敷	桐生氏四天王の一人大谷勘解由の屋敷があった区域。
マエ ハハラ 前 原	前 原	赤城神社を祀ってある赤城ノ森の前の桐生川の川原。
アカ キ シタ 赤 城 下	赤 城 下	赤城神社の参道のある区域。
ミヤ ヒカシ 宮 東	宮 東	赤城神社を祀ってある宮原の東側の区域。
セイ タイ 清 台	清 台	セイ(清)はショウ(清)の読み換えで清水の略。 西側宮頭の崖から(大堰用水が通っている)清水が湧出している河岸段丘。
ミヤ ハハラ 宮 原	宮 原	赤城神社(後に天満宮)を祀ってある森のある区域。
ミヤ カシラ 宮 頭	宮 頭	宮原の上隣りの区域。
スキ ノ シタ 杉 ノ 下	杉 ノ 下	桐生川沿いの河岸段丘で清水の湧出している区域。 スギはス(砂)カ(処)の転。シタ(下)はシタ(滴)つの語幹で崖はたから地下水の湧出する状態。
トウロクシマエ 道陸神前		道祖神が辻に建てられている区域。 他に塞の神ともいう。
	トウソ シマエ 道祖神前	道祖神(道路の悪霊を防いで行人を守護する神)が辻に建てられている区域。
テン スイ 天 水	天 水	桐生川が洪水の時に、流路となるなる川沿いの低地なので地租の安い耕地。徳川幕府の法令用語で堤外区域の意。
ミヨ チ 宮 内	宮 内	久方村の時は梅原といわれ、梅原天神社の鎮座していた区域。天正末年新町を作る時、宮原へ遷座した。遷座後も旧地で祀られ上・下久方村に分割後は宮内と改名した区域。天満宮のある区域。観応2年(1351)桐生国綱が佐野朝日森より鳳仙寺入口右側の天神山に勧請した天満宮を天正3年(1575)由良成繁が梅原へ遷座した。高山彦久郎の忍山湯旅の記に「天神の森ありき」とあるように境内に杉の大木の森があった。夕日をさえぎる森の影は桐生川の対岸にある小松の集落を覆い隠すほど大きかった。

字	小 字	地名語源
コ 小	マツ 松	小 松
タ 田	ナカ 中	田 中
マチ 町	ヤ 屋	町 屋
コ フ ^コ ウ シ ^シ かぶかうち		
オン 押	ダ ^シ 出	押 出
ロクタンカ ^{イト} 六反谷戸		六反谷戸
カミ 上	ノ ヤツ ノ 谷	上 ノ 谷
ミヤ 宮	ニシ 西	宮 西
ヤツ 谷		谷
ヤツ 谷	ノ マエ ノ 前	谷 ノ 前
ミネ 峯		峯
ヨシ 吉	タ ^シ 田	吉 田
		4 0 7 3 坪。桐生川が洪水の時、東側へ流路を換えた為、上菱村字小松の一部が分割され対岸の飛地となった区域。旧上菱村の区域。 平成3年8月1日天神町3丁目小松462～473番地として編入した。
		4 3 3 2 坪。水田に囲まれた住宅のある区域。
		^ク ボ 久方村の頃は町屋に上久方村の後田を併せた区域が町屋で久方村最大の集落地であった。
		「かぶ」の漢字は食用の蕪で荒神山の先端が丸く突き出ている山麓に沿って根本道が通っている付近。
	コ フ ^コ コウシ ^シ 古武小路	蕪を古武にあてた為に解説に迷った所。
		平井の山崩れの土砂が押し出た区域。その土砂で桐生川が半円形に曲流している。
		地名のついた頃は六反程耕地のある所に出来た集落。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガイトがガイトに変化した。
		^{キツ} 谷の上当たる物見山東麓の区域。
		赤城神社（現在は天満宮を祀っている宮原）の西隣りの区域。
		桐生が岡の山麓の内側に入り込んでいる平地。
		大堰用水の東側から桐生新町の西裏迄の平地。
		桐生が岡の分水界から桐生新町迄の区域。
		地名の通りで上田 ^{ジョウデン} の多い区域。

上久方村 (カミヒサカタムラ)

(梅田町1丁目、平井町 — 平井・鬼窪・躑躅窪・宮沢・赤城沢・桑沢・大沢・平井沢 —)

字	小字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳 ^{アザ} の字による)
ウシロ 後	ダ 田	後 田 ウシロ (後) はモト (旧)、昔の意。田は場所。久方村の時は下久方村の町屋と一緒に町屋であったが、慶長3年(1598)上・下久方村に分割した時、もと町屋だった所という意でつけた地名の区域。
オオ 大	ハマ 浜	大 浜 桐生川が大浜のはた(神田・梅原)を流れていた頃川岸が崩されている河岸段丘。オオ(大)はアフ(仰)ぎの転で崩壊地名。ハマ(浜)は川ばた。
モリ 森	サワ 沢	森 沢 八幡宮を祀ってある森のある沢。
モリ 森	サワ ク チ 沢 口	森 沢 森沢の入口に集落が出来てついた地名。 明治9年地租改正の時、森沢・森沢口を併せて森沢とした区域。
ウメ 梅	ハラ 原	梅 原 久方村の時は、梅原と下久方村宮内を併せた区域が梅原であった。ウメ(梅)は埋の換字。原は川原の略。桐生川が洪水のたびに土砂を運んで埋まって出来た野原。
シン 神	タ 田	神 田 由良成繁が陣屋を設け、兄の子勘九郎を陣代として住ませた所が陣代と呼ばれ後世誤って神田となった区域。
オオ 大	セキ 関	大 堰 荒戸原を開墾する為に作った桐生川最大の用水路の取水堰のある区域。 明治9年地租改正の時、正しい漢字に換えた区域。
イワ 岩	メ 目	岩 目 もと桐生川だった大堰用水沿いに細長く沿っている河岸段丘の区域。目は細・狭い所。岩は川岸をいう。
ダイ 大	モン 門	大 門 大門とは寺の正門のことであるが、参道に集落が出来るとつく地名。 明治9年地租改正の時、西方寺参道の上側 ^{カミ} を大門とした区域。大門とは寺の正門のことであるが参道に集落が出来るとつく地名。

字	小 字	地名語源
	シモ タイ モン 下 大 門	明治9年地租改正の時、西方寺参道の下側に集落ができていたので下大門とした区域。
オカ 岡	ク ^イ ラ 平	現行岡平を通る根本道より上の区域。 慈眼寺山南側の傾斜地。岡ではなく台地。 当時は慈眼寺山も区域内であった。
オカ 岡	ノ シタ ノ 下	現行岡平のうち旧道より下の平地の区域。
	ジ ^カ ンシ ^ヤ マ 慈眼寺山	水帳では岡平に入っていた、慈眼寺のうしろの山の部分を明治9年地租改正の時、独立させた区域。
	岡 平	明治9年地租改正の時、岡平から慈眼寺山を独立させ、岡ノ下を併せた区域を岡平とした。山麓の傾斜地。
ミナミ 南	南	最初に居館の地名がついた時は、居館・新堀・小谷入・坂ノ下・中道・姥沢・御屋敷（後に城ノ前・御屋敷に分割する）・南を含めた区域であったが人口が増えてきたので、時代は特定できないが、八つに分割した時の南に当たる区域なのでつけた地名。
サカ 坂	ノ シタ ノ 下	大門・中通の間で根本道が、のぼり坂になっている道下の区域。
シロ 城	カ ^イ ト 谷 戸	もと桐生川だった低地の水田地帯に集落ができた区域。城は代の換字で水田。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
カワ 川	ハ ^タ 端	川 端 桐生川右岸がゆるい傾斜になっており、川岸から清水が湧出している所を集落の水場になっている区域。
シン 新	ホ ^リ 堀	新 堀 姥沢の水を水田に利用する為の用水路の通っている区域。
ナカ 中	ミチ 道	中 道 渭雲寺の参道が通っている区域。 参道のはたに集落が出来て地名がつくことが多い。
コ 小	ヤノ イリ 谷 入	小 谷 入 入口の狭い谷口を入った所から右側に広がる山腹のくぼ。
イ 居	ク ^テ 館	居 館 普段武士が住んでいる柄杓山城麓の簡単な城で戦いの時は柄杓山城に立籠った。 居館は江戸期には新堀・小屋入・坂ノ下・中道・姥沢・御屋敷・南を併せた区域だったので居館村と言われていた時もあった。

字	小 字	地名語源
オ ヤ シキ 御 屋 敷	御 屋 敷	居館の中で城主一族の普段住んでいる住居。 但し、次の意見もある。 1. 後花園 天皇の寛正3年（1462）古河公方足利成氏が柄杓山城へ来たりしを光栄とし、逗留した屋敷を御屋敷といった。 2. 前関白左大臣近衛竜山公が、弘治3・4年に滞在せし屋敷を御屋敷といった。
ナカ ノ 中 野	中 野	居館と小谷戸の間の桐生川端の野原。
タカ ハナ 高 鼻	高 鼻	山根の台地の先端が平地に突出している部分。 現在は削られて、まわりの平地と同じ高さになっている。
ヤマ ネ 山 根		尾根の先端に山王社を祀ってある付近。 山根は神社を祀ってある山麓につく地名。
サン ノウ タノイ 山 王 台		山王社を祀ってある尾根の先端。延文5年(1360)山王社を柄杓山城内より山王台へ遷座。桐生豊綱の時屋敷に遷座し清蔵院を別当とした。
	山 根	明治9年地租改正の時、山根・山王台を併せて山根とした区域。
コ カノイ ト 古 谷 戸		古は子の換字。
	コ カノイ ト 小 谷 戸	小は子の換字。 ある集落（親集落）から分かれて新集落（小集落）を作った時に、使われる地名用語。県内各地に沢山ある。 明治9年地租改正の時、古を小に改名した区域。親集落がどこであるか不明
タカ マ マ 高 間 々	高 間 々	間々は崖を表す地名用語。高台の崖下にある台地。
ウエ ノ タノイ 上 ノ 台		高間々の崖上の台地。
	タカ タノイ 高 台	明治9年地租改正の時、上ノ台を高台に換えた区域。 台地の一段崖上の台地。
アカ サカ 赤 坂	赤 坂	柄杓山城への通路が赤土 <small>アカツチ</small> の登り坂にかかる区域。
スキ サワ 杉 沢	杉 沢	杉はス（直）ぐの転。 柄杓山城北側の真っ直ぐで急傾斜の沢。

字	小 字	地名語源
イシ スミ 石 泉	石 泉	湯沢峯の山麓の岩の間から鉱泉が湧出している区域。
シモ ユ サワ 下 湯 沢	下 湯 沢	湯沢峯の東側を湯沢川が流れている平地（もとは湯沢）を金沢川を境にして上・下に分けた下の区域。 ここの湯は鉱泉。湯は湧の転。
カミ ユ サワ 上 湯 沢	上 湯 沢	湯沢峯の東側を湯沢川が流れている平地を金沢川を境にして上・下に分けた上の区域。 湯沢は上・下湯沢・下窪・伊勢沢・伊勢窪・稲荷台・田ノ入油鹿野・比良ノ峰・比良平・三ツ又・大久保・深山・栗ノ木入を併せた区域をいい、湯沢村といわれている時もあった。
カネ サワ 金 沢	金 沢	金沢は昔、金沢地域全体の呼称で金沢村といわれていたが現在は沢の内の平地の部分のみをいう地名。 観応元年（1350）桐生国綱が柄杓山城を築いたときに鬼門に当たる経玉木に軍神が祭神である兼宮神社を勧請したので沢を兼沢と呼ぶようになったが、後に好字の金沢に換えた。天正18年柄杓山城が廃され鬼門の必要がなくなったため、便の良い金沢の入り口にあたる上湯沢の現在地に遷座した。
ヒラ イ 平 井		ひら（平）は傾斜地。井は居の替字で集落。 山に囲まれた大きい傾斜地にある集落。
ヒライ イリクヂ 平井入口		平井の入口が狭くなっている区域。
オニ クボ 鬼 窪	平 井	明治9年地租改正の時、平井・平井入口を併せて平井とした区域。
	鬼 窪	鬼は尾根の転。1129番地。 物見山の尾根の先端が陥没している区域。 鬼が住んでいるような複雑な地形をしている区域。
ツ ツ シ ク ホ 躑 躑 窪	躑 躑 窪	ツツジはツツ（包）むの転。 入口の狭い山につつまれた形をしているくぼ。
ミヤ サワ 宮 沢	宮 沢	
ミヤ ノ マエ 宮 ノ 前		赤城神社を祀ってある区域。
	アカ キ サワ 赤 城 沢	赤城神社を祀ってある沢。 明治9年地租改正の時、宮ノ前を赤城沢に換えた区域。
オオ サワ 大 沢		平井で一番大きい沢。

字	小 字	地名語源
ミヨウ カ ^ニ サワ みやうヶ沢	オオ サワ 大 沢	みやうはミオ（水緒）の転でわずかの水が流れている沢。 明治9年地租改正の時、大沢・みやうヶ沢を併せて大沢とした区域。
ヒラ イ サワ 平 井 沢	平 井 沢	平井の北側の山麓に沿って流れている一番大きい水路。
ウシ クホ ^ニ 牛 窪	牛 窪	牛はウチ（内）の転。荒神山の西側の山腹に入り込んでいるくぼ。鳳仙寺二代住職のいた閑心院があったことで知られている。
マエ サ ^ニ ワ 前 沢	前 沢	天神社を祀ってある天神山の南側（前）を流れている沢。 この天神社を由良成繁が梅原へ遷座した。
	ミ ナシ 水 無	山腹の土質が水を浸透させる為、沢ができない区域。 寛文水帳にない地名。普段水の流れていない山腹。
	ショウ キ ^ニ クホ ^ニ 将 碁 窪	将棋の駒を立てたような急傾斜の地形。 入口が岩壁で狭く、奥がそぎ落としたような急傾斜をしている山腹のくぼ。寛文水帳にない地名。
テン シ ^ニ ン ヤマ 天 神 山	天 神 山	尾根に天神社・白山社 ^{ハクサン} ・秋葉社を祀ってある山。観応2年（1351）桐生国綱が佐野朝日森の天満宮（後の梅原天神）を勧請した山。
キン リュウタ ^ニ イ 金 竜 台	金 竜 台	由良成繁が建立したという伝承のある金竜寺のあったといわれる台地。
	マル コ 丸 子	丸子山の略。山腹にこぶのような小山のある区域。 寛文水帳にない地名。
	クロ ン タ 黒 仁 田	黒は畔の換字で山。黒仁田山の略。標高568 ^{メートル} 寛文水帳にない地名。山腹に清水が湧いていて猪鹿などが虫除けなどに体に泥をぬる仁田場としている区域。
	カ ホ ^ニ サ ^ニ ワ 華 房 沢	カボはカミ（神）の転。岡平 ^{サンジノウ} 山神宮 ^ウ をいう。 ヤマノカミシヤ 山神社を祀ってある沢。寛文水帳にない地名。
	イシ サ ^ニ ク 石 座 久	石は岩。座久はサク（作）の換字で浅いくぼ。 華房沢の上にある岩石のごろごろしている浅いくぼ。 寛文水帳にない地名。

字	小 字	地名語源
ウハ ^ハ サ ^ワ 姥 沢	姥 沢	姥はウバ（奪）うの語幹で崩壊を示す語。 慈眼寺山の東山腹の崩壊で急傾斜している沢。
シロ ^ノ マ ^エ 城 ノ 前	城 ノ 前	ヒシ ^{クヤマ} 柄杓山城の正面にある支脈で、前面の陣地のあった所。 地元では前城という坂中曲輪（一反程、一反は300坪）のある 付近で、城へ行く通路もある。 江戸期には雷電神社を祀ったので雷電山とも言う。
ヒシ ^コ ヤ 菱 小 屋	菱 小 屋	ヒシ（菱）はヒジ（肘）の換字で曲がる意。 小屋は小谷の替字。入口から曲がって入る小さい山腹のくぼ。
キリ ^カ ク ^ホ きりヶ久保		キリ ^{カエハタ} きりは切替畑の略で焼畑。 焼畑があるゆるい傾斜地のある山腹。
	キリ ^カ ヤ 霧 ヶ 谷	霧は切で切替畑の略で焼畑。 焼畑がある山腹のくぼ。明治9年地租改正の時に改名した。 現在も焼畑を作る為に築いた石垣が残っている。
ウナ ^キ 舟 木	舟 木	舟はウネ（畝）の転で、田畑の境をする細長い土盛りの形 から尾根の意。高松沢入口の南側にある細長い尾根。
タカ ^{マン} サ ^ワ 高 松 沢		高は山の上部。松はマタ（俣）の転。 入口の両側が岩壁で狭く且つ急坂で入るのが怖い所を抜けると 両側に広がる高松山上部にある大きい沢。
タカ ^{マン} テ ^{エラ} 高 松 平	高 松 沢	高松沢の内側に大きく広がっている（七町歩程、一町は 3000坪）傾斜地を言う。地元では「どんでえら」と呼んでい る。
		明治9年地租改正の時、高松沢・高松平を併せて高松沢と した区域。

字	小字	地名語源	
ホソ 細	クホ ^ㇰ 窪	細 窪	山腹の細長いくぼ。桐生氏の武家屋敷のあった区域。
カヤ 萱	クホ ^ㇰ 窪	萱 窪	付近で一番大きい山腹のくぼで、村有の屋根葺用の萱場のある区域。
ウチ 内	ヤマ 山	内 山	傾斜のゆるやかな山腹にある村有の入会山。
ヤナキ ^ㇰ 柳	ワラ 原	柳 原	柳は築・木（場所）の換字。 原はハラ（開）の替字で開墾地。 築の形をした傾斜のゆるやかな山腹を開墾した区域。
オオ 大	カ ^ㇰ タ 形		大形は扇形の替字で扇形山の略。 扇をひろげたような形をした傾斜がゆるやかで沢のない山腹。
ナカ オ ネ 中 尾 根		大 形	大形山の一支脈が柳原と内山の間に突出している区域。 明治9年地租改正の時、大形・中尾根を併せて大形とした区域。
セン カ ^ㇰ サワ 仙 ケ 沢	仙 ケ 沢	仙 ケ 沢	仙はセク（激）の転で急傾斜。急傾斜している沢。
ユ サ ^ㇰ ワ ミネ 湯 沢 峯	湯 沢 峯	湯 沢 峯	ふもとの石泉から鉱泉が湧出している山。
ユ サ ^ㇰ ワミネシタ 湯沢峯下	湯沢峯下		湯沢山麓と湯沢川との間の小傾斜地。
イ セ クホ ^ㇰ 伊 勢 窪	伊 勢 窪	伊 勢 窪	湯沢峰の尾根の先端に山神社と並んで伊勢宮（神明宮）を祀ってある東側の山麓の傾斜地。
シモ 下	クホ ^ㇰ 窪	下 窪	金沢の一番 ^{シモ} 下（出口）の南側にあるくぼ。
イ セ サ ^ㇰ ワ 伊 勢 沢	伊 勢 沢	伊 勢 沢	伊勢はイソ（磯）の転で岩石。 山腹の崩壊で急傾斜している岩石のごろごろしている沢。

字	小 字	地名語源
オ ク ホ 小 久 保	小 久 保	小さい山腹のくぼ。
イ ナリ ツカ 稲 荷 塚	稲 荷 塚	尾根の先端が突出している所に稲荷社を祀ってある区域。
ヒラ ン タ 平 仁 田	平 仁 田	山腹の緩傾斜地に猪・鹿などが虫除けのため体に泥をぬりつける仁田場（清水の湧いている湿地）のある区域。 昔の水田の跡がある。
エチ コ ショウ 越 後 城	越 後 城	越はコシで峠道。後はコ（処）の転で所。 城は上の換字。これから金沢峠道にかかる所の上にある集落。
ヒ タマ キ 経 玉 木	経 玉 木	経はへ（辺）の転で付近。 玉木は玉垣の略で神社の境内。 観応元年（1350）桐生国綱が柄杓山城を築いた時、城の鎮護の為に東北に当たるこの地に兼宮神社を祀った区域。 現在石宮が4・5社ある。 天正18年柄杓山城が廃され鬼門の必要がなくなった為便利の良い金沢の入口の現在地に遷座した。
オ オ キ 扇 片	扇 片	片は肩の換字。山頂から下の部分。 大形山の扇形をしている山腹が終わり、金沢峠道に向かって急傾斜している区域。
オ オ キ シ タ 扇 片 下	扇 片 下	扇片の下、金沢峠道の通っている沢の区域。
クラ ミ 闇 見		闇は倉の換字で崩壊地名。見は辺の転字で付近。 金沢峠の山頂付近南側の崖崩れしている区域。
コ トリ クホ 小 鳥 窪		金沢峠最上部左側のくぼ。名久木と金沢を分けている稜線の鞍部（低くなっている部分）にある為小鳥の飛び易い空路になっているくぼ。
	クラミ コトリ クホ 闇見小鳥窪	明治9年地租改正の時、二つを併せて闇見小鳥窪にした区域。

字	小 字	地名語源
カカ ^ミ イシ 鏡 石		金沢峠頂上付近北側に鏡石と呼ばれている岩のある区域。 鏡石は高さ1 ^ナ ・幅0.9 ^ナ の硅岩の露頭で、その一面が平にして滑沢なること鏡の如く人影をうつすので呼ばれている。 毎年山焼きをするため現在はうつらなくなっている。
タケ ノ クホ ^ノ 竹 ノ 窪		竹はタカ（高）の転。 金沢峠道の通っている右側最上部にあるくぼ。
シ ^{ユウ} ハチマカ ^リ 十 八 曲	カカ ^ミ ミイシタケノクホ ^ノ 鏡石竹ノ窪	明治9年地租改正の時、二つを併せて鏡石竹ノ窪とした区域。
オオ ヒ エ 大 樋 合		樋合は ^{ヒアワイ} 廂合の替字。 ヒエはヒエ（冷）の意もある廂合（向かい合う家の廂が重なり合うようで、日の当たらず所から日陰地を言う地名）。 二つ並んでいる日の当たらない沢の大きい方。
コ ヒ エ 小 樋 合		二つ並んでいる日の当たらない沢の小さい方。
オオ ミ ヤマ 大 深 山		日の当たらない北を向いている山腹。 すでに村内に深山があるので、深山が二つ並んでないのに大深山とした。
	十 八 曲	明治9年地租改正の時、十八曲・大樋合・小樋合・大深山を併せて十八曲とした区域。
ヒ エ 樋 合	樋 合	ヒエは ^{ヒアワイ} ヒアワイとよみ廂合の替字。 向かい合う家の廂が重なり合って日の当たらずことから出て、日の当たらず所の意。 日の当たらないひえ（冷）ている沢。
コ ^ン ケ ^ン ヤマ 権 現 山	権 現 山	羽黒三所権現社を祀ってある山。江戸期に金沢949番地に遷座。更に明治42年7月7日に日枝神社に合祀している。
ナカ オ ネ 中 尾 根	中 尾 根	箴沢山と大形山の間にある細長い中尾根を、三分割した先端の区域。
タ ^イ コクオ ^ネ 大黒尾根	大黒尾根	中尾根の間に大黒堂のある区域。
エ ^ヒ オ ^ネ 海老尾根	海老尾根	エビの尾のような階段状に傾斜している、中尾根の付け根の区域。

字	小字	地名語源
ウツ ト ヤ 鶯 鳥 屋	鶯 鳥 屋	鶯はウス（臼）の転で山の鞍部。 鳥屋は尾根の鞍部の小鳥の空路に、カスミ網を張りかかるのを待つ假小屋の建ててある区域。
ア タ ^ク クホ ^ク 阿 陀 窪	阿 陀 窪	阿陀はアテの転で日陰。日の当たらない山腹のくぼ。
ト ^ク テ ^ク エラ 堂 平	堂 平	堂はトウ（頭）の替字で山頂。山頂の平らな山。
オサ サ ^ク ワ ク ^ク チ 箴 沢 口	箴 沢 口	箴沢の入口のある区域。 (番地では箴沢入口北側の尾根の先端のみをいう)
オサ サ ^ク ワ 箴 沢	箴 沢	堂平山（標高 494 ^ト ）の山腹にある沢。箴は機織の道具で細いもののたとえ。
オサ サ ^ク ワ マエ 箴 沢 前	箴 沢 前	箴沢の前の西を向いている急傾斜の山腹。
イナ リ タ ^ク イ 稲 荷 台	稲 荷 台	ここでは山頂の平らな低い尾根を台で表現している。 金沢入口右側、比良の峯の山頂の平らな低い尾根の先端に稲荷社を祀ってある区域。
タ ノ イリ 田 ノ 入	田 ノ 入	階段状に田が作ってある沢。
アフ ^ク ラ カ ノ 油 鹿 野	油 鹿 野	油は燈明油の略。鹿野は刈野の転で焼畑。 <small>カネノミヤ</small> 兼宮 神社の燈明油を買うための資金を得るために耕す免税の焼畑のある山腹。
ヒ ラ ノ ミネ 比良ノ峯	比良ノ峯	比良は平の換字。山頂が平の山。
ヒ ラ テ ^ク エラ 比 良 平	比 良 平	比良ノ峯の支脈の山頂が平らになっている区域。
ミ ツ マタ 三 ツ 又	三 ツ 又	比良ノ峯の支脈が三つに分かれている区域。
オオ ク ホ ^ク 大 久 保	大 久 保	比良ノ峯の山腹で一番大きいくぼ。
クリ ノ イリ 栗 ノ 入	栗 ノ 入	栗は栗生山 <small>クリユウヤマ</small> の略。栗生山の奥へ曲がりながら入っている沢。
ミ ヤマ 深 山	深 山	北を向いている日の当たらない山腹。

浅 部 村 (アサベムラ)

(梅田町2丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳 ^{アザ} の字による)
ク リ ュ ウ 栗 生	栗 生	栗はくるくるのクル(転)の転で曲がる意。 生は……になっている所。 桐生川が曲流している付近。
ハラ 原	原	桐生川の川原だった区域。原は川原の略。
アサ ヘ 浅 部	浅 部	浅は緩傾斜地。ベ(部)はへ(辺)の濁音化で「あたり」。 桐生川右岸の緩い傾斜地。
ヤク シ シタ 薬 師 下		薬師堂のある付近。
	ヤク シ マエ 薬 師 前	薬師堂のある区域。 明治9年地租改正の時、下を前に替えた地名。
イシ 石 ゾ リ	石 ゾ リ	二渡山の山腹の岩石が崩れ落ち急傾斜している区域。 (岩石はすべて落ちて今はない。)
アラ イ 新 井	新 井	井は居の替字で集落。付近で最後に出来た新しい集落。
フタ ワタリ 二 渡	二 渡	ニワタリ(二渡)の読みがいつしかフタワタリになった区域。 年代は不明であるが上菱村小島氏の先祖は塩竃大明神(氏神)を奉じて奥州から塩ノ瀬へ移住し根本川の対岸へ行く渡り場を故郷語でニワタリ(二渡)と呼んでいたのが、対岸の字名となりフタワタリと呼ばれるようになった。 ニワタリは本来荷渡で荷物を運ぶことの出来る両岸が緩やかな地形の渡り場の地名であった。東北地方(岩手・宮城・山形・福島県)では小字としてニワタリ(二渡)が数か所残っている。ニ渡は初めは二渡村の一部であったが承応年間(1652~1655)浅部村成立の時に、二渡村より分割された区域。

高 沢 村 (タカサワムラ)

(梅田町3丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳 <small>アザ</small> の字による)
カシ カイト かぢ谷戸		<p>かぢはカジ(嚙)るの語幹で崖。 高沢川左岸崖はたにある集落。</p>
ヤマ サキ 山 崎		<p><small>フタワタリヤマ</small> 二渡山 の東南に延びている尾根の先端。</p>
	カシ カイト 鍛冶谷戸	<p>明治9年地租改正の時、かぢ谷戸と山崎を併せて鍛冶谷戸とした区域。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。</p>
カワクボ かはくぼ		<p>高沢川左岸道下の低地。 もと川だった所で洪水で流れが変わった為、川なりの細長いくぼ地として残っている区域。</p>
テラ マエ 寺 前	カワ ク ホ 川 久 保	<p>明治9年地租改正の時、ひらがなを漢字に換えた地名。 高園寺の境内を言う。</p>
モン セン 門 前	寺 前	<p>高園寺大門前参道付近に出来た集落を言う。 明治9年地租改正の時、寺前・門前を併せて寺前とした区域。</p>
ス ワ 諏 訪 クリ ユウ タ 栗 生 田	諏 訪	<p>諏訪神社を祀ってある山腹。 栗はクリ(転)の替字で曲がる意。田は場所。 高沢川が半円状に曲流している内側の傾斜地。</p>
ヒセ センカイト 備前谷戸	備前谷戸	<p>明治9年地租改正の時、諏訪・栗生田を併せて諏訪とした区域。 ビ(備)はヒ(樋)の替字で水路。谷戸は集落。 高沢川の両岸が岩壁で狭くなっている為、用水のように狭い状態で流れている前に出来た集落。</p>

字	小 字	地名語源
ニシ 西	ヤマ 山	西 山 ニシ（西）はニジ（躓）るの替字で崩壊地名。 山腹が土砂崩れしている急傾斜の山。
ユス ^ゝ 柚	キ 木	柚 木 柚木はユス（揺）るの語幹。木は所。 西山の崩壊で埋まって出来た傾斜地。 ユス（揺）るは崩壊地名。
ユス ^ゝ キ イリ 柚 木 入	柚 木 入	入は奥。柚木の奥にある西山の山麓。
シュク 宿	メク ^リ 巡	宿 巡 高沢村で一番大きい集落のある区域。
ま つ ば		まつばはマツリバ（祀場）の替字で神社を祀ってある付近。 大山祇神社を祀ってある山腹。
	宿 巡	明治9年地租改正の時、宿巡・まつばを併せて宿巡とした区域。
オオ イシ ハタ 大 石 畑	大 石 畑	ハタ（畑）は、ハ（端）タ（処）の替字で付近。 大石のある付近。
ハ ^ゝ イリンカ ^ゝ イト 梅林谷戸	梅林谷戸	梅はウメ（埋）の替字で堆積地。 林はハヤ（逸）しの替字で傾斜地。 山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地にある集落。
ウリ 瓜	テ ^ゝ エラ 平	瓜 平 瓜はウル（潤）うの替字で湿地。 清水の湧いている湿地の傾斜地。 平の字義は平地であるが山間では平地が無い為ゆるい傾斜地を平という。
フシ ^ゝ ノ ウエ 藤 ノ 上		フジ（藤）はフチ（淵）の換字で、 ^{ホチダ^ゝキ} 星落滝の ^{ホシフ^ゝチ} 滝壺 星淵の略。 高沢川の兩岸の岩壁がせまり淵を作っている右岸の小傾斜地。
	フチ ノ ウエ 淵 ノ 上	明治9年地租改正の時、藤を正しい淵に替えた地名。

字	小 字	地名語源
トコロ 所 場		所はトコ（床）ロの替字で台地。 鎮守 大山祇 神社をまつばから遷座した小平地のある山腹。
	ト クラ ハ 戸 倉 場	戸は狭い場所。倉はクラ（座）の替字で座所。 岡の上の狭いところに大山祇神社を祀ってある区域。 大山祇神社は、まつば・戸倉場・寺裏と遷座している。
クラ ノ サワ 蔵 ノ 沢	蔵 ノ 沢	蔵は岩壁から急傾斜。奥が岩壁になっている沢。
マル ヤマ 丸 山	丸 山	丸く見える小さい尾根の先端の部分。
カ テイ 花 台	花 台	花は下の替字。 台は山間では平地がない為、傾斜地をいう。台は台地の略。 大きい山腹の傾斜地。焼畑のあるゆるい傾斜の山腹。 (ゴルフ場の計画があった山腹。地元が反対して出来なかった)
イチ ハタ 市 畑		市はイツ（巖）の転で崖。 高沢川右岸崖上の小平地が畑になっている付近。
テエラ たこノ 平	タコ シ テエラ 高 ノ 平	山地村ではたかびらという。 市畑の上の尾根がゆるい傾斜地になっている付近。
	市 畑	明治9年地租改正の時、市畑・高ノ平を併せて市畑とした区域。
イワ ノ シタ 岩 ノ 下	岩 ノ 下	高沢川左岸で山腹の崖下の小傾斜地。
ハナ ツマミ 鼻 撮	鼻 撮	鼻は尾根の先端。撮は少量の意。 尾根の先端と高沢川左岸の間にある小傾斜地。
シハバ ハラ 芝 原	芝 原	芝は雑木林。原はハラ（開）の替字で開墾。 高沢川左岸の一町程の雑木林を開墾した区域。

字	小 字	地名語源
<small>ナカ ノ テエラ</small> 中 ノ 平		<small>コウサツ フ</small> 高沢 川右岸と山麓に挟まれた畑になっている小平地。
か ろ う		がろうの転で山腹の崩壊で急傾斜している沢。 その結果沢口と高沢川左岸の間に畑になっている小平地が出来ている。
	中 ノ 平	明治9年地租改正の時、中ノ平・かろうを併せて中ノ平とした区域。 川の左岸と右岸を併せて一つの小事とした珍しい区域。
<small>カイト</small> あじろ谷戸		あじろ（網代・網の代わりの意で、冬、川の瀬に竹や木を編んだ物を網を引く形に立てて、その端に簀（す）をあてて魚を捕るのに用いるもの。 高沢川の魚の集まる所なので網代をかける付近にある集落。
	<small>アジシ カイト</small> 阿治路谷戸	現在地元では本来の言葉の意味がわからなくなってアジジカイトと呼んでいる。 明治9年地租改正の時、あじろを阿治路に換えた区域。 山腹の崩壊で埋まって出来た高沢川右岸の小傾斜地。
<small>コソネクボ</small> 小曾根窪		小曾根は岩石でできている山の支脈・側稜をいう。 大滝川右岸支脈の最初にある山腹のくぼ。
<small>アシ キ</small> 足 ダ 木		足はアズ（土）の替字で崩壊。ダ木は谷の転。 右岸二番目の山腹のくぼ。 山腹の崩壊で谷口に傾斜地の出来たくぼ。
たきノくぼ		大滝沢左岸にある最初の大滝のあるくぼ。 入口が岩壁で狭くなっているくぼ。
<small>ウエ</small> たきノ上		大滝の上から入る両側が岩壁のくぼ。

字	小 字	地名語源
あぶらかの		あぶらは油で燈明油。かのはカリノ（刈野）の転で焼畑。滝ノ上の上にある雷電岳神社の燈明油を買う為の資金を得る為に耕作をしている免税の焼畑のある扇平（オオビラ・扇を広げたような緩やかな山腹）。
シ ^ハ ク ^ホ 蛇 窪	オオ タ ^キ 大 滝	蛇は大蛇が山腹からはいでる時に、大崩壊をおこすという伝承から使われている。あぶらかのの上に山腹の大きな崩壊により出来た、緩やかな傾斜地のあるくぼ。
キ シ ^ナ 木 品	木 品	明治9年地租改正の時、小曾根窪・足ダ木・たきノくぼ・たきノ上・あぶらかの・蛇窪を併せて大滝（15 ^ハ 程の滝、付近に二つあるので小滝・大滝という）とした区域。
ミ ^ス ク ホ ^ホ 蚓 久 保	蚓 久 保	木はキワ（際）の下略で川のきし。品は階の替字で傾斜地。高沢川右岸にある小傾斜地。
コ モ ^ツ マ ^ル 小 持 丸	小 持 丸	細長く曲がっている沢。
オオ モ ^ツ マ ^ル 大 持 丸	大 持 丸	もつまるは本来もちまるで餅丸の換字で鏡餅の意である。持丸山の東側 ^{オシヤマ} 忍山では正しくモチマル（餅丸）山という。隣村同士で間違えぬような配慮と思われる。くぼ口が狭くまわりを囲まれている形（鏡餅形）のくぼが二つ並んでいる南側の小さい方。
コ 子つなぎ	コ ツ ^ナ キ ^キ 子 繫	小持丸の北側の大きい方のくぼ。最近迄人家が一軒残っていたが、冬は風呂をわかすだけの清水が出なくなるので現在は住んでいない。
		子はコエ（越）の略で山を越えて隣村へ行く峠。つなぎは繫で峠をはさんだ山の両側の村をつなぐ意で道。山を越えて仁田山村へ行く峠道の通っている区域。
		明治9年地租改正の時、子つなぎを子繫に文字だけ替えた地名。

字	小 字	地名語源
ナヘ ^{ナヘ} 鍋	アシ 足	鍋 足 鍋は鍋底形の意。足は山麓。 まわりを山に囲まれて鍋底形をしている小傾斜地。
カケ 嶽	イリ 入	嶽 入 タケイリを地元ではカケイリと呼んでいる。 嶽は岩壁のある山をいう。入は奥の意。 忍山峠沿いに東へ二渡山脈迄入り、山脈に沿って北へ向いている燧石山のくぼの入口付近に岩壁のある奥の深い山腹のくぼ。
	寺 裏	高園寺の後ろに当たる二渡山の山腹。
ぶっかけ		ぶつはフチ（縁）の転で、ここでは山麓。 かけは欠で崖の意。 二渡山の山麓が崩壊して高沢川左岸迄落ちこんでいる区域。
	シュク 宿	ヒカ ^{ヒカ} シ 東 明治9年地租改正の時、宿巡の東に当たる所からぶっかけを宿東と地名だけ換えた区域。 しぶ水と呼ぶ鉱泉が湧出し鉱泉宿があった。
ハネ 羽 ば み	羽 ば み	ばみはハ（食）むの転で崩壊地形。 入口が狭く奥が左右に羽を広げた形のくぼで山腹が崩壊している所。その流出した土砂はくぼの外に傾斜地を作っている。
オオ 大 室	大 室	入口が狭く穴状に囲まれている山腹の大きいくぼ。
ゾ ^ゾ ウカ ^{ウカ} ク ^ク ホ ^ホ 象ヶ久保	象ヶ久保	象は沢の転で湿地。清水の湧いている湿地のくぼ。
ヤナキ ^{ヤナキ} 柳 沢	柳 沢	柳は築木の換字。築は屋根などの形。木は場所。 築の形をした山腹。
コ ^コ マノコウシ ^{マノコウシ} 胡麻小路		胡麻は木場 ^{コバ} の転で山中の道ばたに木材などを、一時積んで置く所。小路はコウジ（越路）の替字で峠道。 コバ（木場）のある忍山へ行く峠道の通っている区域。

字	小 字	地名語源
ク ホ ^ク むじな久保	胡麻小路	ムシ(筆)・ナ(接尾語)の転で崩壊地形。 胡麻小路中間から右へ入る、山腹の崩壊により急傾斜しているくぼ。
ウルシ カ ^カ サワ ^サ 漆 ケ 沢	漆 ケ 沢	漆はウル(潤)し(接尾語)の替字で湿地。 湧水のある湿地の大きい沢。
クラ ノ ウチ 蔵 ノ 内	蔵 ノ 内	^{ハナツツミ} 鼻撮の奥にある急傾斜の山腹に囲まれた緩やかな傾斜地。 蔵は崖・急傾斜地をいう地名。
ジ ^シ ユウシ ^ウ カ ^カ ク ホ ^ク 十次ヶ久保	十次ヶ久保	十字の形に四つのくぼが結合している区域。
タカ シハ ^シ 高 芝	十次ヶ久保	高芝山の西側の山腹。東側の忍山側の山腹にも高芝がある。 芝はシバク(打つ)の語幹で崩壊。山の上部が崩壊して急傾斜している山。
イ セ サ ^サ ワ ^ワ 伊 勢 沢	伊 勢 沢	伊勢はイソ(磯)の転で岩石の意。 崩壊した岩石で埋まっている急傾斜している沢。
たるくぼ	タル ク ホ ^ク 樽 久 保	タル(垂)は滝の意。岩壁から滝の落ちているくぼ。 明治9年地租改正の時、たるくぼを樽久保に替えた地名。
イシ ひうち石	ヒウチ イシ 燧 石	ひうち石の産出する燧石山の山腹。 明治9年地租改正の時、ひうち石を燧石に替えた区域。
ウサキ ^キ ウス 兎 白	兎 白	兎はフサ(塞)ぎの転で囲まれる意。白はアサ(浅)の転。 三方を囲まれている山腹の浅い(緩い傾斜)くぼ。 ふもとから70 ^程 程のぼった所にある。
イリ ヤマ 入 山		入は奥をいう。高沢村の奥に連なる山々。

字	小 字	地名語源
	イ ヤマ 入 リ 山	明治9年地租改正の時、入山を入り山に替えた区域。高沢村の奥に連なる山々。
タカ ノ ス 鷹 ノ 巢	鷹 ノ 巢	鷹巢山の略で鷹が飛び立つ時の気流を考えて巢を作っている尾根が長く独立している山。
ウマ イラ ス 馬 入 ず	ウ マ イ ラ ス 馬 不 入	馬を連れて仕事に入ることの出来ない急傾斜の山腹。 明治9年地租改正の時、馬入ずを正しい馬不入に替えた区域。
コ タギキ 小 滝	小 滝	10 ^ト の高さで水量も少なく飲料不適の水の落ちている（北隣の沢に15 ^ト 程の滝があるので小滝と命名した）滝のある区域。
ヤマ ゆ 山	ユ ヤマ 湯 山	岩石の多い山で、中腹より鉱泉が湧出し、湯山鉱泉宿のあった区域。 明治9年地租改正の時、ゆ山を湯山と替えた地名。
サワ をいのガ沢	サワ おいのが沢	をいのはオイヌ（御犬）の転で狼。狼の住んでいる沢。 明治9年地租改正の時、をいのガ沢をおいのが沢と換えた地名。
ヒラ カ ヤ 平 ケ 谷	平 ケ 谷	傾斜の緩やかな山腹のくぼ。
キ ワ タ 木 和 田	木 和 田	木はキ（断）リの転で切り立った地形。 ワダ（和田）はワ（曲）タ（処）の換字で湾曲。 両側が切り立った岩壁の大きい沢が曲がりながら奥へ入ってる区域。
ヨメカクホ 嫁ヶ久保	嫁ヶ久保	嫁はヨ（節で二つ）メ（目で狭い）の替字。 くぼの入口が狭く且つ二つに区切られて両側から入るくぼ。

字	小 字	地名語源
<p>たかはた</p> <p>オオ コ クラ 大 小 倉</p> <p>オオ ヤ サワ 大 谷 沢</p> <p>コ ヤ サワ 小 谷 沢</p> <p>ワキ わ き 沢</p> <p>ほそくぼ</p> <p>ホウノキマド ほうノ木まど</p> <p>ぞろめき</p> <p>クリノキクホ 栗ノ木くぼ</p> <p>こしぼち</p> <p>イワ キ ト 岩 木 戸</p> <p>ハツヤマテ クチ 初山出口</p>	<p>タカ ハタ 高 畑</p> <p>大 小 倉</p> <p>大 谷 沢</p> <p>小 谷 沢</p> <p>ワキ サワ 脇 沢</p> <p>こしぼち</p> <p>岩 木 戸</p>	<p>高畑のかな書きで高沢山脈の尾根の付近にある焼畑。</p> <p>明治9年地租改正の時、たかはたを高畑に替えた地名。</p> <p>沢奥に大小二つの急傾斜のくぼがある区域。</p> <p>ヤ（谷）はイワ（岩）の略。 岩壁の山腹が崩れて、岩石で埋まっている急傾斜の沢が二つ並んでいる上にある大きい沢。</p> <p>岩壁の山腹が崩れて、岩石で埋まっている急傾斜の沢が二つ並んでいる下にある小さい沢。</p> <p>沢奥に清水が湧いている湿地の沢。</p> <p>細長いくぼ。</p> <p>ほうはホホ（含）むの語幹で囲まれる意。 まどは間処で狭い所。 入口の狭いまわりを囲まれている小さいくぼ。</p> <p>沢が崩れた岩石で埋まっていて、降雨の時など雨水で流されながら音を立てる沢。</p> <p>栗はクル（転）の転で曲がる意。 曲がっていて細長いくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、わき沢・ほそくぼ・ほうノ木まど・ぞろめき・栗ノ木くぼを併せて脇沢とした区域。</p> <p>こしは越のかな書きで峠道。ぼちはホツ（解）るの転で崩壊地名。 土砂崩れしている山腹を金沢へ行く峠道が通っている区域。</p> <p>岩壁が道路のはたに木戸（門）のように出ている区域。 現在は道路を広げるため取り除いた。</p> <p>初は果の替字。 高沢山脈が盡きた所が村の出口になっている区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、岩木戸・初山出口を併せて岩木戸とした区域。</p>

二 渡 村 (フタワタリムラ)

(梅田町4丁目の一部)

字	小 字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳の字による)
<small>ハシ ツヰメ タ^アイ</small> 橋 詰 台	<small>ハシ ツヰメ</small> 橋 詰	橋はハシ(端)の替字。 台地の端が根本川右岸の崖で行き止まりになっている区域。 明治9年地租改正の時、橋詰台を橋詰に替えた地名。
<small>オオ イシ クボ^ホ</small> 大 石 窪	大 石 窪	地元ではウシクボと言う。 明治9年地租改正の時、大石窪・坂本に分割した区域。 字大石窪のうち、くぼの部分のみを言う。 山腹から落下した大石がくぼの入口にあるのでついた地名。
<small>ノ ナカ サ^ワツ</small> 野 中 沢	<small>サカ モト</small> 坂 本	字大石窪のうち入口付近の参道の通っている区域。
伊 ゐどがいと	野 中 沢	大石窪沢が平地(野原)に出た付近の左岸の区域。 人家の無い野原を流れている沢。
伊 ゐどがいと	<small>イト^ト カ^イイト</small> 井戸谷戸	この井戸は湧水を言う。 僅か掘るだけで、どこからでも清水が湧出する所に集落が出来た区域。 明治9年地租改正の時、ゐどがいとを井戸谷戸に換えた区域。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
<small>カミ ノ ハラ</small> 上 ノ 原	上 ノ 原	安永5年(1776)は原と呼んでいたが、その後人家が増えてきたので上下に分割された上の区域。
<small>シモ ノ ハラ</small> 下 ノ 原	上 ノ 原	安永5年(1776)は原と呼んでいたが、その後人家が増えてきたので上下に分割された下の区域。 明治9年地租改正の時、上・下を併せて上ノ原と替えた区域。
<small>ナカ シ^マ</small> 中 島	上 ノ 原	<small>ネモト オシヤマ</small> 根本川と忍山川にはさまれて島状に見える為ついた地名。

字	小 字	地名語源
と さ き		戸崎のかな書きで中島の半島状の地形の先端が尖っている区域。
	中 島	明治9年地租改正の時、中島・とさきを併せて中島とした区域。
ナカ イ 中 井		村で一番大きい集落のある区域。
	ナカ イ 中 居	明治9年地租改正の時、正しい漢字に替えた地名。
サ ^ツ あ し 沢		葦沢で葦の生えている湿地の沢。
	ワシ サ ^ツ 鷺 沢	明治9年地租改正の時、アシ(悪)沢にもとられ名前が悪いので、鷺は発音が似ているので替えた地名。
ホソ カ ^イ ト 細 谷 戸	細 谷 戸	細はホソ(防)くの語幹。 細谷戸の中央を流れている鷺沢が大雨の時に、氾濫する為に両側に土手を築いてある付近にある集落。
ユノキ 湯木かいと		山麓から清水が湧出している付近にある集落。
	タ ハ ^タ 田 端	火打山の山麓が急傾斜している下にある耕地。 明治9年地租改正の時、湯木かいとを田端に替えた地名。
トウマ カ ^イ ト 東間谷戸	東間谷戸	東間は倒間の替字で崖になっている区域。 <small>ネモト</small> 根本川の右岸が崖になっている付近にある集落。
カシ ^カ イト かちがいと		かちはカジ(掻)るの略で崖。 根本川右岸の崖はたにある集落。

字	小 字	地 名 語 源
<p>トリ カ^ニイ ト 鳥 谷 戸</p> <p>シ せ れ 石</p> <p>セ レ シ 猿 石</p> <p>ミ ヤ カ^ニイ ト 宮 谷 戸</p> <p>イクサ ハ^ニ 軍 場</p> <p>軍 場</p> <p>ホ チ サ^ニワ 星 落 沢</p> <p>カノエ ツ^ニカ 庚 塚</p> <p>オ ノ サワ 尾 ノ 沢</p> <p>タキ サ^ニワ 滝 沢</p>	<p>マエ カ^ニイ ト 前 谷 戸</p>	<p>^{フタワタリ} 二渡 神社 (^{サルタヒコ}猿田彦社) の前にある集落。 明治9年地租改正の時、かちがいとを前谷戸に替えた地名。</p>
	<p>鳥 谷 戸</p>	<p>二渡神社 (猿田彦社) の一の鳥居が建っている付近にある集落。</p>
		<p>地名のついた時は、猿石社 (現二渡神社) といった。 猿石社を祀ってある区域。 神体の猿田彦命を丸い石の上に安置したことよりついた地名。</p>
	<p>猿 石</p>	<p>せれ石を二つに分割し、猿石社の境内区域を言う。</p>
	<p>宮 谷 戸</p>	<p>せれ石を二つに分割し、集落のある区域を言う。</p>
		<p>軍場・星落沢・庚塚・尾ノ沢・滝沢・宮ノ平を併せた区域。 イは接頭語。クサはクサ (朽) るの語幹で崩壊。 山腹が崩壊して急傾斜している区域。</p>
	<p>軍 場</p>	<p>軍場の一部を軍場とした区域。</p>
	<p>星 落 沢</p>	<p>軍場の一部。沢が急なので沢水が岩壁に当たってくだけで水滴が星空のように見える沢の区域。</p>
	<p>庚 塚</p>	<p>軍場の一部。集落境の道ばたの塚状の上に庚申塔が建ててある区域。桐生川ダムで水没した。</p>
	<p>尾 ノ 沢</p>	<p>軍場の一部。小さい沢のある区域。</p>
<p>滝 沢</p>	<p>軍場の一部。幅1.5^トル高さ5^トル。滝のある急傾斜の沢のある区域。村内に滝ノ沢があるので滝沢とした区域。</p>	

字	小 字	地名語源
オウ シュウ 奥 州 ヤ シキノ ウエ 屋舗ノ上 ミナミ ケー ト 南 谷 戸 ウラ テ ^ウ エラ 上 平	ミヤ ノ テエラ 宮 ノ 平 オオ シュウ 大 州	<p>軍場の一部。猿田彦社の上^{ウエ}にある山麓の傾斜地。</p> <p>奥州の一部。大州沢川右岸の根本川への合流点区域。</p> <p>大州の根本川沿いの集落のある区域。</p> <p>大州の南端の集落のある区域。</p> <p>南谷戸の集落の上^{ウエ}にある傾斜地。</p> <p>明治9年地租改正の時、奥州の一部・屋舗ノ上・南谷戸・上平を併せて大州とした区域。 根本川の右岸に洪水が運んできた土砂で出来た大きい台地。 大州は奥州の換字。桐生川ダムで水没した。</p>
オウ シュウ 奥 州	ニシ ノ ウエ 西 ノ 上	<p>奥州の一部。現久保の西側の傾斜地。西は躡^{ニジル}の語幹で山腹の崩壊で出来た傾斜地。大州沢川左岸で合流点の久保の西側の傾斜地。桐生川ダムで水没した。</p>
オウ シュウ 奥 州	ク ホ 久 保	<p>奥州の一部。 大州沢川左岸で根本川への合流点の低地にある集落。桐生川ダムで水没した。</p>
オウ シュウ 奥 州	モロ サワ 諸 沢	<p>奥州の一部。久保の東上^{ウエ}、山地村沿いの区域。 諸は脆（もろ）の転で崩壊。 土質がやわらかく崩れやすい沢。 諸沢川の右岸にあるので正しく諸沢と替えた区域。 諸沢川の右岸沿いに山地村・二渡村の境界がある為、諸沢が二つ出来間違い易い為、奥州の一部になったと思われる。 桐生川ダムで水没した。</p>
タキ ノ サワ 滝 ノ 沢 サ カ ミ 作 網	滝 ノ 沢 作 網	<p>滝のある急傾斜の沢。</p> <p>作は坂の転で急傾斜。 網はアブ（仰）きの替字で崩壊。 山腹の崩壊で出来た急傾斜の沢。</p>

二 渡 村 忍 山 (フタワタリムラオシヤマ)

(梅田町4丁目の一部)

字	小 字	地名語源 (寛文12年(1672)の水帳の字による)
イチヤ ヤマク ^テ 一夜山口		<p>一夜は一屋の替字で最初の集落。 一夜の集落へ入る忍山道から分かれている道端付近を言う。</p>
イチ ヤ 一 夜		<p>忍山村へ入って最初の集落。</p>
	一 夜	<p>明治9年地租改正の時、一夜山口・一夜を併せて一夜とした区域。</p>
シ ^{ョウ} じゃけん上		<p>じゃ(蛇)のつく地名は山腹の大崩壊があった所につける地名。大蛇が地中から、はい出る時に大崩壊をおこすという伝承から各地の崩壊場所についている。 山腹が崩壊して急傾斜している沢。</p>
	シ ^{ャケン} シ ^{ョウ} 蛇 現 上	<p>明治9年地租改正の時、じゃけん上を蛇現上に替えた地名。</p>
コ ^ハ ノ コウ シ ^ノ ごはノ小路		<p>ごははコバ(木場)のかな書きで山中の道端に木材などを積んで置く所。 小路はコウジ(越路)の替字で峠道。 こば(木場)のある高沢村へ行く峠道のある区域。</p>
ほうてくぼ		<p>ほうはホホ(包)むの語幹で囲まれる意。 入口の狭いまわりを囲まれている山腹のくぼ。</p>
シタ テ ^カ イト 下てかいと		<p>ごはノ小路の集落から下の位置にある現在の集落地へ分家して出来た集落。かいととは谷戸で集落。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガイトがガイトに変化した。</p>
タケ ノ イリ 竹 ノ 入		<p>竹はダケ(岳)の替字で崖。 崖のある曲がっている入口の狭い沢。</p>
みやまくぼ		<p>北を向いている日の当たらない山腹にあるくぼ。 普通は深山とかく。</p>
	コ ^ハ ノコウシ ^ノ 碁場小路	<p>明治9年地租改正の時、ごはノ小路・ほうてくぼ・下てかいと・竹ノ入・みやまくぼを併せて碁場小路とした区域。</p>

字	小 字	地名語源
ウマ 馬ながれ	ウマ ナカレ 馬 流 ワ シチカ サワ 和七ヶ沢	<p>馬が滑り落ちるような急傾斜の山腹。</p> <p>馬ながれのうち急傾斜の山腹の部分が独立した区域。 明治9年地租改正の時分割。</p> <p>馬ながれのうち沢の部分が独立した区域。 ワシはワシ（走）るの語幹で水流が、勢いよく流れる意。 チは場所。明治9年地租改正の時分割。 沢水が滝のように流れ落ちる急傾斜の沢。</p>
ニン ハ 人 場 ニンバ カイト 人場谷戸	クルマ ハ 車 場 ニ シン バ 荷 場	<p>荷場の替字で忍山道のはたに山の産物の集荷場のある区域。</p> <p>人場の一部に集落が出来、新しい地名となった区域。</p> <p>人場のうち忍山川沿いに用水堀を作り水車を回して米つきをなりわいとした家が出来たため、独立した地名。 1039～1041番地の三筆の小区域。</p> <p>人場から独立した車場の三筆を除いた区域と人場から独立した人場谷戸を、明治9年地租改正の時、併せて正しく荷場とした区域。</p>
ウマ 馬 と め イエ ノ ムカイ 家 ノ 向	ウマ トメ 馬 留	<p>天竹山が急傾斜しているので仕事に行く時、忍山川のはたに馬をつないで置く一筆（1104番地）の小区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、馬とめを馬留に替えた区域。</p> <p>天竹山山麓忍山川左岸で人場谷戸の対岸にある小区域。</p>

字	小 字	地名語源
アマ タケ 天 竹	天 竹	<p>山の上部が崩壊して急傾斜している山腹。</p> <p>明治9年地租改正の時、家ノ向と天竹を併せて天竹とした区域。</p>
カン ノン サワ 観 音 沢	観 音 沢	<p>沢の中間に観音石像を安置してある沢。</p>
カブ ッ チョ 蕪 町		<p>蕪はカブ（被）くの語幹でおおいかぶさった状態をいう。チョウ（町）は集落。急傾斜の山腹の下にある小集落（湯旅の記では七軒あった）。</p>
う わ で ユ モト 湯 本	蕪 町 湯 本	<p>上出と書き蕪町の集落から上に分家した人々で出来た集落。</p> <p>明治9年地租改正の時、蕪町・うわでを併せて蕪町とした区域。</p>
タイ モン 大 茂	大 茂	<p>忍山鉱泉の湯宿（湯旅の記では八軒あった）のあった区域。湯は井の転で泉。もとは鉱泉が湧き出ているのでついた地名。</p> <p>大門の替字で参道の意。赤粉山の腰にある子持ち滝上に大日堂があり、その参道付近を言う。今はお堂がなくなり本尊は足利市バンナ寺にあずけたという。湯旅の記では人家が七軒あった。</p>
み や ま トチノキタイ とちノ木たい		<p>深山で北を向いた日の当たらない山腹。</p> <p>とちはタフ（倒）しの転で崩壊。たいはダイ（台）の清音化で傾斜地。深山の山腹の崩壊で出来た傾斜地。</p>
	ウシロ ミ ヤマ 後 深 山	<p>ウシロ（後）は北の意。山頂に雷電神社のある山の北側にある北を向いた日の当たらない山腹。北を後という。明治9年地租改正の時、みやまととちノ木たいを併せて後深山とした区域。</p>

字	小 字	地名語源
にれ沢 <small>サワ</small>	根礼ノ沢 <small>ネレノサワ</small>	<p>にれはヌレ（濡）の転で湿地。 沢奥に湧水のある湿地の沢。</p> <p>ネレはヌレ（濡）の転で湿地。 沢奥に湧水のある湿地の沢。にれ沢を根礼ノ沢と替えた地名。</p>
かなじ	名下知窪 <small>ナゲチクホ</small> 加 奈 地 <small>カナジ</small>	<p>かなはカノ（刈野）の転で焼畑、じは地。 山腹の崩壊で山麓に傾斜地の出来たくぼに焼畑のある区域。加奈地と名下知窪の二つのくぼを一つのくぼの名(かなじ)で表現している区域。</p> <p>ナゲはナグ（薙）の転で崩壊。知は地の換字。 二つ並んでいる窪が同じ地形なので、かなじで呼んでいたが耕地が出来て来たので独立した区域。 山腹の崩壊で山麓に傾斜地の出来たくぼ。</p> <p>名下知窪が独立したので、一つになったくぼのかなじを明治9年地租改正の時、漢字に替えた区域。</p>
きりばみ	切 葉 見 <small>キリバミ</small>	<p>きりはキ（断）りで急傾斜地。ばみは口食むの転で崩壊地名。山腹が崩壊して急傾斜している区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、漢字に替えた地名。</p>
くるみぞうり	久留見草利 <small>クルミゾウリ</small>	<p>くるみはクル（包）みで囲まれた地形。 ぞうりはソウリ（沢入）の濁音で焼畑。 入口が狭くまわりを囲まれている形をしている山腹にある焼畑。</p>
山ノ神上 <small>ヤマノカミウエ</small>	山神社の付近のくるみぞうり下の傾斜地。上は付近。 <small>ヤマノカミシヤ</small>	<p>明治9年地租改正の時、くるみぞうり・山ノ神上を併せて久留見草利とした区域。</p>
高 芝 <small>クカシハ</small> 下高芝入 <small>シモタカシハイリ</small>	高 芝	<p>芝はシバク（打つ）の語幹で崩壊。高芝山の略。 山の上部が崩壊して急傾斜している山。</p> <p>高芝の下にある曲がっている沢の区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、高芝・下高芝入を併せて高芝とした区域。高芝山の東腹。</p>

字	小 字	地名語源
ユ ノ タイラ 湯 ノ 平 グチ や な 口	湯 ノ 平	<p>湯は湯本の略。湯本の西側の緩やかな傾斜をした山腹。</p> <p>湯ノ平がヤナ（築）の形をしている山腹なのでやなといった。湯ノ平の入口付近の傾斜のゆるやかな山麓。</p> <p>明治9年地租改正の時、湯ノ平・やな口を併せて湯ノ平とした区域。</p>
ショ ノ サワ 初 ノ 沢 ショノ サワイリク ^チ 初ノ沢入口	初 ノ 沢	<p>初は四（シ）の転。 入口の狭い山腹が四つのくぼに分かれている沢。</p> <p>湯本から初ノ沢迄の山麓の傾斜地。</p> <p>明治9年地租改正の時、初ノ沢・初ノ沢入口を併せて初ノ沢とした区域。</p>
イ トリ ヤ 居 鳥 屋	イ トリ ヤ 居 鳥 岩	<p>居鳥はイ（七）トリ（鳥）の替字で^{トビ}鷲。飛ぶ意で崩壊地名。屋は岩の替字。 岩山が崩壊して岩石で埋まっている山腹。 この山を利用して桐生川ダムのコンクリート用の石材とした。</p> <p>明治9年地租改正の時、居鳥屋・土坂を併せて居鳥岩とした区域。</p>
ツツ サカ 土 坂		<p>土はツキ（盡）の転。^{ナナマダリハチヨウサカ}七曲八丁坂（忍山湯旅の記）ともいう。山麓が崖になって忍山川へ落ち込んでいるわずかの間を通っている坂道。今は七曲りという。</p>
モチ マル 餅 丸		<p>餅丸山の東腹にある丸く（鏡餅型）囲まれている山腹のくぼ。</p>
カミ モチ マル 上 餅 丸	餅 丸	<p>餅丸の上の山頂近くにある、小さい鏡餅型に囲まれている山腹のくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、餅丸・上餅丸を併せて餅丸とした区域。 餅丸山の西側（高沢村）の山腹に大持丸・小持丸がある。</p>

字	小 字	地名語源
げすこえ作		げすはキシ（岸）の転で岩壁。作は畑のさくを切ることから浅いくぼ。 入口が狭く岩壁を越えなければ入れぬ山腹の浅いくぼで回り道をして焼畑に利用していた。
げすこえ山		げすこえ作のまわりの雑木林。
下巢越作	ゲス コエツ ^{クリ}	明治9年地租改正の時、げすこえ作・げすこえ山を併せて下巢越作とした区域。
ゾロメキ		ガラガラと音をたてて岩石が崩れている急傾斜の山腹。
西ゾロメキ	ニシ	明治9年地租改正の時、忍山川をはさんで対岸の同じ位置にあるかねほり窪が同じ岩石で出来ているので、ゾロメキを西ゾロメキとし、かねほり窪を東ゾロメキとした。 忍山川をはさんで東西に位置している。
赤 粉	アカ コナ	赤はアカ（散）つの替字で崩壊。粉は質の細かい耕地。忍山で一番高地にある山腹の崩壊で出来た40町歩程の土質の細かいゆるい傾斜地にある耕地。湯旅の記では人家一戸。
高 平	タカ ヒ ^ラ	赤粉の入口にある山頂の平らな付近にある耕地。
赤 粉	赤 粉	明治9年地租改正の時、赤粉・高平を併せて赤粉とした区域。
横 萱	ヨコ カ ^ヤ	横は東西の方向。萱はカヤルの語幹で曲がる意。東西に尾根が曲がりながらのびている区域。
横 萱 台	ヨコ カ ^ヤ タ ^イ	横萱の山麓が忍山川に沿って台地になっている区域。
横 萱	横 萱	明治9年地租改正の時、横萱の一部と横萱台を併せて横萱とした区域。
茸 岩	キノコ イシ	明治9年地租改正の時、横萱の一部を茸岩とした区域。岩石の多い山でキノコ型をした岩があるのでつけた地名。地元ではイワをイシと読んでいる。

字	小 字	地名語源
	コ ヤ ハ 小 屋 場	<p>小屋はコエ（越）の転で峠道。 座間村へ行く峠道の通っている区域。 明治9年地租改正の時、横萱の一部を小屋場に替えた区域。</p>
	ニシ ヨコ ネ 西 横 根	<p>横萱の一部。横は東西の方向。根はミネ（峯）の略。 忍山川西側の尾根が東西にのびている区域。 忍山川東岸の向き合う位置にある横萱向を東横根とする為西横根とした区域。</p>
ヨコ カ ^ニ ヤ ムカ ^イ 横 萱 向		<p>忍山川をはさんで横萱と向き合っている区域。</p>
	ヒカ ^シ ヨコ ネ 東 横 根	<p>西横根と忍山川をはさんで向き合っている区域。 横萱向の一部。</p>
	ワレ イシ わ れ 石	<p>横萱向の一部。われ石山の西側の山腹。 岩山から崩れた岩石（大きいのは1000トン位）が、ごろごろしている山腹。</p>
	クマ ノ クホ ^ニ 熊 ノ 窟	<p>横萱向の一部。熊は曲の替字。曲がっている山腹のくぼ。</p>
タイラ よしノ平		<p>よしはヨ（寄）すの転。忍山川左岸川寄りの傾斜地。</p>
	横 萱 向	<p>明治9年地租改正の時、横萱向の一部とよしノ平を併せて横萱向とした区域。</p>
クホ ^ニ かねほり窟		<p>鉱石を掘った跡のあるくぼ。</p>
	ヒカ ^シ 東ゾロメキ	<p>ゾロメキの忍山川の東岸の山腹。 明治9年地租改正の時、ゾロメキの対岸にあることで改名した区域。 同時にゾロメキを西ゾロメキとしている。</p>
ホソ ク ホ ^ニ 細 久 保		<p>細長い山腹のくぼ。</p>
あしくら		<p>あしは足で山麓。くらは倉で崖。 山麓が崖になっている区域。</p>

字	小 字	地名語源
<small>ナカ ク ホ</small> 中 久 保	細 久 保	<p>あしくらと細久保の間にある山腹のくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、細久保・あしくら・中久保を併せて細久保とした区域。</p>
<small>カク マ</small> か く ま		<p>かくはカク（罫）むの語幹。まは間のかな書きで所の意。入口が狭くまわりを囲まれた形をした山腹のくぼ。</p>
<small>カワ ハタ</small> 川 端		<p>忍山川左岸に水汲場を作っている集落。</p>
<small>モチ マル ヒカシ</small> 餅 丸 東		<p>忍山川の東側に西側の餅丸と等位置にある鏡餅型の山腹のくぼ。</p>
<small>カク マ</small> 角 間		<p>明治9年地租改正の時、かくま・川端・餅丸東を併せて角間とした区域。</p>
<small>タカ ノ ス</small> 鷹 ノ 巢		<p>鷹ノ巢山の略。鷹が飛び立つ時の気流及びその他の条件をそなえている為、巢を作っている尾根の延びている山。</p>
<small>イリクテ</small> たかノす入口		<p>たかノす山の入口の区域。</p>
<small>鷹 ノ 巢</small> 鷹 ノ 巢	鷹 ノ 巢	<p>明治9年地租改正の時、鷹ノ巢・たかノす入口を併せて鷹ノ巢とした区域。</p>
<small>サワ</small> い せ 沢		<p>いせはイソ（磯）の転で石。岩石の山腹が崩壊して石の多い急傾斜の沢。</p>
ふきわら		<p>吹き割れの転で南北に長い山腹が崩壊して急傾斜している区域。</p>
よっこにわ		<p>よっこはヨコ（横）の転で東西の方向。にわはニワ（激しい意）しの語幹。東西に延びている山腹が崩壊して急傾斜している区域。</p>
<small>カラ マツ</small> 唐 松		<p>唐はカレ（枯）の転。松はマタ（又）の替字。雨が降っても地中にしみ込む地質のため沢のない入口が狭く奥が広がっている20町歩程の耕地のあるくぼ。湯旅の記では7戸の人家があった。</p>

字	小 字	地名語源
カラ マツ モト 唐 松 本	カラ マツ 唐 松	<p>本はフモト（麓）の略。 唐松の入口にある区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、唐松・唐松本を併せて唐松とした区域。</p>
ユ ノ マエ 湯 ノ 前	湯 ノ 前	<p>湯本の東、忍山川左岸沿いの湯本の前にある耕地になっている傾斜地。</p>
こだかい	コ タ カイ 子 田 界	<p>こだはコタ（巨田）の濁音で多い意。かいは峡で谷間。山がいくつも続いている区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、こだかいの一部を子田界と漢字にした区域。</p>
イワ カブ 岩 蕪	イワ カブ 岩 蕪	<p>カブはカブラの意。こだかいの一部。 岩石で出来た尾根の先端が丸い型で忍山川左岸へ押し出ている区域。</p>
テラ ノ イリ 寺 ノ 入	テラ ノ イリ 寺 ノ 入	<p>こだかいの一部。寺は鷹林寺。 鷹林寺から奥へ入っている沢。</p>
ヒ ウチ サワ 火 打 沢	ヒ ウチ サワ 火 打 沢	<p>燧石の産出する沢。こだかいの一部。 火打山(標高 431.2^{メートル})愛宕社</p>
オオ クボ 大 窪	オオ クボ 大 窪	<p>付近で一番大きい山腹のくぼのある区域。こだかいの一部。</p>
フジ サワ 藤 沢	フジ サワ 藤 沢	<p>こだかいの一部。ふじは淵の転で崖。急傾斜している沢。</p>

飛駒村入飛駒 (ヒコママライリヒコマ)

(梅田町4丁目に合併)

字	小 字	地名語源 (寛文水帳不明で現在使われている字のみ採用しました)
	アナキ ^レ ヒカ ^{シク} チ 穴切東口	穴切は東西に長い穴の様な沢であるが、沢奥である東側が口のようにあいている沢。そこへ朝日沢山の水が入っている。 ※以下穴切の説明は省略する。穴切東口以下は全部穴切沢の中の一部である。
	アナキ ^レ イタカ ^{サワ} 穴切板ヶ沢	板は平地。沢の中間に小平地のある沢。
	アナキ ^レ アカシブ ^フ 穴切赤渋	鉱泉の性質がアカ(垢)のように汚れたような、なめると渋味のある水が湧出ている沢。
	アナキ ^レ オウヘ ^ラ 穴切扇籠	扇を広げた形をした緩やかな山腹。その結果焼畑に利用している。
	アナキ ^レ サルフ ^{チイワ} 穴切猿淵岩	滝壺の上に猿でもものぼれない垂直の岩壁のある沢。
	アナキ ^レ ニカイク ^ホ 穴切二階窪	緩やかなくぼの中程に15 ^尺 程の滝があり、そこを境に二段になっているくぼ。
	アナキ ^レ イワク ^ホ 穴切岩窪	奥が岩壁で行き止まりになっているくぼ。
	アナキ ^レ オク ^{アト} 穴切屋後	昔、集落のあったのがわかる家の基礎が残っている区域。
	アナキ ^レ アカサカ 穴切赤坂	飛駒本村へ行く峠のある東口へ行く穴切沢に沿っている道が赤土の山麓にかかる区域。
	アナキ ^レ ヨリイシ 穴切寄石	地元では、よけいしという。 桐生川沿いに川上に行く所に大岩があるので迂回して道を作っている区域。
	アナキ ^レ タキノク ^ホ 穴切滝窪	滝のある急傾斜のくぼ。
	アナキ ^レ サク ^{ハタ} 穴切坂畑	坂は作の転で幅の狭いくぼ。畑は焼畑の略。 日当たりの良い幅の狭いくぼにある焼畑。
	アナキ ^レ カクレ ^{クボ} 穴切隠レ窪	入口が狭く且曲がっているので大きいくぼなのにそこから見えぬくぼ。 穴切峠を境に東側を皆沢穴切、西側を向 ^{ムコウ} 穴切という。

字	小 字	地名語源
	アナキ ^レ レイシフ ^ツ 穴切石仏	石仏が道端にある付近。
	アナキ ^レ レクルミ ^{クボ} 穴切胡桃窪	入口が狭くまわりを囲まれている山腹のくぼ。
	アナ ^キ レ ^ク チ 穴 切 口	穴切沢の表口である西側にある沢口区域。 ※ここで穴切沢は終わる。
	シ ^{ミス} ヨコミチ 清水横道	穴切口から清水へ行く道が大岩を迂回している付近。
	シ ^{ミス} 清 水	^{ネモト} 根本川左岸の岩壁の間から清水が流れ落ちている区域。
	カマカ ^{ミケ} ート 釜神谷戸	釜はえぐられたような形をしている淵。 根本川左岸の釜ヶ淵（現在は弁天淵と呼んでいる）の岩壁上に弁財天の石祠を祀っている付近にある集落。
	クラ ^{サワ} 倉 ノ 沢	倉は岩壁。岩壁のある土砂崩れして急傾斜している高戸山西側の沢。
	タカ ^ト サワ 高 戸 沢	高戸山の西側を山頂迄続く一番大きい沢。 但し、小字では沢が根本川への合流口のみを言う。
	ニシ ^{タカ} ト ^{サワ} 西 高 戸	地元では穴切高戸と呼んでいる。 高戸山は付近で一番高い山の意。山頂に山神社を祀っている。 高戸山の西側の山腹を言う。
	イタ ^{クラ} 板 倉	板は平地。倉は岩壁。根本川左岸高戸山西麓岩壁上の広い傾斜地。
	ナリ ^{フチ} ウエ 鳴 淵 上	鳴淵は鳴淵岩の略。 鳴淵岩は猿石社（二渡神社）の祭神猿田彦命のヨウゴイシ（影向石）（假にこの世に姿を現した石）と言われた。 大水の時、大岩に当たってうずを巻いて音のする鳴淵岩左岸崖上の傾斜地。
	コ ^{フネカ} サワ 小舟ヶ沢	高戸山西側に舟底型の浅い沢が二つ並んでいる小さい沢。
	オオフネカ ^{サワ} 大舟ヶ沢	高戸山の西側に舟底型の浅い沢が二つ並んでいる大きい沢。 地元では二つの沢を一緒に ^{フナガサワ} 舟ヶ沢と呼んでいる。

字	小 字	地名語源
	ウツン ノ テエラ 打 ノ 平	打は岩壁。山間地では傾斜地を平と言う。 高戸山麓根本川左岸岩壁上のゆるい傾斜地。
	エ ト サワ 井 戸 沢	高戸山西側の沢。奥に泉のある沢。
	ワラヒ ^ニ テ ^ニ エラ 蕨 平	ワラはワレ（割）の転で崩壊。ビは所を示す語。 高戸山の山腹が崩壊してゆるい傾斜地の出来た区域。 現在は梅田湖底。
	オチ アイ ク ^ニ チ 落 合 口	皆沢川が根本川へ合流する左岸高戸山山腹の傾斜地。
	タカ ト ^ニ ク ^ニ チ 高 戸 口	地元では大州高戸と呼んでいる。 落合・大州付近の人々が利用する高戸山登山口のある区域。
	ヒカ ^ニ シ タカ ト ^ニ 東 高 戸	高戸山（付近で一番高いのでつけた山名）東側の山腹。戸は場所。
	ササ ヘ ^ニ ラ 篠 籠	ササ（篠）は細の換字で細かい土質の意。 ヘラ（籠）は平の替字で傾斜地。 土質の細かい高戸山山腹の傾斜地。
	ヒカ ^ニ シタカト ^ニ ク ^ニ チ 東高戸口	地元では皆沢高戸と呼んでいる。 高戸山の東側（皆沢側）登山口のある区域。
	イ セ サ ^ニ ワ 伊 勢 沢	伊勢はイソ（磯）の転で崩壊地名。 岩壁のある山腹が崩壊して急傾斜している沢。
	ミヤ ノ ムカイ 宮 ノ 向	皆沢川をはさんで八幡宮の向かいにある山腹。
	カイ サ ^ニ ワ テ ^ニ エラ 皆 沢 平	皆沢川左岸にある付近で一番大きい平地。 皆は会の換字で皆沢川・中川が合流しているののでつけた地名。
	ク ル ミ サ ^ニ ワ 胡 桃 沢	皆沢平の ^{シメ} 下から入る入口が狭くまわりを囲まれて且曲っている沢。
	ホソ イリ 細 入	細長く曲がっている沢。

字	小 字	地名語源
	ネエ マツ 内 松	<p>内側に皆沢内松を囲んでいる二俣になっている尾根。松は俣の転。内松は内松山の略。</p>
	カイザ ^ワ ネエマツ 皆沢内松	<p>入口の広い内松の山麓に囲まれているくぼ。</p>
	ネエ マツ オク 内 松 奥	<p>二俣になっている内松山の奥に入り込んでいる沢の区域。</p>
	カイザ ^ワ カ ^ワ ニシ 皆沢川西	<p>皆沢川西（左岸）皆沢平^{カミ}の上隣りの平地。</p>
	コ ヤ ツクリ 小 屋 作	<p>小屋は越^ワの換字で峠道。ツクリはサクの読み替えて、畑のさくを切るの意から浅いくぼ。飛駒本村へ行く峠道の付近にある浅いくぼ。</p>
マエ ノ サワ 前 ノ 沢		<p>八幡宮の前にある沢。</p>
ノホ ^リ サワ 登 リ 沢		<p>前ノ沢^{カミ}の上隣りにある奥が急傾斜（登り）している沢。</p>
	カイザ ^ワ カ ^ワ ヒカ ^シ 皆沢川東	<p>皆沢川右岸皆沢^{カミ}の上隣りの区域。明治9年地租改正の時、前ノ沢・登り沢を皆沢川東に合併した区域。</p>
	キ ト ^ハ 木 戸 場	<p>飛駒本村へ行く峠道が皆沢川右岸崖上を通っているはたへ木戸のように大岩がせり出ている区域。</p>
	ツチ ハシ 土 橋	<p>皆沢川にかかっている上に土がのせてある橋のある区域。</p>
	チ シン タテ 地 新 立	<p>山腹の傾斜地を開墾した区域。</p>
	カイ サ ^ワ 皆 沢	<p>会沢の意で皆沢と中川沢が交差している区域。皆沢川右岸。</p>
	シ ト ^テ エラ 志 度 平	<p>志度はシト（湿）の替字で清水の湧いている湿地。山際から清水の湧いているはたにある傾斜地。</p>
	ナカ ^ワ カワ ヒカ ^シ 中 川 東	<p>中川は根本川と皆沢川の間を流れている川。中川東側（左岸）川沿いの小傾斜地。対岸は中川西。</p>

字	小 字	地名語源
	<small>ケ イ ト ノ サ ヲ</small> 越 所 沢	越所は山を越す所で峠を言う。 飛駒本村へ行く間道の峠のある沢。
	<small>コ ム キ イ</small> 小 麦 入	小はコウ（高）の略。麦はムク（剥）の換字で崩壊。 山頂付近が崩壊して傾斜地の出来た、南を向いている大きなくぼ。 奥に立岩という岩壁があり、くぼ口には耕地の跡が残っている。
	<small>ヨ ネ モ チ</small> 米 餅	米は砂。餅は鏡餅の略。 入口の狭いまわりを鏡餅型に囲まれた砂地の山腹のくぼ。
	<small>シ ヤ ト ウ レ</small> 蛇 倒	蛇がつく地名の所は大蛇が山腹から出る時に、崩壊を起こすという伝承から大崩壊地に付いている。 大崩壊が起きている山腹。
	<small>イ ワ ク ホ</small> 岩 窪	入口が狭く且岩壁のある小さい山腹のくぼ。
	<small>ウ マ ト メ カ ワ ニ シ</small> 馬留川西	懸ノ上の前の中川西岸（右岸）の小傾斜地。 懸ノ上に馬を入れることが出来ないために馬をつないで置く区域。
	<small>カ ケ ノ ウ エ</small> 懸 ノ 上	懸は欠の替字で崖。 くぼの入口に岩壁があり左右から人のみが入れる崖上のくぼ。
	<small>ニ ツ ケ ハ</small> 荷 附 場	中川右岸の小傾斜地の道ばたにある、山の生産物の臨時の集荷場。
	<small>ク ワ ハ ラ</small> 桑 原	桑はクエ（崩）の転で崩壊。原はハリ（張）の転。 中川右岸（西岸）に山腹が崩壊して流出した土砂が半円状に張り出している区域。
	<small>ナ カ ッ カ ワ サ ク ラ ク ホ</small> 中川桜窪	桜は狭・倉の替字で狭はせまい、倉は岩壁。 中川右岸（西岸）の入口に岩壁のある狭い山腹のくぼ。
	<small>サ ク ラ ク ホ ク チ</small> 桜久保口	中川桜窪入口から中川右岸沿いにある傾斜地。

字	小 字	地名語源
	<small>ナカッカワホソクホ</small> 中川細窪	中川右岸（西岸）の細く小さいくぼ。
	<small>ナカッ カワ ニシ</small> 中 川 西	中川右岸（西岸）沿いの小傾斜地。 中川東と向き合っている区域。中川沿いで一番大きい集落地。
	<small>ミヨウ シン ウラ</small> 明 神 裏	地名の付いた頃は八幡宮が明神様と呼ばれていた。 八幡宮の後に当たる中川右岸（西岸）の雷電社を祀ってある山腹。裏はウシロ（後）の意。
	<small>ツツ シ ハナ</small> 躑 躅 花	ツツジはツツ（包）むの転。花は鼻の換字。 尾根の鼻（先端）が皆沢集落を包みかくすように皆沢川右岸迄突き出ている区域。
	<small>タカ ト ムカイ</small> 高 戸 向	皆沢川をはさんで高戸山に向き合っている山腹。
	<small>ササ ヘラ ムカイ</small> 篠 平 向	皆沢川をはさんで篠平と向き合っている山腹。
	<small>チャヌキ サク</small> 狸 窟	狸が巣穴を作るようなやわらかな土質。 ザクは穴。 山腹の崩壊で急傾斜している土質のやわらかい山腹。
	<small>オオ コ マツ</small> 大 古 松	大は大きい。古はコウ（高）の転で山頂。 松はマタ（俣）の転でふたまた。 山腹の崩壊で急傾斜している山頂に近づくのにしたがって広くなっている沢。
	<small>シ ソウ ヘラ</small> 地 蔵 篋	石の地藏尊を祀ってあるゆるい傾斜の山腹。 <small>ヘラ ヒラ</small> 篋は平の当字でゆるい傾斜の山腹をいう。

飛駒村入飛駒 (ヒコمامライリヒコマ)

(梅田町5丁目に合併)

字	小 字	地名語源 (寛文水帳不明で現在使われている字のみ採用しました)
	オチ アイ 落 合	皆沢川が根本川へ落合う右岸の根本川左岸沿いの傾斜地。 桐生川ダムで水没した。
	オチアイカンナミ 落合神並	神木(カンナミ)で神木の意が神の杜 ^{ミツリ} の意に転化した。 読み方もカンナビに変わり漢字も以下の字が宛てられている。 神名備・神名樋・神南・神奈備・甘南備・神南備・神名火・ 神辺・神隠・神蛇・万葉集では可牟奈備。 出雲国・大和国に多い地名で大和国では出雲出身の神を祀っ ている所に多い。ここから出雲の地名の伝播と思われる。 地元では神並久保と呼んでいる。落合の集落のうしろの山腹 の緩傾斜地で耕地に利用している(今は梅田湖底)。 今は神社のあったことすら伝わっていない。昔神社を祀ってい たくぼ。桐生川ダムで水没した。
	ツホ ^フ ショウ 坪 正	坪はツボムの語幹で狭くなっている所。 正は生の替字でふの意で場所を示す接尾語。 根本川左岸の山腹にある入口のせまいくぼ。桐生川ダムで水 没した。
	セミ ク ^チ 蟬 口	蟬はセ(狭)ミ(廻)の替字。 根本川左岸の山腹にある狭いくぼの入口付近の川沿いの傾斜地。 桐生川ダムで水没した。
	カキノ ケ ^{ート} 柿ノ谷戸	柿はカケ(欠)の転で崖。谷戸は集落。 根本川左岸の崖上にある集落。桐生川ダムで水没した。
ウマ 馬	クラ 倉	天正18年(1590)の山田郡村々人別帳に馬倉が、ま た元禄7年建立 ^{ヘキウジン} 碧雲寺本堂棟札に馬倉村がある。 マ(馬)は直で垂直の意。倉は岩壁。 根本川の左岸の岩壁上の傾斜地。
	イマ クラ 今 倉	明治9年地租改正の時、馬倉 ^{ウマクラ} を意味のない今倉に替えた地 名。大正院・碧雲寺があった。桐生川ダムで水没した。
	オオ ク ホ ^フ 大 久 保	今倉の東側にある緩傾斜地で、土質の良い耕地のある大きいくぼ。
	イシ ク ホ ^フ 石 久 保	石の多い山腹のくぼ。

字	小 字	地名語源
ヘゴウ 閉 ウリ 入	ト ^ニ エラ 堂 平	堂はトウ（頭）の転で山頂。 山頂の平らな区域。
	ヨコッ 横 畑	今倉と石久保の間に東西に長く緩い傾斜をしている山腹にある焼畑。
	コ 小 倉	小はコウ（川）の転。倉は岩壁。 根本川の左岸が岩壁になっている付近。
	トス ^ニ ロウ リ 閉 籠 里	滝ノ沢の尾根が直接根本川へ落ち込んでいる為、止むを得ず根本道が対岸へ迂回する為、付いた地名。 他の地区ではへずりと言う。
	ス 須 森	須は巢の替字で高い所。森は墓地。 岡の上に墓地のある区域。
	コ ^ニ ショ ^ニ テ ^ニ エラ 御 所 平	御所は御社の転で熊野社（地元ではおくまん様という）。熊野社を祀ってある傾斜地。
	ハラ 原	根本川左岸のもと川原だった区域。
	ウシロッ 後 倉	後は後沢の略。 後沢川右岸が岩壁になっている付近。
	ウシロサ ^ニ ワ 後 沢 台	後沢左岸沿いにある傾斜の緩やかな山腹。 その台地性を利用して桐生青少年野外活動センターが出来た。
	ク 久 保	後沢台東側の傾斜の緩い山腹のくぼ。
ウシロ 後 沢	閉籠里の東側（田沼町）から後ろをまわって半円形に西側迄流れている沢。馬立簡易水道の水源地。小字は後沢川が南へ曲流している付近の両側のみをいう。	

字	小 字	地名語源
	ヒラ ナメ 平 行	平は傾斜地。ナメ（行）は滑の替字ですべる意。 北を向いているので冬は凍ってすべる傾斜の緩やかな山腹。
	ケ アイ サカ 毛 合 坂	毛合は陰(ケワ)しの転で急傾斜。 崩壊して急傾斜している山腹。
	カ フレ 加 觸	加は上 <small>カミ</small> の略。觸は震の替字で崩壊。 山腹の上部が崩壊して埋まって出来た傾斜地。
	ウメノ キシ ヨウリ 梅ノ木通	梅は埋の替字。木は場所を示す地名用語。 トオリ（通）はタオリの転で峠道。 山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地のある尾根を野峰に行く峠道が通っている区域。
	ナ キ サワ 奈 木 沢	奈木は薙の替字で崩壊地名。 山腹の土砂崩れで埋まって出来た緩い傾斜地のある小さい沢。
	ウマ タテ 馬 立	馬立はウメタテ（埋立）の替字。 山腹の土砂崩れで埋まって出来た傾斜地。
	ウエノ ク ホ 上ノ久保	馬立の集落の上 <small>ウエ</small> の山腹にあるくぼ。
	ヤ シュウ 野 州	ヤス（野州）が本来の読みで瘠せ地。 やせ地のため植林の出来ぬ雑木林の山腹。
	フチ ノ ウエ 淵 ノ 上	淵は千代ヶ淵 <small>チヨウカ</small> の略（5㍍位の滝とその下に両岸の岩壁がせまり淵を作っていたが桐生川の流れを良くする為に、壊して川幅を拓げた）千代ヶ淵の左岸の傾斜地。
	シヤ ル フチ 蛇 留 淵	いたづらをする大蛇がとじ込められた淵という、伝承より付いた地名で根本川が、奇岩・怪岩の間を流れている左岸の傾斜地。
	ハタケ 畑	山腹の上部にある焼畑。
	ニ ホン スキ 二 本 枡	二本杉沢の略。地元では二本の漆の大木がある沢という。 蛇留淵橋の下から入る大きな沢で北側の山腹には焼畑があったという。

字	小 字	地名語源
<small>タカニ タ ムカイ</small> 高仁田向	<small>ツク リ ミチ</small> 作 リ 道	<p>ツク（作）りはサクの読み替えて畑のさくを切ることから浅いくぼ。 根本道の東側の浅いくぼ（5畝程の耕地あり）。</p> <p>高仁田の向いの根本川対岸にある傾斜地。</p>
	<small>タカニ タ テ^ニエラ</small> 高仁田平	<p>明治9年地租改正の時、高仁田向を高仁田平にした付近。 高仁田でない所を高仁田にした不合理な地名のつけ方。</p>
<small>ツク ハ^ラ</small> 築 原		<p>築は埋立地。（洪水の時砂を運んできて埋めた。） 原は川原の略。根本川が洪水の時などに土砂を運んで作った川原。</p>
ナンジキ		<p>ナンはミナミ（南）、ジキはジクの転で湿地。 ナンジキ沢の略。南に入っている奥に湧水のある湿地の沢。</p>
<small>イ ト^ニ イリ</small> る ど 入		<p>ゐどは湧水。奥に湧水のある沢。</p>
	<small>ツ ク ハ^ラ</small> 津 久 原	<p>明治9年地租改正の時に、<small>ツクハラ</small>・ナンジキ・ゐど入を併せた区域区域を対岸の旧山地村に同じ読みで、もとは筑原まねた津久原があり、村が違っても同一地域の付き合いをしているので今度は本家が分家のまねをした津久原にした所。</p>
	<small>ヒガシノクボ</small> 東ノ久保	<p>桐生川左岸から東側の山腹へ1050[㍎]入っているくぼ。550[㍎]の所から左へ分岐して500[㍎]入っている松ノ木沢（松は真土の替字でねばつちの地質）がある。</p>
<small>マ カ^ニ ッ テ</small> 曲 手	<small>マガッ</small> 曲 手	<p>桐生川左岸から南側へ曲がりながら1800[㍎]山腹へ入っている沢。手は沢を示している。</p>

字	小 字	地名語源
シ ト ^ニ ムカイ 志 度 向	オニ 鬼 フ ^チ 淵	根本川両岸の奇岩・怪岩相迫りて峽流をなし50 ^{メートル} 程の間に、4段の激流をなし最下段に深淵をつくる。 鬼が住んでいるような不気味な淵という意の地名。
カツ テ ^ニ エラ 葛 平	志 度 カツ 葛 デ ^ニ エラ 平	根本川の対岸（右岸）に志度があるので付いた地名。 志度はシト（湿）の替字で沢奥に湧水のある湿地の沢 明治9年地租改正の時、志度向を志度に替えた区域。 志度でない所を志度とした不合理な地名のつけ方。
コ イタ サ ^ニ ワ 小 板 沢	葛 平	葛は崩の替字で崩壊。山間での平は傾斜地。 山腹の土砂崩れで根本川の左岸に出来た傾斜地。
シ ミス ^ニ ムカイ 清 水 向	コ 板 沢 シ 清 ミス ^ニ 水	板は崖。小さい崖の続いている沢。 清水の対岸（左岸）にある為、付いた地名。
	シ 清	明治9年地租改正の時、小板沢・清水向を併せて清水とした区域。 もともと清水が出ないので対岸の清水から根本川の上を竹の樋を通して、もらい水をしている所を清水とした不合理な地名のつけ方。
	ヒ カ ^ニ シ ッ バ ^ニ ラ 東 原	原は開の替字で開墾地。石鴨の対岸東側にある開墾地。
	コ 小	小さい沢のある付近。
	トオ 遠	入飛駒 ^{カミ} の上で村で一番遠い所にある集落。

山 地 村 (ヤマチムラ)

(梅田町5丁目の一部)

字	小 字	地名語源 (寛文6年(1666)の水帳 ^{アザ} の字による)	
モロ サワ 諸 沢	諸 沢	諸沢川の左岸の区域(右岸は二渡村)。 もろ(諸)は脆の替字で崩壊。 土質の柔らかい土砂崩れをおこす沢。	
イト ^ノ シタ 井戸ノ下		清水の湧出している付近にある家。	
ママノ アイダ ^ノ 間々ノ間		崖と崖の間の小平地にある家。	
ホリ ソ ^エ 堀 添		諸沢川のはたにある家。	
ト ^ウ メク ^リ 堂 巡り		お堂のある小平地。	
ウエ ノ ヤマ 上 ノ 山		北原の台地の上にある山腹。	
キタ ハラ 北 原		北はケタ(桁)の転で台地。原は開の換字で開墾地。 上ノ山の崩壊で出来た台地を開墾した区域。	
ミチ ノ アイダ ^ノ 道 ノ 間		テ ^エ 台	明治9年地租改正の時、上ノ山・北原を併せて台とした区域。 台とは北原に比重をかけて改名した地名。桐生川ダムで水没した。
ミチ シタ 道 下			今倉道と根本道にはさまれた区域。 今倉道と根本川の間の傾斜地。
とうじっ平		サカ ノ シタ 坂 ノ 下	当実平の台地崖下から桐生川迄の傾斜地。 明治9年地租改正の時、道ノ間・道下を併せて坂ノ下とした区域。根本道が坂になっている所から桐生川迄の区域。桐生川ダムで水没した。
ウエ ノ タ ^イ 上 ノ 台	トウ シ ^ッ ヘ ^ッ 当 実 平	トミ(当実)はトビ(飛)の転で大崩壊。 山腹の大崩壊で出来た傾斜地。 もとは「トビデエラ」と呼んだ区域。 土砂崩れを起こして当実平を作った上の山腹。	
		明治9年地租改正の時、とうじっ平・上ノ台を併せて当実平とした区域。桐生川ダムで水没した。	

字	小 字	地名語源
ハシ 橋 場		<p>根^ネ本^{モト}川に橋を架けてある区域。</p>
トウ メク ^リ 堂 巡 ^リ		<p>堂は薬師堂の略。寄日の入口にある薬師堂のある区域。 現在は薬師堂をこわし馬立集会所を建て、中に薬師如来を安置している。</p>
ナ コー 中 尾	橋 場	<p>明治9年地租改正の時、橋場・堂巡りを併せて橋場とした区域。</p>
ナ コー 中 尾	中 尾	<p>三つ並んでいる真中の尾根。</p>
よ っ び ヒカ ^{シノク} ホ ^ク 東ノ久保		<p>よっぴ（横樋）沢で西から東へ（横）に流れている沢。 集落の東側にあるくぼ。</p>
キ サ ^ワ とちノ木沢		<p>入口が狭く閉じている形をしている沢。 とちはトズ（閉）の転。</p>
トウ ノ フキ 堂ノわき		<p>地藏堂の付近で集落のある区域。</p>
ミネ 峯		<p>集落の後（北）の頂の平らな山。</p>
トウ ノ イリ 堂ノ入		<p>地藏堂の前から入る小さなくぼ。</p>
カケノカ ^{サク} 欠ケノケ作		<p>欠ケは崖の転。作はくぼ。山腹の崩壊で出来た傾斜地にある耕地。入口の広い奥に崖のある小さいくぼ。</p>
マツ ハ 松 場		<p>祀り場の転で神社を祀っている山腹。 今は神社はなく、神社があったことすら忘れられている。 山の入口なので山神社があったと思われる。</p>
コ ヤミ 木 間		<p>コヤミ（越辺）の換字で忍山へ行く峠道のある区域。</p>
ウリュウカ ^{サク} 瓜生ケ作		<p>瓜生はウル（潤）うの替字で湿地。作は畑のさくを切る意から浅いくぼ。 くぼ奥に寄日集落の水源になっている湧水のある浅いくぼにある耕地。</p>

字	小 字	地名語源
ホリ ムカイ 堀 向	ヨッ ビ 寄 日	集落前の寄日川対岸（右岸）にある山腹。 明治9年地租改正の時、よっぴ・東ノ久保・堂ノわき・堂ノ入・木間・松場・瓜生ヶ作・とちノ木沢・峯・欠ケノケ作堀向を併せて寄日とした区域。
ば ば	バン ハ 番 場	山腹が崩壊して麓迄急傾斜している区域。 明治9年地租改正の時、漢字に替えた区域。
テエラ 平		根本川右岸と丸山との間の傾斜地。傾斜地は耕地になっている。
マル ヤマ 丸 山	平	柏久保入口南側の尾根の先端が丸い独立峯に見える区域。 明治9年地租改正の時、平・丸山を併せて平とした区域。
カシヤツ ク ホ 柏 久 保	柏 久 保	柏はカタシイワ（堅岩）の転。 岩石で出来ているくぼ。
カミノ ク ホ 上ノ久保	カミエ ノ ク ホ 上エノ久保	上は神の替字。神社（今は不明）を祀ってあるくぼ。 明治9年地租改正の時、 ^{カミ} 上に上ミノ久保が出来まぎらわしくなった為、上エノ久保とした区域。
タキ ノ サワ 滝 ノ 沢	滝 ノ 沢	滝のある小さい沢。赤松の中央にある沢の部分のみの地名。
カミ ケート 上かいと	カ ミ ケート 上ミ谷戸	上ノ久保の入口に集落が出来上ノ久保から独立した区域。 明治9年地租改正の時、漢字にした区域。 ^{カミ} 上に上谷戸があるので上ミ谷戸とした。
キ タ サ ワ 北 さ わ		沢奥が三つに分かれている右側の北を向いている沢。 地元ではヨウ（陽）ノ久保（日当たりの良いくぼ）という。
カミノ ナカテ 上の中で		沢奥が三つに分かれている中間にある沢。

字	小 字	地名語源
ミナミ ク ホ 南 久 保		沢奥が三つに分かれている左側（南側）のくぼ。
ウリ テ ^{エラ} 瓜 平		瓜はウル（潤）うの転で湿地。泉のある傾斜地。傾斜地は耕地になっている。
モリ ノ ワキ 森 ノ 脇		八幡宮の森のある区域。
モリ ノ ウエ 森 ノ 上		八幡宮より沢奥の区域。
	キタ サ ^ワ 北 沢	明治9年地租改正の時、北さわ・上の中で・南久保・瓜平森ノ脇・森ノ上を併せて北沢とした区域。
マ タテ ハ 馬 立 場		マタテバ（真立場）の換字で垂直の岩壁。向ふねの尾根の先端が根本川 ^{ネモト} の右岸へ垂直の岩壁をなして迫っている区域。
カワ 川 ば た		根本川の右岸で馬立橋 ^{ウマタテ} の下 ^{シモ} にある集落の水場及び馬立場は紙すきを生業としていた為、楮をさらしたり、洗ったりもしていた水場。
サカ ^レ 下 り		根本川が曲流している内側の低地。台地の崖下にあるのでついた地名。
オオ 大 ま ど		まどはセマト（狭戸）の略。大はアフ（仰）ぎの転で急傾斜。急傾斜しているドフヤ久保の入口前のせまい区域。
オオ 大まどわき		大まどの上 ^{カミ} 隣りの耕地。
サカ ムカイ 坂 向		集落をいう。坂はサカイ（境）の略で村境の根本川の下野側馬立の住民が根本川をはさんで対岸にあるので境向と呼んでいたのが、後世境が坂に変化して坂向となった。
	ウマ タテ 馬 立	明治9年地租改正の時、馬立場・川ばた・下り・大まど・大まどわき・坂向を併せて馬立とした区域。

字	小 字	地名語源
<small>ハキ^テ エラ</small> 萩 平		萩はハグ（剥）の転で崩壊。 山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地。
<small>オオ クワ キ^ア</small> 大 桑 木		桑はクエ（崩）の転。木は場所。大は仰きの転で急傾斜。 萩平沢右側の急傾斜している山腹。
<small>ナカ ノ サワ</small> 中 ノ 沢		萩平沢の奥が三つに分かれている中の沢。
<small>ウシロ サ^ワ</small> 後 沢		萩平集落の後へ入っている沢。
<small>ア ケ</small> ぶち明ケ		ふちは蛇留淵の略。明ケはア（上）ゲの転で上。 蛇留淵右岸上の傾斜地。地元ではぶちあげと呼んでいる。
<small>ミネ</small> 峰		忍山と境を接する三境山が見える萩平集落西側の尾根。
<small>クチ</small> ふくろ口		入口が狭くまわりを囲まれている山腹のくぼ。
<small>タケ ノ シタ</small> 竹 ノ 下		竹は崖の転。後沢右岸岩ノ入境の山腹崖下の傾斜地。
<small>ノ キ ハタ</small> カヤノ木畑		畑は端の換字。カヤの大木のある山腹の傾斜地。
<small>カミ ノ ヤマ</small> 上 ノ 山		神社を祀ってある山。上は神の替字。
	萩 平	明治9年地租改正の時、萩平・大桑木・中ノ沢・後沢・ぶち明ケ・峰・ふくろ口・竹ノ下・カヤノ木畑・上ノ山を併せて萩平とした区域。
<small>ヒ ラ テ^エ ラ</small> 平テエラ		ヒラ（平）は開の替字で開墾。 尾根のタイラ（平）な部分を開墾した区域。
<small>ニシ ヤマ</small> 西 山		西はニジ（躡）るの語幹で崩壊。 <small>セイフウエン</small> 清風園の対岸の急傾斜の山腹。 山腹の崩壊で急傾斜している山。
はまいば		<small>ハマイハ</small> 破魔射場。村境（根本川）を間にしての競技で破魔輪（わらなわを巻いて作った破魔矢的）を投げ合い深く隣村へ投げ入れるのを勝とした。明治期人家2軒。 清風園の対岸根本川右岸の傾斜地。

字	小 字	地名語源
<small>サワク^チ</small> よの沢口		<p>よのはヨネ（米）の転。 米沢川が根本川へ合流する区域に集落が出来てついた地名。</p>
<small>ムカイ</small> ゐど向		<p>根本川をはさんで対岸(左岸)の、ゐど沢と向き合う位置にある川沿いの傾斜地。</p>
こがいと		<p>こは子で付近の集落から分家した人々で作った集落。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。がいととは谷戸のかな書き。</p>
<small>ツ ク ハ^ラ</small> 津久原		<p>明治9年地租改正の時、平テエラ・西山・はまいば・よの沢口・ゐど向・こがいとを併せて、対岸入飛駒の津久原と同じ地名にした区域。 村は違っていても同一集落のつきあいをしていたものと思われる。語源には関係のない地名。</p>
<small>サワ</small> よの沢		<p>よのの本字よね（米）は小石。石灰岩地帯を流れている石の多い沢。</p>
<small>サワハタ</small> よの沢畑くぼ		<p>よの沢の途中から最初に西へ入る焼畑のあるくぼ。</p>
<small>タケ ノ テ^{エラ}</small> 竹ノ平		<p>よの沢畑くぼ<small>カミ</small>の上隣りのくぼ口が広く岩壁の多い小さいくぼ。竹は岩壁。</p>
<small>ヨノ</small> 米	<small>サワ</small> 沢	<p>明治9年地租改正の時、よの沢・よの沢畑くぼ・竹ノ平を併せて米沢とした区域。</p>
<small>スケ シチ テ^{エラ}</small> 助七平		<p>助はスキ（剥）の転で崩壊。七をつけて人名化した。山腹の崩壊で出来た小平地。現在の集落地。</p>
<small>テ^{エラ}</small> ひら平		<p>ひら（開）は開墾。山頂の傾斜地を開墾し、三反程の耕地を作った集落のうしろの山。</p>
<small>シ ト^度</small> 志度		<p>志度はシト（湿）の換字で、助七平のしもの住民の話では志度堀という崖から清水が流れ落ちている小さいくぼ。助七平の集落迄引いて利用している。</p>
	<small>ク ス^テ テ^{エラ}</small> 久津平	<p>明治9年地租改正の時、助七平・ひら平・志度を併せて、対岸の入飛駒葛平と同じ久津平とした区域。山腹の崩壊で出来た小傾斜地。</p>

字	小 字	地名語源
タカ 高	タケ 嶽	根本川の右岸が高い岩壁(高嶽)で出来ていた為、六尺幅の旧道はその上を通っていたが、今は岩壁を削り下に平らな広い道にしている。
サカ 坂	モト 本	旧根本道が高嶽を登る登り口のある区域。
	タカ 高	
	タケ 竹	明治9年地租改正の時、高嶽・坂本を併せて高竹とした区域。
ウシロ 後	サ ^ワ 沢	高嶽集落のうしろ(北)から入っている沢。現在の小字では一反程の耕地の小地区をいう。
ウマ 馬	ミチ 道	旧道は上 ^{ウエ} の山腹を通っており、人しか通れなかったのので下の現在の所に馬も通れる道を作ったのでついた地名。
ナカ 中	ン ノ	二つの尾根の間にはさまれた浅いくぼ。サクは畑のさくを切ることから浅いくぼ。
	サク 作	
	デ ^{エラ} ひ	
	ら	
	平	中ノ作の隣りの平らな山頂を開墾した区域。ひら(開)は開墾。
	中	
	ノ	
	作	明治9年地租改正の時、中ノ作・ひら平を併せて中ノ作とした区域。
シ 清	ミス ^ク 水	根本川右岸崖の間から清水が湧出している区域。
シ 清	ミス ^ク ハ ^ヤ シ 水 林	林は逸(ハヤ)しの替字で、清水の集落西側の急傾斜の山腹。
なきノひら		なきはナギ(薙)の清音で崩壊。ひらはたひら(平)の略。小藤生入口左側尾根の先端の小平地を開墾した区域。
	清	
	水	明治9年地租改正の時、清水・清水林・なきノひらを併せて清水とした区域。

字	小 字	地名語源
こふじう		<p>こは子の替字で分家した集落。 藤生（現在の藤生山口）の集落の分家が、移住して出来た集落。</p>
ニシ ク ホ 西 久 保		<p>明治9年地租改正の時、こふじうの東側のくぼが独立した区域。西は躡<small>ニジル</small>の語幹で急傾斜のくぼの意。</p>
コ フ シ ^ニ ユウ 小 藤 生		<p>明治9年地租改正の時、こふじうから独立した西久保を除いた区域を漢字の小藤生とした区域。</p>
イシ カ ^ニ モ 石 鴨		<p><small>ネモト</small>川の中に鴨の形をした岩のある区域。</p>
カノエ ツカ かのへ塚		<p>道ばたに土を盛った上に庚申塔を建てた区域。</p>
ウエ きようノ上		<p>石鴨峡の西側の山腹。</p>
マエ きようノ前		<p>石鴨峡の右岸沿いの小平地。</p>
ウエ やしきノ上		<p>石鴨集落のある区域。上は付近。</p>
イエ ノ マエ 家 ノ 前		<p>家は居<small>イ</small>江<small>エ</small>（川のはた）で清水境の根本道と根本川の間<small>の</small>狭い区域。</p>
石 鴨	石 鴨	<p>明治9年地租改正の時、石鴨・かのへ塚・きようノ上・きようノ前・やしきノ上・家ノ前を併せて石鴨とした区域。</p>
キノネサカ 木ノ根坂	木ノ根坂	<p>木は牙の替字で岩壁。根は尾根の略。 沢の兩岸の岩壁が迫り5<small>ニ</small>程の滝になっているので、岩壁の上の尾根を登って廻り道をする坂の区域。</p>
カミ ケー ト 上 谷 戸	上 谷 戸	<p>石鴨の集落から上へ分家が移住して出来た集落。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。</p>

字	小 字	地名語源
タカヘラ 高 へ ら	タカ ヒラ 高 平	べらは平(タヒラの略)の転。石鴨の北東にある山頂の平な山。七畝程の耕地がある。
ヤシキヤマ 屋 敷 山		屋敷(石鴨の集落部分の旧字)の後から村境迄続く大きい山。昔、石灰石を採掘したので人々の住んだ集落の跡がある。
オオハタ 大 畑		山腹のゆるい傾斜地で広い焼畑の跡が残っている区域。
イワ 岩 だ れ		岩壁から滝の落ちている区域。
トウメキ とうめき		沢が岩石で埋まっており、水流も多いので水音をたてて流れている沢。
	屋 敷 山	明治9年地租改正の時、屋敷山・大畑・岩だれ・とうめきを併せて屋敷山とした区域。
ツク こうえん作り		ツクリ(作)はサク(作)の読み替えて畑のさくを切ることから浅いくぼ。高園寺の山寺高禪寺があった高禪寺山と屋敷山の間の浅いくぼ。高沢村高園寺所有の焼畑のある浅いくぼ。
テ 手なしごや		手はタエ(絶)の転で崩壊。なしはナラ(平)しの略で緩傾斜地。こやはコエ(越)の転で峠道。高園作右側のくぼ。山腹の崩壊で緩傾斜地になったくぼを通っている黒坂石(沢入村)へ行く峠道の区域。
	コウ エン ツクリ 高 円 作	明治9年地租改正の時、こうえん作り・手なしごやを併せて高円作とした区域。円は園の間違い。
カミ フシユウ 上 藤 生	上 藤 生	上藤生川川口付近の両側の山腹。藤生(現藤生山口)から上へ分家(カミ)が移住して作った集落。
ウメノキクホ 梅ノ木久保		梅は埋の替字。山腹の崩壊で埋まって出来た大きい傾斜地。
	オオ ク ホ 大 久 保	山腹の大きい傾斜地。焼畑に利用した。明治9年地租改正の時、梅ノ木久保を大久保に換えた区域。
くわばら		くわはクエ(崩)はらはハリ(張)の転。根本川右岸へ山腹が崩壊して半円状に張り出した区域。

字	小 字	地名語源
<small>ツクリ</small> し し 作		<p>ししはシジ（縮）くの語幹で小さい。 ツクリはサクの読み換えで畑のさくを切る意から浅いくぼ。 現行桑原内の西側の小さく浅いくぼで耕地にしている。</p>
	<small>クワ</small> <small>ハラ</small> 桑 原	<p>明治9年地租改正の時、くわばら・しし作を併せて桑原とした区域。</p>
<small>サワ</small> か ら 沢		<p>からはカレ（枯）の転で雨が降っても地中へ浸透して普段沢水が流れていない沢。</p>
<small>サワクチ</small> から沢口		<p>から沢の入口付近に集落が出来てついた地名。</p>
	<small>カラ</small> <small>サワ</small> 唐 沢	<p>明治9年地租改正の時、から沢・から沢口を併せて唐沢とした区域。桐生川ダムで水没した。</p>
<small>ハシ</small> <small>ノ</small> <small>イリ</small> 橋 ノ 入		<p>橋は端の替字。<small>ネモト</small>根本川の右岸端から奥へ入っている沢。</p>
<small>ソ</small> <small>ウ</small> <small>リ</small> 沢 入		<p>山腹の傾斜地にある焼畑。</p>
<small>ダイ</small> <small>コロ</small> <small>シ</small> 大根おろし		<p>根本川が5<small>リ</small>程の滝になり、滝壺に落ちると生きて出られない淵になっていた右岸区域。 大涌寺の住職が投身自殺したという伝承でついた滝名。 大（涌寺）の住職を殺した滝の意。</p>
	橋 ノ 入	<p>明治9年地租改正の時、橋ノ入・沢入・大根おろしを併せて橋ノ入とした区域。</p>
<small>ヘコ</small> <small>ウリ</small> <small>ムカイ</small> 閉 入 向		<p>閉入（閉籠里）の根本川の対岸（右岸）の傾斜地。</p>
<small>ムカイ</small> <small>ノ</small> <small>ダイ</small> 向 ノ 台		<p>向は閉入向の略。閉入向の上の山腹。</p>
	<small>イデ</small> <small>サワ</small> 出 沢	<p>出は<small>イズミ</small>出水の略で泉。泉のある沢。 明治9年地租改正の時、閉入向・向ノ台を併せて出沢とした区域。</p>
<small>ムキ</small> 麦 ク ボ		<p>麦はムキ（剥）の転で崩壊。 山腹の崩壊で出来た緩やかな傾斜地。</p>
	<small>ムキ</small> <small>ク</small> <small>ホ</small> 麦 久 保	<p>明治9年地租改正の時、麦クボを麦久保に換えた区域。</p>

字	小 字	地名語源
アカ マツ 赤 松	赤 松	赤松沢の略。赤はアカ（散）つの語幹で崩壊。 松は俣の転で二俣（フタマタ）。 山腹が崩壊していて奥が二俣に広がっているくぼ。
ド ^フ ウヤクホ ^保 ドフヤ久保	ド ^フ ウヤクホ ^保 ドフヤ久保	ドフヤはドヤ（崩）るの転。 山腹の崩壊で急傾斜しているくぼ。
イワ ノ イリ 岩 ノ 入		入口に大岩壁があり狭くなっていて、人がやっと入れる曲がっている沢。
シモオクホ ^保 下小久保		向ふねの山腹にある小さいくぼ。
ムカイ 向 ふ ね		横をつの向いの馬立場 ^{マタテバ} との間の山頂が平らで細長い（ふな型）山腹。
ヨコ 横 を つ		萩平側の横（東西）に長い尾根から急傾斜（落つ）している山腹。
	岩 ノ 入	明治9年地租改正の時、岩ノ入・下小久保・向ふね・横をつを併せて岩ノ入とした区域。
ハタ サガ畑ケ	サガ畑ケ	サガ（嶮）で崖。畑は端の替字で付近。 急傾斜している山腹。
たかにた		高仁田山の略。 山の上部に猪などが体に泥を塗りつける湿地（仁田場 ^{ニタハ} ）のある山。
ヒコヘ ^彦 エツクリ ^衛 彦兵衛作		彦兵衛は低いことの人名化。 ツクリはサクの読み替えて畑のさくを切る意から傾斜地。 高仁田山の入口付近左側の一番低い山腹にある傾斜地。 傾斜地は耕地に利用している。
	サ ^大 ツ	彦兵衛作の上隣りにある大みど沢・小みど沢の二沢併せてみど沢とした区域。 沢奥にある湧水のある沢。

字	小 字	地名語源
<small>キリノ キ</small> 桐ノ木クボ		みど沢の <small>カミ</small> 上隣りにあるくぼ。桐は切の替字。切は <small>キリカエハタ</small> 切替畑の略。木は場所。 焼畑のある傾斜の緩い大きいくぼ。
<small>ナカ</small> 中 く ぼ <small>イシ</small> われ 石		桐ノ木クボの <small>カミ</small> 上隣り。左側の高仁田山の中央にあるくぼ。 われ石山の東側の山腹（西側は忍山のワレ石）。 われた岩石で山腹が埋まっている山。
<small>カヤ</small> 萱 く ぼ		右側最初の急傾斜のくぼで、集落の屋根をふくための萱場（共有地）のある区域。
<small>ヨコ</small> <small>カヤ</small> 横 萱		右側奥の山腹が横（東西）にかやり（曲がる意）ながら延びている区域。
	<small>タカ ニ タ</small> 高 仁 田	明治9年地租改正の時、たかこた・彦兵衛作・みど沢・桐ノ木くぼ・中くぼ・われ石・萱くぼ・横萱を併せて高仁田とした区域。
<small>ウメノ キ テ エラ</small> 梅ノ木平		梅は埋の替字。右側山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地。
<small>タケ</small> 竹ノくぼ		右側山腹に岩壁のあるくぼ。
<small>ツクリ</small> せいせん作		せいせんは清泉で清水の湧いているくぼ。 ツクリはサクの読み替えて畑のさくを切る意から耕地になっている浅いくぼ。左側山腹の奥に湧水のあるくぼ。
すぎなくぼ		すぎはスキ（剥）の転で崩壊。 左側山腹の崩壊で急傾斜しているくぼ。
<small>ニユトウ</small> 入道くぼ	<small>タカ タケ ヤマ</small> 高 竹 山	入道は妖怪。 緩い傾斜の大きいくぼで中に三つの小さいくぼがあり、どこから見ても全部を見ることができないのでばけものの意から入道くぼとつけられた。 高竹の <small>ウシロ</small> 後から村境迄続く大きい山。 明治9年地租改正の時、梅ノ木平・竹ノくぼ・せいせん作・すぎなくぼ・入道くぼを併せて高竹山とした区域。

字	小 字	地名語源
<small>ウエ</small> たきの上		<p>10[㌾]程の大滝の上から西へ入っているくぼ。上のくぼ。</p>
<small>シタ</small> たきの下		<p>10[㌾]程の大滝の下から西へ入っているくぼ。下のくぼ。</p>
ほうたくぼ		<p>ほうた（方田）で正方形。 上ノ久保の西隣りの山腹にある正方形の形をしたくぼ。 びわくぼともいう。</p>
<small>オオタケヤ シキ</small> 大竹屋敷		<p>大滝の落ちている大岩壁の下にある集落。竹は滝の替字。</p>
<small>コ</small> 小たきひら		<p>大滝の上にある小滝の付近にある焼畑を作っている傾斜地。</p>
<small>フシ ユウキユト</small> 藤生休ド		<p>藤生山急処の替字。藤生山の急傾斜の山腹。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ</small> 藤 生 山	<p>藤生（現藤生山口）の後ろから村境迄続いている大きい山。 明治9年地租改正の時、たきの上・たきの下・ほうたくぼ （ビワクボ）・大竹屋敷・小たきひら・藤生休ドを併せて藤 生山とした区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>屋敷（現在の石鴨）に集落を構えた藤生氏の分家が最初に 集落を作った区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>
<small>フ シ ユ ウ</small> 藤 生	<small>フ シ ユ ウ ヤ マ ク チ</small> 藤生山口	<p>明治9年地租改正の時、藤生山の<small>シンアサ</small>新字を作ったので、その 入口に当たることから改名した区域。</p>

字	小 字	地名語源
<small>カミナカン サク</small> 上中ノ作	上中ノ作	中ノ作の上 <small>ウミ</small> にも二つの尾根に挟まれた、同じ形をした浅いくぼがあるので付けた地名。
<small>オオ</small> 大 だ き	<small>オオ タキ</small> 大 瀧	<small>ヌノヒキ</small> 布引ノ瀧とも言う8 <small>ハシ</small> 程の落差の滝のある付近。付近に庚申塔が沢山あるので昔集落のあった区域。
<small>ク ホ</small> むじな久保		むじなはムシ（筆）るの転で崩壊。山腹の崩壊で出来た急傾斜のくぼ。
<small>サワ</small> い せ 沢		いせはイソ（磯）の転で石。山腹の崩壊で出来た石の多い急傾斜の沢で、むじな久保の上 <small>ウミ</small> の沢。
	<small>チュウシヨウ バタ</small> 中 上 畑	チュウはツブ→チブ（潰）の転で崩壊。ジョウ（上）は生の転で……になった所。ハタ（畑）は端の換字。高禅寺山の崩壊で出来た急傾斜のくぼ。明治9年地租改正の時、むじな久保・いせ沢を併せて中上畑とした区域。高禅寺山東側の山腹。
<small>コウ セン シ</small> 高 禅 寺	高 禅 寺	<small>コウエンジ</small> 高園寺の子院（山寺）高禅寺が山麓にあるので付いた山名。高禅寺山の区域。
とちくぼ		とちはトジ（閉）の転。入口が狭くまわりを囲まれている山腹のくぼ。
<small>コ</small> 小とちくぼ		とちくぼの隣りで同じ形をしている小さいくぼ。
<small>トチ ク ホ</small> 栃 久 保	<small>トチ ク ホ</small> 栃 久 保	明治9年地租改正の時、とちくぼ・小とちくぼを併せて栃久保とした区域。
<small>ミョウ カ サク</small> めうがさく		めうはミオ（濡）の転。サク（作）は畑のさくを切る意から浅いくぼ。根本沢が流れている右岸にある山腹の浅いくぼ。
	<small>ネ モト サワ</small> 根 本 沢	めうがさくの上 <small>カミ</small> の部分が独立した区域。根本山の山腹を流れている根本沢の右岸にある山腹の浅いくぼ。
<small>ミョウ カ サク</small> 明 ケ 作	<small>ミョウ カ サク</small> 明 ケ 作	明治9年地租改正の時、根本沢・明ヶ作の二つに分割した区域。

東 小 倉 村 (ヒガシオグラムラ)

(川内町1丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文9年(1669)の水帳 ^{アザ} の字による)
トウケ ^{シタ} 峠 下		六角堂はたの峠道入口から ^{オク^ラサンシンショウジ} 小倉山新勝寺道との追分迄の区域。小倉峠道の下半分の区域。
ロク カク トウ 六 角 堂		六角塔(六角型をした石塔)の転。 峠道入口の反対側小倉川はたに六角塔が建てられている付近。 現在は峠道入口に移転している。
タカ ノ ス 鷹 ノ 巢		鷹は高の替字。巢は州の替字で砂州。 渡良瀬川左岸に洪水の ^{タビ} 度に運んで来た砂が堤のように長く積もっている付近。
ゾウ カ ^{ハナ} 象 ケ 鼻		象は沢の転。鼻は端の転。小倉川左岸沿いの区域。
	峠 下	明治9年地租改正の時、峠下・六角堂・鷹ノ巢・象ヶ鼻を併せて峠下とした区域。
マル ヤマ 丸 山	丸 山	出丸山の略で小倉道と仁田山道の追分小倉川左岸の小丘に園田氏の出丸があった付近。出丸山の略。 現在は平地にされ団地になっている。 出丸は34番地にあった。
マル ヤマ マエ 丸 山 前	丸 山 前	丸山の仁田山道を挟んで東側堤村境いの尾根迄の区域。 なぜ丸山前としたか理由が不明。
カミ ノ ヤマ 上 ノ 山	上 ノ 山	獅子田台(山根)にあった赤城神社を現在地(552番地)に、寛延年中遷座して神ノ山と呼んだが後世上ノ山と替字された区域。
シ シ タ 獅 子 田		シシはシタタ(滴)りの略で湿地。田は場所を示す語。 湿地の沢。沢奥の湧水地が池になっていて石祠がある。

字	小 字	地名語源
ヤマ 山	ネ 根	獅子田台に赤城神社を祀ったのでついた地名。 古くは獅子田台（獅子田台にある低い尾根の付近）。 山麓でかつ神社を祀ってある区域を言う地名用語。 最初に赤城神社を祀った区域。
	シ シ タ 師 々 田	明治9年地租改正の時、獅子田・山根を併せて師々田とした区域。
タ 田	ナカ 中	田に囲まれた家のある区域。
カネウチカ ^イ ト 鐘打谷戸		鐘は ^{カネ} 矩の替字で直角。打はフチ（縁）の転。 小倉川左岸の崖はたにある集落。
シマ 島	サ ^キ 崎	小倉川と与一沢川の合流点にある二川に挟まれた狭い区域。
ハコシ ^マ カ ^イ ト 箱島谷戸		ハコはハケの転で崖。佃の東側崖上の台地。 一段高く島のように見える所にある集落。
	ナカノ カ ^イ ト 中之谷戸	東小倉村の中心にある集落。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。 明治9年地租改正の時、田中・鐘打谷戸・島崎・箱島谷戸を併せて中之谷戸とした区域。
	ツクダ ^イ 佃	領主園田氏直営の水田のある付近。
ハチ カ ^サ 初 鹿 澤		初はハツ（削）るの替字で崩壊。山腹の崩壊で緩い傾斜地（耕地）の出来た沢。沢奥に湧水がある。
ムカ ヤ シキ 向 屋 敷		初鹿沢を挟んで対岸にある初鹿澤から分家した人々が作った集落。 屋敷は集落名。
	ハチ カ ^サ 蜂 ケ 沢	明治9年地租改正の時、初鹿澤・向屋敷を併せて蜂ヶ沢とした区域。 初を蜂に替えただけの地名。
タメ 溜	ウエ 上	沢奥の湧水のある溜池から上の区域。
イケ 池	ウエ 上	用水池として作った大池（乙635番地）から上の区域。
イケ 池	シタ 下	大池から下の区域。
	ヨ イチカ ^イ ト 與市谷戸	與は湯の転で泉。市は一の転で一番。 小倉村で一番大量の水の湧く泉のある集落。 明治9年地租改正の時、溜上・池上・池下を併せて與市谷戸とした区域。

字	小 字	地名語源
ホリ ノ ウチ 堀 ノ 内	堀 ノ 内	ソノダ ^{ソノダ} ニカタン ^{ニカタン} 。幕末迄堀・土手を圍繞した遺構を残していた。中世関東武士の館 ^{タテ} 地名。 小倉川左岸に館を構え、東側は畑ヶ中 3 2 4 番地より小倉川の水を入れ堀をめぐらしていた。
ナカ ^{ナカ} ミネ 長 峰		東・西小倉村の境になっている長い尾根の先端東側の山腹。
イ セノ モリ 伊 勢 森		長峰の尾根にある神明宮（明治 3 0 年廃社）の境内（2 9 1 番地）。
	長 峰	明治 9 年地租改正の時、長峰・伊勢森を併せて長峰とした区域。
ハタ ケ ナカ 畑 ケ 中		畑に囲まれた集落のある区域。
ア ミ タ ^ア ト ^ウ 阿弥陀堂		3 2 4 番地（3 2 4 甲 3 8 1 坪・3 2 4 乙 3 9 坪）にあった。 小字阿弥陀堂は 3 2 4 ～ 3 2 9 番地で、 ^{センジュ} 千手寺 ^{ユジ} の所有地（明治初年迄）。小倉川左岸改修工事の時、沢山の仏教石造物が出土した（千手寺談）。 元久 2 年（1 2 0 5）法然上人より阿弥陀像を本尊として拝領して帰国し、一間四方の阿弥陀堂を建立して安置した。堂は元禄 6 年（1 6 9 3）迄現存したが、その後西小倉村崇禅寺の本尊となった。
ヒ ^ヒ シヤモント ^ウ 毘沙門堂		3 0 6 甲番地にあった。本尊は新田義貞奉納の伝承があり現在は東禅寺に安置されている。 毘沙門田は 3 0 6 乙番地にあり水田二畝。
	畑 ケ 中	明治 9 年地租改正の時、畑ヶ中・阿弥陀堂・毘沙門堂を併せて畑ヶ中とした区域。
セン シュ シ ^{セン} 心 正 寺	心 正 寺	もとはシンショウジ（心正寺）という寺名だったので小字名となった区域。 後、本尊名（千手観音）に寺名を換えた為、センジュジ（千手寺）と読み換えた寺のある区域。

字	小 字	地名語源
オー キ 青 木	青 木	アフ（仰）きの転で崩壊地名。 山腹の崩壊で緩い傾斜地の出来た区域。
ア ス マ サワ 吾 妻 沢	吾 妻 沢	アズマ ^{アズマ} 山の山頂迄続いている大きい沢で、中腹に吾妻神社の里宮があったが、明治41年11月9日赤城神社に合祀した頂上への登山道も通っている。
アラ イ 新 井	新 井	付近で最後に出来た集落。 この沢は大量の清水が湧出していたが、安政の大地震の影響で激減した。その代わりに吾妻山の東腹村松村へ湧出するようになった。
ハリマ カイト 幡摩谷戸		ハリマ（壘間）の替字で開墾地。 開墾地に集落の出来た区域。
ゾウ ス サン 象 頭 山		象頭山琴平宮が祀つてあるのでついた地名。 明治10年9月吾妻沢吾妻神社境内へ遷座。
ク ホ タ 久 保 田	ハリマ カイト 播磨谷戸	東小倉川右岸の低地にある水田。 明治9年地租改正の時、幡摩谷戸・象頭山・久保田を併せて播磨谷戸とした区域。
シャ カン ト 釈 迦 堂		482番地にあり、300年間今泉家で護持して来たが、現在は本尊釈迦如来像は東禅寺に安置されている。
マカッ テ 曲 手		長峰と野山の間にある曲がっている沢。
シヤ ッ カ サワ 蛇 沢		麦久保 ^{カミ} の上隣りの沢。 蛇が付く地名は大崩壊のおこった山腹。 山腹に大崩壊の起きた沢。
ヨ シ ノ サワ 葎 沢	釈 迦 堂	野山の東側へ入っている葎の生えている湿地の沢。 明治9年地租改正の時、釈迦堂・曲手・蛇沢・葎沢を併せて釈迦堂とした区域。
コ ヤ バ 小 屋 場	小 屋 場	コエバ（越場）の転で峠道。 萱野峠 ^キ を経て上久方村へ行く峠道の通っている付近。 峠の手前で名久木村からの道と合流する。
トウケ 峠		峠道と新勝寺道との追分から、 ^{ウエ} 上の峠道区域。

字	小 字	地名語源
オオ ク ホ 大 久 保		新勝寺南側の大きい山腹のくぼ。
カン ノン サ 観 音 澤		峠道の追分から観音院新勝寺(現在の観音堂)迄参道の通っている沢。
ライ テン ヤマ 雷 電 山		峠道入口左上の山。 山腹(569番地)に雷電社があるのでつけた山名。
	トウゲ 峠	明治9年地租改正の時、峠・大久保・観音沢・雷電山を併せて峠とした区域。
アラ イ ヤマ 新 井 山	新 井 山	新井の集落の上にある吾妻山の支脈の一山。
ヒ ノ サワ 稗 ノ 澤	稗 ノ 澤	稗はヒエ(冷)の換字。かれたことのない冷たい湧水のある沢。
ムキ ク ホ 麦 久 保	麦 久 保	麦はムキ(剥)の転で崩壊。 山腹の崩壊で出来た傾斜地のあるくぼ。
ヒガシシヤカント 東 積 迦 堂		積迦堂の東側吾妻山の山頂迄の山腹。
シヨ ロ ムカイ 女 郎 向		吾妻山から村松峠の間の女吾妻山から、西側へ延びている尾根。
まんどころ		セマドコロ(狭間処)の転で、尾根が鞍部になっている村松峠の付近。
サガリ フジ 下 藤		「下藤(サガリフジ)」は「藤下(トウゲ)」の上下入れ替え語で、村松峠道の東小倉村側の山腹。
	東 積 迦 堂	明治9年地租改正の時、東積迦堂・女郎向・まんどころ・下藤を併せて東積迦堂とした区域。
イリシヤカント 入 積 迦 堂	入 積 迦 堂	東積迦堂の奥の萱野峠道が通っている萱野山のくぼ。 東積迦堂区域内の峠道の通っている部分だけの小区域で、本来東積迦堂とすべき区域。
ニシシヤカント 西 積 迦 堂	西 積 迦 堂	積迦堂から西奥長峰沢の両側の山腹。
タカ ノ ス 鷹 ノ 巢	鷹 ノ 巢	オウラ 小倉川の川口は現在より南へ250m先にあった。 明治の洪水から流路が北に変わり、鷹ノ巢は川になってしまった。たかは高の替字。すは州の替字。 渡良瀬川の左岸に洪水の度に砂が運ばれて自然堤のように高くなっている区域。西小倉村の鷹ノ巢の延長の区域。

西 小 倉 村 (ニシオグラムラ)

(川内町2丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文9年(1669)の水帳 ^{アザ} の字による)
タカ ノ ス 鷹 ノ 巢	鷹 ノ 巢	高ノ州の替字。 渡良瀬川 ^{ワタラセ} 左岸の小倉川と山田川(明治初年迄仁田山川 ^{ニタヤマ})の間に洪水の度に、砂を運び堤のように高くなっている区域。 東小倉村の鷹ノ巢と一体をなして長く続いている区域。 戦後、葎ノ目(3筆)・沖(21筆)・坂ノ下(12筆)と鷹ノ巢の一部を加えた区域に団地を作り鷹ノ巢とした為、語源と一致しない鷹ノ巢が出来てしまった。
ヨシ ノ メ 葎 ノ 目	葎 ノ 目	葎は悪しに通ずるので葎の字を用いた。 目は狭い場所。 隣の沖の湧水の川下なので、葎の生えている湿地の狭い区域。
オキ 沖	沖	現在は全部鷹ノ巢に改名している。 沖はウキ(浮)の転で泥深い所。 大池(集会所の付近で90番地)・1~3番池(84・85・87番地ノ1)の各々泉と池を持っている湿地で休耕すると、すぐ葎の生える区域。
サカ ノ シタ 坂 ノ 下	坂 ノ 下	檐下の崖はたを登り坂になっている道下の付近。 現在は98~109番地が鷹ノ巢に改名した。
ホン シヤ 本 社	本 社	モトヤシロの読み替えて宮原の赤城神社が最初に祀られた区域で、当時は須永村・西小倉村共同の鎮守であった。 後に赤城神社は西小倉村の宮原に遷座し、西小倉村のみの鎮守になった。須永村は三島神社を鎮守とした。
ヤク ^ラ シタ 檐 下	檐 下	坂ノ下と小倉川の間の崖下の区域。 もと、渡良瀬川が流れていた崖下の区域。
ヒカ ^{シト} シ ^ッ ハ ^ラ 東童子原	東童子原	童子原が後世東西に分割した東の区域。 童子はタフ(倒)しの転で崩壊。原は開の替字で開墾地。童子原(開墾地)の東側(小倉川)・南側(渡良瀬川)が崖になっている区域の東側。

字	小 字	地名語源
ニシト ^ニ シ ^シ ッハ ^ハ ラ ^ラ 西童子原	西童子原	童子原の東側（小倉川）・南側（昔渡良瀬川が崖下を流れていた）が崖になっている区域の西側。
サカ ^サ ノ ^ノ ウエ ^ウ 坂 ノ 上	坂 ノ 上	本社と西童子原の間の崖を上って行く坂道上の台地。
ミヤ ^ミ ハ ^ハ ラ ^ラ 宮 原	宮 原	宮は鎮守の赤城 ^{アカギ} 神社。原は鎮守の森。 村の鎮守赤城神社の森のある区域。
ヤナギ ^ヤ カ ^カ イト ^{イト} 柳 谷 戸	柳 谷 戸	築 ^キ ・木 ^キ （場所）の替字で山腹が半円形に築の形をしている麓にある集落。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
ク ^ク ホ ^ホ カ ^カ イト ^{イト} 久保谷戸		小倉川右岸の低地にある集落。
イト ^{イト} カ ^カ イト ^{イト} 井戸谷戸		小入の入口付近に井戸（清水の湧出口）のある集落。
	久保谷戸	明治9年地租改正の時、久保谷戸・井戸谷戸を併せて久保谷戸とした区域。
ハナ ^ハ カ ^カ ラ ^ラ 花 柄		花柄山の南側の山腹。中仁田山村花柄へ行く峠道がある。
ナカ ^ナ ノ ^ノ ク ^ク ホ ^ホ 中ノ久保		まわりを山に囲まれた小入の中央にある耕地。
オオ ^オ ヒ ^ヒ ラ ^ラ 大 平		扇平の替字で経塚山東腹の扇を広げた形をした緩い傾斜地。
ヤマ ^ヤ タ ^タ 山 田		中ノ久保の奥の山腹に挟まれている階段状の水田地帯。
	コ イリ 小 入	入口の狭くなっている山に囲まれたくぼ。 明治9年地租改正の時、花柄・中ノ久保・大平・山田を併せて小入とした区域。
テラ ^テ マ ^マ エ ^エ 寺 前		崇禅寺のある山腹から長峰山迄の区域。
ナカ ^ナ ミ ^ミ ネ ^ネ ヤ ^ヤ マ ^マ 長 峰 山		東西小倉村を分けている細長い長峰山の先端西側の山腹。東側は東小倉村長峰。
	寺 前	明治9年地租改正の時、寺前・長峰山を併せて寺前とした区域。

字	小 字	地名語源
カミノ ス ワ シヤ 上ノ諏訪社		上諏訪神社(境内社稲荷社・八幡宮)を祀っている付近。現在は下諏訪神社がなくなったので諏訪神社に社名変更している。明治44年5月31日赤城神社へ合祀しているが現在も神社はある。
シモノ ス ワ シヤ 下ノ諏訪社	ニシ ヤマ 西 山	下諏訪神社を祀っている付近(現在境内地不明)。明治44年5月31日赤城神社へ合祀。 長峰山を東山とした時、その西に当たる所にあるのでつけた地名。明治9年地租改正の時、上ノ諏訪社・下ノ諏訪社を併せて西山とした区域。
オオ シバ ^ㇿ 大 芝		芝はシバ(打つ)くの語幹で崩壊。向って北側の大きい沢が山腹の崩壊で、埋まって出来たくぼ。
コ シバ ^ㇿ 小 芝		向って南側の小さい沢が山腹の崩壊で、埋まって出来たくぼ。
ナカ シバ ^ㇿ 中 芝		大芝・小芝の入口(中央)にある沢が埋まって出来たくぼ。
ナカ ヤマ 中 山	シバ ^ㇿ 芝	大芝と桐ノ木くぼの間の小尾根で、三つの尾根の間にあるのでつけた地名。
ハシ マエ バ ^ㇿ 橋 前 場		明治9年地租改正の時、大芝・小芝・中芝・中山を併せて芝とした区域。
ハシ マエ バ ^ㇿ 橋 前 場		西小倉川の右岸で橋の架かっている区域。
ハチ オウ シ ^ㇿ 八 王 子		八王子山の略。八王子神社を祀っている山。
キリノ キク ホ ^ㇿ 桐ノ木久保		桐は切の替字で切替畑で焼畑の意。焼畑のある傾斜の緩い久保。
ヤマ キ ^ㇿ ワ 山 際		桐ノ木久保の一部で山際に墓地のある区域が独立した。
ニシ ノ イリ 西 ノ 入	橋 前 場	明治9年地租改正の時、橋前場・八王子・桐ノ木久保・山際を併せて橋前場とした区域。
ニシ ノ イリ 西 ノ 入		長峰の西側に入っている曲がっている沢。入は水のない沢をいう。

字	小 字	地名語源
<small>アブラ</small> 油シボリ		<p>東入の入口付近から東南へ入る緩い傾斜のくぼ。油シボリを職業とする家があったのでついた地名。天明5年（1785）油絞り家業が御免になっているのでその後の地名。</p>
<small>ヒカシ ノ イリ</small> 東 入		<p><small>シシダ カミ</small> 鹿田の上隣りで東へ入っている耕地のあるくぼ。</p>
<small>ヒカシ キョウ ハ</small> 東 行 場		<p>行場は橋前場境にある西小倉川の滝付近で、智明上人が修行したと言う伝承のある区域。行場の西小倉川東側の区域。</p>
<small>ニシ キョウ ハ</small> 西 行 場		<p>行場の西小倉川西側の区域。</p>
	西 ノ 入	<p>明治9年地租改正の時、西ノ入・油シボリ・東入・東行場・西行場を併せて西ノ入とした区域。</p>
<small>ウハ カ イリ</small> 姥 ケ 入		<p>姥はウバ（奪）うの語幹で崩壊。山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地のあるくぼ。200<small>ト</small>流れて西小倉川に合流する。</p>
<small>コ ケー ト</small> 小 谷 戸		<p>小は子の換字。姥ヶ入と鹿田の間の山沿いに親の集落から分家した人々で作った子集落。</p>
<small>シシ タ</small> 鹿 田		<p>鹿はシト（湿）の転で湿地。奥に湧水のある湿地の沢。</p>
	姥 ケ 入	<p>明治9年地租改正の時、姥ヶ入・小谷戸・鹿田を併せて姥ヶ入とした区域。山腹の崩壊により出来た傾斜地。</p>
<small>カミノ ケート</small> 上ノ谷戸		<p><small>シミ</small> 下の親集落から上へ分家した人々で作った子集落。</p>
<small>タ ネ イ リ</small> 田 ノ 入		<p>田は棚の転。姥ヶ入の隣りのくぼ。階段状の水田のある傾斜地。沢奥に湧水がある。</p>
	上ノ谷戸	<p>明治9年地租改正の時、上ノ谷戸・田ノ入を併せて上ノ谷戸とした区域。</p>

須 永 村 (スナガムラ)

(川内町3丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 ^{アザ} の字による)
ナカセ フナハ 長瀬舟場	長瀬舟場	舟場へは4番地より道があった。 長く浅瀬の続く所に長瀬ノ渡があった。江戸末期には橋が架かっていた。
トウ カイト 堂 谷 戸	堂 谷 戸	谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。 仏堂がある集落。現在仏堂は不明。
シユ ウ トノ 寿 宇 殿	寿 宇 殿	寿宇はシユウズ(清水)の語幹。 殿は棚の転で河岸段丘。 清水が湧き出ている渡良瀬川左岸沿いの段丘。 渡良瀬川が北に流路を変えた為、川の中と対岸天王宿村すうどのとなっている。 殿がつく地名は川沿いの段丘や堤の付近にある。
ニシノ カイト 西ノ谷戸	西ノ谷戸	須永村の一番西にある集落。
ナカ シマ 中 島	中 島	渡良瀬川が洪水のたびに土砂を運んで川の中央に島を作り、そこへ付近の住民が耕地を作ったのでついた地名。
ヨウ メイ シタ 永 明 下	永 明 下	永明山南側崖下の区域。
ヤナキ シタ 柳 下	柳 下	星直家の屋敷にめぐらしている用水の南側土手下の小区域。 ヤナは土手。ギ(木)は場所。
アラヤ シキマエ 新屋敷前	新屋敷前	明治9年地租改正の時、永明下・柳下を併せて永明下とした区域。 新屋敷の南側(前)の区域。
オチ アイ 落 合	落 合	山田川(明治9年迄は仁田山川 ^{ニタヤマ})が渡良瀬川に合流している右岸区域。4村が合併して山田村ができたので村名で呼ぶようになった
チ アミカイトミチシタ 千網谷戸道下	千網谷戸道下	千網谷戸の南側を通っている道から一段下の区域。
チ アミカイト 千網谷戸	千網谷戸	千は地の換字。網はアビの転で崩壊。 河岸段丘のはたが崖になっている付近にある集落。
アラヤ シキウラ 新屋敷裏	新屋敷裏	新屋敷の裏(北側)の区域。

字	小 字	地名語源
タ 田	シ ^キ 敷	水田のある台地。
	新屋敷裏	明治9年地租改正の時、新屋敷裏・田敷を併せて新屋敷裏とした区域。
アラ 新 屋 敷	ヤ シキ 新 屋 敷	屋敷は集落の江戸期前の呼称。新しい集落の出来た区域。
サカ 坂 ノ 下	ノ シタ 坂 ノ 下	正しくは坂ノ下道西とすべき区域で、新屋敷から坂ノ上へ行く道の西側の区域。 もとは坂ノ下道東を含めて坂ノ下だった。
サカノ 坂ノ下道東	シタミチヒカ ^シ 坂ノ下道東	もとは坂ノ下の区域であった道東が独立して新地名を名乗った区域。
ネ 根 岸	キ ^シ 根 岸	根は堤根の略で堤防。岸は堤の外側。 山田川（明治9年迄仁田山川 ^{ニタヤマ} ）が二か所左へ直角に曲流している所なので、唯一堤を作っている区域。
テン 天 神 前	シ ^ン マエ 天 神 前	牛谷戸の牛乗り天神を祀っている天神山の崖下山田川右岸の低地。天神社は（境内43坪）466番地にあったが三島神社東隣地に遷座した。最近まで石祠が残っていたが現在は住宅が建っている。
コ 五 反 田	カン タ 五 反 田	牛谷戸用水沿いの五反程の水田のある区域。
	天 神 前	明治9年地租改正の時、天神前・五反田を併せて天神前とした区域。
サカノ 坂ノ下堀上	シタホリウエ 坂ノ下堀上	地番264～268の区域で、現在は天神前の一部となっている。 段丘崖下から近くを牛谷戸用水が通っているはた迄の区域。
コシ 腰 卷	マキ 腰 卷	牛谷戸用水が段丘が突出している部分を巻くように曲流している区域。
セキ 関 堀	ホ ^リ 関 堀	牛谷戸用水から分水する為の関が作っている区域。

字	小 字	地名語源
ヨウ メイ ヤマ 永 明 山	永 明 山	養命の替字で養命砦山の略。永明山は支那から来ている。命を護ってくれる砦のある山の意。 君子知 ^レ 性当 ^レ 養 ^レ 命。故神農曰く上薬養 ^レ 命。
ナカ サト 中 里	中 里	付近で一番大きい集落。
ヤク シ マエ 薬 師 前	中 里	島谷戸薬師堂と大間々道を挟んで反対側の区域。 明治9年地租改正の時、中里・薬師前を併せて中里とした区域。
イ ノ ウエ 井 ノ 上	井 ノ 上	井は井戸の略。 弘法大師御手洗の三井戸（上・中・下）の伝承の下の井戸のある区域。因みに上ノ井は雲祥寺の井戸である。
カン ノン トウ 観 音 堂	観 音 堂	観音堂（今は取り払い川内町3丁目集会所を作った）のある区域。 井ノ上に観音堂が出来その付近が小字観音堂として独立した。
コシマキノ ウエ 腰巻ノ上	腰巻ノ上	腰巻の隣りの僅かに高い台地。
フタ ツ トウ 二 ツ 堂	二 ツ 堂	僅か三筆の狭い所にお堂が二つあった区域。
サカノ ウエミチシタ 坂ノ上道下	坂ノ上道下	段丘上の大間々道から崖はた迄の区域。 旧道は崖下を通っていたが、新道が崖上に出来て坂ノ上を分断したので出来た新字名。
サカ ノ ウエ 坂 ノ 上	坂 ノ 上	もとは崖上全体を言ったが、大間々新道が崖上に出来坂ノ上が分断された為、大間々道以北のみを言うようになった。
カマ カイ ト 釜 谷 戸	釜 谷 戸	山田川（明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）に段丘が半円形にえぐられて出来た崖下にある集落。
ウシ カイ ト 牛 谷 戸	牛 谷 戸	天神山に牛乗り天神を祀ってある付近に出来た集落。

字	小 字	地名語源
ワ タ ^ク 和田	和田	ワ(曲)タ(処)の替字で山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 山田川)が半円状に曲がっている内側の区域。 後世語源が忘れられ、川の内側は和田道上・下になり仁田山道東側の経塚山西腹のみが、和田となり語源に関係のない和田となった。
ワ タ ^{ミチシタ} 和田道下	和田道下	和田の一部であった、山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 山田川)に囲まれた内側を中央の道で分けた下の区域。
ワ タ ^{ミチウエ} 和田道上	和田道上	和田の一部であった、山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 山田川)に囲まれた内側を中央の道で分けた ^{ウエ} 上の区域。
サイ カ ^ミ 塞神	塞 神	下仁田山村との境の道ばたに疫病・悪霊が入るのを防ぐために塞神を祀ってある区域。
ニイ ホ ^リ シタ 新堀下		下仁田山村新堀 ^{シタ} の下隣りの区域。
シマ 島	ニイ ホ ^リ 新 堀	新堀下の崖上にある伊賀屋敷(545番地)が東西100 ^{メートル} ・南北135 ^{メートル} にわたって土塁をめぐらしていたので、海に浮かんだ島のように見えたのでつけた地名。 明治9年地租改正の時、新堀下と島を併せて新堀とした区域。地名のついた頃は新堀下であったが、隣村の新堀用水の余水を村境の岩久保川に捨てているのに目を付け、岩久保川を崖下沿いに迂回させ新堀下の ^{シモ} 下で山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 山田川)へ流し、岩久保川の旧川床を埋めて隣村の新堀用水を新堀下迄延長して水田を作った為、新堀下でなく新堀になったので正しく新堀とした区域。
カミノ カ ^{イト} サ ^ワ 上ノ谷戸沢		岩久保から流れてくる上ノ谷戸沢の東側のうち上ノ谷戸と接する区域。
シマ ハタ 島 畑	カミノ カ ^{イト} マエ 上ノ谷戸前	畑は端の換字で島と上ノ谷戸沢の間の区域。 島(伊賀屋敷)の端の意。 上ノ谷戸の東側の区域。 明治9年地租改正の時、上ノ谷戸沢・島畑を併せて上ノ谷戸前とした区域。

字	小 字	地名語源
ツシ [°] 辻		仁田山道と和田道の交差点が本来の辻であるが、この辻は和田道北側、仁田山道東・西の区域。
	ヒカ [°] シ ツシ [°] 東 辻	明治9年地租改正の時、辻の東側を東辻とした区域。
	ニシ ツシ [°] 西 辻	明治9年地租改正の時、辻の西側を西辻とした区域。
ヒカ [°] シ シ [°] ユク 東 宿	東 宿	東辻の南側を言う。 宿とは昔、砦であった打手の隣りに発達した集落を言い、東・西宿、西宿地藏堂、東・西辻を併せた区域。
ニシ シ [°] ユク 西 宿	西 宿	西辻の南側を言ったが、水帳の頃は北側が西宿地藏堂として独立した為、南側の地区のみになった。
ニシシ [°] ユクシ [°] ソ [°] ウト [°] ウ 西宿地藏堂	西宿地藏堂	西宿北側の須永の地藏堂がある区域。
ウチ テ [°] 打 手	打 手	打出の替字で仁田山城の出城が、丸山にあった時の麓 ^{モト} の本屋敷のあった区域。
カミノ カ [°] イト 上ノ谷戸	上ノ谷戸	シ [°] モ 下の親集落から分家した人々がカ [°] ミに作った子集落。親集落がどこかは不明。
ウンショウシ [°] マエ 雲祥寺前		雲祥寺の前の区域。
オオ カワ サキ 大 川 先		湧出量が多くて井戸替が出来ない弘法大師御手洗いの三井戸、カ [°] ミ・ナカ [°] ・シ [°] モの内の中井のある区域。先は付近。
	雲祥寺前	明治9年地租改正の時、雲祥寺前・大川先を併せて雲祥寺前とした区域。
ミヤ マエ 宮 前	宮 前	淡島神社の前の区域。
カ ノ 狩 野	狩 野	刈野の替字で焼畑のある区域。
ハ [°] ハ [°] 馬 場	馬 場	狩野の崖下の区域。馬場は崩壊地名で崖をいう。
ワキアイ ノ タ 脇合ノ田	脇合ノ田	いくつもの湧水のある水田がある区域。

字	小 字	地名語源
ニシ ノ ネ 西 ノ 根	西 ノ 根	<p>西はニジ（躡）るの換字で崩壊。 三島の台地が崩壊して緩い傾斜をしている区域。</p>
ミ シマ 三 島	三 島	<p>三島神社を祀っているのでついた地名。三島神社は大正2年上ノ台に遷座した。</p>
ウエ ノ タイ 上 ノ 台	上 ノ 台	<p>琴平山麓の傾斜地。雲祥寺・三島神社がある。</p>
イワ ク ホ 岩 久 保		<p>沢の部分以外の山腹が岩石で出来ているくぼ。</p>
テラ ワキ 寺 脇		<p>岩久保の入口雲祥寺北隣りと岩久保川間の区域。</p>
	岩 久 保	<p>明治9年地租改正の時、岩久保・寺脇を併せて岩久保とした区域。</p>
ニシノ イリヒ ナタ 西ノ入日向		<p>西はニジ（滲）むの換字で湿地。 大量の湧水の出る湿地の沢だが、日当たりの良い区域。</p>
	イワク ホ ニシノイリ 岩久保西ノ入	<p>岩久保の山腹のうち大量の水が湧き出す湿地の沢の区域。 明治9年地租改正の時、岩久保西ノ入とした区域。</p>

高津戸村 (タカツドムラ) の内桐生市分

(川内町4丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 ^{アザ} の字による)
カチ ヤマ 勝 山	勝 山	梶山とも書く。砦山につける地名(戦勝にかける)。山の一方が急傾斜(崖)で一方がなだらかな山。攻め口が一つだけの地形の所に砦を作った。
シマ カ ^イ ト 島 谷 戸		もとは須永村でなにかの理由で高津戸村になった区域。尾根が半島状に突き出ているので島とした。島のような地形に集落の出来た区域。
マエ サカ 前 坂		石尊宮の前の須永村~大間々町線が坂になっている区域。
	島 谷 戸	明治9年地租改正の時、島谷戸と前坂の半分を併せて島谷戸とした区域。
		谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
ニシ ク ホ ^ク 西 久 保		高津戸村の東側にある久保。西はニジ(滲)むの換字で湧水のある湿地の沢で、現在も溜池がある。
	西 久 保	明治9年地租改正の時、西久保の山麓にある溜池の付近を西久保とした。
	ニシク ホ ^ク サ ^ワ 西久保沢	明治9年地租改正の時、西久保の山腹を西久保沢とした。
セ ^ン タ ^ナ 膳 棚	膳 棚	お膳をしまっておく、棚がいくつもついている箱のことから山麓が階段状になっている区域。
イン チョウ タ ^ク 一 丁 田	一 丁 田	地名のつく頃一丁程の水田のあった区域。
シモ ク ホ ^ク 下 久 保	下 久 保	渡良瀬川沿いの村で一番下にある低地。
えびすがい戸	エ ヒ ^ク ス カ ^イ ト 恵比寿谷戸	恵比は海老の替字で階段状の地形。寿は州の替字で場所。谷戸は集落地名。渡良瀬川のはたが階段状になっている付近にある集落。明治9年地租改正の時、漢字に替えた地名。現在は川内町4丁目と大間々町大字高津戸に分割されている。

字	小 字	地名語源
<p>オチ オチ 落 ヲ</p>	<p>落 ヲ</p> <p>オチオチク ホ 落々久保</p>	<p>落内。落打と書く所もある。崩壊地名。山麓が崩壊している区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、山麓（地名用語にあてはまる地形）のみを落々とした区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、落々の一部である岩久保山のくぼを落々久保として独立させた区域。</p>
<p>タカ カイ ト 高 谷 戸</p> <p>イ ノ マエ 亥 ノ 前</p>	<p>高 谷 戸</p> <p>タカカ イトノイ 高谷戸入</p>	<p>山麓（高い所）にある集落。 当時は後ろの高谷戸山迄含まれていた。</p> <p>亥は井の替字で水汲場。前は付近。 高谷戸川に設けた集落の水汲場のある区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、地名用語にあてはまる集落付近の高谷戸（山の部分は高谷戸入として独立した）と亥ノ前を併せて高谷戸とした区域。</p>
<p>アカ キ マエ 赤 城 前</p>	<p>赤 城 前</p>	<p>明治9年地租改正の時、高谷戸のうち高谷戸山の区域が高谷戸の奥の意の高谷戸入として独立した区域。</p> <p>鎮守赤城神社の区域。明治40年10月9日琴平宮に合祀して今はない。 現在は川内町4丁目と大間々町大字高津戸に分割されている。</p>
<p>ホリカ ク ホ 堀ヶ久保</p>	<p>堀ヶ久保</p>	<p>堀はハリ（墾）の転で開墾。 開墾地になっている山腹の傾斜地。</p>
<p>カシ ヤマ マエ 勝 山 前</p>	<p>勝 山 前</p>	<p>勝山の前（南側）渡良瀬川との間の小傾斜地。 僅か三筆の区域。</p>

オ オ マ マ
高津戸村 (タカツドムラ) の内大間々町分

字	小 字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 ^{アザ} の字による)
ト えびすがい戸	エ ヒ ^ニ ス カ ^ニ イト 恵比寿谷戸	<p>恵比は海老の換字で階段状の地形。 寿は州の換字で場所。谷戸は集落地名。 渡良瀬川のはたが階段状になっている付近にある集落。 明治9年地租改正の時、漢字に換えた区域。 現在は川内町4丁目と大間々町大字高津戸に分割されている。</p>
アカ キ ^ニ マエ 赤 城 前	赤 城 前	<p>鎮守^{アカキ}赤城神社の区域。 現在は川内町4丁目と大間々町大字高津戸に分割されている。</p>
サワ タ ^ニ 沢 田	沢 田	<p>沢はサワ(多)の換字。 渡良瀬川はたの傾斜地を利用して赤城沢の沢水で小さい水田を階段状に作っている区域。</p>
ヤマ ノ カミ 山 ノ 神	山 ノ 神	<p>祭りの間だけ権現山の^{アフ・リ}阿夫利神社から祭神大山祇命をお迎えし、御祭りを盛大にする神域(橋場)のある区域。</p>
ヨ マ ト ^ニ 四 間 戸		<p>ヨマド(四間堂)で二間四方の草庵で自音寺の前身の、最初のお堂のあった区域。</p>
タン タ ^ニ 反 田		<p>反は段の換字で階段状の水田のある区域。</p>
ニ タン タ ^ニ 二 反 田		<p>二反程の水田があった区域。</p>
ハ ^ニ ハ ^ニ 馬 場		<p>崩壊地名。青木前境の2^ニ程の崖上の区域。 小字境を金屑沢川が流れ、はたに弁天田がある。</p>
	ヤマノ カミマエ 山ノ神前	<p>明治9年地租改正の時、四間戸・反田・二反田・馬場を併せて山ノ神前とした区域。</p>
カキノ ケ ^ニ ト 柿ノ谷戸	柿ノ谷戸	<p>上と下が崖になっている所に集落のある区域。柿は欠の転。</p>
カミ ク ホ ^ニ 上 久 保		<p>渡良瀬川沿いの低地で、^{シキ}下に下久保がある。 同じ形態のくぼなので、^{カミ}上・^{シキ}下をつけたと思われる。</p>

字	小 字	地名語源
アサハ ^{ラカ} イト 浅原谷戸		渡良瀬川沿いのゆるい傾斜地に集落の出来た区域。
	上 久 保	明治9年地租改正の時、上久保・浅原谷戸を併せて上久保とした区域。
カワ ^ク ホ ^ク 川 久 保	川 久 保	もと渡良瀬川の川床だったので、川なりの細長いくぼのある区域。
オ ^キ マ ^エ 青 木 前		青木の前（南）に接する区域。
マチ ^ヤ 町 屋		舟場道のはたの村で一番大きい集落。
	青 木 前	明治9年地租改正の時、青木前・町屋を併せて青木前とした区域。
オ ^キ 青 木	青 木	アフ（仰）きの転で崩壊地名。 要害山の山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地。
ツウ ^ト 通 度		津渡の替字で渡場地名。大間々村との間を舟渡しする付近。 後世通度の意味がわからなくなり、舟付場のみを舟場（907番地）と言うようになった。
ママ ^{シタ} 儘 下		ママシタ（間々下）とも書き崖下の意。 集落のある台地崖下の区域。
	通 度	明治9年地租改正の時、通度・儘下を併せて通度とした区域。
イワ ^{サキ} 岩 崎	岩 崎	要害山の岩の尾根の先端下の区域。
ヤマ ^{キワ} 山 際	山 際	権現山の山麓に墓地のある区域。
ヤン ^{ハタケ} 山 畑		権現山と要害山に挟まれた傾斜地に焼畑のある区域。
ヤマ ^タ 山 田		金屑沢沿いに階段状に沢水を利用した僅かの水田のある区域。
	山 畑	明治9年地租改正の時、山畑・山田を併せて山畑とした区域。

字	小 字	地名語源
トノ 殿	イリ 入	<p>殿入山と高谷戸山の間にある棚状の（階段状）傾斜地。殿は棚の転。当時は権現山も含まれていた。</p>
	ゴン ケン ヤマ 権 現 山	<p>明治9年地租改正の時、殿入の一部であった殿入山の先端が権現山として独立した区域。 山の神石尊^{セキソン}権現（阿夫利社）を東腹に祀ってある山。</p>
	殿 入	<p>明治9年地租改正の時、山の部分が権現山として独立し、地名用語通りのくぼの部分を殿入とした区域。</p>
トノ イリ ミネ 殿 入 峯		<p>殿入山の先端を除いた東側の山腹。 殿入峯と全体をさしているが実際は一部である。</p>
	トノ イリ ニシ 殿 入 西	<p>殿入の久保の部分から見て西側の山腹という意である。 明治9年地租改正の時、殿入峯を殿入西とした区域。</p>
カナ 金	クス ^ク 屑	<p>現金屑と岩ノ下を併せた区域。 金屑沢川の両岸を含む区域。 製鉄の時、金屑と呼ばれるくずが出るが、それが今でも見つかる区域。</p>
	イワ ノ シタ 岩 ノ 下	<p>もと金屑の一部で山頂付近に大岩壁のある所が、明治9年地租改正の時、岩ノ下として独立した区域。</p>
	金 屑	<p>明治9年地租改正の時、岩ノ下を除いた区域を金屑とした。</p>
エントウヒラ		<p>円処平で丸く囲まれている傾斜のゆるい山腹のくぼ。</p>
	フクロ ク ホ ^ホ 袋 久 保	<p>入口が狭く囲まれている山腹のくぼ。 明治9年地租改正の時、エントウヒラを袋久保とした区域。</p>
ヨウ 要	カ ^カ イ 害	<p>要害山の略。寛治2年（1088）山田氏が砦を築いて後呼ばれた。後世琴平社を祀ってから琴平山とも呼ばれた。</p>
カワ 川	モ 面	<p>要害山北西の緩い傾斜の山腹が渡良瀬川に面している区域。</p>

字	小 字	地名語源
トウ サイ 東 西 カミ カワ モ 上 川 面	東 西 ナシノ キ イリ 梨ノ木入	<p>尾根が東西に延びている山。</p> <p>川面の上隣りに同じ形の山腹があり且つ渡良瀬川に面しているのでついた地名。</p> <p>梨はナラ（平）しの略で傾斜地。緩い傾斜の山腹が続いている区域。明治9年地租改正の時、上川面を梨ノ木入に変えた区域。地形を考えた正しい改名。</p>
ウリ ク ホ 瓜 久 保	瓜 久 保	<p>瓜はウル（潤）うの転で湿地。奥に湧水池のある湿地のくぼ。日陰のくぼなので明治期で人家はなくなった。</p>

下仁田山村 (シモニタヤマムラ)

(川内町5丁目第1町会)

字	小字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 ^{アザ} の字による)
ニイ 新	ホリ 堀	新堀区域に水田を作るため山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川)より新しく用水をひいた区域。
トン 鳥	ノミ ノ海	取ノ廻の替字。取は切り取られたような地形。廻は場所。山腹が崩壊してゆるく広い傾斜地が出来た所。現行鳥ノ海内の南の区域
トウ 東	コウシ 光寺	東光寺のある付近。東光寺は江戸期に廃寺となり代わりに薬師堂が戦後迄あったが、現在は観音寺に移転している。現行鳥ノ海内の北の区域。
	鳥ノ海	明治9年地租改正の時、鳥ノ海・東光寺を併せて鳥ノ海とした区域。
ク 久	ホ 保	山田川(明治9年迄仁田山川)右岸川沿いの低地。
ツカ 塚	コシ 越	表面に4・5寸の石を並べてある葺石古墳のある区域。
	ミナミ 南	葺石古墳の南側の区域。
	塚越	明治9年地租改正の時、塚越・南を併せて塚越とした区域。
イワ 岩	クホ 久保	須永村岩久保の北側のくぼ。岩で出来ている山腹のくぼ。
クワ 鋤	エサ 柄沢	鋤はクエ(崩)の転で崩壊。エは上 ^{ウエ} の略。丸山側の沢で山腹の上部が崩壊して急傾斜している沢。
	岩久保	明治9年地租改正の時、岩久保・鋤柄沢を併せて岩久保とした区域。
マル 丸	ヤマ 山	出丸山の略で砦のあった山。標高269 ^ル 。山頂に須永村と高津戸村の石尊社が祀ってある。
スワノ 諏訪ノ	イリ 入	諏訪神社を祀ってある所から奥へ入っている水のない沢。神社は明治40年11月4日八幡宮へ合祀した。祭り場は須永村は小字関堀灯籠ノ根、高津戸村は小字島谷戸で祭りの時は山頂に迎えに来る。

字	小 字	地名語源
カミ ノ ヤマ 上 ノ 山	諏訪ノ入	<p>上は神の換字で、天神山の続きの山で神明宮を祀っている山。神明宮は明治40年11月4日八幡宮へ合祀した。社殿は高津戸村鎮守要害神社の社殿に利用した。</p> <p>明治9年地租改正の時、諏訪ノ入・上ノ山を併せて諏訪ノ入とした区域。</p>
タカ ハタ 高 畑	高 畑	丸山東南山麓の緩い傾斜地にある耕地。
ナカ ミチ 中 道	ナカ ミチ ヒカシ 中 道 東	<p>承応年間石原氏が諏訪ノ入南側の山麓に氏寺^{シヨウコクサン} 松石山 安養院^{ジヨウゼンジ} 常泉寺 を建立した参道区域。山側・仁田山川^{ニタヤマ}沿いの道の間に参道を作ったのが中道といわれた。</p> <p>常泉寺の参道の東側の区域。 明治9年地租改正の時、中道を正しい中道東に替えた地名。</p>
サ ^ル カ ^{イト} 筧 谷 戸	筧 谷 戸	礫砂であるため、筧のように水が滲透する区域にある集落。土を入れ替えなければ水田が出来ない区域。谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ケ谷戸が本字。ガイトがガイトに変化した。
オオ カ ^{イト} 大 谷 戸	大 谷 戸	大はアフ（仰）ぐの語幹で崩壊地名。諏訪ノ入の後ろの山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地に、出来た集落。
マ マ ク ホ ^ク 間々久保	間々久保	山腹の崩壊で埋まって出来た久保。間々は崩壊地名。
マカ ^リ マ マ 曲り間々	曲り間々	山田川（明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）に削られて川になり曲がっている崖。
テンシ ^ン オ ネ 天神尾根	天神尾根	山頂に天満宮が祀ってある尾根。
ト ^ウ インカ ^{イト} 堂院谷戸	堂院谷戸	観音寺前身のお堂の付近にある集落。
ト ノ イリ 頓 ノ 入	頓 ノ 入	<p>頓^トはトビ（飛）の転で崩壊地名。 山腹の崩壊で広い傾斜地の出来ているくぼ。</p> <p>くぼ口から南へ入る熊野社を祀ってある沢。</p> <p>明治9年地租改正の時、頓ノ入・熊ノ沢を併せて頓ノ入とした区域。</p>
クマ ノ サワ 熊 ノ 沢	熊 ノ 沢	

字	小 字	地名語源
イッ チョウ タ 一 丁 田	一 丁 田	地名のつく頃、一丁程の水田のあった区域。
ミヤ カ ^ニ イ ト 宮 谷 戸		アカキ ^ニ 赤城神社を祀ってある付近にある集落。 神社は明治40年12月21日白滝 ^{シラタキ} 神社に合祀した。
ウエノ ク ホ ^ニ 上ノ久保		宮谷戸の上で間々久保側の山腹の久保。 廃寺 玉蔵 ^{キヨクヅウ} 院・村の火葬場があった。
	宮 谷 戸	明治9年地租改正の時、宮谷戸・上ノ久保を併せて宮谷戸とした区域。
ハラ 原	原	原はハラ（開）の替字で開墾地。 山腹の崩壊で出来た傾斜地を開墾した区域。
ウシカ ^ニ ク ホ ^ニ 牛ヶ久保	牛ヶ久保	牛は縁（フチ）の転。 山腹の崩壊で出来た傾斜の緩いくぼが金屑川の縁まで続いているのでついた地名。
アラ イ 新 井	新 井	地名のついた頃は付近で新しく出来た集落。
ムキ ^ニ ヨウコウシ ^ニ 麦生小路		麦はムキ（剥）の換字で崩壊地名。生は…の所の地名用語。 小路はコウジ（越路）の替字で峠道。 土砂崩れの起こる山腹の下を、桜峠へ行く峠道の通っている付近。
サクラ トウケ ^ニ 桜 峠		桜はサ（狭）クラ（鞍）の替字で鞍部。 狭い鞍部（尾根のくぼんでいる所）を小平村谷田へ通ずる峠道に通っている付近。
イシ 石 ザ ク		琴平山の西側赤柴山脈の岩石まじりの山腹が、度々土砂崩れを起こす付近。地元ではザレ山（土砂崩れを度々おこす山）という。ザクは崩壊地名。
ジヤ アナ 蛇 穴		蛇の付く地名は大蛇が山腹から、はい出る時に大崩壊を起こすという伝承からついた。大蛇が山腹に大崩壊を起こしたという伝承のある付近。
ナカ オ ネ 中 尾 根		麦生小路と岩ノ下の尾根の間にある尾根。

字	小 字	地名語源
イワ 岩	ノ 下	昔、石灰岩を採掘した岩山の下の付近。
タケ 竹	ノ 下	中尾根の前へ突出している尾根の北側崖下の付近。
マツ 松	テ 出	^{マツリダ} 祭田の転で琴平山付近にある琴平社のお祭りの費用に当てる為、氏子が交替で耕す水田のある付近。
ヨシ 吉	ノ 入	葦は悪しに通ずるので吉の字を用いた。 西側最初の葦の生えている湿地の沢。
ミナミ 南	カ ^マ 又	西側二つ目の奥が二又に別れている南へ入っているくぼ。
	麦生小路	明治9年地租改正の時、麦生小路・桜峠・石ザク・蛇穴・中尾根・岩ノ下・竹ノ下・南ヶ又・松出・吉ノ入を併せて麦生小路とした区域。
ヨコ 横	ミチ 道	横は東西。横山の山麓に沿って東西に通っている道の付近。
サラ 皿	ク ホ ^ク 久 保	皿の形をした緩い傾斜の久保。
ステ 捨	ハ ^ク サ ^ク ワ 場 沢	皿久保の奥から右へはいる死馬を捨てる沢。
	皿 久 保	明治9年地租改正の時、皿久保・捨場沢を併せて皿久保とした区域。
ヤマ 山	ク ホ ^ク 久 保	山は寺（ ^{ルリコウジ} 瑠璃光寺）。雷電山の南腹に瑠璃光寺のあるくぼ。今寺はないが地藏堂がある。管理は観音寺がしている。
ハチ 八	マン グ ^ク イラ 幡 平	八幡宮を祀ってある傾斜地。
マ 間	マ ネ 々 根	山久保の崖下の傾斜地。
サカ ^ク 下	り	八幡平の崖下で山田川(明治9年迄は仁田山川)迄続いている傾斜地。
ク ネンカ ^ク イト 九年谷戸		^{カナクズ} 金屑 沢川が曲流している左岸にある集落。 九年はくねりの転。
	八 幡 平	明治9年地租改正の時、八幡平・間々根・下り・九年谷戸を併せて八幡平とした区域。

字	小 字	地名語源
ミ ヤマ 深山		北を向いて日の当たらない急傾斜の山腹。
ムカイ 向		深山の下、山田川左岸の小平地。 下日向の山田川（明治初年迄仁田山川）対岸にあり、下日向地区の分家が川向こうに出たので向と称した。 今は山田川を北に移したので下日向と地続きになった。
	深山	明治9年地租改正の時、深山・向を併せて深山とした区域。
シタ ヒ ナタ 下日向	下日向	日向の旧道を境に上・下にわけた下の区域。旧道下の日当たりの良い区域。日向の旧道を境に上・下に分けた上の区域
ウエ ヒ ナタ 上日向		旧道上の日当たりの良い区域。
モリ ワキ 森脇		森は八幡宮の森。八幡宮の北隣りの区域。
	上日向	明治9年地租改正の時、上日向・森脇を併せて上日向とした区域。
ヤツ 谷	谷	雷電山（谷山）東腹にあるくぼ。
サカイ カミ 境上		上は神の替字。境は村境の意。 下・中仁田山村境にサエ（塞）の神を祀り、他村より邪霊・悪病の侵入を防いだ区域。
シツ シン シ 室新寺		どこにあったか、どうよむかも不明の寺。
	境上	明治9年地租改正の時、境上・室新寺を併せて境上とした区域。
ハナ カハラ 花柄		花は鼻の替字。ガラはガレの転。花柄山の略。 尾根の先端が崩壊して岩石がごろごろしている区域。
シモ カハラ 下河原		花柄山の崖下の河原。今は山田川（明治9年迄仁田山川）の流路が左に変わったので右岸に少し残っている。
	花柄	明治9年地租改正の時、花柄・下河原を併せて花柄とした区域。

中仁田山村 (ナカニタヤマムラ)

(川内町5丁目第2町会)

字	小 字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 <small>アザ</small> の字による)
ムロ 室 ノ 手	室 ノ 手	手は絶(タエ)の転で崩壊地名。まわりを囲まれている形をした山腹のくぼの崩壊で傾斜地となり耕地にしている所
ムカイ 向 田		坂ノ下の山田川(明治9年迄仁田山川)対岸にある水田。名久木村川向より名久木川の水を取水して開田した区域。
ケン 玄 光 庵		向田の後の玄光庵のあるくぼ。玄光庵は衆妙山玄光寺と言ひ、天保時代に焼け再建出来なかった。廃寺になってから玄光庵と言われた。
	向 田	明治9年地租改正の時、向田・玄光庵を併せて向田とした区域。
コシ 腰 卷	腰 卷	もとは名久木川が、数10 <small>ト</small> 上(戦後河川改修で現在地に変えた)で山田川(明治9年迄仁田山川)へ合流していたので山田川と名久木川とで尾根の先端を巻いた形(腰巻形)を形成していたのでつけた地名。
カシラ 柏 倉	柏 倉	宮城村の柏倉神社を鎮守として勧請してつけた地名。神社は明治40年12月21日白滝神社へ合祀。現在は宝徳寺境内に遷座してある。
サカ 坂 ノ 下	坂 ノ 下	名久木道が下り坂になっている下山田川迄の傾斜地。
アイ 間 ノ 田	オオ ミチ ヒカシ 大 道 東	山田川が流路を変えたので旧川床を水田にした区域。 明治9年地租改正の時、上・中・下仁田山村・名久木村が合併し、上仁田山村に相ノ田があるので間ノ田を仁田山道の東側と言う意の大道東に換えた区域。
ニシ 西 ノ 入		雷電山(谷山)の山腹へ西へ向かって入っているくぼ。
ハン 番 場		西ノ入の入口南側の急傾斜の山腹。
シユク 宿		打出(中世の砦地名)の隣りに出来た集落につける地名。
オオ 大 下		オクマンシタ(御熊下)の略。 中仁田山村境の山麓に熊野社が祀ってある村境の平地。
	オオ ミチ ニシ 大 道 西	明治9年地租改正の時、西ノ入・番場・宿・大下を併せて大道西(仁田山道の西側)とした区域。

字	小 字	地名語源
ウチ 打	テ 出	本城のまわりに築いたデジロ（出城）を言う中世の砦地名。砦のあった区域。
	ナカ 中	ミチ 通 宝徳寺の参道付近。参道付近に集落が出来るとつく地名。明治9年地租改正の時、打出を中道に換えた区域。
ク ホ ^ニ タ 久 保 田	久 保 田	宮ノ沢川の右岸が低地になっている付近。
ナシノ キ イリ 梨ノ木入		梨はナラ（平）しの略で緩い傾斜地。緩い傾斜のくぼ。
イチ ノ サツ 一 ノ 沢		宮ノ沢に入って左側で最初の沢。
	一 ノ 沢	明治9年地租改正の時、梨ノ木・一ノ沢を併せて一ノ沢とした区域。
ウメノ キ ク ホ ^ニ 梅ノ木久保	梅ノ木久保	梅は埋の替字。木は場所。山腹の土砂崩れで埋まって出来た傾斜地をいう。
キタ ノ イリ 北 ノ 入	北 ノ 入	宮ノ沢の奥から北に入っているくぼ。
ミヤ ハラ 宮 原		原は開の替字で開墾地。宮は宮ノ沢の略。宮ノ沢の入口北側の山腹にある開墾地。
	ミヤ ノ ハラ 宮 ノ 原	明治9年地租改正の時、宮原を宮ノ原に換えた区域。

上仁田山村 (カミニタヤマムラ)

(川内町5丁目第3町会)

字	小 字	地名語源 (寛文8年(1668)の水帳 ^{アザ} の字による)
アラ 新	イ 井	地名のついた時は付近で新しく出来た集落。 水のない所なので隣の沢入の沢水を利用している。
サワ 沢	イリ 入	傾斜が緩やかで焼畑のあるくぼ。住居址あり。 ソウリと言い焼畑用語。本来の読みの意味が不明となりサワ イリと言うようになった。
コ ^タ 五	タ ^タ 反	明治9年地租改正の時、新井・沢入を併せて新井とした区域。 地名のついた頃は、五反程の水田のあった区域。
ユ ^キ ゆ	ノ 北	ゆは山田川(明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川)から相ノ田で取水して いる用水。相ノ田用水の北側の区域。
ハ ^セ 馬瀬	ケ ^カ ヶ	明治9年地租改正の時、五反田・ゆの北を併せて五反田とした区域。
イ ^ノ 相	ノ 田	馬瀬は間狭の替字。谷戸は集落地名。二つの尾根に挟まれた 狭いくぼに出来た集落。谷戸は谷口をいう地名であったが、地 形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変 化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸 が本字。ガヤトがガイトに変化した。(馬瀬)間狭は狭間の反対 語。
マ ^ノ 馬瀬	ケ ^カ ヶ	山田川(明治9年迄仁田山川)の流路が変わったので、旧 川床を水田にした区域。
マ ^ノ 馬瀬	ケ ^カ ヶ	明治9年地租改正の時、馬瀬ヶ谷戸・相ノ田を併せて馬瀬 ヶ谷戸とした区域。
ゴ ^ノ ゴ	ノ 貝	ゴはウシロ(後)で仁田山城の麓屋敷の後(北隣り)に出来た集落。 貝戸は谷戸の替字で集落地名。近くに小ヶ谷戸があるので字 を替えた。
サン 三	ホ ^ウ 本	三本木山の略。山頂が三つの方向に分かれている山。
オ ^フ オフ	キ ^キ 畑	オフキはアフ(仰)ぎの転で崩壊地名。 畑は端の替字で付近。石尊山の山腹が崩壊している区域。
	ト ^ク 栃	栃はトジ(閉)の転。入口が狭くなっていて入口からは見え ない位置にある大きいくぼ。明治9年地租改正の時、ご貝戸・ 三本木・おふき畑を併せて栃久保とした区域。
	ホ ^ク 保	

字	小 字	地名語源
ニ タン タ 式 反 田		地名の付く頃は二反程の水田しかなかった区域。 後世、用水ができ、水田がふえている。
ミヨウシン マエ 明 神 前		鎮守 ^{アカキ} 赤城神社の前の区域。
コ カ イト 小ヶ谷戸	式 反 田	明治9年地租改正の時、式反田・明神前を併せて式反田とした区域。
シヤ アナ 蛇 穴		小は子の替字。付近の親集落から分家した人々が作った子集落。親集落は不明。
	小ヶ谷戸	蛇が付く地名は大きな崩壊を起こした山腹。 小ヶ谷戸のうしろの大きな崩壊を起こした山腹。 蛇穴の崩壊で小ヶ谷戸の傾斜地が出来た。
ホウカ イト 坊ヶ谷戸		明治9年地租改正の時、小ヶ谷戸・蛇穴を併せて小ヶ谷戸とした区域。
	坊ヶ谷戸	コリンサンチョウトクジ 古林山長徳寺の付近。谷戸は集落地名。坊は寺院をいう。 長徳寺の付近に出来た集落。長徳寺は赤城神社の上 ^{カミ} 隣りにあった。
ミヤ マエ 宮 前		鎮守赤城神社のある区域。
ハ む し 場		むしはムシ（蛇）るの語幹で崩壊。 現在は誤伝して橋場という。 駒見沢よりの山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地。
	ホウカ イト 棒ヶ谷戸	明治9年地租改正の時、坊ヶ谷戸・宮前・むし場を併せて坊を棒に換えただけの棒ヶ谷戸とした区域。
コ マ ミ 小 満 見		小はコウ（高）の略。 マミはママ（間々）と同じで崩壊。小満見山の略。 山の上部が土砂崩れしている山。
かのくぼ		かのは焼畑地名。焼畑のある山腹のくぼ。 山ノ神向 ^{ウエ} の上のくぼ。
ハラ 原		原はハラ（開）の換字で開墾地。 山田川（明治9年迄仁田山川）沿い迄 ^{ニタヤマ} 続いている傾斜地を開墾した区域。

字	小 字	地名語源
ヤマ ノ カミ 山 ノ 神		駒見川の左岸に山ノ神を祀ってある付近。
ヤマノ カミムカイ 山ノ神向		山ノ神の川向から入っている駒見川右岸で最初のくぼ。
タカ ハタ 高 畑		駒見山七合目付近にある焼畑。
シン ハヤシ 新 林		山ノ神の北側山腹を焼いて植林した付近。
	コマ ミ 駒 見	明治9年地租改正の時、小満見・かのくぼ・原・山ノ神・山ノ神向・高畑・新林を併せて駒見とした区域。
ヤマ な し 山		なしはナシ（擦）るの語幹で崩壊。 山腹の崩壊している山。
	カマス カイト 釜須ヶ谷戸	釜はカム（傾）くの転で急傾斜。ス（須）はス（州）の替字で場所。急傾斜している山腹の下にある集落。 明治9年地租改正の時、なし山を釜須ヶ谷戸にした区域。
トウ ハ 堂 場	堂 場	阿弥陀堂のある区域。現在は堂のあったことすら知られていない。堂は阿弥陀堂の略。
ハシ ツメ 橋 詰		山田川（明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）右岸が崖で行き止まりになっている区域。橋は端の換字。
ムカイ かむし向		^{カムシ} 鴨押の山田川（明治9年迄仁田山川）を挟んで向き合う位置にある山腹のくぼ。
ウマ 馬さくり		馬を運搬用に使うため山道がひづめに削られて溝のようになっている区域。
	タキ ノ イリ 滝 ノ 入	滝のある所から入っているくぼ。昔は集落があった。 明治9年地租改正の時、橋詰・かむし向・馬さくりを併せて滝ノ入とした区域。
アカ ツチ 赤 地	赤 地	アカ（散）つの替字で崩壊。赤地山の略。 山腹が土砂崩れしている山。その結果傾斜地が出来、集落も出来るようになった。
シモ クホ 下くるみ久保		^{カミ} 上にくるみ久保がある為 ^{シモ} に下をつけた。 入口から曲がっていて外から見えない、まわりを囲まれた形をしている山腹のくぼ。

字	小 字	地名語源
<small>カキノ キ イリ</small> 柿ノ木入		柿はカケ（欠）の転で崩壊。 南側の斜面が土砂崩れで急傾斜しているくぼ。
<small>フキ アケ</small> 吹 上	吹 上	風が東側（山田川左岸、明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）の山腹に当たり返し風が吹上げる区域。 明治9年地租改正の時、下くるみ久保・柿ノ木入・吹上を併せて吹上とした区域。
<small>ク ホ</small> うつら久保		うつらはウツロの転で細長い入口が狭く囲まれている形の山腹のくぼ。2699～2726番地。
<small>ウメカ ク ホ</small> 梅ヶ久保		平久保入口にあり、うつら久保に含まれているくぼ。 山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地のあるくぼ。 梅は埋の替字。
<small>オオ ムカイ</small> 大ならぎ向	<small>ミ ツ フチ</small> 三 ツ 淵	大奈良木の集落の対岸（山田川右岸、明治9年迄仁田山川）の山腹。2699～2712番地。
		山田川（明治9年迄仁田山川）が三つ続いて淵を作っている区域。 淵には弁天宮・鷲の宮が祀ってある。三つの淵とも現在は埋まってない。 明治9年地租改正の時、うつら久保・梅ヶ久保・大ならぎ向を併せて三ツ淵とした区域。
<small>ヒラ ク ホ</small> 平 久 保		緩い傾斜地のあるくぼ。その結果江戸期に4軒、今も3軒の人家がある。
<small>イシツクリ</small> から石作	平 久 保	からはかれ（枯）の転で水の流れていないこと。 ツクリはサクが正しい読みで畑のさくを切る意から浅いくぼ。 岩石で埋まっていて普段水の流れていない浅いくぼ。 渋柿のような鉱泉が湧出し、昔は湯小屋があった。
<small>コマ カクタ</small> 駒 方		明治9年地租改正の時、平久保・から石作を併せて平久保とした区域。 馬頭観音を祀ってある山頂に大岩のいくつもある駒方山区域。

字	小 字	地名語源
シタ 下	イワ 岩	奥宮の大岩のある駒方山の山麓にある集落。
ヤマ 山	ノ カミ ノ 神	平久保の入口に十二山ノ神の里宮を祀ってある付近。
コ 小くなぎ	コマ 駒	カミ 形 明治9年地租改正の時、駒方・下岩・山ノ神を併せて駒形とした区域。
サル 猿	イワ 岩	山田川（明治9年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）と広土川に挟まれた尾根の東側の曲がっている山腹。 くناهくねるの転で曲がる意。ぎは場所を示す接尾語。
ヒロ 広	ト 土	小くなぎの対岸、広土川左岸の猿でも登れないと言われる垂直の岩壁。 広土川左岸の赤柴で一番広い（30町歩程）傾斜地で耕地になっている区域。
ホソ 細	ク ホ 久 保	山田川（明治9年迄仁田山川）右岸から入って直角に右へ曲がっている細長いくぼ。
ソリ 反	テ サ 手 沢	反は曲がる意。手は場所。 細久保の上隣り、入ってすぐ左へ曲がっている沢。
シロタケ 白竹くぼ		反手沢の上隣り。白はシロムの語幹で狭い意。 竹は崖の意。入口から狭く崖のある急傾斜しているくぼ。
オキ 萩	ノ ク ホ 久 保	白竹くぼの上隣り。ハギ（萩）の替字でハグ（剥）の転で崩壊。山腹の崩壊により急傾斜しているくぼ。 奥は広くなり、白竹くぼへ行く七曲りの峠道がある。
シロ 白	ワラビ サ 蕨 沢	萩ノ久保の上隣り。白はシオの転でしばむ意。 蕨はワレ（割）の転で崩壊。ビは所を示す語。 狭くて小さい土砂崩れして傾斜地の出来ている沢。
ユ 湯	コ ヤ 小 屋	白蕨沢の対岸の沢。 渋柿のような鉱泉が湧出し湯小屋（赤柴鉱泉宿）のあった沢。
タル 樽	カ サ ケ 沢	白蕨沢の上隣りで7町歩程の広さ。 樽はタル（垂）の替字で滝。沢奥の岩の上から滝が落ちている急傾斜の沢。

字	小 字	地名語源
イ ワ ン テ 岩 出		樽ヶ沢 ^{カミ} の上隣り。小さいくぼ。 くぼの正面に山腹から突出している大岩のあるくぼ。
クヌキ ^サ サワ 柵 沢		クヌはクネ（曲）の転。ギは場所。 岩出 ^{カミ} の上隣り。曲がっている沢。
シ ^マ いも地かま		柵沢 ^{カミ} の上隣りのくぼ。 鋳物師が竈を据えつけた仕事場のあるくぼ。
ク ホ ^マ くるみ久保		いも地かま ^{カミ} の上隣り。 入口が狭くて行き止まりの囲まれた形をした山腹のくぼ。
ホソ カ ^ヤ 細 萱		くるみ久保 ^{カミ} の上隣り。赤柴で一番奥の久保。 地元では萱場と言ひ、集落の屋根の葺き換えに用いる萱をつ くっている共有地。
ハ ^マ あかし葉		あかしはアカ（散）つの転で崩壊。葉は場の替字。あかし葉 山の略。山腹が崩壊している山。標高 720 ^{メートル} の山と山田郡誌が 書いているが特定できない。
せいだし		背 ^セ （後）出しで、名主の屋敷の後ろの山腹が崩壊して土砂 が押し出て傾斜地になった区域。
ヤ シキ ムカ ^イ 屋 敷 向		名主の屋敷（せいだし）の対岸長久保山の山麓、山田川 （明治 9 年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）沿いの小平地。
	アカ 赤	シハ ^マ 柴 明治 9 年地租改正の時、小くなぎ・猿岩・広土・細久保・ 反手沢・白竹くぼ・萩ノ久保・白蕨沢・湯小屋・樽ヶ沢・岩 出・柵沢・いも地かま・くるみ久保・細萱・あかし葉・せい だし・屋敷向を併せて赤柴とした区域。
カサ サ ^ワ 傘ノせと沢		傘は上 ^{カミ} の意。せとは瀬戸で狭い谷。 奥が狭くなっている沢。
ヒ ク ^ラ サ ^ワ 日 暗 沢		山田川（明治 9 年迄 ^{ニタヤマ} 仁田山川）と広土川の合流口から東へ はひり、北を向いている日のあたらない山腹。
ユ フ ^ネ 湯 船		駒形の集落前から入る山田川（明治 9 年迄 ^{ニタヤマ} は仁田山川）左岸の 入口が狭く両側がせまって風呂の形をしている沢。

字	小 字	地名語源
シモ ユ フネ 下 湯 船	湯 船	<p>湯船沢の入口、山田川（明治9年迄仁田山川^{ニタヤマ}）左岸の小傾斜地。</p> <p>明治9年地租改正の時、傘ノせと沢・日暗沢・湯船・下湯船を併せて湯船とした区域。</p>
オオナ ラ キ 大奈良木		<p>大はアフ（仰）ぐの転で崩壊。奈良はナラ（平）すの語幹で埋まって出来た傾斜地。山田川（明治9年迄仁田山川）左岸沿いにある山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地。</p>
タキ ノ サワ 瀧 ノ 沢		<p>沢水が三ツ淵の上の岩壁から滝になって落ちている沢。</p>
タ イ チ ノ ク ホ たひちノ久保		<p>たひちは台地のかな書きで傾斜地。山腹の崩壊で久保口に傾斜地の出来たくぼ。</p>
カワ ハタ 川 端	瀧 ノ 沢	<p>山田川（明治初年迄仁田山川）左岸に集落の水場がある区域。</p>
カム シ 鴨 押		<p>明治9年地租改正の時、滝ノ沢・たひちノ久保・川端を併せて滝ノ沢とした区域。</p> <p>鴨はカム（傾）くの語幹。シは下^{シタ}の下略。急傾斜している山腹の下の区域。</p>
マエ あみだ前		<p>阿弥陀堂（堂場）の山田川（明治9年迄仁田山川）対岸（左岸）区域。</p>
ヤマ ネ 山 根		<p>鴨押の山麓に神社が祀ってある区域。現在神社があったことすら不明である。</p>
タ ハタ 田 端		<p>田はタナ（棚）の略で山田川（明治9年迄仁田山川）左岸沿いの台地。</p>
キタノクホ 北ノ久保		<p>滝ノ沢境の北を向いている山腹のくぼ。</p>
キタ ノ マエ 北 ノ 前	鴨 押	<p>北ノ久保前の山田川（明治9年迄仁田山川）左岸沿いの傾斜地。</p>
ハタ かむし畑		<p>明治9年地租改正の時、鴨押・あみだ前・山根・田端・北ノ久保・北ノ前を併せて、鴨押とした区域。</p> <p>かむしと田中に挟まれている山田川（明治9年迄仁田山川）左岸の小平地。畑は端の替字。</p>

字	小 字	地名語源
ミネ イワ 峰 岩 ナカ ^カ ミネ 長 峰 クロ ^ン タ 黒 新 田		<p>山頂に大岩のある尾根。</p> <p>尾根が長い山。</p> <p>黒はクロ（畔）の替字で田と田の境に土を盛り上げた所から尾根の意。ニタ（新田）はヌタ（沼処）の転で清水の湧いている湿地で猪・鹿などが体に泥を塗るために利用している仁田場の意。</p> <p>山腹に猪・鹿などが虫よけに体に泥を塗るために利用している仁田場のある区域。</p>
カミ ノ ヤマ 上 ノ 山		<p>上は神の替字で、神社を祀ってある山。</p>
あさかの		<p>あさは浅で緩い傾斜地。かのは刈野で焼畑。山腹の緩い傾斜地にある焼畑。あさかのは各地にある代表的焼畑地名である。</p>
キク ^ホ なしノ木久保		<p>なしはナラ（平）しの転で緩い傾斜地。緩い傾斜地のある山腹のくぼ。</p>
サワ よしノ沢		<p>葦は悪しに通ずるのでよしの字を用いた。あしの生えている湿地の沢で、自然のわさびも生えており、わさび田を作ったこともあった。</p>
アナ もりノ穴		<p>入口に山神社を祀ってある行き止まりの小さいくぼ。森は神社。</p>
クマノ ク ^ホ 熊ノ久保		<p>熊野神社を祀ってあるくぼ。</p>
しりなし		<p>入口の狭い行き止まりの山腹のくぼ。捨場とも言い死馬の捨場のあったくぼ。</p>
イシアナノ ク ^ホ 石穴ノ久保		<p>岩壁で入口の狭くなったまわりを囲まれている小さい山腹のくぼ。</p>
さらくぼ		<p>皿の形をした浅いくぼ。</p>
サ ^ワ くるみ沢		<p>入口が狭くまわりを囲まれた行き止まりの沢。</p>
ト ^ウ ウロクシ ^ン ムカイ 道六神向	ヒラ 平 イシ 石	<p>道陸神（道祖神）を祀ってある道六神坂から対岸へ入っているくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、かむし畑・峰岩・長峰・黒新田・上ノ山・あさかの・なしノ木久保・よしノ沢・もりノ穴・熊ノ久保・しりなし・石穴ノ久保・さらくぼ・くるみ沢・道六神向を併せて平石とした区域。平石は峰岩のこと。</p>

字	小 字	地名語源
コシ 越 ま き		こいじ（越路）の西側の山麓を沢水が半円状に流れている付近。
オ タ ^{ヒラ} イラ 大 平		扇 ^{オヒラ} 平の替字で山腹が扇を広げた形で緩い傾斜をしている区域。普通はオーヒラと読む地名用語。
オ タ ^{ヒラ} イラ マエ 大 平 前		大平神社のある区域。
こ い じ		こいじは越路と書き峠道。 名久木村大崩へ通ずる峠道の区域。
モリ 森 わ き		大平神社を祀ってある平石よりの区域。森は神社の森。 せきは田中へ引く用水の取水堰。
ミチ シタ 道 下		仁田山道の西側山田川迄の区域。
ウエ せきノ上		平石沢川のせき上の区域。せきは田中へ引く用水の取水堰。
シタ せきノ下		平石沢川のせき下の区域。
ヒ ロ ト ^ト ひ ろ と		現行田中の平地の広い区域。
オオ ク ホ ^ホ 大 久 保		大平の南側を東へ入っている大きいくぼ。
	タ 田 ナカ 中	水田の中に家のある区域。家は桑原家。 明治9年地租改正の時、越まき・大平・大平前・こいじ・森わき・道下・せきノ上・せきノ下・ひろと・大久保を併せて田中とした区域。
オチ オチ 落 内		仁田山道下の山田川左岸が崩壊している僅かな区域。 落々・落打とも書き崩壊地名。
ツノ ハタ 角 畑		角は直角の意。畑は端の替字。 急傾斜の山腹のふもとの区域。
サワ ノ イリ 沢 ノ 入		入は奥の意。曲がっていて奥の見えない沢。
ミチ 道 ば た		仁田山道の東側が同じ高さの区域。

字		小 字		地名語源
ミチ 道	ウエ 上			仁田山道の東側が台地になっている区域。
		オチ 落	オチ 打	明治9年地租改正の時、落内・角畑・沢ノ入・道ばた・道上を併せて落打とした区域。
シ 清	ミス 水	清	水	かれたことのないと言う湧水のある山麓区域。
セキ 関	ネ 根	関	根	中島の水田へ水を引くために山田川に堰を作った区域。
ナカ 中	シマ 島			山田川ともと山田川の川床との間の区域。
イワ 岩	モト 本			白滝神社境内に大岩のある付近。
オリ 折	モト 本			降本の替字。名久木村中谷戸からくる、中山峠道の降り口の付近。
		中	島	明治9年地租改正の時、中島・岩本・折本を併せて中島とした区域。

名久木村 (ナグキムラ)

(川内町5丁目第4町会)

字	小字	地名語源 (寛文8年の水帳 ^{アザ} の字による)		
ヤマ	サキ	山 崎	愛宕山の東へ延びている尾根の先端区域。	
シモ	テエラ		愛宕山南山腹下の傾斜地 (耕地)。	
ミヤ	ハラ		愛宕山の西南麓に熊野神社を祀ってある区域。	
ケン	ソチ		愛宕山の南側の急傾斜している山腹。	
ヤ	シキウエ		愛宕山の山麓の集落地。	
カワ	クホ		名久木川が流れを変えた為、旧川床が川なりにくぼんでいる区域。現在は棚田になっている。	
川久保			愛宕山の名久木川をはさんで対岸(左岸)にある山。	
カワ	ムカイ		明治9年地租改正の時、山崎・下平・宮原・嶮岨地・屋敷上川久保・川向を併せて山崎とした区域。	
	テ		まわりを囲まれている山腹のくぼ。手は場所、もろはムロ(室)の転。左のくぼ。	
	ゾウカノ		ぞふは沢の転で湿地、かのは刈野の略で焼畑。中のくぼ。湿地のくぼにある焼畑。	
ササ	クホ	山 崎	笹は細の替字で土質の細かいくぼ。右のくぼ。	
カワ	ハタ		沢のはたに集落の水汲場のある付近。	
ミチ	シタ		旧道は途中で東へ曲がらずに真直に通っていた。旧道から西側沢迄の区域。	
ナカ	ハタケ		旧道の東側道添いの畑。	
ヤ	シキゾイ		集落のある区域。	
シ	ミス		明治9年地租改正の時、もろの手・ぞふかの・笹久保・川端・道下・長畑・屋敷添を併せて笹久保とした区域。	
クホ	カイト		柳原沢川左岸の岩の間から、清水が湧出している区域。	
久保ヶ谷戸			名久木川へ柳原沢川が合流する右岸付近の低地にある集落。	
			笹久保	
			清水	

字	小 字	地名語源
ミヤ ノ マエ 宮 ノ 前	清 水	^{アカキ} 赤城神社がもとあった付近。
タイ ニチ トウ 大 日 堂		大日堂のあった付近。
ツカ コシ 塚 越		古墳のあった付近。 現在耕地になっている柳原沢川左岸。
ツカ ノ ワキ 塚 ノ 脇		塚越の隣りの耕地。
ケン ソ チ 嶮 岨 地		塚ノ脇の東側の山腹。
コ カ イト 小ヶ谷戸		明治9年地租改正の時、清水・久保谷戸・宮ノ前・大日堂塚越・塚ノ脇・嶮岨地を併せて清水とした区域。
コ カ イト クチ 小ヶ谷戸口		付近の親集落から分家した人々が作った子集落。 もとの集落は山際にあった。小は子の転。 谷戸は谷口をいう地名であったが、地形上人が住み良い所なので、最初に集落が出来た為集落名に変化した。後世は更に拡大して平地の集落名にもなった。ヶ谷戸が本字。ガヤトがガイトに変化した。
キョウ ツカ 経 塚		もとの集落へ行く道が柳原道から別れる区域。集落が出来て小ヶ谷戸から独立した区域。
マエ ノ イリ 前 ノ 入		経塚八幡宮を祀ってある赤萩境の区域。
イワ シタ 岩 下		^{ヤマノカミシヤ} 山神社の前から入っているくぼ。 ^{カミ} 前ノ入の上隣りにある岩壁のあるくぼ。
アカ ハキ 赤 萩	小ヶ谷戸 明治9年地租改正の時、小ヶ谷戸・小ヶ谷戸口・経塚・前ノ入・岩下を併せて小ヶ谷戸とした区域。	
ミヤ ハ ヤシ 宮 林	アカはアカ（散）つの語幹。 ハギはハリ（墾）の転で開墾地。 赤城神社から柳原沢川迄の区域。 山腹の崩壊で出来た傾斜地を開墾した区域。	
ミヤ ワキ 宮 脇	^{アカキ} 赤城神社の森のある付近。	
	赤 萩	宮林から経塚の間の付近。 明治9年地租改正の時、赤萩・宮林・宮脇を併せて赤萩とした区域。

字	小 字	地名語源
ムキ ^ク ホ ^ホ 麦久保		麦はムキ（剥）の替字で崩壊地名。柳原で最初のくぼ。山腹の崩壊で傾斜地の出来たくぼ。
オオ イシ テ ^{エラ} 大石平		麦久保の前に山田郡一と言われる大石のある傾斜地。
マエ ノ サワ 前ノ沢		熊野社の前から入っている大きい沢。萱野峠へ行く峠道がある。
ゼン ノ クホ ^ホ 膳ノ窪		膳は食器をのせる台で小さい物のたとえ。ぜんのような小さい（三反程）山腹のくぼ。麦久保の上隣り。仙ノ窪（狭いくぼの意）とも言う。
キリ カ ^ホ クホ ^ホ 桐ヶ窪		桐は切の替字で切替畑の略で焼畑。膳ノ窪の上隣り。焼畑のあるくぼ。
ナカ クホ ^ホ 中ノ窪		上・中・下と一族が分かれて住んでいる中間の位置に住んでいる家のあるくぼ。その家をなかんちと呼んでいる。桐ヶ窪の上のくぼ。
むじなくぼ		むじなはムシ（筆）るの転で崩壊で急傾斜。柳原沢川源流点、中尾根から左へ入る中尾根の山腹が急傾斜しているはたにあるくぼ。
ヒョウ フ ^イ イワ 屏風岩		むじなくぼの奥にある幅30 ^{メートル} 、高さ30 ^{メートル} 程の岩壁のある区域。
シバ ッテ サワ 柴手沢		柴はシバ（うつ・なぐる）くの語幹で崩壊。中尾根を右へ入り次の中尾根を左へ入る土砂崩れしている沢。手は場所。
ショウ シ ^イ イワ 障子岩		柴手沢の奥の幅5 ^{メートル} 、高さ5 ^{メートル} 程の岩壁が二つの障子を並べたように立っている区域。
クロン タクホ ^ホ 黒仁田久保		柳原沢川源流点、中尾根を右へは入る大きいくぼ。清水が湧いていて猪・鹿などが虫よけに体に泥を塗る、仁田場のあるくぼ。黒仁田山の山腹で山の東側の山腹に上久方村の小字黒仁田がある。黒は畔（田と田の境に土を盛り上げた所から尾根の意）の替字。

字	小 字	地名語源
ためがい		黒仁田山の八合目付近から右へ入る奥に湧水池のある沢。
ヤナキ [°] ワラ		
柳 原		柳は築（魚をとる）木（場所）の替字。 原はハラ（開）の換字で開墾地。 むじなくぼの奥にある築の形をした山腹を開墾した区域。
ミチ ウエ		
道 上		大石平から旧道は柳原沢川右岸の山よりを通っているの 北側の山腹。
ミチ シタ		
道 下		大石平から旧道は柳原沢川右岸の山よりを通っているの 南側柳原沢川迄の柳原で唯一の平地を言う。
	柳 原	明治9年地租改正の時、麦久保・大石平・前ノ沢・膳ノ窪・桐ヶ窪・ 中ノ窪・むじなくぼ・屏風岩・柴手沢・障子岩・黒仁田久保・ためが い・柳原・道上・道下を併せて柳原とした区域。
テ [°] エラ		
ひのき平		ひは樋で用水。きは場所。 柳原沢川右岸から用水を引いて水田を耕している区域。
ク ホ [°]		
とよノ久保		とよはトイ（樋）の音変化。といのように細い山腹のくぼ。
ヒカ [°] シ ヤ		
東 谷		東の方向に入っている山腹のくぼ。
	東 谷	明治9年地租改正の時、ひのき平・とよノ久保・東谷を併 せて東谷とした区域。
ショウ フ		
菖 蒲		ショウズ（清水）の転で清水の湧いている所にある集落を 言う。
イリ ク [°] チ		
入 口		菖蒲の入口の略で東西の尾根が迫って狭くなっている区域。 入口にも棚田がある。
サ [°] ワ		
うしろ沢		庚申坂下の庚申堂の後ろから東へ入っている清水の湧いている沢。 東谷の集落は現在でもここから飲料水を引いている。
トチノ キ サ [°] ワ		
栃ノ木沢		トチはトズ（閉）の転。木は場所。うしろ沢の上隣り。入口 が狭くまわりを囲まれて行き止まりの沢。

字	小 字	地名語源
ヘットウク ホ 別当久保		別はヘツ（剥）の転で崩壊。 当はタフ（倒）すの語幹で傾斜地。 菖蒲から右へ入るくぼ。 山腹の崩壊で傾斜地の出来たくぼ。
タルカ ク ホ 樽ヶ久保 シタ どよノ下		菖蒲から左へ入る 10 程の滝が岩壁から落ちているくぼ。 どよは急流。樽ヶ久保から流れてくる沢水が急流になっている付近。
カミ ノ クホ 上 ノ 窪 シモ ノ クホ 下 ノ 窪 サカ ノ シタ 坂 ノ 下 サカ ノ ウエ 坂 ノ 上		滝から上へ入るくぼで、北樽（滝から北へ入るくぼ）とも言う。 滝から下へ入るくぼで、南樽（滝から南へ入るくぼ）とも言う。 庚申坂ノ下、道東の棚田区域。 庚申坂ノ上、道西の水田区域。
ミネノ ク ホ 峯ノ久保 ヤマ ま る 山	菖 蒲	明治9年地租改正の時、菖蒲・入口・うしろ沢・栃ノ木沢・別当久保・樽ヶ久保・どよノ下・上ノ窪・下ノ窪・坂ノ下・坂ノ上を併せて菖蒲とした区域。 丸山の山頂から南へ山麓迄続いている急傾斜のくぼ。 出丸山の略で柄杓山城の出城、赤萩城があったと言われる山。西南側一段低い尾根は山頂に琴平社を祀っているので琴平山と言う。
ミヤ カイト 宮ヶ谷戸 シロウサエ モンハシ 次郎左衛門橋	ま る 山	明治9年地租改正の時、峯ノ久保・まる山を併せて、まる山とした区域。 もと赤城神社のあった当時付近にできた集落。 旧道の名久木川に架かっていた橋の付近。 現在の橋の川上にあった。私財で架けた人の名を付けた橋。
	宮ヶ谷戸	明治9年地租改正の時、宮ヶ谷戸・次郎左衛門橋を併せて宮谷戸とした区域。

字	小 字	地名語源
タカ カ ^ニ イ ト 高ケ谷戸 ロク シ ^ニ ソ ^ウ 六 地 蔵 イワ うぼみ岩 ナカ ヤマ 中 山	高ケ谷戸	<p>中山の山麓の高い所にある集落。</p> <p>コウゲンジ 高源寺の北側の墓地に石の六地藏のある付近。</p> <p>アタコヤマ 愛宕山の東腹にある大岩。ウブスナ（産土）神の宿る岩。</p> <p>愛宕山と山神山の間にある山。標高 302 ㍎。 山頂に雷電社を祀ってあることから雷電山とも言う。 かみの鞍部を通る道は上仁田山村折本へ行く峠道でこいじ（越路）という。</p> <p>明治9年地租改正の時、高ケ谷戸・六地藏・うぼみ岩・中山を併せて高ケ谷戸とした区域。</p>
ナカ カ ^ニ イ ト 中ケ谷戸 ナカ ノ セキ 中 ノ 関 ナカ カ ^ニ ワラ 中 川 原 シ ^ニ ソ ^ウ ト ^ウ 地 蔵 堂	中ケ谷戸	<p>名久木村の中心にある集落。</p> <p>中ケ谷戸用水から分水する為に、堰を設けてある付近。</p> <p>中ケ谷戸と名久木川との間の川原。</p> <p>地藏堂のある付近。</p> <p>明治9年地租改正の時、中ケ谷戸・中ノ関・中川原・地藏堂を併せて中ケ谷戸とした区域。</p>
シ ^ニ ユウ ニ 拾 式 ヤマノ カミマエ 山ノ神前 ミヤ ク ホ 宮 久 保 ス ワ ノ マエ 諏訪ノ前 カワ ムカイ 川 向	拾 式	<p>三峰道のはたに拾式山ノ神を祀ってある付近。</p> <p>山ノ神を祀ってある山神山下の付近。</p> <p>諏訪神社を祀ってあるくぼ。</p> <p>諏訪神社を祀ってある宮久保の前、名久木川右岸水田の付近。</p> <p>拾式山ノ神社の対岸名久木川左岸にある 3 9 9 1 番地 1 筆の区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、拾式・山ノ神前・宮久保・諏訪ノ前・川向を併せて拾式とした区域。</p>
ウルシ ハ ^ニ ラ 漆 原		<p>漆はウル（潤）し（接尾語）の替字。原は開墾地。ほりノ上用水が山麓を通っているなので、水がしみ出て湿地になっている開墾地。</p>

字	小 字	地名語源
コ 小	イリ 入	漆原の上の小さい沢。
ウエ ほりノ上		漆原の水田のために引いたほりノ上用水の通っている付近。
	漆 原	明治9年地租改正の時、漆原・小入・ほりノ上を併せて漆原とした区域。
ハシ ^ハ 橋	カミ 上	橋は端の替字。上は嘯の替字で崩壊。 この付近は川が急流になっているので、大雨のときなど両岸が崩される区域。
コ 小	サ ^ワ 沢	小さい沢。
コ ^{ワサ} ^ワ ミナミノイリ 小沢南ノ入		小沢に入ってから奥へ入っている沢。
コ ^サ ^ワ ミナミノイリオク 小沢南ノ入奥		小沢南ノ入の上隣りの南へ入っている沢。
ヤ ^{シキ} ^{ウラ} 屋敷浦		名久木村で一番大きい集落のある付近。浦は所。
シモ ^ノ ^{テエラ} 下ノ平		屋敷の下の名久木川右岸に水田のある平地。
ヤ ^{シキ} ^{マエ} 屋敷前		屋敷の名久木川対岸4071～4122番地の区域。
	橋 上	明治9年地租改正の時、橋上・小沢・小沢南ノ入・小沢南ノ入奥・屋敷浦・下ノ平・屋敷前を併せて橋上とした区域。
イリ 入	ウチ 打	沢の両側が急傾斜していて曲がりながら奥へ入っている沢。 打は崖などの急傾斜の地形。
ト ^ウ あみだ堂		入打の南側尾根の先端（墓地の上の小平地）にあみだ堂のある区域。（現在は無い。）
ミ 深	ヤマ 山	入打に入っすぐ南へ入っている北を向いている日の当たらない山腹。
	入 打	明治9年地租改正の時、入打・あみだ堂・深山を併せて入打とした区域。
オオイシカ ^{イト} 大石ヶ谷戸		大石がごろごろしている名久木川右岸（川のなかまでである）の傾斜地にある集落。

字	小 字	地名語源
<small>カレキ カ^ク ホ^ク</small> 枯木ヶ久保		<p>枯は潤の替字。木は場所。石の多い雨が降っても、地中にしみ込み沢水が流れていないくぼ。</p>
<small>ウメカ^ク ホ^ク</small> 梅ヶ久保		<p>梅は埋の替字で山腹の崩壊で埋まって傾斜地の出来たくぼ。梅ノ木窪とも言う。</p>
<small>ネ レ ノ キ サ^ワ</small> 根連ノ木沢		<p>根蓮はヌレ（濡）の転で湿地。木は場所。名久木川左岸で大量の清水が池の底から湧出している池のある沢。隣りの表石が石の多い山腹で水を吸い込み、この水が根連ノ木沢へ地中を流れて来ていると言う。</p>
<small>ハラノ イレクチ</small> 原ノ入口		<p>原ノ入の入口の名久木川左岸の傾斜地。</p>
<small>ハラ ノ イレ</small> 原 ノ 入	大石ヶ谷戸	<p>明治9年地租改正の時、大石ヶ谷戸・枯木ヶ久保・梅ヶ久保・根連ノ木沢・原ノ入口を併せて大石ヶ谷戸とした区域。</p> <p>山の中に沢の代わりに幅のある傾斜地（原）の入っている特殊な区域。</p>
<small>ハラノ イレオク</small> 原ノ入奥		<p>原ノ入の奥が普通の沢になった区域。</p>
<small>ハラノ イレオク</small> 原ノ入奥	原 ノ 入	<p>明治9年地租改正の時、原ノ入・原ノ入奥を併せて原ノ入とした区域。</p>
<small>オオ クズ^レ</small> 大 崩		<p>名久木川左岸の大崩壊のあった山腹。</p>
<small>オオ クズ^レ イリ</small> 大 崩 入		<p>大崩の大崩壊の山腹の奥の普通の山の区域。入は奥。</p>
<small>キツネ テ^エラ</small> 狐 平		<p>狐はクズ（崩）れの転。大崩の山腹の崩壊した土砂が作った名久木川左岸の傾斜地。</p>
<small>ロクロ イシサ^ワ</small> 六郎石沢		<p>名久木川の終点から左へ入る沢で洪水の時に、大石がまわりながら流れる沢。六郎は轆轤<small>ロクロ</small>の換字で回転。</p>
<small>ヤマノ カミマエ</small> 山ノ神前		<p><small>ヤマノカミシヤ</small> 山神社の前から入っているくぼ。</p>

字	小 字	地名語源
<small>ハナノ キ サツ</small> 花ノ木沢		<p>花は鼻の替字で尾根の先端。ノ木は抜の転で崩壊。 金沢峠へ入る沢で入口左側の尾根の先端が土砂崩れしている沢。</p>
<small>オモテ</small> <small>イシ</small> 表 石	大 崩	<p>明治9年地租改正の時、大崩・大崩入・狐平・六郎石沢・山ノ神前・花ノ木沢を併せて大崩とした区域。</p> <p>山腹が石でおわれている山腹で降った雨が地中にしみ込んでしまう区域。しみ込んだ雨水は隣の根蓮ノ木沢で湧出している。</p>
<small>ムキ</small> <small>クボ</small> 麦 窪	表 石	<p>麦はムキ（剥）の替字で崩壊。 山腹が崩壊して傾斜地の出来ているくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、表石・麦窪を併せて表石とした区域。</p>
<small>コー</small> <small>シ</small> 越 地	越 地	<p>越路の替字で峠道。 金越地区域の中で峠道のみを言う。</p>
<small>カネ</small> <small>コー</small> <small>シ</small> 金 越 地		<p>越地は越路の替字で峠道。 上久方村金沢へ越える峠道の通っている区域なのでつけた地名。</p>
<small>ミナミ</small> <small>ノ</small> <small>イリ</small> 南 ノ 入	金 越 地	<p>峠道の途中から南へ入っているくぼ。</p> <p>明治9年地租改正の時、金越地・南ノ入を併せて金越地とした区域。</p>

如来堂村 (ニョライドウムラ)

(相生町1丁目)

字	小字	地名語源 (寛文9年の水帳 ^{アザ} の字による)
リュウ 竜	ダイ 台	<p>天正年間(1573~1590年)以前は一本木村・如来堂村を含む区域が広沢村であった。後に如来堂村が成立した時、竜台の西半分が村域となった。</p> <p>竜は流の替字で流失の意。台は台地の意。地名のついた頃は竜台の崖下を渡良瀬川が流れており、洪水の時に台地の崖端が削られて流される意。</p>
	竜 台	<p>明治9年地租改正の時、西半分が東側下・東側下浦になった区域。24筆が14筆に減った区域。</p>
	ヒカ ^シ カ ^ワ シモ 東側下	<p>如来堂村の大間々道の両側に発達した中心集落を道を境に東・西に分け、更に下新田村側から上・中・下に分けした。明治9年地租改正の時、竜台の一部を東側下とした区域。</p>
	ヒカ ^シ カ ^ワ シモウラ 東側下浦	<p>浦は後ろの意で用いた。 明治9年地租改正の時、東側下の後ろの竜台の一部を東側下浦とした区域。</p>
カワ 川	ラ 原	ワタラセ 渡良瀬川右岸の川原。
ヨウスイホリハタ 用水堀端		<p>広沢用水左岸に沿った細長い低地。明治9年地租改正の時、用水堀端・加茂ノ下・加茂ノ浦に分割された区域。</p>
	用水堀端	<p>字の用水堀端から加茂ノ下(34番地)・加茂ノ浦(36・38番地)を引いた区域。</p>
	カモノシタ 加茂ノ下	<p>賀茂神社^{シタ}の下隣りが(34番地)用水堀端より独立した区域。地租改正以後独立。</p>
	カモノウラ 加茂ノ浦	<p>賀茂神社の後ろ(36・38番地)が用水堀端より独立した区域。地租改正以後独立。</p>
スキ ^ノ シタ 杉ノ下	杉ノ下	<p>杉はスカ(州処)の転で砂の積もった所。 渡良瀬川の右岸に洪水の運んで来た砂が、堤のように長く積もった区域。</p>
ハチホウ 八鎮房	八鎮房	<p>八は端(ハシ)の転ではた。房はバエの転で崖。渡良瀬川の河岸段丘のはたが崖になっている所。元龜年間(1570~1573)由良氏と桐生氏で水争いをした当時の広沢用水取水口のあった所。</p>

字	小 字	地名語源
<small>カワ ク ホ</small> 川 久 保 <small>タテサエ モンシ ミス</small> 太左衛門清水		<p>もと渡良瀬川の川床だったので川なりにくぼんでいる付近。</p> <p>茶臼山砦の番頭で、天文22年（1553）上杉謙信と戦って死んだ金井太左衛門が発見したと言う伝承のある泉（102番地）のある段丘崖下付近。泉は地租改正以後、東清水と呼ばれた。</p>
<small>モトシ ユククホ</small> 本宿久保	川 久 保	<p>明治9年地租改正の時、川久保・太左衛門清水を併せて川久保とした区域。</p> <p>大間々道両側に最初に出来た村一番の集落。くぼとあるが地形図を見てもまわりより低くない区域。</p>
<small>ヨコ マチ</small> 横 町	<small>オオ ミチ ヒカシ</small> 大 道 東 <small>ヒカシ シカ ワカミウラ</small> 東側上浦 <small>ヒカシ シカ ワナカウラ</small> 東側中浦	<p><small>アカイシワタシハ</small> 赤岩渡場へ行く道の東側という意。明治9年地租改正の時、くぼではないので本宿久保を大道東に改名した区域。</p> <p>本宿の東隣りの横道に沿って出来た大きい集落。明治9年地租改正の時、東清水間々上・横町・東側上・東側上浦・東側中・東側中浦に分割された区域。</p> <p>もとは72筆が、11筆に減った区域。</p> <p>村の西側にも清水の湧水地があるので、この機会に両者を対比した地名を付けた区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、横町の一部を東側上とした区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、横町の一部を東側上浦とした区域。浦は後ろの意。浦は裏の替字。</p> <p>明治9年地租改正の時、横町の一部を東側中とした区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、横町の一部を東側中浦とした区域。浦は裏の替字。</p>
<small>アイ ノ ハラ</small> 間 ノ 原		<p>下新田村との境にある原野で且両村を結ぶ道の通っている区域。119番地から126番地迄の区域。明治9年地租改正の時、伊勢崎道上・伊勢崎道下の一部に分割された区域。</p>

字	小 字	地名語源
サクラ 桜 ツカ 塚	桜 塚 イセ サキミチウエ 伊勢崎道上 イセ サキミチシタ 伊勢崎道下	<p>306番地にある大円墳のはたに丈余の枝垂桜があること でついた地名。塚は発掘し平地になっている。 現地にあった石塔類は301番地に移転した。この塚の隣りに 智明上人が草庵を建て、阿弥陀如来像を安置したという伝 承のある区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、桜塚・伊勢崎道上・伊勢崎道下に 分割した区域。その結果、299～329番地迄30筆の区 域が16筆に減った区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、間ノ原・桜塚の一部を伊勢崎道上 (下新田村側)とした区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、間ノ原・桜塚の一部を伊勢崎道下 とした区域。</p>
シ 清 ミズ 水	ニシ シ ミズ 西 清 水 ニシ カワ カミ 西 側 上 ニシカワ カミウラ 西側上浦 ニシ カワ ナカ 西 側 中	<p>段丘下に大清水と呼ばれる湧水のある付近。 明治9年地租改正の時、西清水・西側上・西側上浦・西側中に分割さ れた区域。湧水点は331番地にある。 区域は259～298・330～368・372～376番地。</p> <p>村の中央台地の東西に対称的に二つの湧水があるので、西 清水とした区域。地元では大清水ともいう。 明治9年地租改正の時、清水の一部を西清水とした区域。</p> <p>オオママ 大間々道を挟んで東側上と向き合っている区域。 明治9年地租改正の時、清水の一部を西側上とした区域。</p> <p>西側上の後ろの区域。 明治9年地租改正の時、清水の一部を西側上浦とした区域。</p> <p>西側上の下隣りで、明治9年地租改正の時、清水の一部を 西側中とした区域。</p>
タ 田 ヘタ 端		<p>田は棚の転で台地。上広沢村谷津の台地下の耕地。 明治9年地租改正の時、西側中浦・西側下・西側下浦・西浦田 端に分割された区域。</p>

字	小 字	地名語源
	<small>ニシカ^フワナカウラ</small> 西側中浦 <small>ニシ カ^フ シモ</small> 西 側 下 <small>ニシカ^フワシモウラ</small> 西側下浦 <small>ニシウラタ ハ^フタ</small> 西浦田端	<p>西側中の後ろで滝宮前迄の区域。 明治9年地租改正の時、田端の一部を西側中浦とした区域。</p> <p>西側中の下^{シモ}で、明治9年地租改正の時、田端の一部を西側下とした区域。</p> <p>西側下の後ろで、西浦田端迄の区域。 明治9年地租改正の時、田端の一部を西側下浦とした区域。</p> <p>西側中浦・西側下浦の後ろで、山ノ越・滝宮前迄の区域で 明治9年地租改正の時、田端の一部を西浦田端とした。</p>
<small>タキ ヤマ</small> 瀧 山		<p>瀧は白瀧神社の略。山は森。白瀧神社の森のある区域。 369～371・432～456番地の28筆の区域。 明治9年地租改正の時、瀧山・滝宮巡り・瀧山前・滝宮間々 上に分割された区域。</p>
	瀧 山	<p>もとは、28筆の広さがあったが、明治9年地租改正の時 神社境内地442番地の1筆のみになった区域。</p>
	<small>タキミヤメク^フ</small> 瀧宮巡り	<p>地名は神社のまわり全体の地の意であるが、神社の境内 (442番地)の上隣り^{カミ}だけ(443番地)の区域。 明治9年地租改正の時、瀧山の1筆を瀧宮巡りとした区域。</p>
	<small>タキ ミヤ マエ</small> 瀧 宮 前	<small>シラタキ</small> <p>白瀧神社の前だけでなくまわりを囲んでいる区域を明治 9年地租改正の時、滝宮前とした。 旧瀧山28筆のうち21筆をしめている。</p>
	<small>タキミヤマ マ ウエ</small> 瀧宮間々上	<p>白瀧神社の後ろの崖上が小高くなっている区域。 琴平神社が祀ってあるので琴平山ともいう。</p>
ねばとり	ねばとり	<p>壁土(カベツチ)になる白い良質の粘土のある区域(現在は掘りつくした)。山ノ越の中で426番地の所だけにあった。</p>
<small>ヤマ ノ コシ</small> 山 ノ 越	山 ノ 越	<p>崖を登って上広沢村谷津へ行く峠道の区域。</p>

字	小 字	地名語源
イ セ ハラ 伊 勢 原	伊 勢 原	伊勢の皇太神宮を勧請した神明宮（551番地）を祀っている耕地。
	西清水間々上	明治9年地租改正の時、伊勢原から西清水間々上を、独立させた残りの区域。
アシ ナカ 足 中	足 中	西清水の湧水点崖上付近を伊勢原から独立させた区域。
トウ カ ナ 稲 荷 穴	稲 荷 穴	足は悪しの転。中は所を言う語。土質の悪い区域。
テッ ハヤシ 出 林	出 林	稲はタウ（倒）すの語幹で崩壊。 カナはカネ（矩）の転で直角。 「相生下」境が垂直の崖になっている区域。
アシ シモ 足 下	足 下	下新田村台ノ南へ突出している雑木林。
トビ テ 飛 地	飛 地	下新田村台ノ南は如来堂村であったが下新田村成立の時、分割された区域。その時、630番地には神明宮があったので、足中のはたにある区域の意味の足下をつけて村内に残した区域。下新田村域へ突出した形になっている。
		台ノ南を下新田村へ分割した時、飛地5、159坪は当村住民が耕作していたので飛地として残した区域。 明治初年日本中に飛地が沢山あるので、統治上不便なので解消せしめた為、桐生市内の飛地は上菱村小松の一部の2か所である。

下新田村 (シモシンデンムラ)

(相生町2丁目)

字	小字	地名語源 (寛文9年(1669)の水帳 <small>フダ</small> の字による)
ヤ シキト [〃] オリ 屋敷通り		村の大間々道 <small>オオママ</small> 両側に発達した屋敷の下 <small>シキ</small> で如来堂村境迄の区域で、明治9年地租改正の時に東・西下宿通り、庚申塚、相生下に分割された。当時は屋敷が下迄のびず、屋敷通りは両側が道に面している所のみであった。ほぼ1～95番地の区域である。
	ヒガ [〃] シシモジ [〃] ユクト [〃] オリ 東下宿通り	大間々道に面している宿の東裏の区域で、4筆だけしか通り(大間々道)に面していない区域。明治9年地租改正の時、屋敷通りの一部を東下宿通りとした区域。
	ニシシモジ [〃] ユクト [〃] オリ 西下宿通り	宿の下 <small>シキ</small> で通り(大間々道)の西側の区域。15～18番地は宿の後ろで通りに面していないが他は面しているの、地名の通りの区域である。明治9年地租改正の時、屋敷通りの一部を西下宿通りとした区域。
	コウ シン ツ [〃] カ 庚 申 塚	東下宿通りから如来堂村迄の区域で、盛り土の上に庚申塔が建っている区域。明治9年地租改正の時、屋敷通りの一部を庚申塚とした区域。
	アイ オイ シタ 相 生 下	西下宿通りの下から如来堂村迄の間で、南は相生ノ松崖下迄の区域。地名は相生ノ松の崖下の区域と言う意味でつけた。明治9年地租改正の時、山ノ神(相生ノ松の崖下に山ノ神が祀ってある)と屋敷通りの一部を併せて相生下とした区域。
ヤマ ノ カミ 山 ノ 神		台ノ南の崖端相生ノ松の下(49番地)に山神社が祀るのでついた地名。明治9年地租改正の時、山ノ神に屋敷通りの一部を併せて、相生下とした区域。14筆。
シモハ [〃] ヤシメク [〃] リ 下林廻り		村の中央台地東側崖下で、雑木林になっている区域。明治9年地租改正の時、中林内の如来堂村寄りの区域になっている。
ナエマ シロト [〃] オリ 苗間代通り		舟場から苗間代(清水下)へ行く通りの如来堂寄りの区域で舟場通りと中林の一部に分割されている。

字	小 字	地名語源
	ナカ ハ ^{ヤシ} 中 林	<p>下林廻りと苗間代通りの一部（清水下側）を併せて、明治9年地租改正の時、まわりを耕地に囲まれている雑木林の意味の中林とした区域。</p>
フ シ ^{ヤママエ} 富士山前	フナハ ^{ト^{オリ}} 舟場通り	<p>苗間代通りから中林へ分割した区域を引いた残りの区域を、村の中心地の宿から赤岩ノ渡へ行く通りの意で、明治9年地租改正の時、舟場通りとした区域。その時、富士山前の一部（現舟場通り道と、現不二山前間の三角形の区域）を舟場通りとした。</p>
	フ シ ^{ヤママエ} 不二山前	<p>現行不二山前に舟場通りのうち舟場通り道と不二山前間の三角の区域を加えた区域。 富士山に祀ってある浅間神社が、東を向いているのでつけた地名。</p> <p>明治9年地租改正の時、富士山前のうち舟場通り道から不二山間の三角区域を舟場通りに分割した残りの区域。</p>
ナエ マ シロ 苗 間 代		<p>下新田村は川の無い所で清水下だけが、湧水で水田が作れる所なので、苗代を作っている所としてそれを表している。</p>
	シ ミス ^{シタ} 清 水 下	<p>中央台地東側の崖から清水が落ちている下の区域。 明治9年地租改正の時、苗間代を清水下と替えた区域。</p>
ヒカ ^{シママ} シタ 東間々下		<p>中央台地の東西に同じ形をした崖下があるのでつけた地名。</p>
	シ ミス ^{ト^{オリ}} 清水通り	<p>清水が流れ出ている崖端を通っている道の区域。 明治9年地租改正の時、東間々下を清水通りに換えた区域。 大間々道から清水へ行く道の意。</p>
ヤマ メク ^リ 山 廻 り	山 廻 り	<p>地名からは富士山のまわりを囲んでいるはずだが、西麓だけで足尾道迄の区域。</p>
ト イ ノ シタ とひの下		<p>岡登用水天王宿分水の流れている区域。</p>
ト イ ノ シタ ス エ とひの下すへ		<p>とひの下<small>シモ</small>の下清水通りはたの区域。 1 1 筆。</p>
テンノウシ ^{ユクサカイ} 天王宿境	ト イ ノ シタ 戸樋ノ下	<p>天王宿村境で旧足尾道北側の区域。 2 筆。</p> <p>明治9年地租改正の時、とひの下・とひの下すへ・天王宿境を戸樋ノ下とした区域。</p>

字	小 字	地名語源
<small>ヒカ^ニシヤシキウラ</small> 東屋敷裏	<small>ナカ ヒカ^ニシ ウラ</small> 中 東 裏 <small>シモ ヒカ^ニシ ウラ</small> 下 東 裏	<p>屋敷の東側を三分割した中・下の後ろに当たる区域をいう。</p> <p>明治9年地租改正の時、東屋敷裏<small>カミ</small>の上半分を中東裏とした区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、東屋敷裏<small>シモ</small>の下半分を下東裏とした区域。</p>
<small>アタ コ^ニ マエ</small> 愛 宕 前	<small>ヒカ^ニシアタコ^ニマエ</small> 東愛宕前	<p>屋敷の東側を三分割した上に当たる区域の後ろで東屋敷裏でもよかったが、大間々道は愛宕神社が終点で右へ曲がり、天王宿で足尾道へ合流していたが愛宕神社境内を二つに分ける新大間々道が出来、境内から分割された区域を愛宕通りと命名した。愛宕通り前に当たるので愛宕前とした区域。</p>
<small>アタコ^ニ ト^ニオリ</small> 愛宕通り	<small>ヒカ^ニシ ホリ シタ</small> 東 堀 下	<p>明治9年地租改正の時、愛宕前を東愛宕前とした区域。屋敷の東側で愛宕神社の前の区域。</p> <p>新大間々道で境内を分割された東側を、もと愛宕神社の境内で今は大間々道のはたの区域の意から愛宕通りとした区域。19筆の区域を明治9年地租改正の時、東堀下に13筆、愛宕廻りの一部に6筆分割された区域。</p>
<small>ヤマ</small> あたご山	<small>アタコ^ニ メク^ニリ</small> 愛宕廻り	<p>明治9年地租改正の時、19筆のうち13筆を岡登用水の下の区域の意の東堀下とした区域。残りの6筆は愛宕神社が持っていたので、境内の地名愛宕廻りに合併された。</p> <p>山は神社の森。愛宕神社の区域。</p>
<small>オ ホリ ウエ</small> 御 堀 上	<small>ヒカ^ニシ ホリ ウエ</small> 東 堀 上	<p>明治9年地租改正の時、あたご山と愛宕通りで神社の所有地6筆を併せた区域を愛宕神社の付近と言う意の愛宕廻りとした区域。</p>
<small>オホシ</small> 御林敷下	<small>ヒカ^ニシ ホリ ウエ</small> 東 堀 上 <small>ニシ ホリ ウエ</small> 西 堀 上	<p>幕府の代官 岡登景能<small>オカノホリカゲノシ</small>が作った御用水の上の区域。明治9年地租改正の時、東堀上と西堀上に分割した区域。岡登用水を含んでいる。</p>
		<p>御堀上を大間々道で分けた東側を、明治9年地租改正の時、東堀上とした区域。</p> <p>御堀上を大間々道で分けた西側を、明治9年地租改正の時、西堀上とした区域。この時、御林敷下10筆が合併した。</p>

字	小 字	地名語源
<small>ミ バヤシ シタ</small> 御林敷下 <small>ク ホ</small> にら久保		<p>上新田村御林敷（ミバヤシ）の下の区域で10筆。 明治9年地租改正の時、西堀上に合併した。</p> <p>にらはノラの転で緩傾斜地。 久保は天沼新田の間々の崖下なのでくぼと称した。 岡登用水から大間々道迄ゆるい傾斜をしている区域。</p>
<small>ニシ ホリ シタ</small> 西堀下 <small>ヤママエ</small> あたご山前	<small>ニシ ホリ シタ</small> 西堀下	<p>明治9年地租改正の時、にら久保を岡登用水の下で大間々道西側の区域の意で西堀下とした。</p> <p>愛宕神社の前の区域。</p>
<small>ニシアタコ マエ</small> 西愛宕前 <small>ニシヤ シキウラ</small> 西屋敷浦	<small>ニシアタコ マエ</small> 西愛宕前	<p>愛宕神社の前で屋敷の西側の区域。 明治9年地租改正の時、あたご山前を西愛宕前に換えた区域。 屋敷を三分割した上に当たる区域の西側で、上西裏とすべき区域である。</p> <p>屋敷を三分割した中に当たる区域の西側で、西間々下迄の区域。</p>
<small>ナカ ニシ ウラ</small> 中西裏 <small>ニシマ マ シタ</small> 西間々下	<small>ナカ ニシ ウラ</small> 中西裏	<p>明治9年地租改正の時、西屋敷浦を中西裏とした区域。</p> <p>中西裏と天沼新田の間々通崖下間の細長い区域。</p>
<small>ミナミヤシキウラ</small> 南屋敷浦 <small>ニシク ホ フン</small> 西久保分	<small>ニシマ マ シタ</small> 西間々下	<p>屋敷を三分割した下に当たる区域の西側で、西久保分迄の区域。</p> <p>南屋敷浦と台ノ上の崖下間の区域で、久保はニラ久保の久保と同じで崖下の意である。</p>
<small>シモ ニシ ウラ</small> 下西裏 <small>ヤ シキ</small> 屋敷	<small>シモ ニシ ウラ</small> 下西裏	<p>明治9年地租改正の時、南屋敷浦・西久保分を下西裏とした区域。</p> <p>江戸初期村内の一番大きい集落の呼称で、愛宕神社の参道両側に発達した集落で両毛線近く迄の区域。</p>
<small>シモ</small> 下 <small>シユク</small> 宿 <small>カミ カワ ラ</small> 上川原	<small>シユク</small> 宿	<p>明治9年地租改正の時、屋敷を宿とした区域。</p> <p>当時の渡良瀬川は南北に分流していたので中州を言う。</p>
<small>シモ ガワ ラ</small> 下川原		<p>赤岩ノ渡から川上の区域。976～991番地。</p>

字	小 字	地名語源
キリュウミチカタタカ 桐生道方高	ナカ カワ ラ 中 河 原	<p>伊勢崎道の突き当たりが赤岩ノ渡し以前の放光ノ渡場だったのが川の流れが変わって川上の現在地（両毛線鉄橋付近）に変わった為、その間の川原に赤岩の渡迄行く 200 歩程の桐生道を作った区域。道は石を積んで堤のように高くしたのでついた地名。9 6 6～9 7 5 番地。</p> <p>明治9年地租改正の時、上川原・下川原・桐生道方高を併せて中河原とした区域。9 7 6～9 9 1 番地。 中河原を上河原9 8 4～9 9 1 番地・下河原を9 7 6～9 8 3 番地と分けていた。</p>
タノイ ノ ウエ 代 ノ 上	タノイ ノ ミナミ 台 ノ 南	<p>代は台の替字で河岸段丘のこと。村の中央台地の崖上で如来堂村境の区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、代ノ上を台ノ南に換えた区域。村の中央台地の崖上で南に当たるのでついた地名。</p>
タノイ ノ ニシ 台 ノ 西		<p>西間々下崖上の台地を明治9年地租改正の時、天沼新田の間々通に合併した。1 8 筆。</p>
シン テン ミチ 新 田 道		<p>諸町より下新田へ来る道端で3筆の区域を明治9年地租改正の時、天沼新田の多賀廻に合併した。</p>
アマ スマ 雨 沼		<p>天沼新田多賀廻内にある3 6 筆の区域。 地名は上新田村（大間々町）雨沼の一部が下新田村内の飛地として残っていたが後に下新田村に合併した区域。 明治9年地租改正の時、天沼新田の多賀廻に合併した。</p>

天王宿村 (テンノウジュクムラ)

(相生町3丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文9年(1669)の水帳 <small>フヅ</small> の字による)
宿 御伊勢原	宿	<p>足尾道の両側に出来た村一番の集落を宿とした区域。</p> <p>御伊勢様(天照大神)を祀ってある開墾地。天照大神なので御をつけて敬意を表している。原は開の換字で開墾地。</p>
	石 塚	<p>石の多い所なので開墾の邪魔な石を捨てた結果、塚のようにになっている所が各所にある区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、御伊勢原の下半分を石塚とした区域。こえと道から下の区域。</p>
	伊 勢 原	<p>明治9年地租改正の時、神明宮のある上半分を伊勢原とした区域。こえと道から上の区域。</p>
上 原 大 原		<p>神明宮の上に続く雑木林。</p> <p>村の入会草刈雑木林。</p>
	大 原	<p>明治9年地租改正の時、上原・大原(字の大原から梅檀木二本松・堀上を除いた区域)を併せて大原とした区域。</p>
	梅 檀 木	<p>梅檀はセンダ(千駄)の転で千匹の馬の背に乗せる草の意で大量の意。木は場所。大量の草が刈り取れる原野。</p> <p>明治9年地租改正の時、大原の一部を梅檀木とした区域。</p>
	堀 上	<p>岡登用水の崖上の台地。</p> <p>明治9年地租改正の時、大原の一部を堀上とした区域。</p>
二 本 松	二 本 松	<p>長瀬ノ渡へ行く道端に目標となる二本の松が生えていた区域。天王宿が蕪町村の一部であった時、蕪町村二本松の一部であった区域。</p>
十 二 平		<p>陣平の一部。十二山ノ神社を祀ってある渡良瀬川右岸の河岸段丘。蕪町村下ノ十二平の続きの区域。</p> <p>天王宿村が蕪町村の一部であった時、下ノ十二平と呼ばれていた区域。</p>
小十二平		<p>天王宿村が蕪町村の一部であった時、下ノ十二平と呼ばれた区域のうち特に十二山ノ神社の境内をいう。小はコウ(神)の転で神社。</p>

字	小 字	地名語源
せき下 <small>シタ</small>		陣平の一部。岡登用水を天王宿村へ分流する為に、設けた堰から下の区域。堰は564番地にある。
とうかな		陣平の一部。漢字では <small>トウカネ</small> 稲荷穴。とうは倒で崖の意。かなはカネ（矩）の転で直角。十二平の垂直の崖下の川原。
すうどの		陣平の一部。すうはシユウズ（清水）の略。ドノ（殿）は棚の転で河岸段丘。 渡良瀬川が北に流路を変え須永村 寿宇殿 を分断した為、清水の湧き出している渡良瀬川沿いの一部が天王宿のすうどのとなった区域。
陣平	<small>シ ン</small> 陣 <small>タ イ</small> 平	明治9年地租改正の時、十二平・小十二平・せき下・とうかな・すうどのを併せて陣平とした区域。 陣は神の換字で、十二山ノ神を祀った神社のある河岸段丘。
熊野林	<small>ク マ ノ</small> 熊 <small>ハ ヤシ</small> 野 <small>シ</small> 林 <small>ミ ス</small> 清 <small>シ タ</small> 水 <small>シ タ</small> 下	熊野神社を祀っている森のある区域。 明治9年地租改正の時、熊野林の南側宿の崖端から清水の流れ落ちている付近を清水下とした区域。
熊野林	熊 野 林	明治9年地租改正の時、南側が清水下として独立し、残りの北側の熊野神社の付近のみが熊野林となった。
細田	<small>ホ</small> 細 <small>タ</small> 田	細はやせ細るの意で浸食地名。 八坂下の東側の区域で渡良瀬川が洪水の時などに、流されてしまう区域にある水田。
こえと道下	<small>ミチシタ</small>	こえと（越渡）で隣村須永村とを渡船で継いでいる長瀬ノ渡へ行く道の下下の区域。八坂下の西側。江戸末期には橋が架かった。
中河原	<small>ナカ</small> 中 <small>カワ</small> 河 <small>ラ</small> 原	八坂下北側で渡良瀬川沿いの区域。 渡良瀬川が南北に分流していた時の中州で、後に北流のみが川となった為、天王宿村の領域となった区域。 旧南流の川床に用水を通し天王宿境で水車を回し米をつくつき屋が数軒出来た。用水は山廻りで渡良瀬川へ落としていた。
八坂下	<small>ヤ</small> 八 <small>サカ</small> 坂 <small>シタ</small> 下	明治9年地租改正の時、細田・こえと道下・中河原を併せて八坂下とした区域。 宿にある八坂神社崖下の区域の意。

蕪 町 村 (カブツチョムラ)

(相生町4丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文3年(1663)加佛丁の水帳の ^{アヅ} 字による)
ニ ホン マツ 二 本 松	二 本 松	新田開道(上・下新田村を継ぐ道端にある集落)から長瀬ノ渡へ行く道端に目標となる二本の松が生えている区域。
ナカ ミチ 中 道	中 道	新田開道から裏地の他縁山自性寺へ行く参道の区域。
シンテンカイトウ 新田開道	新田開道	新田は新田道の略で上・下新田村を結ぶ道。開道は谷戸の転で集落。新田道の付近に出来た集落。
ウエ ノハラ 上 ノ 原		屋敷(村で一番大きい集落)の崖上にある開墾地。現在の ^{カミ} 上ノ原の東半分の区域。原は開の替字で開墾地。
ハチケンヤ 八 軒 屋		上ノ原の西半分の区域で八軒の集落のあった区域。昭和20年代には、いくつかの古井戸が残っていた。
	上 ノ 原	明治9年地租改正の時、上ノ原・八軒屋を併せて上ノ原とした区域。
ヤ シキ 屋 敷		最初に出来た且つ一番大きい集落。後に宿と変えた区域。
シュク カシラ 宿 頭		屋敷の大間々側に集落が出来、 ^{カミ} 上に当たるためについた地名。当時は屋敷を宿に換えていた為、宿頭(屋敷頭でなく)となった。
	シュク 宿	明治9年地租改正の時、宿(屋敷)・宿頭を併せて宿とした区域。
ウラ シ 裏 地		裏は北を言う。宿の北側で渡良瀬川迄の区域。
コ ロ フチ 甲 路 淵		甲路はコロ(転)の替字で曲がる意。淵は縁の転ではた。宿の西側で渡良瀬川が大きく曲がっているはた迄の区域。
	裏 地	明治9年地租改正の時、裏地・甲路淵を併せて裏地とした区域。
オナ フチ 女 淵	女 淵	女はヨナ(米)の転で砂。淵は縁の替字。渡良瀬川の右岸に洪水の度に運んできた砂が堤のようになっている区域。

字	小 字	地名語源
イケ シ ^リ 池 尻 カミノ シ ^{ユウニテ} エラ 上ノ十二平 シモノ シ ^{ユウニテ} エラ 下ノ十二平	池 尻 シ ^{ユウニテ} エラ 十 二 平	<p>岡登用水の通っている崖下にかれたことのない湧水がありその下が池になっていて排水路が、北東へ渡良瀬川迄続いている区域（本来池尻は排水路のみをいう地名）。</p> <p>十二山ノ神を祀っている所から上の区域。</p> <p>十二山ノ神を祀っている所から下の区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、上ノ十二平・下ノ十二平を併せて十二平とした区域。</p>
ヨコ ヤマ 横 山 ヘ ^ン テン ヤマ 辯 天 山 ト ^テ シタ 土 手 下	横 山 マエ ヤマ 前 山	<p>横は東西の方向を言う。 河岸段丘が東西に長く続いている区域。</p> <p>辯財天を祀っている台地。宿の南側。前山の東側。</p> <p>赤城神社を祀っている崖下（土手下）の区域。前山の西側。</p>
		<p>宿の前（南側）にある段丘。 明治9年地租改正の時、辯天山・土手下を併せて前山とした区域。赤城神社の前の意。</p>

天 沼 新 田 (アマヌマシンデン)

(相生町5丁目)

字	小 字	地名語源 (延享2年(1743)の水帳 <small>アヅ</small> による)
堀 下		<p>岡登用水から下の区域で、明治9年地租改正の時、郡境・三角原・間々通・間々・堀下・堀縁に分割された区域。</p>
	郡 境	<p>新田郡境にあり、且つ赤岩ノ渡<small>アカイワノワタシ</small>より伊勢崎へ行く幹線道路の通っている区域。 明治9年地租改正の時、堀下の一部を郡境とした区域。</p>
	三 角 原	<p>小字の形が三角形をしている開墾地。 明治9年地租改正の時、堀下の一部を三角原とした区域。 原は開の替字で開墾地。</p>
	間 々 通	<p>下新田村との境の崖端を削って道を作った区域。 明治9年地租改正の時、堀下の一部と下新田村台ノ西を併せて間々通とした区域。</p>
	間 々	<p>下新田村西堀下崖上の台地。崖端の区域。 明治9年地租改正の時、堀下の一部崖端付近を間々とした区域。</p>
	堀 下	<p>明治9年地租改正の時、旧堀下を六分割し鹿村(笠懸町の一部)寄りの一部のみになった堀下。</p>
	堀 縁	<p>岡登用水の堀の上・下共二間幅の区域で、どろあげ地と用水を保護する為の区域。</p>
堀 上		<p>明治9年地租改正の時、多賀廻・北縁・堀上に分割された区域。 延享2年天沼新田成立の時、岡登用水を境に上・下に分けた堀上の区域。</p>
	多 賀 廻	<p>明治9年地租改正の時、堀上の一部で鎮守多賀神社の付近と下新田村の飛地雨沼・新田道を併せて多賀廻とした区域。</p>
	北 縁	<p>縁は見取場の略で江戸時代の耕地名的一种。開発直後や、山間地にある地味の劣っている耕地で、反別だけを丈量して、本高の中に入れず、およその見当で年貢を課した土地。村の北端に位置し、5¹/₂程の台地で水位の低い不毛の土地を開墾した区域。 明治9年地租改正の時、堀上の一部を北縁とした区域。</p>
	堀 上	<p>明治9年地租改正の時、堀上が三分割され鹿村沿いの一部のみになってしまった堀上。</p>

米 沢 村 (ヨネザワムラ)

(菱町1丁目の一部 * 町別小字表6参照)

字	小 字	地名語源 (水帳不明で字は採用できませんでした)
	ホソ 田 細 田	細は削られて細くなる意の浸食地名。 桐生川の端にある水田地帯なので洪水の時に浸食される区域。
	ヨネ 沢 米 沢	村で一番大きい集落なので村名になっている。 よねは砂の意。砂地で出来ている沢。
	ヒロ 見 広 見	広はヒラ (平) の転で緩傾斜地。見は所の意。 山腹がゆるい傾斜になっている区域。焼畑地名。
	カナ 場 金 場	カリノ (刈野) → カノ (鹿野) → カナと転化した焼畑地名。 焼畑のある山腹。
	オオ 平 扇 平	山腹が扇を広げた形に広く緩い傾斜になっている区域。 焼畑地名。桂山の東南の山腹。
	オナ 沢 女 沢	ヨネ (米) → ヨナ → オナと転化した地名。 すでに同じ地形名称米沢があるのでやむなく女沢とした区域。 砂地の沢で土砂が流れ易い所なので緩傾斜になっている山腹。 横山と広見山の間に細長く入っている沢。
	タカ 沢 高 沢	コウ (神) → コウ (高) → タカ (高) と転化した地名。 山ノ神が祀ってあるので、かみ (神) 沢と呼んでいたが、右 の転化でタカ (高) 沢となった区域。米沢村で一番高い所まで 入っている沢。標高220 [㍎] 。
	オオ 平 大 平	本来オオベラ (扇平) の山腹の形態をしているが、すでに 扇平があるので大平と書き、おおひらと別な読み方にした区 域。336.1 [㍎] 。姥穴山の南山腹。
	ヤマ カミ サカ 山 神 坂	上小友へ行く山道が急坂になった所の大岩の上に山ノ神が 祀ってある区域。
	カ 野 鹿 野	清水川から薬師堂迄の幅で米沢川から東側山腹迄の区域。 鹿野はカリノ (刈野) の略で、山腹を焼畑に利用している区 域。江戸期小俣村に合併した区域。
	イリ コエ ヤ 入 小 屋	入は沢。小屋はコエ (越) の転で峠道。入小俣へ行く峠道の 通っている沢。江戸期小俣村へ合併した区域。一名黒暗 (クラ ヤミ) 沢とも言い、暗道寺があった。米沢薬師は暗道寺の本尊 であった。

小 友 村 (オトモムラ)

(菱町1～3丁目の一部 * 町別小字表6参照)

字	小 字	地名語源 <small>(水帳不明で現在使われている字のみ採用しました)</small>
シタ オ トモ 下 小 友		<p>桐生川が明治5年洪水の時、北側に流れを変えた為、下小友が分断され境野村側へも出来た為、混乱を避ける目的で曲松に変えた区域。</p> <p>小友川沿いの低地上・中・下に分けた下の区域。</p> <p>小友はオトモ（落面）で急傾斜地をいう語。</p>
	マカ ^リ マツ 曲 松	<p>小友川が半円を描きながら曲流しているので、川に囲まれた耕地になる狭い土地がいくつもある区域。</p> <p>明治9年地租改正の時、下小友を曲松に換えた区域。</p> <p>松はマト（間処）の転で狭い所。</p>
ヤマ カ ^ミ マエ 山 神 前	山 神 前	<p>山ノ神を祀ってある山の前（南麓）桐生川左岸の平地。</p> <p>明治5年桐生川が北へ流路を変えた為、川床になり僅かに南端が境野村に合併している。</p>
カサ ^ノ アナ 風 穴	風 穴	<p>山腹に冷たい風が奥から吹いてくるような感じのする大穴のある区域。</p>
ナカ オ トモ 中 小 友	中 小 友	<p>小友川沿いの傾斜地上・中・下に分けた中の区域。</p>
カミ オ トモ 上 小 友	上 小 友	<p>小友川沿いの傾斜地上・中・下に分けた上の区域。</p>
シュク ノ シマ 宿 ノ 島		<p>宿はスカ（砂処）の転。</p> <p>桐生川の曲流部の内側に砂が積もって島になった区域。</p> <p>後に島は左岸と一体になっている。</p>
カワ ハ ^タ 川 端		<p>城ノ岡から流れてくる小川の端に、集落の水汲場のある区域。</p>
ヨリ ヤマ 寄 山	宿 ノ 島 寄 山	<p>明治9年地租改正の時、宿ノ島・川端を併せて宿ノ島とした区域。</p> <p>寄居山の略で桐生氏の砦のあった山。浅間山・仙元山・富士山とも言われている。</p>
ヤマ ノ コシ 山 ノ 越		<p>桐生氏の出丸寄居山の急傾斜のふもとに番士たちの集落のある区域。</p> <p>越は腰の替字。</p>
ナシノ キ サ ^カ 梨ノ木坂		<p>なしはナラ（平）しの転で緩傾斜地。木は場所。坂は峠道。緩い傾斜の峠道のある区域。山ノ越と宿ノ島を結ぶ峠道。</p>
	山 ノ 越	<p>明治9年地租改正の時、山ノ越・梨ノ木坂を併せて山ノ越とした区域。</p>

字	小 字	地名語源
コ ヤツ 小 谷	小 谷	小はコウ（神）の転で山神社の略。やつは谷津の換字で湿地。山神社を祀ってある低湿地。（戦後まではすべて水田だった区域。）
ヒロ ミ 広 見	広 見	広はヒラ（平）の転で緩傾斜地。見は所の意。山腹が緩い傾斜になっている区域。焼畑地名。
ミヤ ツ 宮 谷	宮 谷	宇都宮神社を祀ってある谷。
アカ サカ 赤 坂	赤 坂	上小友へ通ずる赤坂峠道が、赤色のねばつちの山麓を通っている区域。
ハチオウシ ^ハ サカシタ ^シ 八王子坂下	八王子坂下	八王子神社（細川十社の一）の参道が登り坂になっている崖下の区域。
スミ ヨシ 住 吉	住 吉	細川十社の一、住吉神社の区域。 細川氏滅亡後は周藤氏が氏神として祀っている。
イシ タ ^タ マエ 石 田 前	石 田 前	石田の前黒川沿いの現在は一筆の区域。
イシ タ ^タ 石 田	石 田	黒川の左岸河岸段丘なので石の多い区域。 所々に耕地から出る石の捨場の石塚がある。
ミ ヤマ 深 山	深 山	日の当たらない北を向いている山腹。
ライ テン ヤマ 雷 電 山	雷 電 山	村で祀っている雷電神社が山頂にある山。2689番地。
ヤナキ ^キ ヤツ 柳 谷	柳 谷	ヤナ（土手の意）ギ（場所を示す接尾語）。 谷は山麓に囲まれている低地。 土手を築いて、水田用の大池・小池を作ってある山に囲まれた低地。現在は谷の区域（1459～1483・1699～1701番地）は山谷戸だがもとは柳谷。
ハ ハ ^ハ ヤマ 羽 場 山	羽 場 山	住吉峠道沿いが崖になっている山。
ハチ オウ シ ^シ 八 王 子	八 王 子	細川十社の一、八王子神社が山頂に祀ってある山。
ウシロツ クラ 後 倉	後 倉	駒転（コマコロバシ）峠道の後（北側）が崖になっている区域。
ジツ カン ヤマ 十 貫 山	ジツ カン ヤマ 十 貫 山	全山岩石を積み重ねたような山なので重岩山と呼んでいたのが後世に語の意味がわからなくなって十貫山となった。

字	小 字	地名語源
シロ ノ オカ 城 ノ 岡	城 ノ 岡	城は代の替字で山上や山腹の平坦地。 山頂が平坦になっている岡。
ヨシ カ ^レ イリ 芳 ケ 入	芳 ケ 入	葦は悪に通ずるので芳の字を用いた。 葦の生えていて曲がっている湿地の沢。 江戸期には棚田が作られている。現在は産廃の捨場になっている。
ヤマ カ ^ミ 山 神	山 神	山上に山神社が祀ってある山。標高 178 米
コマ コロハ ^シ 駒 転	駒 転	風穴から十貫山・宮谷・小谷へ通ずる峠道。 道端が、馬が転ぶような崩れ易い付近を通っている区域。
カナ ハ ^レ 金 場	金 場	カナはカノの転で焼畑。焼畑のある傾斜の緩い山腹。
キシ ^ノ オ 雉 ノ 尾	雉 ノ 尾	雉は岸の替字でキリイシ（断石）の約で山腹が切立った岩壁になっている区域。 雷電山の東腹が岩壁になっている区域。
クマ ノ 熊 野	熊 野	細川十社の一、熊野社が山頂に祀ってある区域。 現在は東側山麓に遷座している。
セキ ハ ^レ 堰 場	堰 場	小友川から分水する為に、堰を作った区域。
ホソ ク ホ ^レ 細 久 保	細 久 保	浅く小さい山腹のくぼ。
ウメノ キ クホ ^レ 梅 木 窪	梅 木 窪	梅は埋の替字。木は場所。 山腹の崩壊で埋まって出来た、傾斜地のあるくぼ。
クワノ キ クホ ^レ 桑 木 窪	桑 木 窪	桑はクエ（崩）の転で崩壊。木は場所。 山腹の崩壊で埋まって出来た、傾斜地のあるくぼ。
ヒラ タ ^ナ 平 棚	平 棚	山腹が階段状をしている区域。
オ ナス サ ^ワ 尾 無 沢	尾 無 沢	尾は山すその末端。無はナラ（平）しの転で緩傾斜地。 小友川の右岸平棚の山麓が平坦になっている区域。
オ トモニシノ イリ 小友西ノ入	小友西ノ入	小友川の源流尾無沢から、沢が東西に分かれている西側の区域。 小友川の本流。
オ トモヒカ ^シ ノイリ 小友東ノ入	小友東ノ入	小友川の源流尾無沢から、沢が東西に分かれている東側の区域。小友川 の支流。

字	小 字	地名語源
ミョウ カ ^ニ サツ 茗 荷 沢	茗 荷 沢	ミオ（漣）ヶ沢の替字。漣は水流。 いつも水が流れている湿地の沢。
オオヤ コ ^ニ ロウ 大弥五郎	大弥五郎	大弥は大谷の換字。五郎はごろの転で石がごろごろしている所。 二つ同じ形をしている大きい谷（川上）の方で石がごろごろしている区域。
コ ヤ コ ^ニ ロウ 小弥五郎	小弥五郎	小弥は小谷の替字。 五郎はごろの転で石がごろごろしている所。 二つ同じ形をしている小さい谷（川下）の方で石がごろごろしている区域。
タカ ハキ ^ニ 高 萩	高 萩	高萩山の略。高は山の上。萩はハグ（剥）の転で崩壊。 山頂近くの山腹が崩壊して急傾斜している山。
カラスカ ^ニ ネ ^ト 烏ヶ寝戸	烏ヶ寝戸	烏はカレス（枯州）の転で石の多い地質で雨水を吸い込んで沢水の流れない扇平の山腹。寝戸は根戸で付近。 傾斜の緩い扇形をしている焼畑適地の山腹。
ホソ カ ^ニ イリ 細 ケ 入	細 ケ 入	細長いくぼ。
ケ ^ニ ケ ^ニ イリ 谷 ケ 入	谷 ケ 入	馬不入の奥に谷がある区域。
ウマ イラ ス ^ニ 馬 不 入	馬 不 入	馬をつれて山仕事に入れない程急傾斜している山腹。
ホオ ス ^ニ キ サ ^ニ ツ 酸 漿 沢	酸 漿 沢	酸漿の実が水分を含んでいることから、清水が湧いている湿地の沢。
アイ ノ ヤマ 間 ノ 山	間 ノ 山	アイ間は二村の村境を両村を結ぶ道が通っている付近を言う地名用語。姥穴山の北腹を小友村と米沢村を結ぶ峠道の通っている付近。
タ ノ イリ 田 ノ 入	田 ノ 入	田は棚の転で階段状に水田がある山腹のくぼ。
イ ノ イリ 猪 ノ 入	猪 ノ 入	猪は井の替字で清水の湧いている山腹のくぼ。
オオ ヘ ^ニ ラ 扇 平	扇 平	姥穴山の山腹が扇を広げた形をしている区域。 その結果焼畑に利用されている。

字	小 字	地名語源
殺 木 沢 <small>サツ キ サワ</small>	殺 木 沢	殺はサス（射）の転で真直。姥穴山の山腹にある急傾斜の沢の区域。 ※殺木沢の殺には木篇がつくのが正字だが活字が無いので殺を当て字として用いた。
梅 ノ 木 <small>ウメ ノ キ</small>	梅 ノ 木	梅は埋の替字。木は場所。 姥穴山の山腹が崩壊して山麓に埋まって出来た傾斜地。
姥 穴 <small>ウハ ナ</small>	姥 穴	姥穴山の略。全国各地にある姥懐（ウバガフトコロ）の伝承のある山。没落した武士の若殿を育てるために乳母（姥の転）と若殿が隠れ住んだという岩穴が山頂にある山。障子山・桐生富士ともいわれている。 障子山：近くで見ると障子を立てたように急傾斜している山。 桐生富士：遠く桐生から見ると富士山のように見える山。
間 ノ 原 <small>アイ ノ ハラ</small>	間 ノ 原	<small>アイ</small> 間は村境を両村を結ぶ道が通っている区域。 下菱村へ行く峠道の通っている開墾地。
桂 山 <small>カツラ ヤマ</small>	桂 山	下山氏が <small>トウセンジ</small> 東泉寺を建立し、山号を <small>カツラサン</small> 桂山としたことから <small>ウシロ</small> 後の山の地名となった区域。279 <small>メートル</small> 。
膳 棚 <small>セン タナ</small>	膳 棚	膳棚は膳をのせる食器棚。山腹が階段状をしている区域。
とうノ入 <small>トウ ノ イリ</small>	堂 ノ 入	堂（和光院）のあるくぼ。
横 山 <small>ヨコ ヤマ</small>	横 山	横は東西の方向を言う。尾根が東西にのびている山。標高209.7 <small>メートル</small> 。
鳶 山 <small>トビ ヤマ</small>		横山の西側（小友道側）の山腹が急傾斜している所を鳶山と呼んでいる。山が崩壊することを飛ぶということから鳶（トビ）の字を当てた所。標高171.1 <small>メートル</small> 。小字 <small>マグリマツ</small> 曲松2966～2970 番地。

小友村一色 (オトモムライシキ)

(菱町2丁目の一部 * 町別小字表6参照)

字	小字	地名語源 (水帳不明で字は採用できませんでした)
	ヤマ カ ^イ ト 山 谷 戸	山麓に集落のある区域。
	キタ ハラ 北 原	北はキダ (段) の転で段丘。黒川左岸段丘上の開墾地。
	クマ ノ サワ 熊 野 沢	沢口に熊野社を祀ってある大きい沢。
	シタ テ ^ノ 下 出	上の親集落 (不明) から下へ分家して出た子集落。
	ナカ カ ^イ ト 中 谷 戸	山 (雷電山) と川 (黒川) とに囲まれた小平地にある集落。
	コウ シン ツ ^カ 庚 申 塚	道ばたに小高く土を盛って築いた上に、庚申塔が立っている区域。
	ハシ ツ ^メ 橋 詰	黒川のはたが崖になっていて行き止まりの区域。 橋は端の換字。
	モリ ヤマ 森 山	一色の開拓者と言われる和田氏の墓地 (^{リュウタク イシ} 竜太寺 別院不動院2630番地) のある区域。この場合森は墓地をいう。不動院は今はない。
	コシ マキ 腰 巻	黒川が尾根の先端沿いに、半円状に曲流している区域。
	コ サ ^ワ 小 沢	小さい沢の区域。
	ライ テ ^ン ヤマ 雷 電 山	山上に一色村の雷電社を祀ってある山。2637番地。
	キ オト 木 落 シ	木を切り倒すと麓迄落ちて行くような急傾斜の山腹。
	トヘ ^ノ サワ 鳶 ノ 沢	鳶は飛の替字で大崩壊 (山が飛んだという)。 山腹が崩壊して埋まって出来た傾斜地のある沢。
	イ セ ノ マエ 伊勢ノ前	伊勢は伊勢沢の略 (^{ウエ} 上の鳶ノ沢をもとは伊勢沢と言った)。 伊勢沢の入口付近の傾斜地。
	タケ ノ シタ 竹 ノ 下	伊勢ノ前の尾根の先端が崖になっている下の僅な小平地。 竹は嶽の替字で崖。
	ナカ ヤ シキ 中 屋 敷	屋敷は中世の集落名。 山と西ノ入川に囲まれた小平地にある集落。

字	小 字	地名語源
	マカ ^ッ サカ 曲 坂	峠道の古語。中里村（下菱村の一部）金葛へ行く峠道の通っている山腹。
	タケ ヤマ 竹 山	竹は嶽の替字で急傾斜。山腹が急傾斜している山。
	ニシ ノ イリ 西 ノ 入	黒川が橋詰で東西に分かれた西側奥の区域。黒川の支流。現在は中尾根から西ノ入川迄の間の僅かの区域。
	モト ヤ シキ 元 屋 敷	一色村で最初に出来た集落。
	カニ ヤキ サ ^ワ 蟹 焼 沢	カニはカノの転で刈野 ^{カノヤキ} 焼で原野を切り焼いて、作る焼畑のこと。焼畑のある山腹。
	タカ ハ ^タ ケ 高 畑 ケ	山腹の上部にある焼畑。
	コ ハ ^タ ケ 小 畑 ケ	小はコウ（川）の転で黒川右岸沿いにある焼畑。
	ヒカ ^シ ノ イリ 東 ノ 入	黒川が橋詰で東西に分かれた東側の区域。もとは全体の称であったが、黒川右岸2612番地一筆の小区域になっている。黒川の本流。
	ヨ シ ^エ モン クホ ^ク 与治右衛門窪	与治はヨジ（振）るの転。右衛門は右の人名化。曲がっている右側のくぼ。
	タ ローサ ^エ モンクホ ^ク 太郎左衛門窪	太郎はタ（垂）るの転で急傾斜。左衛門は左の人名化。急傾斜の左側のくぼ。
	オ ト ト チ 烏兔土地	烏兔はオト（落）すの転で崩壊。山腹の崩壊で山麓に緩傾斜地の出来た区域。

下 菱 村 (シモビシムラ)

(菱町 2～3 丁目の一部 * 町別小字表 6 参照)

字	小 字	地名語源 (寛文 13 年 (1672) の水帳 <small>アザ</small> の字による)
タカ 高	タ 田	用水から最初に水を引く高い位置にある水田の付近。
と い	クチ 口	黒川からの用水の取水口のある付近。 といは樋で用水を言う。
と い	タ 田	その用水を利用している水田の付近。
	田 中	水田に囲まれた家の区域。 明治 9 年地租改正の時、とい口・とい田を併せて田中とした区域。
カミ 神	ヤ 屋	神屋は神社。若宮八幡宮のある付近。
カミ 神	ヤ マエ 屋 前	若宮八幡宮の参道の区域。
	カミ ヤ 神 谷	明治 9 年地租改正の時、神屋・神屋前を併せて神谷とした区域。
トウシ ロウカ イリ 藤四郎ケ入	藤四郎ケ入	藤四はタウ (倒) しの転で崩壊地形の擬人化。 山腹の崩壊で埋まって出来た傾斜地になっているくぼ。
ナカ オ ネ ヤマ 長尾根山		観音山の頂上から南へ長く延びている尾根。 泉竜院の墓地になっている。
	テラ ヤツ 寺 谷	明治 9 年地租改正の時、尾根の方を字名としていた区域を谷の方の字名に換えた区域。 寺は泉竜院。タニ (谷) は棚 <small>センリュウイン</small> の転で階段状の地形。 泉竜院が建っている階段状に傾斜している沢で棚田に利用した。
	ヤツ 谷	タニ (谷) は棚の転で階段状の傾斜地。 谷山の崩壊により埋まって出来た階段状の傾斜地。
ヤツ ノ マエ 谷 ノ 前		ヤツ (谷) の入口付近の平地。
ワカ 若	ミヤ 宮	若宮八幡宮の境内。 1783 番地、238 坪の狭い区域。
	谷	明治 9 年地租改正の時、谷・谷ノ前・若宮を併せて谷とした区域。

字	小 字	地名語源
タ フク アン 田 福 庵		田福庵のある付近。
タ フクアンノ ウエ 田福庵ノ上		田福庵の上の八幡山東側の山腹。
ナイゼンヤ シキ 内膳屋舗	田 福 庵	明治9年地租改正の時、田福庵・田福庵ノ上を併せて、田福庵とした区域。
ナイゼンヤ シキ 内膳屋舗	ナイゼンヤ シキ	細川内膳の屋舗（東西2丁・南北1丁）のあった区域。応永19年（1412）細川丹後来菱後すぐに屋舗を築いたと言われ五代内膳が桐生助綱（祐綱とも）に滅される迄、133年間菱村の領主として住んでいた屋舗。
ススメ カイ ト 雀 谷 戸	内膳屋敷 雀 谷 戸	明治9年地租改正の時、内膳屋舗を内膳屋敷に換えた区域。
マ マ シタ 間 々 下	間 々 下	菱村領主細川内膳に小雀という愛馬がいた。主人筋に当たる桐生助綱（祐綱とも）が譲ってほしいと懇望したが、内膳が拒否した為天文13年（1544）3月3日助綱が急襲し、内膳は敗れ自殺し、小雀を戦利品として連れ去ろうとしたところ、突然舌を噛み切って殉死した。地元民はその死を憐れみ、そこに葬り観世音を安置し、小雀観世音と呼んだ。その後付近に集落が出来たのを雀谷戸と命名した。
ウワ テ ^{エラ} 上 平	上 平	間々は崖。上張の崖下で黒川との間の狭く細長い低地。
ロック ク 六 句		岡の上が平になっている区域。
ロック ク マエ 六 句 前		ロック（陸）の替字で山麓が崩壊して緩い傾斜になっている区域。
タイ シ トウ 太 子 堂		六句のふもとで平地になっている区域。
ショウヘイ シ 城 平 寺		八幡山の西麓に聖徳太子を祀ってある太子堂（現在は ^{タケハタ} 栲機 ^{ヒメ} 姫神社）のある区域。
ショウヘイ シ 城 平 寺		盤ヶ岡と呼ばれ、2151番地にある。
ショウヘイ シ 城 平 寺		文昌寺の墓地の上に細川氏の氏寺、高尾山細川院城平寺があったのでついた地名。細川氏滅亡後、細川院を西善院と改名し明治4年廃寺。
ショウヘイ シ 城 平 寺	六 句	明治9年地租改正の時、六句・六句前・太子堂・城平寺を併せて六句とした区域。

字	小 字	地名語源
大 門 <small>ダイ モン</small>	大 門	大門とは寺の正門のことであるが、参道に集落が出来るとつく地名。 城平寺の参道の区域。
坂 ノ 上 <small>サカ ノ ウエ</small>	坂 ノ 上	坂は三年坂（転ぶと三年の内に死ぬという俗伝のある坂で、江戸の芝高輪や京都の清水寺など全国各地にある）の略で、坂を上った所（台地）に荒蒔庵 <small>アラマキアツ</small> や細川内膳の家臣森下左衛門の屋敷があった。坂の上に台地のある区域。
十 王 堂 <small>ジュウ オウ トウ</small>		十王堂（十王経に説く、冥府で死者を裁くいう十人の王を祀っている堂）のある区域。堂は天光院 <small>マツ</small> の末の荒蒔庵 <small>マツ</small> の末で、2017番地にある（荒蒔庵は荒牧氏の氏寺）。
	ハ 羽 場	台地の端が桐生川に削られて崖になっている区域。 羽場は間々と同じで崖の意。 明治9年地租改正の時、十王堂を羽場とした区域。
堂 前 <small>ドウ マエ</small>	堂 前	地藏堂のある区域（現在は邪魔にされ、上張に移転した）。
岡 ノ 台 <small>オカ ノ ダイ</small>		岡の上が平になっている区域。
岡 ノ 前 <small>オカ ノ マエ</small>		岡ノ台の東側崖下の黒川右岸迄の低地。
	岡 ノ 台	明治9年地租改正の時、岡ノ上・岡ノ前を併せて岡ノ台とした区域。
蔓 卷 <small>ツル マキ</small>		黒川の曲流部の内側に沿って作られた耕地。
広 見 <small>ヒロ ミ</small>		黒川が洪水の時、流れを換え、左岸の広見の一部が右岸に分割された区域。
	ツル マキ タ 蔓 卷 田	黒川の曲流部の内側にそって作られた水田。 明治9年地租改正の時、蔓卷・広見を併せて蔓卷田とした区域。
久 保 <small>ク ホ</small>	久 保	桐生川左岸のもと河原だった低地。 用水を引いて水田になっている。 昔は幸橋はなくて久保から対岸今泉村へ橋が架かっていた。

字	小 字	地名語源
タカ オ サン 高 尾 山		高尾山 ^{サイゼン} 細川院城 ^{ジヨウヘイ} 平寺の山号で後の名。西善院のあった山腹。
ハチ マン ヤマ 八 幡 山		八幡宮を祀ってある山。
	ライ テン ヤマ 雷 電 山	雷電神社を祀ってある尾根（2541番地）を、明治9年地租改正の時、八幡山より分離した区域。
	トノ ヤマ 殿 山	山頂の平らな山。殿は棚の転で平らの意。明治9年地租改正の時、八幡山の一部を殿山とした区域。
	八 幡 山	明治9年地租改正の時、高尾山・八幡山を併せ、雷電山・殿山を分割した残りを八幡山とした区域。
ヤツ ヤマ 谷 山	谷 山	^{ヤツ} 谷の後ろにある山。
ナカ オ ネ 中 尾 根	中 尾 根	木落シ尾根と長尾根山の間にある細長い尾根。
ハン ツメ 橋 爪		橋詰の替字で川岸が崖になっていて行き止まりの地形を言う。黒川右岸の上は間々下、 ^{シキ} 下は堂前 ^{カミ} の間の川沿いの狭い地区。黒川の右岸が崖になって行き止まりの地区。明治9年地租改正の時、上張に合併した。
ト サキ ウラ 戸 崎 裏		戸は利の替字でとがっている意。崎は突出した意。裏は内側の意。田福庵堀が黒川に合流している、二川に挟まれた内側先端の区域。明治9年地租改正の時、上張に合併した。
シ`ヨウ ハ`リ 上 張		上は崖上の意。張は墾の替字で開墾地。黒川右岸間々下・橋爪崖上の開墾地。
	上 張	明治9年地租改正の時、橋爪・戸崎裏・上張を併せて上張とした区域。

下菱村中里 (シモビシムラナカザト)

(菱町4丁目)

字	小字	地名語源 (寛文13年(1673)の水帳 <small>アザ</small> の字による)
ハチ マン シタ 八 幡 下	ハチマンヤマシタ 八幡山下	八幡宮を祀ってある山下の5筆の小地区。 明治9年地租改正の時、八幡下を八幡山下に換えた小地区。明治9年地租改正の時、上の山腹を殿山に換えた為、正しくは殿山下にすべき区域。
フ モシ シ 普 門 寺	普 門 寺	現在寺のある観音山の区域。 最初に寺のあった所と推定される桐生川沿いの区域の2か所に番地が別れてある。
ホリ ソエ 堀 添	堀 添	桐生川の金葛堰口から金葛堀に添った細長い区域。
ナカ ミチ 中 道	原	桐生川沿いに普門寺があった時に、参道が通っていた区域。 原は開の替字で開墾地。 明治9年地租改正の時、中道を原に替えた区域。中道の意味がわからなくなって替えた。
ナカ トオリ 中 通	中 通	山側・桐生川沿いの2道の間道の道が通っている区域。
イワ シタ 岩 下	岩 下	観音山の崖下の区域の意であるが、岩壁上の山腹も含んでいる。
ヤ シキ ウラ 屋 敷 裏	屋 敷 裏	集落のある区域。 屋敷は江戸初期の集落名。
ナカ シマ 中 島	中 島	昔桐生川が観音山沿い(東側)を流れていた時、川の中州(中島)であった時の地名が今に残っている区域。
ナカ サト 中 里	中 里	村の中心になっている大きい集落。 村名や山名(観音山の旧称中里山)にも使われている。
ヤマ キワ 山 際	山 際	山麓に墓地のある区域。宝福寺があった。 (墓穴を掘る場所を決めることを「山ぎわめ」と言う)
トウ マエ 堂 前	堂 前	御堂のある区域。(現在はどこにあったかも不明)
サワ イリ 沢 入		ソウリと言い焼畑用語。本来の読みの意味が不明となりサワイリと言うようになった。 焼畑のある傾斜のゆるやかな山腹。

字	小 字	地名語源
	サワ イリ クチ 沢 入 口	沢入のうち平地の部分が、明治9年地租改正の時、独立した区域。普通の田・畑のある区域。
	沢 入	沢入のうち山腹の区域が、明治9年地租改正の時、独立した。沢入の呼称に適した区域となった。
テン ス ^イ 天 水	天 水	徳川幕府の法令用語。桐生川が洪水の時、流路となる川沿いの低地で地租の安い堤外区域。（堤外は川原）
イ ス ^タ イ ツ 田	イ ス ^タ 伊 豆 田	イツはイズミ（泉）の略で湧水を利用している水田のある区域。 明治9年地租改正の時、イツ田を伊豆田に換えた区域。
カナ ク ス ^ツ 金 ク ツ		江戸後期では金久津とも書いている。現在の金葛の平地の部分を使った。
カナク ス ^ツ サ ^ワ 金クツ沢		現在の金葛の山腹を言った。葛は屑の替字。 製鉄の行われた所なので地中から鉄滓の出てくる沢。
カカ ヤマ 高 山	カナ クス ^葛 金 葛	明治9年地租改正の時、金クツ・金クツ沢を併せて金葛とした区域。
	クキ ノ サワ 瀧 ノ 沢	高はタケ（嶽）山の換字で御嶽神社を祀ってある山。 瀧のある沢の区域。明治9年地租改正の時、沢が瀧になっている所があるので高山を瀧ノ沢に換えた区域。
クテ イワ 立 岩	立 岩	切り立った大岩のある山。
マル ヤマ 丸 山	アタ コ ^{ヤマ} 愛 宕 山	観音山の北尾根の先端が丸山のように見える区域。 愛宕神社を祀ってある観音山の北端の区域。 明治9年地租改正の時、丸山を愛宕山に換えた区域。
コ ク ホ ^保 小 久 保	小 久 保	普門寺の北側山腹にくぼのある区域。
	オオ ク ホ ^保 大 久 保	旧小久保に二つくぼが並んでいる北側の小さいくぼの区域のみを、明治9年地租改正の時、小久保とした区域。 旧小久保に二つくぼが並んでいる南側の大きいくぼの区域が、明治9年地租改正の時、大久保として独立した区域。
タイ シ マエ 太 子 前		太子堂（現在の ^{タクハタヒメ} 栲機姫神社）の前で現在は桐生川の一部になっている区域。もとは水田だった区域。

上 菱 村 (カンビシムラ)

(菱町5丁目)

字	小 字	地名語源 (寛文6年(1666)水帳の字(アザ)による)
ウツ 打	ノ 野	打野 打は崖。宇津野とも書く。 西側(根本川左岸)が崖になっている野原。
トウ 東	キタ 北	東北 東はタウ(倒)すの語幹で崖。北はケタ(桁)の転で台地。 根本川左岸崖上の台地。
シオ 塩	ノ セ 瀬	塩ノ瀬 塩は塩宮神社の略。瀬は背の替字で後。 塩宮神社の後の山々。
コ 小	サ ^ワ ク ^チ 沢 口	小沢口 二つ並んでいる小さい沢の入口の区域。
オオ 大	サ ^ワ ク ^チ 沢 口	大沢口 二つ並んでいる大きい沢の入口の区域。
ナカ 中	中	中 台地の中央にある集落の区域。
ナカ 中	ノ ウエ 上	中ノ上 中の東側で山麓までの区域。
ナカ 中	ノ カワハ ^タ 川端	中ノ川端 中の西側で根本川左岸までの区域。 左岸に中の集落の水汲場があるのでつけた地名。
タ 田	ノ シタ 下	田ノ下 下ノ田の西側根本川左岸までの区域。
シモ 下	ノ タ 田	下ノ田 田ノ間と田ノ下との間の水田の区域。
タ 田	ノ アイタ ^ラ 間	田ノ間 上ノ田と下ノ田との間の水田の区域。
カミ 上	ノ タ 田	上ノ田 田ノ間と田ノ上との間の水田の区域。
タ 田	ノ ウエ 上	田ノ上 上ノ田の東側で山麓までの区域。
セ 瀬	ハ ^バ 場	瀬場 瀬場はセマ(狭)の転で朝日沢の入口が、両側の尾根に挟まれて狭くなっていることからつけた区域。
アサ 朝	ヒ サ ^ワ 日 沢	朝日沢 塩ノ瀬のうち朝日沢川の両岸即ち、朝日の当たる区域が独立した区域。
ミヤ 宮	ノ マエ 前	宮ノ前 シオノミヤ 塩宮神社の前の参道の付近。

字	小 字	地名語源
トイ 樋 口	クチ 樋 口	山麓の湧水池から下の集落が、樋で生活用水を引いている取水口の区域。
ナカ 中 島	シマ 中 島	もと根本川の中州であった区域。
タイ ニチ 大 日 前	マエ 大 日 前	大日堂の区域。（現在はどこにあったのかも不明）
オオ 大 下	シモ 大 下	大はアフ（仰）ぎの転で急傾斜。 急傾斜している山腹の下の傾斜地。
モ 茂 倉	クラ 茂 倉	茂倉は真倉の転で垂直な岩壁をいう。 桐生川の端に垂直の岩壁が続いている区域。
コ 小 畑	ハタケ 小 畑	小はコウ（川）の転。畑は端の換字。 桐生川の端の僅か一筆（284番地）の区域。
コ 小 沢	サワ 小 沢	小はコウ（川）の転。沢はサワ（騒）の転で水音。 根本川の跳滝と呼ばれている、階段状の滝がある付近なので水音の騒（サワ）がしい区域。
モミ 糶 谷	ヤ 糶 谷	糶は揉の替字で崩壊。 土砂崩れで急傾斜している沢のある区域。
マツ ノ 松 ノ 棒	ホウ 松 ノ 棒	松は俣の転。棒はハエ（蝕）の転で崩壊。 沢口が一つで二俣に分かれている土砂崩れで沢口が埋まっている区域。
カラマキ	カラマキ	ガラメキの転。岩石ががらがら音をたてて落ちてくる急傾斜の沢。唐巻ともかく。
ヒキ 引 田	タ 引 田	引は低の替字。疋田とも書く。田は接尾語で場所を示す語。 桐生川左岸の氾濫原だった低地。
タ ノ 田 ノ 入	イリ 田 ノ 入	田は棚の転。階段状に傾斜しているくぼ。

字	小 字	地名語源
コ マツ 小 松 シ ^ニ カ ^ニ イリ 祖父ヶ入	小 松 祖父ヶ入	<p>小松山の略。全山松におおわれている小さい山のある区域。</p> <p>ジはヒジ（肱）の略。 ひじのように沢口付近から曲がって入っている沢。</p>
コ マル ヤマ 小 丸 山	小 丸 山	<p>桐生氏の柄杓山城の出城（特に物見山砦と本城が直接見えないので小丸山が中継の役目をしていた）出丸山がいつしか丸山といわれ小さい山なので小丸山となった。</p>
モ ク ^ラ サ ^ツ 茂 倉 沢 アナ キ ^レ 穴 切	茂 倉 沢 穴 切	<p>茂倉のうち大きな沢の付近が独立した区域。</p> <p>西から東へ入っている細長い沢で行き止まりにならないで東からも入れるのでついた地名。 この穴切は穴切山の略で朝日沢の中の山名。 穴切山の北側の山腹が穴切沢の急傾斜の南腹になっている。</p>

字 さ く い ん

字 名	ページ	字 名	ページ
ア			
間ノ田 (アイノタ)	一本木村… 54	あたご山前 (アタゴヤママエ)	下新田村… 171
間ノ田 (アイノタ)	中仁田山村 142	熱田 (アツタ)	下広沢村… 45
相ノ田 (アイノタ)	上仁田山村 144	穴切 (アナキレ)	上菱村… 194
間ノ原 (アイノハラ)	如来堂村… 164	あぶく田 (アブクダ)	今泉村… 19
間ノ原 (アイノハラ)	小友村… 183	あぶらかの (アブラカノ)	高沢村… 73
間ノ山 (アイノヤマ)	小友村… 182	油鹿野 (アブラカノ)	上久方村… 67
赤石 (アカイシ)	上広沢村… 33	油シボリ (アブラシボリ)	西小倉村… 124
赤城下 (アカキシタ)	下久方村… 56	天竹 (アマタケ)	二渡村忍山 84
赤城林 (アカキバヤシ)	上広沢村… 37	天津沢 (アマツサヅリ)	堤村… 25
赤城前 (アカキマエ)	上広沢村… 37	雨沼 (アマヌマ)	下新田村… 172
赤城前 (アカキマエ)	高津戸村 (桐生市分) 132	阿弥陀堂 (アマミダウ)	東小倉村… 118
赤城前 (アカキマエ)	高津戸村 (大間々町分) 133	あみだ堂 (アマミダウ)	名久木村… 160
赤粉 (アカコ)	二渡村忍山 87	あみだ前 (アマミダマエ)	上仁田山村 150
赤坂 (アカサカ)	下広沢村… 53	新井 (アライ)	浅部村… 68
赤坂 (アカサカ)	上久方村… 60	新井 (アライ)	東小倉村… 119
赤坂 (アカサカ)	小友村… 180	新井 (アライ)	下仁田山村 139
赤坂谷戸 (アカサカガト)	堤村… 23	新井山 (アライヤマ)	上仁田山村 144
あかし葉 (アカシハ)	上仁田山村 149	新屋敷 (アラヤシキ)	東小倉村… 120
赤地 (アカツチ)	上仁田山村 146	新屋敷裏 (アラヤシキウラ)	須永村… 126
赤萩 (アカハギ)	名久木村… 155	新屋敷前 (アラヤシキマエ)	須永村… 125
赤松 (アカマツ)	山地村… 112	イ	
あくと (アクト)	下広沢村… 48	家ノ前 (イノマエ)	山地村… 109
あさかの (アサカノ)	上仁田山村 151	家ノ向 (イノムカイ)	二渡村忍山 83
浅原谷戸 (アサハラ)	高津戸村 (大間々町分) 134	軍場 (イクサバ)	二渡村… 80
朝日沢 (アサヒサヅリ)	上菱村… 192	池上 (イクエ)	東小倉村… 117
浅部 (アサヘ)	浅部村… 68	池下 (イクシタ)	東小倉村… 117
あしくら (アシクラ)	二渡村忍山 88	池尻 (イクシリ)	蕪町村… 176
あし沢 (アシサヅリ)	二渡村… 79	池田 (イクタ)	下広沢村… 46
足下 (アシジメ)	如来堂村… 167	石穴ノ久保 (イシアノクボ)	上仁田山村 151
足ダ木 (アシダギ)	高沢村… 72	石鴨 (イサモ)	山地村… 109
足垂 (アシタレ)	上広沢村… 39	石ザク (イサク)	下仁田山村 139
足垂ノ入 (アシタレノイリ)	上広沢村… 39	石泉 (イスマミ)	上久方村… 61
足中 (アシナカ)	如来堂村… 167	石ゾリ (イソゾリ)	浅部村… 68
あじろ谷戸 (アジロガト)	高沢村… 72	石田 (イスタ)	今泉村… 19
小豆田 (アズキダ)	中広沢村… 41	石田 (イスタ)	中広沢村… 40
吾妻沢 (アズマサヅリ)	東小倉村… 119	石田 (イスタ)	下広沢村… 44
東屋 (アズマヤ)	下広沢村… 44	石田 (イスタ)	小友村… 180
阿陀窪 (アタクボ)	上久方村… 67	石田前 (イスタマエ)	小友村… 180
愛宕通り (アタゴトウチ)	下新田村… 170	石塚 (イヅカ)	今泉村… 18
愛宕前 (アタゴマエ)	下新田村… 170	石原 (イシハラ)	下広沢村… 43
あたご山 (アタゴヤマ)	下新田村… 170	イツ田 (イツタ)	下菱村中里 191
		伊勢窪 (イセクボ)	上久方村… 64
		伊勢沢 (イセサヅリ)	上久方村… 64
		伊勢沢 (イセサヅリ)	高沢村… 75

字	名	ページ	字	名	ページ
い	せ 沢 (イセザリ)	二渡村忍山 89	岩	本 (イワモト)	上仁田山村 153
い	せ 沢 (イセザリ)	山地村…… 115	岩	出 (イワデ)	上仁田山村 149
伊	勢 森 (イセノリ)	東小倉村… 118			
伊	勢 原 (イセハラ)	如来堂村… 167	上	ノ 久 保 (ウエノクボ)	下仁田山村 139
磯	ノ 入 (イソノイ)	下広沢村… 43	上	ノ 台 (ウエノダイ)	上久方村… 60
居	館 (イダテ)	上久方村… 59	上	ノ 台 (ウエノダイ)	山地村…… 102
一	木 (イチキ)	上広沢村… 37	上	ノ 台 (ウエノダイ)	須永村…… 130
一	ノ 沢 (イチノサリ)	中仁田山村 143	上	ノ 原 (ウエノハラ)	蕪町村…… 175
市	畑 (イチハタ)	高沢村…… 71	上	ノ 山 (ウエノヤマ)	山地村…… 102
一	夜 (イチヤ)	二渡村忍山 82	上	日 向 (ウエヒナタ)	下仁田山村 141
一	夜 山 口 (イチヤマクガチ)	二渡村忍山 82	請	場 (ウケバ)	中広沢村… 41
一	丁 田 (イチチョウダ)	本宿村…… 21	兔	臼 (ウサキウス)	高沢村…… 75
一	丁 田 (イチチョウダ)	高津戸村 (桐生市分) 131	牛	谷 戸 (ウシガト)	須永村…… 127
一	丁 田 (イチチョウダ)	下仁田山村 139	牛	ヶ 久 保 (ウシガクボ)	下仁田山村 139
一	本 木 (イチホウキ)	上広沢村… 33	牛	窪 (ウシクボ)	上久方村… 62
ゐ	ど 入 (イトイ)	飛駒村入飛駒 100	後	沢 (ウシノサリ)	山地村…… 106
ゐ	どがいと (イトガイト)	二渡村…… 78	後	沢 (ウシノサリ)	山地村…… 108
井	戸 谷 戸 (イトガト)	西小倉村… 122	う	しろ 沢 (ウシノサリ)	名久木村… 157
ゐ	ど 沢 (イトザリ)	山地村…… 112	後	田 (ウシノダ)	上久方村… 58
井	戸 ノ 下 (イトノシタ)	山地村…… 102	後	倉 (ウシロクラ)	小友村…… 180
イ	ド 向 (イトムカイ)	山地村…… 107	後	谷 (ウシロヤ)	上広沢村… 32
居	鳥 屋 (イトリヤ)	二渡村忍山 86	鶯	鳥 屋 (ウソトヤ)	上久方村… 67
稲	荷 台 (イナリダイ)	上久方村… 67	内	田 (ウチダ)	下広沢村… 45
稲	荷 塚 (イナリツカ)	上久方村… 65	打	手 (ウチデ)	須永村…… 129
猪	ノ 入 (イノイ)	小友村…… 182	打	出 (ウチデ)	中仁田山村 143
井	ノ 上 (イノウエ)	須永村…… 127	内	山 (ウチヤマ)	上久方村… 64
亥	ノ 前 (イノマエ)	高津戸村 (桐生市分) 32	打	野 (ウツノ)	上菱村…… 192
今	井 宿 (イマイソク)	本宿村…… 21	う	つら久保 (ウツラクボ)	上仁田山村 147
い	も 地 か ま (イモジカマ)	上仁田山村 149	舟	木 (ウナギ)	上久方村… 63
入	打 (イリウチ)	名久木村… 160	姥	ヶ 入 (ウバガイ)	西小倉村… 124
入	口 (イリグチ)	名久木村… 157	う	ば 沢 (ウバザリ)	中広沢村… 41
入	釈 迦 堂 (イリシヤカント)	東小倉村… 120	姥	沢 (ウバザリ)	上久方村… 63
入	山 (イリヤマ)	高沢村…… 75	姥	穴 (ウバナ)	小友村…… 183
岩	木 戸 (イワキト)	高沢村…… 77	鎮	守 原 (ウヅスナハラ)	一本木村… 55
岩	久 保 (イワクボ)	須永村…… 130	う	ぼ み 岩 (ウボミイ)	名久木村… 159
岩	久 保 (イワクボ)	下仁田山村 137	馬	不 入 (ウマイラス)	中広沢村… 40
岩	崎 (イワサキ)	高津戸村 (大間々町分) 134	馬	入 ず (ウマイラス)	高沢村…… 76
岩	下 (イワシタ)	名久木村… 155	馬	不 入 (ウマイラス)	小友村…… 182
岩	下 (イワシタ)	下菱村中里 190	馬	返 シ (ウマガエシ)	下広沢村… 53
岩	だ れ (イワダレ)	山地村…… 110	馬	倉 (ウマクラ)	飛駒村入飛駒 97
岩	ノ 入 (イワノイ)	堤村…… 25	馬	さ くり (ウマサクリ)	上仁田山村 146
岩	ノ 入 (イワノイ)	山地村…… 112	馬	と め (ウマトメ)	二渡村忍山 83
岩	ノ 下 (イワノシタ)	高沢村…… 71	馬	な が れ (ウマカレ)	二渡村忍山 83
岩	ノ 下 (イワノシタ)	下仁田山村 140	馬	道 (ウマミチ)	山地村…… 108
岩	目 (イワメ)	上久方村… 58	梅	ヶ 久 保 (ウメガクボ)	上仁田山村 147
			梅	ヶ 久 保 (ウメガクボ)	名久木村… 161
			梅	ノ 木 (ウメノキ)	小友村…… 183
			梅	ノ 木 久 保 (ウメノキクボ)	山地村…… 110

字 名	ページ	字 名	ページ
梅ノ木久保 (ウメノキホ)	中仁田山村 143	青 木 (オキ)	高津戸村 (大間々町分) 134
梅 木 窪 (ウメノキホ)	小友村…… 181	扇 片 下 (オキシタ)	上久方村… 65
梅ノ木平 (ウメノキデエ)	山地村…… 113	青 木 前 (オキマエ)	高津戸村 (大間々町分) 134
梅 原 (ウメハラ)	上久方村… 58	大 崩 (オクスレ)	名久木村… 161
裏 地 (ウラチ)	蕪町村…… 175	大 崩 入 (オクスレ入り)	名久木村… 161
浦 通 (ウラトウ)	一本木村… 55	大 久 保 (オクホ)	上広沢村… 38
瓜 久 保 (ウリホ)	高津戸村 (大間々町分) 136	大 久 保 (オクホ)	下広沢村… 52
瓜 平 (ウリデエ)	高沢村…… 70	大 久 保 (オクホ)	一本木村… 55
瓜 平 (ウリデエ)	山地村…… 105	大 久 保 (オクホ)	上久方村… 67
瓜生ヶ作 (ウリュウガサク)	山地村…… 103	大 久 保 (オクホ)	東小倉村… 120
漆 ヶ 沢 (ウルシガサリ)	高沢村…… 75	大 久 保 (オクホ)	上仁田山村 152
漆 原 (ウルシハラ)	名久木村… 159	大 桑 木 (オクワキ)	山地村…… 106
上 原 (ウラハラ)	天王宿村… 173	大 小 倉 (オコクラ)	高沢村…… 77
う わ で (ウラデ)	二渡村忍山 84	大 沢 (オサリ)	上久方村… 61
上 平 (ウラデエ)	中広沢村… 42	大 沢 口 (オサリグチ)	上菱村…… 192
上 平 (ウラデエ)	二渡村…… 81	大 芝 (オシハ)	西小倉村… 123
上 平 (ウラデエ)	下菱村…… 187	大 下 (オシモ)	中仁田山村 142
上 野 原 (ウラノハラ)	新宿村…… 29	大 下 (オシモ)	上菱村…… 193
雲祥寺前 (ウンショウジマエ)	須永村…… 129	大 関 (オセキ)	上久方村… 58
エ		大 だ き (オダキ)	山地村…… 115
越 後 城 (エチゴジヨウ)	上久方村… 65	大 竹 屋 敷 (オタケヤシキ)	山地村…… 114
海 老 尾 根 (エビオネ)	上久方村… 66	大 奈 良 木 (オナラキ)	上仁田山村 150
えびすがい (エビスカイト)	高津戸村 (桐生市分) 131	大 ならぎ向 (オナラキムカイ)	上仁田山村 147
戸	高津戸村 (大間々町分) 133	大 畑 (オホタ)	山地村…… 110
えびすがい (エビスカイト)	高津戸村 (大間々町分) 133	大 浜 (オハマ)	上久方村… 58
戸	高津戸村 (大間々町分) 135	大 原 (オハラ)	天王宿村… 173
エントウヒ (エントウヒ)	高津戸村 (大間々町分) 135	大 樋 合 (オヒエ)	上久方村… 66
ラ		大 平 (オヒラ)	西小倉村… 122
オ		大 扇 平 (オホハラ)	小友村…… 182
おいせはら (オイハラ)	下広沢村… 43	大 ま ど (オマト)	山地村…… 105
御伊勢原 (オイハラ)	天王宿村… 173	大まどわき (オマトワキ)	山地村…… 105
をいのガ沢 (オイガサリ)	高沢村…… 76	大 深 山 (オミヤマ)	上久方村… 66
奥 州 (オウシュウ)	二渡村…… 81	大 室 (オムロ)	高沢村…… 74
奥 州 (オウシュウ)	二渡村…… 81	大 持 丸 (オモツマル)	高沢村…… 73
奥 州 (オウシュウ)	二渡村…… 81	大 弥 五 郎 (オヤゴロウ)	小友村…… 182
奥 州 (オウシュウ)	二渡村…… 81	大 谷 沢 (オヤザリ)	高沢村…… 77
奥 州 沢 (オウシュウザリ)	二渡村…… 81	岡 城 (オカジヨウ)	下久方村… 56
大石ヶ谷戸 (オイシガイト)	名久木村… 160	岡 平 (オカダヘ)	上久方村… 59
大 石 窪 (オイシホ)	二渡村…… 78	岡 ノ 上 (オカノウエ)	上広沢村… 37
大 石 平 (オイシデエ)	名久木村… 156	岡 ノ 上 前 (オカノウエマエ)	上広沢村… 37
大 石 畑 (オイシハタ)	高沢村…… 70	岡 ノ 下 (オカシタ)	上久方村… 59
大 谷 戸 (オカイト)	下広沢村… 48	岡 ノ 台 (オカノダイ)	下菱村…… 188
大 谷 戸 (オカイト)	下仁田山村 138	岡 ノ 前 (オカノマエ)	下菱村…… 188
大 形 (オカガタ)	上久方村… 64	大 川 端 (オカンハタ)	下広沢村… 47
大 川 先 (オカワサキ)	須永村…… 129	沖 (オキ)	西小倉村… 121
青 木 (オキ)	東小倉村… 119		

字 名	ページ	字 名	ページ
萩ノ久保 (オキノクボ)	下広沢村… 52	桂 山 (カツラヤマ)	小友村… 183
萩ノ久保 (オキノクボ)	上仁田山村 148	花 台 (カゲイ)	高沢村… 71
小 久 保 (オクボ)	上久方村… 65	金 井 神 (カナイミ)	上広沢村… 34
箴 沢 (オサザリ)	上久方村… 67	金 層 (カナズ)	高津戸村 (大間々町分)135
箴 沢 口 (オサザウカチ)	上久方村… 67	金 ク ツ (カナクス)	下菱村中里 191
箴 沢 前 (オサザマエ)	上久方村… 67	金 ク ツ 沢 (カナクスザリ)	下菱村中里 191
押 切 田 (オシキタ)	下広沢村… 45	か な じ (カナジ)	二渡村忍山 85
大 平 (オダイ)	上仁田山村 152	金 場 (カナバ)	小友村… 181
大 平 前 (オダイマエ)	上仁田山村 152	金 畑 (カナバタ)	中広沢村… 40
落 合 (オチアイ)	須永村… 125	鐘 打 谷 戸 (カネウチヤ)	東小倉村… 117
落 々 (オチオチ)	高津戸村 (桐生市分) 132	金 越 地 (カネコジ)	名久木村… 162
落 内 (オチウチ)	上仁田山村 152	金 沢 (カネザリ)	上久方村… 61
小友西ノ入 (オトモシノイ)	小友村… 181	かねほり窪 (カネホリクボ)	二渡村忍山 88
小友東ノ入 (オトモヒガシノイ)	小友村… 181	狩 野 (カ)	須永村… 129
尾 無 沢 (オオスザリ)	小友村… 181	庚 塚 (カネツカ)	下広沢村… 47
女 淵 (オメフチ)	蕪町村… 175	か の へ 塚 (カネツカ)	山地村… 109
鬼 窪 (オニクボ)	上久方村… 61	か の く ぼ (カノクボ)	上仁田山村 145
鬼ノ木戸 (オニキド)	中広沢村… 40	鹿 ノ 前 (カノマエ)	今泉村… 20
オフキ畑 (オフキハタ)	上仁田山村 144	蕪 町 (カフツチヨ)	二渡村忍山 84
御 堀 上 (オモリウエ)	下新田村… 170	釜 谷 戸 (カマカイト)	須永村… 127
表 石 (オモイシ)	名久木村… 162	上 小 友 (カミオトモ)	小友村… 179
御 屋 敷 (オヤシキ)	上久方村… 60	上 川 面 (カミカワ)	高津戸村 (大間々町分)136
おやまふし (オヤマフシ)	下広沢村… 49	上 久 保 (カミクボ)	高津戸村 (大間々町分)133
大 谷 屋 敷 (オヤヤシキ)	下久方村… 56	上 か い と (カミゲート)	山地村… 104
折 本 (オリモト)	上仁田山村 153	上 谷 戸 (カミゲート)	山地村… 109
押 出 (オウダシ)	下久方村… 57	上 原 (カミハラ)	一本木村… 54
カ		上 中 ノ 作 (カミナカサク)	山地村… 115
鏡 石 (カミイシ)	上久方村… 66	上 ノ 谷 戸 (カミカイト)	須永村… 129
柿ノ木入 (カキノキイ)	上仁田山村 147	上ノ谷戸沢 (カミカイトザリ)	須永村… 128
柿木谷戸 (カキノキヤ)	堤村… 23	上ノ久保 (カミクボ)	山地村… 104
柿ノ谷戸 (カキノゲート)	高津戸村 (大間々町分)133	上ノ窪 (カミクボ)	名久木村… 158
か く ま (カクマ)	二渡村忍山 89	上ノ谷戸 (カミノゲート)	西小倉村… 124
嶽 入 (カケイ)	高沢村… 74	上ノ十二平 (カミノジユエ)	蕪町村… 176
欠 下 (カケシタ)	今泉村… 18	上ノ諏訪社 (カミノスワシヤ)	西小倉村… 123
欠ケノケ作 (カケノケサク)	山地村… 103	上 ノ 田 (カミノタ)	上菱村… 192
風 穴 (カザアナ)	小友村… 179	上 の 中 て (カミノナカテ)	山地村… 104
傘ノせと沢 (カサノセトザリ)	上仁田山村 149	上 ノ 原 (カミノハラ)	二渡村… 78
鍛 冶 谷 戸 (カジガイト)	中広沢村… 42	上 ノ 谷 (カミノヤツ)	下久方村… 57
か ぢ 谷 戸 (カジガイト)	高沢村… 69	上 ノ 山 (カミノヤマ)	下広沢村… 50
かちがいと (カジガイト)	二渡村… 79	上 ノ 山 (カミノヤマ)	山地村… 106
かちの入 (カジノイ)	下広沢村… 51	上 ノ 山 (カミノヤマ)	東小倉村… 116
鍛冶屋谷戸 (カジヤガイト)	上広沢村… 36	上 ノ 山 (カミノヤマ)	下仁田山村 138
柏 久 保 (カシヤクボ)	山地村… 104	上 ノ 山 (カミノヤマ)	上仁田山村 151
勝 山 (カシヤマ)	高津戸村 (桐生市分) 131	上 藤 生 (カミフシユウ)	山地村… 110
勝 山 前 (カシヤママエ)	高津戸村 (桐生市分) 132	上 餅 丸 (カミモチマル)	二渡村忍山 86
柏 倉 (カシワクラ)	中仁田山村 142	神 屋 (カミヤ)	下菱村… 186
葛 平 (カツデア)	飛駒村入飛駒 101	神 屋 前 (カミヤマ)	下菱村… 186

字 名	ページ	字 名	ページ
上 湯 沢 (カミユヅリ)	上久方村… 61	北 田 (キタダ)	下広沢村… 44
鴨 押 (カミシ)	上仁田山村 150	北 ノ 入 (キタノイリ)	中仁田山村 143
かむし畑 (カミシハタ)	上仁田山村 150	北 ノ 久 保 (キタノクボ)	上仁田山村 150
かむし向 (カミシムカイ)	上仁田山村 146	北 ノ 前 (キタノマエ)	上仁田山村 150
賀 茂 沢 (カモヅリ)	下広沢村… 48	北 原 (キタハラ)	山地村… 102
加茂ノ台 (カモノダイ)	上広沢村… 32	狐 平 (キツネヘイ)	名久木村… 161
萱 窪 (カヤクボ)	上久方村… 64	木 ノ 根 坂 (キノネサカ)	山地村… 109
萱 く ぼ (カヤクボ)	山地村… 113	経 塚 (キョウヅカ)	名久木村… 155
カヤノ木畑 (カヤノキハタ)	山地村… 106	きようノ上 (キョウノウエ)	山地村… 109
から石作 (カライシヅクリ)	上仁田山村 147	きようノ前 (キョウノマエ)	山地村… 109
唐 沢 (カヲサリ)	一本木村… 55	きりヶ久保 (キリガクボ)	上久方村… 63
か ら 沢 (カヲサリ)	山地村… 111	桐 ケ 窪 (キリガクボ)	名久木村… 156
か ら 沢 口 (カヲサリガチ)	山地村… 111	切 久 保 (キリクボ)	下広沢村… 46
烏ヶ寝戸 (カラスカネド)	小友村… 182	桐ノ木クボ (キリノクボ)	山地村… 113
カラマキ (カヲマキ)	上菱村… 193	桐ノ木久保 (キリノクボ)	西小倉村… 123
唐 松 (カヲマツ)	二渡村忍山 89	きりばみ (キリバミ)	二渡村忍山 85
唐 松 本 (カヲマツモト)	二渡村忍山 90	桐生道方高 (キリュウチ	
枯木ヶ久保 (カレキガクボ)	名久木村… 161	カダガカ)	下新田村… 172
か ろ う (カノウ)	高沢村… 72	木 和 田 (キワダ)	高沢村… 76
川 久 保 (カワクボ)	上広沢村… 32	金 竜 台 (キンリウダ)	上久方村… 62
川 窪 (カワクボ)	下広沢村… 47		
かはくぼ (カワクボ)	高沢村… 69		
川 久 保 (カワクボ)	高津戸村		
	(大間々町分)134		
川 久 保 (カワクボ)	名久木村… 154	久 久 沢 (ククヅサリ)	中広沢村… 41
川 久 保 (カワクボ)	如来堂村… 164	櫛 沢 (クシガサリ)	上仁田山村 149
かわご石くぼ (カワゴイシクボ)	下広沢村… 53	九 年 谷 戸 (クネガイト)	下仁田山村 140
川 端 (カワハタ)	上広沢村… 32	久 保 (クボ)	下仁田山村 137
川 端 (カワハタ)	一本木村… 54	久 保 保 (クボ)	下菱村… 188
川 端 (カワハタ)	上久方村… 59	久 保 谷 戸 (クボガイト)	上広沢村… 36
川 端 (カワハタ)	二渡村忍山 89	久 保 谷 戸 (クボガイト)	西小倉村… 122
川 ば た (カワハタ)	山地村… 105	久 保 谷 戸 (クボガイト)	名久木村… 154
川 端 (カワハタ)	上仁田山村 150	久 保 田 (クボタ)	下広沢村… 43
川 端 (カワハタ)	名久木村… 154	久 保 田 (クボタ)	東小倉村… 119
川 端 (カワハタ)	小友村… 179	久 保 田 (クボタ)	中仁田山村 143
川 向 (カワムカイ)	名久木村… 154	熊 野 (クマノ)	小友村… 181
川 向 (カワムカイ)	名久木村… 159	熊 ノ 久 保 (クマノクボ)	上仁田山村 151
川 面 (カヲモ)	高津戸村	熊 ノ 沢 (クマノサリ)	下仁田山村 138
	(大間々町分)135	熊 野 林 (クマノバヤシ)	天王宿村… 174
川 除 下 (カヲヨケシタ)	新宿村… 29	蔵 ノ 内 (クラノウチ)	高沢村… 75
川 原 (カヲ)	今泉村… 20	蔵 ノ 沢 (クラノサリ)	高沢村… 71
川 原 (カヲ)	如来堂村… 163	闇 見 (クラミ)	上久方村… 65
観 音 沢 (カンノンザリ)	二渡村忍山 84	栗 ノ 入 (クリノイリ)	上久方村… 67
観 音 澤 (カンノンザリ)	東小倉村… 120	栗ノ木くぼ (クリノクボ)	高沢村… 77
観 音 堂 (カンノドウ)	須永村… 127	栗 生 (クリユ)	浅部村… 68
		栗 生 田 (クリユタ)	高沢村… 69
木 品 (キノナ)	高沢村… 73	くるみ久保 (クルミクボ)	上仁田山村 149
きしの尾 (キノノ)	今泉村… 20	くるみ沢 (クルミザリ)	上仁田山村 151
雉 ノ 尾 (キノノ)	小友村… 181	くるみぞうり (クルミゾウリ)	二渡村忍山 85
北 裏 (キタウラ)	新宿村… 29	黒 新 田 (クロタ)	上仁田山村 151
北 さ わ (キタザリ)	山地村… 104	黒仁田久保 (クロタクボ)	名久木村… 156
		鉾 柄 沢 (クワヅサリ)	下仁田山村 137
		桑 木 窪 (クワノクボ)	小友村… 181
		く わ ば ら (クワハラ)	山地村… 110

字 名	ページ	字 名	ページ
ケ			
谷ヶ入 (ゲヶイ)	小友村…… 182	子とちくぼ (コチクボ)	山地村…… 115
げすこえ作 (ゲスコヱヅ)	二渡村忍山 87	小鳥窪 (コトリクボ)	上久方村… 65
げすこえ山 (ゲスコヤマ)	二渡村忍山 87	小畑 (コハタケ)	上菱村…… 193
玄光庵 (ゲンコウアン)	中仁田山村 142	ごほノ小路 (ゴハノコウジ)	二渡村忍山 82
源次ヶ入 (ゲンジヶイ)	下広沢村… 53	小樋合 (コヒエ)	上久方村… 66
嶮岨地 (ケンソチ)	名久木村… 154	かぶかうち (カブコウジ)	下久方村… 57
嶮岨地 (ケンソチ)	名久木村… 155	こふじう (コフジウ)	山地村…… 109
コ			
こいじ (コイジ)	上仁田山村 152	こぶた原 (コブタハラ)	下広沢村… 50
小坂沢 (コイサヅ)	飛駒村入飛駒 101	五本木 (コホウキ)	堤村…… 24
小入 (コイリ)	名久木村… 160	駒谷戸 (コマガイト)	今泉村…… 20
こうえん作り (コウエンヅクリ)	山地村…… 110	駒方 (コマガタ)	上仁田山村 147
高かせ (コウカセ)	下広沢村… 44	駒転 (コマコロハシ)	小友村…… 181
高禅寺 (コウゼンジ)	山地村…… 115	小松 (コマツ)	下久方村… 57
こえと道下 (コエトミチダ)	天王宿村… 174	小松 (コマツ)	上菱村…… 194
越地 (コシジ)	名久木村… 162	胡麻小路 (コマコウジ)	高沢村…… 74
古谷戸 (コカイト)	上久方村… 60	小満見 (コマミ)	上仁田山村 145
こがいと (コカイト)	山地村…… 107	小丸山 (コマルヤマ)	上菱村…… 194
小ヶ谷戸 (コカイト)	上仁田山村 145	子持丸 (コモツマル)	高沢村…… 73
小ヶ谷戸 (コカイト)	名久木村… 155	小弥五郎 (コヤイゴロウ)	小友村…… 182
ゴ貝戸 (ゴカイト)	上仁田山村 144	小谷沢 (コヤサヅ)	高沢村…… 77
小ヶ谷戸口 (コカイトガチ)	名久木村… 155	小谷 (コヤツ)	小友村…… 180
小くなぎ (コクナギ)	上仁田山村 148	小谷入 (コヤノリ)	上久方村… 59
小久保 (コクボ)	下菱村中里 191	小屋場 (コヤバ)	東小倉村… 119
小谷戸 (コカート)	西小倉村… 124	こやはら (コヤハラ)	今泉村…… 18
小沢 (コサヅ)	名久木村… 160	後原 (コヤハラ)	新宿村…… 29
小沢 (コサヅ)	小友村一色 184	木閘 (コヤミ)	山地村…… 103
小沢 (コサヅ)	上菱村…… 193	甲路淵 (コロフチ)	蕪町村…… 175
小沢口 (コサヅガチ)	上菱村…… 192	権現山 (コンゲンヤマ)	上久方村… 66
小沢南ノ入 (コサヅミナノイリ)	名久木村… 160	サ	
小沢南ノ入奥 (コサヅミナノイリオク)	名久木村… 160	塞神 (サイガミ)	須永村…… 128
小芝 (コシバ)	西小倉村… 123	才ノ神 (サイノガミ)	中広沢村… 42
こしぼち (コシボチ)	高沢村…… 77	境上 (カイガミ)	下仁田山村 141
腰巻 (コシマキ)	一本木村… 54	坂ノ上 (サカノウエ)	西小倉村… 122
腰巻 (コシマキ)	須永村…… 126	坂ノ上 (サカノウエ)	須永村…… 127
腰巻 (コシマキ)	中仁田山村 142	坂ノ上 (サカノウエ)	名久木村… 158
越まき (コシマキ)	上仁田山村 152	坂ノ上道下 (サカノウエ)	下菱村…… 188
腰巻ノ上 (コシマキノウエ)	須永村…… 127	ミチシタ)	須永村…… 127
小十二平 (コジユウニテエラ)	天王宿村… 173	坂ノ下 (サカノシタ)	上久方村… 59
小曾根 (コソネ)	村松村…… 27	坂ノ下 (サカノシタ)	西小倉村… 121
小曾根窪 (コソネクボ)	高沢村…… 72	坂ノ下 (サカノシタ)	須永村…… 126
こだかい (コダカイ)	二渡村忍山 90	坂ノ下 (サカノシタ)	中仁田山村 142
小滝 (コタギ)	高沢村…… 76	坂ノ下堀上 (サカノシタ)	名久木村… 158
小たきひら (コタキヒラ)	山地村…… 114	ホリウエ)	須永村…… 126
五反田 (ゴタンダ)	下広沢村… 44	坂ノ下道東 (サカノシタ)	須永村…… 126
五反田 (ゴタンダ)	須永村…… 126	ミチカシ)	須永村…… 126
五反田 (ゴタンダ)	上仁田山村 144	サガ畑ヶ (サガバタケ)	山地村…… 112
子つなぎ (コツナギ)	高沢村…… 73	作網 (サカミ)	二渡村…… 81
古庭ノ入 (コテイノイリ)	上広沢村… 39	坂向 (サカムイ)	山地村…… 105
		坂本 (サカモト)	上広沢村… 36

字 名	ページ	字 名	ページ
坂本 (サカモト)	山地村…… 108	清水 (シミス)	上仁田山村 153
下り (サカリ)	下仁田山村 140	清水 (シミス)	名久木村… 154
下り (サカリ)	山地村…… 105	清水 (シミス)	如来堂村… 165
下藤 (サカリフジ)	東小倉村… 120	清水谷戸 (シミスガイト)	堤村…… 23
作なし (サカナシ)	上広沢村… 34	清水畑 (シミスハタ)	村松村…… 27
桜塚 (サクラヅカ)	如来堂村… 165	清水林 (シミスバヤシ)	山地村…… 108
桜峠 (サクラトウゲ)	下仁田山村 139	清水向 (シミスムカイ)	飛駒村入飛駒 101
さぐり (サカリ)	下広沢村… 47	メ 太 原 (シメタガハラ)	上広沢村… 34
笹久保 (ササクボ)	名久木村… 154	しめつくし (シメツクシ)	下広沢村… 50
殺木沢 (サキキサワ)	小友村…… 183	下小久保 (シモオクボ)	山地村…… 112
皿久保 (サラクボ)	村松村…… 26	下河原 (シモガハラ)	下仁田山村 141
皿久保 (サラクボ)	下仁田山村 140	下 窪 (シモクボ)	上久方村… 64
さらくぼ (サラクボ)	上仁田山村 151	下 久 保 (シモクボ)	高津戸村 (桐生市分) 131
猿岩 (サルイワ)	上仁田山村 148	下くるみ久保 (シモクルミクボ)	上仁田山村 146
笹谷戸 (ササカガイト)	下仁田山村 138	下 田 (シモダ)	下広沢村… 48
沢入 (サワイ)	上仁田山村 144	下高芝入 (シモカシバ シバイ)	二渡村忍山 85
沢入 (サワイ)	下菱村中里 190	下 平 (シモヘイ)	名久木村… 154
沢田 (サワダ)	高津戸村 (大間々町分)133	下ノ窪 (シモノクボ)	名久木村… 158
沢ノ入 (サワノイ)	上仁田山村 152	下ノ十二平 (シモノジュウニ テヘ)	蕪町村…… 176
三丁免 (サンチョウメン)	中広沢村… 42	下ノ諏訪社 (シモノスワシヤ)	西小倉村… 123
山王台 (サンノウダイ)	上久方村… 60	下ノ田 (シモノタ)	上菱村…… 192
三本木 (サンポンキ)	上仁田山村 144	下ノ平 (シモノヘイ)	名久木村… 160
		下ノ原 (シモノハラ)	二渡村…… 78
		下林廻リ (シモバヤシ メグリ)	下新田村… 168
塩ノ瀬 (シオノセ)	上菱村…… 192	下 原 (シモハラ)	新宿村…… 28
祖父ヶ入 (ジカガイ)	上菱村…… 194	下 湯 沢 (シモユサワ)	上久方村… 61
獅子田 (シシダ)	東小倉村… 116	下 湯 船 (シモユフネ)	上仁田山村 150
鹿田 (シカダ)	西小倉村… 124	蛇 穴 (ジヤナ)	下広沢村… 43
しし作 (シシツクリ)	山地村…… 111	蛇 穴 (ジヤナ)	下仁田山村 139
地藏堂 (ジツウダウ)	名久木村… 159	蛇 穴 (ジヤナ)	上仁田山村 145
下岩 (シタワ)	上仁田山村 148	釈 迦 堂 (シヤカント)	東小倉村… 119
下小友 (シタオモ)	小友村…… 179	蛇 崩 (シヤクスレ)	下広沢村… 43
下てかいと (シタテガイト)	二渡村忍山 82	蛇 窪 (シヤクボ)	高沢村…… 73
下日向 (シタヒナタ)	下仁田山村 141	じゃけん上 (シヤケン ジョウ)	二渡村忍山 82
四反田 (シタタ)	上広沢村… 35	蛇 沢 (シヤカサワ)	東小倉村… 119
四反田 (シタタ)	中広沢村… 41	十 王 堂 (シユウウ)	下菱村…… 188
四反田 (シタタ)	下広沢村… 45	十次ヶ久保 (シユウジガ クボ)	高沢村…… 75
四反田道 (シタタミチ)	中広沢村… 41	寿 宇 殿 (シユウツノ)	須永村…… 125
室新寺 (シツシンジ)	下仁田山村 141	拾 式 (シユウシキ)	名久木村… 159
志度 (シト)	山地村…… 107	十 二 平 (シユウニ テヘ)	天王宿村… 173
志度向 (シトムカイ)	飛駒村入飛駒 101	十 八 曲 り (シユウハチ マカリ)	下広沢村… 53
芝手沢 (シハツテサワ)	名久木村… 156		
芝原 (シハハラ)	高沢村…… 71		
島 (シマ)	須永村…… 128		
島谷戸 (シマカイト)	高津戸村 (桐生市分) 131		
	東小倉村… 117		
島崎 (シマサキ)	須永村…… 128		
島畑 (シマハタ)	今泉村…… 19		
清水 (シミス)	上広沢村… 38		
清水 (シミス)	山地村…… 108		

字 名	ページ	字 名	ページ
十 八 曲 (ジ ュウハチ マガリ)	上久方村… 66	諏 訪 ノ 前 (スワノマエ)	名久木村… 159
宿 (シュク)	上広沢村… 34	せ い せん 作 (セイツンヅクリ)	山地村… 113
宿 (シュク)	中仁田山村 142	清 台 (セイダイ)	下久方村… 56
宿 (シュク)	天王宿村… 173	せ い だ し (セイダシ)	上仁田山村 149
宿 頭 (シュクカシ)	蕪町村… 175	関 下 (セキタ)	新宿村… 29
宿 ノ 島 (シュクノシマ)	小友村… 179	せ き 下 (セキタ)	天王宿村… 174
宿 巡 (シュクメグリ)	高沢村… 70	関 根 (セキネ)	上仁田山村 153
十 本 原 (ジ ュッポン バラ)	今泉村… 20	せ き ノ 上 (セキノウエ)	上仁田山村 152
障 子 岩 (ショウジイワ)	名久木村… 156	せ き ノ 下 (セキノタ)	上仁田山村 152
上 人 後 (ショウニンウシロ)	上広沢村… 32	堰 場 (セキバ)	小友村… 181
上 張 (ジ ュウバリ)	下菱村… 189	関 堀 (セキボリ)	須永村… 126
菖 蒲 (ショウブ)	名久木村… 157	瀬 場 (セバ)	上菱村… 192
城 平 寺 (ジ ュウヘイジ)	下菱村… 187	蟬 谷 戸 (セミガイト)	村松村… 26
初 ノ 沢 (ショノサワ)	二渡村忍山 86	せ れ 石 (セシ)	二渡村… 80
初ノ沢入口 (ショノサワ イリグチ)	二渡村忍山 86	仙 ケ 沢 (センガサワ)	上久方村… 64
女 郎 向 (ジ ュロムカイ)	東小倉村… 120	心 正 寺 (シンジウジ)	東小倉村… 118
しりなし (シリナシ)	上仁田山村 151	ぜん だ な (ゼンダナ)	堤村… 25
次郎左衛門橋 (ジ ロウサエ モンバシ)	名久木村… 158	膳 棚 (ゼンダナ)	高津戸村 (桐生市分) 131
城 谷 戸 (シロガイト)	上久方村… 59	膳 棚 (ゼンダナ)	小友村… 183
白 竹 く ぼ (シロタケクボ)	上仁田山村 148	膳 ノ 窪 (ゼンノクボ)	名久木村… 156
城 ノ 岡 (シロノカ)	小友村… 181	象 ケ 久 保 (ゾウカクボ)	高沢村… 74
城 ノ 前 (シロノマエ)	上久方村… 63	ぞ ぶ か の (ゾウカノ)	名久木村… 154
白 蕨 沢 (シロワラビ サワ)	上仁田山村 148	象 ケ 鼻 (ゾウカノハ)	東小倉村… 116
神 田 (ジント)	上久方村… 58	象 頭 山 (ゾウズサン)	東小倉村… 119
新 田 開 道 (シンテン カイドウ)	蕪町村… 175	ぞ う ど の (ゾウドノ)	今泉村… 18
新 田 道 (シンテンミチ)	下新田村… 172	沢 入 (ソリ)	山地村… 111
新 林 (シンバヤシ)	上仁田山村 146	そ り 川 (ソリカワ)	下広沢村… 48
新 堀 (シンボリ)	上久方村… 59	反 手 沢 (ソリサワ)	上仁田山村 148
神 明 (シンメイ)	上広沢村… 38	反 町 (ソリマチ)	上広沢村… 37
		反 町 東 (ソリマチガシ)	上広沢村… 38
		ぞ ろ め き (ゾロメキ)	高沢村… 77
		ゾ ロ メ キ (ゾロメキ)	二渡村忍山 87
		台 (ダイ)	中広沢村… 40
す う ど の (スウドノ)	天王宿村… 174	大 黒 尾 根 (ダイコクオネ)	上久方村… 66
杉 沢 (スキサワ)	上久方村… 60	大 根 お ろ し (ダイコンシ)	山地村… 111
すぎなくぼ (スキナクボ)	山地村… 113	太 子 堂 (タイシドウ)	下菱村… 187
杉 ノ 入 (スキノイリ)	下広沢村… 46	太 子 前 (タイシマエ)	下菱村中里 191
杉 ノ 下 (スキノタ)	下久方村… 56	た ひ ち ノ 久 保 (タイチノクボ)	上仁田山村 150
杉 ノ 下 (スキノタ)	如来堂村… 163	大 日 堂 (ダイニチドウ)	名久木村… 155
ス ケ ガ タ (スカガタ)	下広沢村… 53	大 日 前 (ダイニチマエ)	上菱村… 193
助 七 平 (スケチヂエラ)	山地村… 107	代 ノ 上 (ダイノウエ)	下新田村… 172
雀 谷 戸 (スズメガイト)	下菱村… 187	台 ノ 西 (ダイニシ)	下新田村… 172
捨 場 沢 (セバサワ)	下仁田山村 140	台 待 窪 (ダイマツクボ)	下広沢村… 53
砂 田 谷 戸 (サダガイト)	本宿村… 21	大 門 (ダイモン)	上久方村… 58
住 吉 (スミヨシ)	小友村… 180	大 茂 (ダイモン)	二渡村忍山 84
諏 訪 (スワ)	高沢村… 69	大 門 (ダイモン)	下菱村… 188
諏 訪 後 (スワウシロ)	今泉村… 20	高 尾 山 (カオサン)	下菱村… 189
諏 訪 ノ 入 (スワノイリ)	下仁田山村 137		

字 名	ページ	字 名	ページ
高 谷 戸 (タカ ^ゝ イ)	高津戸村 (桐生市分) 132	た つ や 沢 (タツヤ ^リ)	下広沢村… 52
高ヶ谷戸 (タカ ^ゝ イ)	名久木村… 159	立 岩 (タエイ)	中広沢村… 40
高 芝 (タカシ ^ゝ)	高沢村… 75	立 岩 (タエイ)	下菱村中里 191
高 芝 (タカシ ^ゝ)	二渡村忍山 85	田 中 (タカ)	上広沢村… 32
高 田 (タカタ)	今泉村… 18	田 中 (タカ)	下広沢村… 50
高 田 (タカタ)	下広沢村… 44	田 中 (タカ)	下久方村… 57
高 田 (タカタ)	下菱村… 186	田 ノ 入 (タネリ)	東小倉村… 117
高 嶽 (タカタケ)	山地村… 108	田 ノ 間 (タニアタ ^ゝ)	西小倉村… 124
たかいた (タニタ)	山地村… 112	田 ノ 入 (タノリ)	上菱村… 192
高 仁 田 向 (タニタムカイ)	飛駒村入飛駒 100	田 ノ 入 (タノリ)	堤村… 25
鷹 ノ 巢 (タノス)	下広沢村… 52	田 ノ 入 (タノリ)	上久方村… 67
鷹 ノ 巢 (タノス)	高沢村… 76	田 ノ 入 (タノリ)	小友村… 182
鷹 ノ 巢 (タノス)	二渡村忍山 89	田 ノ 上 (タノウエ)	上菱村… 193
鷹 ノ 巢 (タノス)	東小倉村… 116	田 ノ 下 (タノシタ)	上菱村… 192
鷹 ノ 巢 (タノス)	東小倉村… 120	田 端 (タハタ)	上仁田山村 150
鷹 ノ 巢 (タノス)	西小倉村… 121	田 端 (タハタ)	如来堂村… 165
たかノす入口 (タノス リクグチ)	二渡村忍山 89	田 福 庵 (タフクアン)	下菱村… 187
高 萩 (タカヒ ^ゝ)	小友村… 182	田福庵ノ上 (タフクアンノウエ)	下菱村… 187
たかはた (タカハタ)	高沢村… 77	溜 上 (タメウエ)	東小倉村… 117
高 畑 (タカハタ)	下仁田山村 138	た め が い (タメガイ)	名久木村… 157
高 畑 (タカハタ)	上仁田山村 146	樽 ケ 久 保 (タルクホ ^ゝ)	名久木村… 158
高 鼻 (タカナ)	上久方村… 60	樽 ケ 沢 (タルクサ ^リ)	上仁田山村 148
高 平 (タカヒ ^ラ)	二渡村忍山 87	た る く ぼ (タルクボ ^ゝ)	高沢村… 75
高 へ ら (タカヘ ^ラ)	山地村… 110	反 田 (タンダ ^ゝ)	高津戸村 (大間々町分) 133
高 松 沢 (タカマツサ ^リ)	上久方村… 63		
高 松 平 (タカマツデ ^{エラ})	上久方村… 63	チ	
高 間 々 (タカマ)	上久方村… 60	千 網 谷 戸 (チアマカ ^イ)	須永村… 125
高 山 (タカヤマ)	下菱村中里 191	千 網 谷 戸 道 下 (チアマカ ^イ ミシタ)	須永村… 125
た き ノ 上 (タキノウエ)	高沢村… 72	治 部 ノ 下 (チブ ^ノ シタ)	上広沢村… 37
た き ノ 上 (タキノウエ)	山地村… 114	長 者 か い と (チョウジヤ ^ガ イ)	
た き ノ く ぼ (タキノクボ ^ゝ)	高沢村… 72	長 塚 (チョウツカ)	下広沢村… 51
滝 ノ 沢 (タキノサ ^リ)	二渡村… 81		村松村… 26
滝 ノ 沢 (タキノサ ^リ)	山地村… 104	ン	
滝 ノ 沢 (タキノサ ^リ)	上仁田山村 150	通 度 (ツト ^ゝ)	高津戸村 (大間々町分) 134
た き ノ 下 (タキノシタ)	山地村… 114	塚 越 (ツカゴ ^シ)	中広沢村… 41
滝 山 (タキヤマ)	如来堂村… 166	塚 越 (ツカゴ ^シ)	下仁田山村 137
竹 ノ 入 (タケノイ)	二渡村忍山 82	塚 越 (ツカゴ ^シ)	名久木村… 155
竹 ノ 中 (タケノウチ)	下広沢村… 49	塚 ノ 脇 (ツカノワキ)	名久木村… 155
竹 ノ 窪 (タケノクボ ^ゝ)	上久方村… 66	佃 (ツクダ ^ゝ)	東小倉村… 117
竹ノくぼ (タケノクボ ^ゝ)	山地村… 113	築 原 (ツクハラ)	飛駒村入飛駒 100
竹 ノ 下 (タケノシタ)	下広沢村… 51	辻 (ツジ ^ゝ)	須永村… 129
竹 ノ 下 (タケノシタ)	山地村… 106	辻 堂 (ツジト ^ウ)	上広沢村… 36
竹 ノ 下 (タケノシタ)	下仁田山村 140	土 こ ぼ し (ツチコボ ^シ)	今泉村… 19
竹 ノ 平 (タケノヘラ)	山地村… 107	土 坂 (ツツサカ)	二渡村忍山 86
た こ ノ 平 (タコンヘラ)	高沢村… 71	躑 躅 窪 (ツツジクボ ^ゝ)	上久方村… 61
太左衛門清水 (ダサエモン シミス)	如来堂村… 164	常 木 谷 戸 (ツツギ ^ガ イ)	今泉村… 18
田 敷 (タジキ)	須永村… 126	角 畑 (ツノハタ)	上仁田山村 152
立 岩 (タツヤ)	下広沢村… 53	蔓 卷 (ツルマキ)	下菱村… 188

字 名	ページ	字 名	ページ
平 (テエラ)	山地村…… 104	堂 前 (トウマエ)	下菱村中里 190
出 林 (テッパヤシ)	如来堂村… 167	東 間 谷 戸 (トウマカイト)	二渡村…… 79
手なしごや (テナシゴヤ)	山地村…… 110	と う め き (トウメキ)	山地村…… 110
寺 下 (テラシタ)	新宿村…… 28	堂 巡 リ (トウメケリ)	山地村…… 102
寺 ノ 入 (テラノイ)	上広沢村… 38	堂 巡 リ (トウメケリ)	山地村…… 103
寺 前 (テラマエ)	上広沢村… 36	ドフヤ久保 (トウヤクホ)	山地村…… 112
寺 前 (テラマエ)	高沢村…… 69	道 陸 神 前 (トウロクジンマエ)	下久方村… 56
寺 前 (テラマエ)	西小倉村… 122	道 六 神 向 (トウロクジンカ)	上仁田山村 151
寺 脇 (テラワキ)	須永村…… 130	遠 堀 (トホリ)	上広沢村… 36
天 神 尾 根 (テンジンノネ)	下仁田山村 138	所 場 (トコバ)	高沢村…… 71
天 神 前 (テンジンマエ)	須永村…… 126	と さ き (トサキ)	二渡村…… 79
天 神 山 (テンジンヤマ)	上久方村… 62	戸 崎 裏 (トサキウラ)	下菱村…… 189
天 水 (テンスイ)	下久方村… 56	と ち く ぼ (トチクボ)	山地村…… 115
天 水 (テンスイ)	下菱村中里 191	と ち ノ 木 沢 (トチノキザリ)	山地村…… 103
天 王 宿 境 (テンノウジユクカ)	下新田村… 169	栃 ノ 木 沢 (トチノキザリ)	名久木村… 157
		と ち ノ 木 たい (トチノキタイ)	二渡村忍山 84
		と つ ら 沢 (トツザリ)	下広沢村… 47
と い 口 (トイクチ)	下菱村…… 186	堂 平 (トデエラ)	上久方村… 67
樋 口 (トイクチ)	上菱村…… 193	土 手 下 (トテシタ)	蕪町村…… 176
土 井 下 (トイシタ)	村松村…… 26	殿 入 (トノイ)	高津戸村 (大間々町分)135
と い 田 (トイタ)	下菱村…… 186	頓 ノ 入 (トノイ)	下仁田山村 138
樋 田 (トイダ)	村松村…… 27	殿 入 峯 (トノイリネ)	高津戸村 (大間々町分)135
と ひ の 下 (トイノシタ)	下新田村… 169	殿 山 (トノヤマ)	下広沢村… 52
とひの下すへ (トイノシタエ)	下新田村… 169	殿 山 沢 (トノヤマザリ)	下広沢村… 52
戸 井 ノ 元 (トイノモト)	上広沢村… 35	飛 地 (トビチ)	如来堂村… 167
堂 院 谷 戸 (トウインガイト)	下仁田山村 138	と び の す (トビノス)	堤村…… 24
堂 谷 戸 (トウカイト)	須永村…… 125	友 之 助 原 (トモノスケハラ)	下広沢村… 50
た う か 塚 (トウカヅカ)	新宿村…… 29	と よ ノ 久 保 (トヨノホ)	名久木村… 157
稲 荷 穴 (トウカナ)	如来堂村… 167	ど よ ノ 下 (トヨノシタ)	名久木村… 158
と う か な (トウカナ)	天王宿村… 174	鳥 谷 戸 (トリカイト)	二渡村…… 80
稲 荷 前 (トウカマエ)	新宿村…… 29	鳥 ノ 海 (トノミ)	下仁田山村 137
東 北 (トウキタ)	上菱村…… 192		
峠 (トウゲ)	堤村…… 25		
峠 (トウゲ)	東小倉村… 119		
峠 下 (トウゲシタ)	東小倉村… 116		
東 光 寺 (トウコウジ)	下仁田山村 137		
東 西 (トウサイ)	高津戸村 (大間々町分)136		
とうじつ平 (トウジツッパ)	山地村…… 102		
東 正 寺 (トウショウジ)	今泉村…… 20		
藤 四 郎 ヶ 入 (トウシロウガイ)	下菱村…… 186		
と う ノ 入 (トウノイ)	村松村…… 27		
堂 ノ 入 (トウノイ)	山地村…… 103		
と う ノ 入 (トウノイ)	小友村…… 183		
堂 の わ き (トウノワキ)	山地村…… 103		
堂 場 (トウバ)	上仁田山村 146		
堂 前 (トウマエ)	下広沢村… 50		
堂 前 (トウマエ)	下菱村…… 188		
		内 膳 屋 舗 (ナゼンヤシキ)	下菱村…… 187
		苗 間 代 (ナエマシロ)	下新田村… 169
		苗 間 代 通 里 (ナエマシロトウ)	下新田村… 168
		中 (ナカ)	上菱村…… 192
		中 居 (ナカイ)	上広沢村… 37
		中 井 (ナカイ)	二渡村…… 79
		中 小 友 (ナカオトモ)	小友村…… 179
		中 尾 根 (ナカオネ)	上久方村… 64
		中 尾 根 (ナカオネ)	上久方村… 66
		中 尾 根 (ナカオネ)	下仁田山村 139
		中 尾 根 (ナカオネ)	下菱村…… 189
		長 尾 根 (ナカオネ)	下広沢村… 53
		長 尾 根 山 (ナカオネヤマ)	下菱村…… 186

字 名	ページ	字 名	ページ
中ヶ谷戸 (ナカガハ)	名久木村… 159	鍋 足 (ナベアシ)	高沢村… 74
中 河 原 (ナカハラ)	天王宿村… 174	ナンジキ (ナンジキ)	飛駒村入飛駒 100
中 川 原 (ナカガハラ)	名久木村… 159	二	
中 川 原 (ナカガハラ)	下新田村… 171	新 堀 (ニホリ)	下仁田山村 137
中 久 保 (ナカクボ)	二渡村忍山 89	新 堀 下 (ニホリシタ)	須永村… 128
中 く ぼ (ナカクボ)	山地村… 113	西 (ニシ)	中広沢村… 41
長 崎 (ナガサキ)	上広沢村… 35	西 行 場 (ニシギヨウバ)	西小倉村… 124
中 里 (ナカサト)	上広沢村… 35	西 久 保 (ニシクボ)	高津戸村 (桐生市分) 131
中 里 (ナカサト)	須永村… 127	西久保谷戸 (ニシクボ)	
中 里 (ナカサト)	下菱村中里 190	ガト	堤村… 24
中 里 後 (ナカサトウシロ)	上広沢村… 32	西 久 保 分 (ニシクボブン)	下新田村… 171
中 芝 (ナカシバ)	西小倉村… 123	西 积 迦 堂 (ニシヤカト)	東小倉村… 120
中 島 (ナカジマ)	二渡村… 78	西 宿 (ニシユク)	須永村… 129
中 島 (ナカジマ)	須永村… 125	西 宿 地 蔵 堂 (ニシユク)	
中 島 (ナカジマ)	上仁田山村 153	シゾウトウリ	須永村… 129
中 島 (ナカジマ)	下菱村中里 190	西 童 子 原 (ニシ)	
中 島 (ナカジマ)	上菱村… 193	トジツハラ	西小倉村… 122
長瀬舟場 (ナガセフナバ)	須永村… 125	西 ノ 入 (ニシノリ)	堤村… 24
中 通 (ナカトウ)	下菱村中里 190	西 ノ 入 (ニシノリ)	中広沢村… 42
中 野 (ナカノ)	上久方村… 60	西 ノ 入 (ニシノリ)	下広沢村… 43
中 ノ 上 (ナカノウエ)	上菱村… 192	西 ノ 入 (ニシノリ)	西小倉村… 123
中ノ川端 (ナカノカワハタ)	上菱村… 192	西 ノ 入 (ニシノリ)	中仁田山村 142
中ノ久保 (ナカノクボ)	西小倉村… 122	西ノ入日向 (ニシノリヒナタ)	須永村… 130
中ノ窪 (ナカノクボ)	名久木村… 156	西 海 道 (ニシノカイト)	下広沢村… 45
中ノ沢 (ナカノサリ)	山地村… 106	西ノ谷戸 (ニシノガイト)	須永村… 125
中ノ関 (ナカノセキ)	名久木村… 159	西ノ根 (ニシノネ)	須永村… 130
中ノ平 (ナカノヘイ)	高沢村… 72	西ノ前 (ニシノマエ)	上広沢村… 37
中ノ免 (ナカノメン)	中広沢村… 41	西 間 々 下 (ニシマシタ)	下新田村… 171
長 畑 (ナガハタケ)	名久木村… 154	西 屋 敷 浦 (ニシヤシキウラ)	下新田村… 171
中 原 (ナカハラ)	下広沢村… 47	西 山 (ニシヤマ)	堤村… 24
中 道 (ナカミチ)	上久方村… 59	西 山 (ニシヤマ)	高沢村… 70
中 道 (ナカミチ)	下仁田山村 138	西 山 (ニシヤマ)	山地村… 106
中 道 (ナカミチ)	蕪町村… 175	仁 田 所 (ニタノコロ)	本宿村… 21
中 道 (ナカミチ)	下菱村中里 190	二 反 田 (ニタタ)	高津戸村 (大間々町分) 133
長 峰 (ナガミネ)	東小倉村… 118	式 反 田 (ニタタ)	上仁田山村 145
長 峰 (ナガミネ)	上仁田山村 151	二 丁 田 (ニチヨウダ)	下広沢村… 45
長 峰 山 (ナガミネヤマ)	西小倉村… 122	二 本 松 (ニホンマツ)	天王宿村… 173
中 山 (ナカヤマ)	西小倉村… 123	二 本 松 (ニホンマツ)	蕪町村… 175
中 山 (ナカヤマ)	名久木村… 159	入 道 く ぼ (ニユトウ)	
中ノ作 (ナカンサク)	山地村… 108	クボ)	山地村… 113
なきノひら (ナキノヒラ)	山地村… 108	にら久保 (ニラクボ)	下新田村… 171
中 尾 (ナカオ)	山地村… 103	に れ 沢 (ニレサリ)	二渡村忍山 85
梨ノ木入 (ナシノキイリ)	中仁田山村 143	人 場 (ニンバ)	二渡村忍山 83
なしノ木久保 (ナシノキクボ)	上仁田山村 151	人 場 谷 戸 (ニンバガイト)	二渡村忍山 83
梨ノ木坂 (ナシノキサカ)	小友村… 179	又	
なし山 (ナシヤマ)	上仁田山村 146	沼 田 (ヌマタ)	堤村… 23
夏 保 (ナツボ)	下広沢村… 45		
夏 保 前 (ナツボマエ)	下広沢村… 45		

字 名		ページ	字 名		ページ
	ネ		馬 場	(ハバ)	高津戸村 (大間々町分) 133
根 岸	(ネガシ)	須永村…… 126	馬 場 中	(ハバカ)	本宿村…… 21
ね ぼ とり	(ネボトリ)	如来堂村… 166	羽 場 山	(ハバヤマ)	小友村…… 180
根連ノ木沢	(ネノキザリ)	名久木村… 161	は ま い ば	(ハマイバ)	山地村…… 106
	ノ		浜 ノ 原	(ハマハラ)	新宿村…… 29
野 毛 山	(ノゲヤマ)	下広沢村… 52	原	(ハラ)	浅部村…… 68
字 名		ページ	原	(ハラ)	下仁田山村 139
野 中 沢	(ノナカザリ)	二渡村…… 78	原	(ハラ)	上仁田山村 145
登 リ 沢	(ノボリザリ)	飛駒村入飛駒 94	原 ノ 入	(ハラノイ)	名久木村… 161
	ハ		原 ノ 入 奥	(ハラノイオカ)	名久木村… 161
梅 林 谷 戸	(ハリン)		原 ノ 入 口	(ハラノイグチ)	名久木村… 161
	ガ イ ト	高沢村…… 70	幡 摩 谷 戸	(ハリマカ イト)	東小倉村… 119
萩 平	(ハギテエラ)	山地村…… 106	番 場	(ハンバ)	中仁田山村 142
萩 原	(ハギワラ)	上広沢村… 38		ヒ	
箱 島 谷 戸	(ハコジマ)		ひ う ち 石	(ヒウチイシ)	高沢村…… 75
	ガ イ ト	東小倉村… 117	火 打 久 保	(ヒウチクホ)	中広沢村… 40
橋 上	(ハシカミ)	名久木村… 160	樋 合	(ヒエ)	上久方村… 66
橋 詰	(ハシツメ)	上仁田山村 146	ヒ オ 一	(ヒオ一)	飛駒村入飛駒 100
橋 爪	(ハシツメ)	下菱村…… 189	東 裏	(ヒガシウラ)	新宿村…… 29
橋 詰 台	(ハシツメダイ)	二渡村…… 78	東 谷 戸	(ヒガシカ イト)	堤村…… 24
橋 ノ 入	(ハシノイ)	山地村…… 111	東 行 場	(ヒガシギョウバ)	西小倉村… 124
橋 場	(ハシバ)	山地村…… 103	東 釈 迦 堂	(ヒガシジャカント)	東小倉村… 120
橋 前 場	(ハシマエバ)	西小倉村… 123	東 宿	(ヒガシジユク)	須永村…… 129
馬瀬ヶ谷戸	(ハセカ イト)	上仁田山村 144	東 童 子 原	(ヒガシ トジシツハラ)	西小倉村… 121
畑 ヶ 中	(ハタケナカ)	東小倉村… 118	東 入	(ヒガシノイ)	西小倉村… 124
八 王 子	(ハチオウジ)	上広沢村… 39	東 ノ 久 保	(ヒガシノクホ)	飛駒村入飛駒 100
八 王 子	(ハチオウジ)	西小倉村… 123	東 ノ 久 保	(ヒガシノクホ)	山地村…… 103
八 王 子	(ハチオウジ)	小友村…… 180	東 ノ 前	(ヒガシノマエ)	中広沢村… 40
八王子坂下	(ハチオウジ カサタ)	小友村…… 180	東 間 々 下	(ヒガシマサタ)	下新田村… 169
初 鹿 澤	(ハチカザリ)	東小倉村… 117	東 谷	(ヒガシヤ)	名久木村… 157
八 軒 屋	(ハチケンヤ)	蕪町村…… 175	東 屋 敷 裏	(ヒガシヤシキウラ)	下新田村… 170
八 幡 下	(ハチマンシタ)	下菱村中里 190	引 入 沢	(ヒキイレザリ)	上広沢村… 33
八 幡 平	(ハチマンタ イラ)	下仁田山村 140	引 田	(ヒキタ)	上菱村…… 193
八 幡 畑	(ハチマンハタ)	下広沢村… 48	日 暗 沢	(ヒケラザリ)	上仁田山村 149
八 幡 山	(ハチマンヤマ)	下菱村…… 189	彦 兵 衛 作	(ヒコヘエツクリ)	山地村…… 112
八 反 田	(ハツタンタ)	中広沢村… 42	菱 小 屋	(ヒシゴヤ)	上久方村… 63
八 鎮 房	(ハチボウ)	如来堂村… 163	毘 沙 門 堂	(ヒシヤモンドウ)	東小倉村… 118
初 山 出 口	(ハツヤマ テグチ)	高沢村…… 77	備 前 谷 戸	(ヒゼンカ イト)	高沢村…… 69
花 柄	(ハナガラ)	西小倉村… 122	経 玉 木	(ヒタマキ)	上久方村… 65
花 柄	(ハナガラ)	下仁田山村 141	樋 爪	(ヒツメ)	本宿村…… 21
鼻 撮	(ハナツマミ)	高沢村…… 71	ひ の き 平	(ヒノキエラ)	名久木村… 157
花 ノ 木 沢	(ハナノキザリ)	名久木村… 162	稗 ノ 澤	(ヒノザリ)	東小倉村… 120
羽 ば み	(ハネバミ)	高沢村…… 74	屏 風 岩	(ヒョウブイ)	名久木村… 156
ば ば	(ハバ)	山地村…… 104	平 井	(ヒライ)	上久方村… 61
馬 場	(ハバ)	須永村…… 129	平 井 入 口	(ヒライイリグチ)	上久方村… 61
			平 井 沢	(ヒライザリ)	上久方村… 62

字 名	ページ	字 名	ページ
平ヶ谷 (ヒラカヤ)	高沢村…… 76	ほうてくぼ (ホウテクボ)	二渡村忍山 82
平久保 (ヒラクボ)	上仁田山村 147	ほうノ	
平棚 (ヒラダナ)	小友村…… 181	木まど (ウノキマド)	高沢村…… 77
比良平 (ヒラテエ)	上久方村… 67	酸漿沢 (ホスギサリ)	小友村…… 182
平テエラ (ヒラテエ)	山地村…… 106	細谷戸 (ホカイト)	二渡村…… 79
ひら平 (ヒラテエ)	山地村…… 107	細ヶ入 (ホカ入り)	小友村…… 182
ひら平 (ヒラテエ)	山地村…… 108	細萱 (ホカヤ)	上仁田山村 149
比良ノ峯 (ヒラミネ)	上久方村… 67	細窪 (ホクボ)	上久方村… 64
平仁田 (ヒラタ)	上久方村… 65	ほそくぼ (ホクボ)	高沢村…… 77
広土 (ヒロ)	上仁田山村 148	細久保 (ホクボ)	二渡村忍山 88
ひろと (ヒロ)	上仁田山村 152	細久保 (ホクボ)	上仁田山村 148
広見 (ヒロミ)	小友村…… 180	細久保 (ホクボ)	小友村…… 181
広見 (ヒロミ)	下菱村…… 188	細田 (ホクダ)	村松村…… 26
		細田 (ホクダ)	天王宿村… 174
		細根 (ホネ)	村松村…… 27
深町 (フカマチ)	堤村……… 23	細前田 (ホソマエダ)	下広沢村… 49
深町 (フカマチ)	中広沢村… 42	洞ヶ入 (ホカ入り)	下広沢村… 52
吹上 (フキアゲ)	上仁田山村 147	堀上 (ホリウエ)	天沼新田… 177
吹上原 (フキアゲハラ)	新宿村…… 29	堀ヶ久保 (ホリカクボ)	高津戸村
ふきわら (フキワ)	二渡村忍山 89		(桐生市分) 132
福島 (フクシマ)	中広沢村… 40	堀下 (ホリシタ)	天沼新田… 177
福島 (フクシマ)	下広沢村… 43	堀添 (ホリゾエ)	山地村…… 102
福島久保 (フクシマクボ)	下広沢村… 43	堀添 (ホリゾエ)	下菱村中里 190
福島下ノ原 (フクシマシモノハラ)	下広沢村… 44	ほりノ上 (ホリノウエ)	名久木村… 160
福島代 (フクシマダイ)	中広沢村… 40	堀ノ内 (ホリノウチ)	東小倉村… 118
ふくろ口 (フクロクチ)	山地村…… 106	堀向 (ホリムカイ)	山地村…… 104
藤ノ上 (フジノウエ)	高沢村…… 70	本社 (ホンシヤ)	西小倉村… 121
藤ノ木 (フジノキ)	中広沢村… 41	坊向 (ホシムカイ)	下広沢村… 52
富士山前 (フジヤママエ)	下新田村… 169		
藤生 (フジユ)	上広沢村… 33	前坂 (マエサカ)	高津戸村
藤生 (フジユ)	山地村…… 114		(桐生市分) 131
藤生休ド (フジユキユド)	山地村…… 114	前沢 (マエサリ)	上久方村… 62
二ツ堂 (フタツドウ)	須永村…… 127	前田 (マエダ)	中広沢村… 42
二渡 (フタワタリ)	浅部村…… 68	前ノ入 (マエノ入り)	名久木村… 155
ぶち明ヶ (フチアカゲ)	山地村…… 106	前ノ沢 (マエノサリ)	飛駒村入飛駒 94
淵ノ上 (フチノウエ)	下広沢村… 44	前ノ沢 (マエノサリ)	名久木村… 156
ぶっかけ (フツカケ)	高沢村…… 74	前畑 (マエハタ)	下広沢村… 48
普門寺 (フモンジ)	下菱村中里 190	前畑 (マエハタ)	一本木村… 54
		前原 (マエハラ)	下久方村… 56
		前山 (マエヤマ)	下広沢村… 51
閉入 (ヘコウリ)	飛駒村入飛駒 98	曲手 (マカッテ)	飛駒村入飛駒 100
閉入向 (ヘコウリムカイ)	山地村…… 111	曲手 (マカッテ)	東小倉村… 119
別当久保 (ベツドウクボ)	名久木村… 158	曲田 (マカリタ)	村松村…… 26
辯天山 (ベンテンヤマ)	蕪町村…… 176	曲り間々 (マカリママ)	下仁田山村 138
		馬立場 (マタテバ)	山地村…… 105
		町田 (マチダ)	上広沢村… 38
		町田 (マチダ)	下広沢村… 44
		町屋 (マチヤ)	下久方村… 57
ぼう谷戸 (ホウカイト)	堤村……… 25		
坊谷戸 (ホウカイト)	下広沢村… 47		
坊ヶ谷戸 (ホウカイト)	上仁田山村 145		
坊ヶ入 (ホウカ入り)	一本木村… 55		
ほうたくぼ (ホウタクボ)	山地村…… 114		

字 名	ページ	字 名	ページ
町 屋 (マチヤ)	高津戸村 (大間々町分) 134	峯 (ミネ)	山地村…… 103
松 立 (マツタテ)	村松村…… 27	峰 (ミネ)	山地村…… 106
松 出 (マツデ)	下仁田山村 140	峰ノ久保 (ミネノクボ)	上仁田山村 151
松ノ木沢 (マツノキザリ)	飛駒村入飛駒 100	御林敷下 (ミヤヤシタ)	名久木村… 158
松ノ棒 (マツノボウ)	上菱村…… 193	蛭久保 (ミズクボ)	下新田村… 171
まつば (マツバ)	高沢村…… 70	宮谷戸 (ミヤカイト)	高沢村…… 73
松場 (マツバ)	山地村…… 103	宮谷戸 (ミヤカイト)	村松村…… 26
間々久保 (マツカボ)	下仁田山村 138	宮谷戸 (ミヤカイト)	下仁田山村 139
儘下 (マツシタ)	高津戸村 (大間々町分) 134	宮谷戸 (ミヤカイト)	名久木村… 158
間々下 (マツシタ)	下菱村…… 187	宮頭 (ミヤカシラ)	下久方村… 56
間々根 (マツネ)	下仁田山村 140	宮久保 (ミヤクボ)	名久木村… 159
間々ノ間 (マツノイタ)	山地村…… 102	宮沢 (ミヤザリ)	上久方村… 61
マミケ入 (マミカイリ)	下広沢村… 53	宮下 (ミヤシタ)	本宿村…… 22
丸山 (マルヤマ)	高沢村…… 71	宮田 (ミヤタ)	村松村…… 26
丸山 (マルヤマ)	下仁田山村 137	宮谷 (ミヤツ)	小友村…… 180
丸山 (マルヤマ)	下菱村中里 191	宮西 (ミヤニシ)	下久方村… 57
丸山 (マルヤマ)	山地村…… 104	宮ノ下 (ミヤノシタ)	下広沢村… 49
丸山 (マルヤマ)	東小倉村… 116	宮ノ前 (ミヤノマエ)	上久方村… 61
まる山 (マルヤマ)	名久木村… 158	宮ノ前 (ミヤノマエ)	名久木村… 155
丸山前 (マルヤママエ)	東小倉村… 116	宮林 (ミヤハヤシ)	上菱村…… 192
まんどころ (マントコロ)	東小倉村… 120	宮原 (ミヤハラ)	名久木村… 155
		宮原 (ミヤハラ)	中仁田山村 143
		宮原 (ミヤハラ)	下広沢村… 49
		宮原 (ミヤハラ)	下久方村… 56
		宮原 (ミヤハラ)	西小倉村… 122
三 島 (シマ)	須永村…… 130	宮原 (ミヤハラ)	名久木村… 154
水 口 (ミズグチ)	上広沢村… 36	宮東 (ミヤヒガシ)	下久方村… 56
道 上 (ミチウエ)	上仁田山村 153	みやま (ミヤマ)	二渡村忍山 84
道 上 (ミチウエ)	名久木村… 157	深山 (ミヤマ)	上久方村… 67
道 下 (ミチシタ)	山地村…… 102	深山 (ミヤマ)	下仁田山村 141
道 下 (ミチシタ)	上仁田山村 152	深山 (ミヤマ)	小友村…… 180
道 下 (ミチシタ)	名久木村… 154	深山 (ミヤマ)	名久木村… 160
道 下 (ミチシタ)	名久木村… 157	宮前 (ミヤマエ)	上広沢村… 38
道ノ間 (ミチノイタ)	山地村…… 102	宮前 (ミヤマエ)	須永村…… 129
道ばた (ミチバタ)	上仁田山村 152	宮前 (ミヤマエ)	上仁田山村 145
三ッ塚 (ミツツカ)	新宿村…… 29	みやまくぼ (ミヤマクボ)	二渡村忍山 82
三ッ塚開戸 (ミツツカカド)	新宿村…… 28	宮脇 (ミヤワキ)	上広沢村… 38
三ッ又 (ミツマタ)	上久方村… 67	宮脇 (ミヤワキ)	名久木村… 155
御堂ノ入 (ミドウノイリ)	上広沢村… 39	めうがさく (ミウカガサク)	山地村…… 115
南 (ミナミ)	上久方村… 59	みやうヶ沢 (ミウカガサリ)	上久方村… 62
南 (ミナミ)	下仁田山村 137	茗荷沢 (ミウカガサリ)	小友村…… 182
南ヶ又 (ミナミガマタ)	下仁田山村 140	明神前 (ミウジンノマエ)	上仁田山村 145
南久保 (ミナミクボ)	山地村…… 105	三夜沢 (ミヨサリ)	上広沢村… 34
南谷戸 (ミナミゲート)	二渡村…… 81	宮内 (ミヨチ)	下久方村… 56
南ノ入 (ミナミノイリ)	名久木村… 162		
南堀前 (ミナミホリマエ)	新宿村…… 28		
南堀向 (ミナミホリムコウ)	新宿村…… 28	向 (ムカイ)	下仁田山村 141
南屋敷浦 (ミナミヤシキウラ)	下新田村… 171	向さぐり (ムカイガリ)	一本木村… 54
峯 (ミネ)	下久方村… 57	向田 (ムカイタ)	中広沢村… 42

字 名	ページ	字 名	ページ
向 田 (ムカイダ)	中仁田山村 142	屋 敷 上 (ヤシクウエ)	名久木村… 154
向 鳥 居 (ムカイトリイ)	上広沢村… 39	屋 敷 裏 (ヤシクウラ)	一本木村… 54
向 ノ 台 (ムカイノダイ)	山地村… 111	屋 敷 浦 (ヤシクウラ)	名久木村… 160
向 ふ ね (ムカイフネ)	山地村… 112	屋 敷 裏 (ヤシクウラ)	下菱村中里 190
向 屋 敷 (ムカイヤシキ)	東小倉村… 117	屋 敷 添 (ヤシクヅイ)	名久木村… 154
麦 ク ボ (ムギクボ)	山地村… 111	屋 敷 通 リ (ヤシキドノリ)	下新田村… 168
麦 久 保 (ムギクボ)	東小倉村… 120	やしきノ上 (ヤシキノウエ)	山地村… 109
麦 久 保 (ムギクボ)	名久木村… 156	屋 舗 ノ 上 (ヤシキノウエ)	二渡村… 81
麦 窪 (ムギクボ)	名久木村… 162	屋 敷 原 (ヤシキハラ)	一本木村… 55
麦 生 小 路 (ムギヨウコウジ)	下仁田山村 139	屋 敷 前 (ヤシキマエ)	下広沢村… 48
無 作 (ムサク)	上広沢村… 35	屋 敷 前 (ヤシキマエ)	一本木村… 54
ムジナ久保 (ムジナクボ)	高沢村… 75	屋 敷 前 (ヤシキマエ)	名久木村… 160
むじな久保 (ムジナクボ)	山地村… 115	屋 敷 向 (ヤシキムカイ)	上仁田山村 149
むじなくぼ (ムジナクボ)	名久木村… 156	屋 敷 山 (ヤシキヤマ)	山地村… 110
む し 場 (ムシバ)	上仁田山村 145	休 メ 石 (ヤスメシ)	下広沢村… 52
村 松 沢 (ムラマツザワ)	村松村… 26	谷 津 (ヤツ)	上広沢村… 34
室 ノ 手 (ムロンテ)	中仁田山村 142	谷 (ヤツ)	下久方村… 57
モ		谷 (ヤツ)	下仁田山村 141
茂 倉 (モクラ)	上菱村… 193	谷 (ヤツ)	下菱村… 186
茂 倉 沢 (モクラザワ)	上菱村… 194	谷 ノ 前 (ヤツノマエ)	下久方村… 57
餅 丸 (モチマル)	二渡村忍山 86	谷 ノ 前 (ヤツノマエ)	下菱村… 186
餅 丸 東 (モチマルヒガシ)	二渡村忍山 89	谷 山 (ヤツヤマ)	下菱村… 189
本 宿 久 保 (モトジユクボ)	如来堂村… 164	宿 ノ 後 (ヤトノアト)	上広沢村… 36
原 屋 敷 (モトヤシキ)	本宿村… 22	宿 ノ 前 (ヤトノマエ)	上広沢村… 36
本 屋 敷 (モトヤシキ)	上広沢村… 34	柳 谷 戸 (ヤナギガイト)	本宿村… 22
靱 谷 (モミヤ)	上菱村… 193	柳 谷 戸 (ヤナギガイト)	西小倉村… 122
靱 山 (モミヤマ)	中広沢村… 40	柳 沢 (ヤナギザリ)	高沢村… 74
靱 山 (モミヤマ)	下広沢村… 46	柳 下 (ヤナギシタ)	須永村… 125
森 沢 (モリザリ)	上久方村… 58	柳 原 (ヤナギハラ)	一本木村… 54
森 沢 口 (モリザリグチ)	上久方村… 58	柳 谷 (ヤナギヤツ)	小友村… 180
も り ノ 穴 (モリアナ)	上仁田山村 151	柳 原 (ヤナギハラ)	上久方村… 64
森 ノ 上 (モリノウエ)	山地村… 105	柳 原 (ヤナギハラ)	名久木村… 157
森 ノ 脇 (モリワキ)	山地村… 105	や な 口 (ヤナグチ)	二渡村忍山 86
森 脇 (モリワキ)	下仁田山村 141	や な せ (ヤナセ)	今泉村… 19
森 わ き (モリワキ)	上仁田山村 152	屋 ノ 目 ヌ 入 (ヤノメカグイリ)	上広沢村… 39
諸 沢 (モロザリ)	山地村… 102	山 神 (ヤマカミ)	小友村… 181
も ろ の 手 (モロナテ)	名久木村… 154	山 神 前 (ヤマカミマエ)	小友村… 179
門 口 (モンクチ)	新宿村… 28	山 際 (ヤマキワ)	西小倉村… 123
門 前 (モンゼン)	高沢村… 69	山 際 (ヤマキワ)	高津戸村
ヤ			(大間々町分) 134
屋 浦 前 (ヤウラマエ)	中広沢村… 41	山 際 (ヤマキワ)	下菱村中里 190
葉 師 下 (ヤクシタ)	浅部村… 68	山 久 保 (ヤマクボ)	下仁田山村 140
葉 師 堂 (ヤクシトウ)	今泉村… 18	山 崎 (ヤマザキ)	下広沢村… 45
葉 師 前 (ヤクシマエ)	須永村… 127	山 崎 (ヤマザキ)	高沢村… 69
櫓 下 (ヤグラシタ)	西小倉村… 121	山 崎 (ヤマザキ)	名久木村… 154
屋 敷 (ヤシキ)	新宿村… 28	山 田 (ヤマタ)	下広沢村… 46
屋 敷 (ヤシキ)	下新田村… 171	山 田 (ヤマタ)	西小倉村… 122
屋 敷 (ヤシキ)	蕪町村… 175		

字 名	ページ	字 名	ページ
山 田 (ヤマダ)	高津戸村 (大間々町分) 134	横 山 (ヨコヤマ)	小友村…… 183
山 根 (ヤマネ)	下広沢村… 51	芳ヶ入 (ヨシガイリ)	小友村…… 181
山 根 (ヤマネ)	上久方村… 60	吉 田 (ヨシダ)	下広沢村… 44
山 根 (ヤマネ)	東小倉村… 117	吉 田 (ヨシダ)	下久方村… 57
山 根 (ヤマネ)	上仁田山村 150	吉ノ入 (ヨシノリ)	下仁田山村 140
山ノ神 (ヤマカミ)	高津戸村 (大間々町分) 133	葎 沢 (ヨシサリ)	東小倉村… 119
山ノ神 (ヤマカミ)	上仁田山村 146	よしノ沢 (ヨシノサリ)	上仁田山村 151
山ノ神 (ヤマカミ)	上仁田山村 148	よしノ平 (ヨシノタイラ)	二渡村忍山 88
山ノ神 (ヤマカミ)	下新田村… 168	葎ノ目 (ヨシノメ)	西小倉村… 121
山ノ神上 (ヤマカミウエ)	二渡村忍山 85	よっこにわ (ヨッコニワ)	二渡村忍山 89
山ノ神前 (ヤマカミマエ)	名久木村… 159	よっぴ (ヨッピ)	山地村…… 103
山ノ神前 (ヤマカミマエ)	名久木村… 161	よの沢 (ヨノサリ)	山地村…… 107
山ノ神向 (ヤマカミムカイ)	上仁田山村 146	よの沢口 (ヨノサワグチ)	山地村…… 107
山ノ越 (ヤマノシ)	如来堂村… 166	よの沢 畑くぼ (ヨノサワハタクボ)	山地村…… 107
山ノ越 (ヤマノシ)	小友村…… 179	四 間 戸 (ヨマト)	高津戸村 (大間々町分) 133
山ノ根 (ヤマノネ)	下広沢村… 47	嫁ヶ久保 (ヨメガクボ)	高沢村…… 76
山廻リ (ヤマクワリ)	下新田村… 169	寄 居 (ヨリイ)	上広沢村… 36
山 畑 (ヤマハタケ)	高津戸村 (大間々町分) 134	寄 山 (ヨリヤマ)	小友村…… 179
ユ		ヲ	
湯 小 屋 (ユコヤ)	上仁田山村 148	雷 電 山 (ライテンヤマ)	東小倉村… 120
湯 沢 峯 (ユサワミネ)	上久方村… 64	雷 電 山 (ライテンヤマ)	小友村…… 180
湯 沢 峯 下 (ユサワミネノタ)	上久方村… 64	ウ	
柚 木 (ユズキ)	高沢村…… 70	里 う ど (リュウト)	下広沢村… 47
柚 木 入 (ユズキイリ)	高沢村…… 70	竜 台 (リュウダイ)	上広沢村… 33
湯木かいと (ユキカイト)	二渡村…… 79	竜 台 (リュウダイ)	如来堂村… 163
ゆ の 北 (ユノキタ)	上仁田山村 144	ロ	
湯 ノ 平 (ユノタイラ)	二渡村忍山 86	六 地 蔵 (ロクジゾウ)	名久木村… 159
湯 ノ 前 (ユノマエ)	二渡村忍山 90	六 反 谷 戸 (ロクタンガイト)	下久方村… 57
湯 船 (ユフネ)	上仁田山村 149	六 反 田 (ロクタンダ)	本宿村…… 21
湯 本 (ユモト)	二渡村忍山 84	六 郎 石 沢 (ロクロウシサリ)	名久木村… 161
ゆ 山 (ユヤマ)	高沢村…… 76	ろくろくぼ (ロクロクボ)	山地村…… 114
ヨ		六 角 堂 (ロウカクドウ)	東小倉村… 116
要 害 (ヨウガイ)	高津戸村 (大間々町分) 135	六 句 (ロクク)	下菱村…… 187
用水堀端 (ヨウスイリハタ)	如来堂村… 163	六 句 前 (ロククマエ)	下菱村…… 187
永 明 下 (ヨウメイシタ)	須永村…… 125	ワ	
永 明 山 (ヨウメイヤマ)	須永村…… 127	若 宮 (ワカミヤ)	下菱村…… 186
横 を つ (ヨコオツ)	山地村…… 112	脇 合 ノ 田 (ワキアイノタ)	須永村…… 129
横 萱 (ヨコガヤ)	二渡村忍山 87	わ き 沢 (ワキサリ)	高沢村…… 77
横 萱 (ヨコガヤ)	山地村…… 113	和 田 (ワダ)	下広沢村… 48
横 萱 台 (ヨコガヤダ)	二渡村忍山 87	和 田 (ワダ)	須永村…… 128
横 萱 向 (ヨコガヤムカイ)	二渡村忍山 88	和 田 道 上 (ワダミチウエ)	須永村…… 128
横 町 (ヨコマチ)	下仁田山村 140	和 田 道 下 (ワダミチシタ)	須永村…… 128
横 道 (ヨコミチ)	如来堂村… 164	わ れ 石 (ワレシ)	山地村…… 113
横 山 (ヨコヤマ)	蕪町村…… 176		

小字さくいん

小字名	ページ	小字名	ページ
ア			
相生下(アイト)	下新田村…… 168	穴切猿淵岩(アナキレサルブチ)	飛駒村入飛駒 91
間ノ島上河原(アイシマカミガワ)	境野村…… 31	穴切滝窪(アナキレタキノク)	飛駒村入飛駒 91
間ノ島下河原(アイシマシモガワ)	境野村…… 31	穴切二階窪(アナキレニカイク)	飛駒村入飛駒 91
間ノ原(アイノハラ)	小友村…… 183	穴切東口(アナキレヒガシグチ)	飛駒村入飛駒 91
間ノ山(アイノヤマ)	小友村…… 182	穴切寄石(アナキレヨリイシ)	飛駒村入飛駒 91
赤石(アカイシ)	上広沢村…… 33	阿武久田(アブクダ)	今泉村…… 19
赤城沢(アカキザ)	上久方村…… 61	油鹿野(アブカノ)	上久方村…… 67
赤城下(アカキジノ)	下久方村…… 56	天竹(アマタケ)	二渡村忍山… 84
赤城林(アカキハヤシ)	上広沢村…… 37	天津沢(アマツザ)	堤村…… 25
赤城前(アカキマエ)	高津戸村…… 132	新井(アライ)	浅部村…… 68
	(桐生市分)	新井(アライ)	東小倉村…… 119
赤城前(アカキマエ)	高津戸村…… 133	新井(アライ)	下仁田山村… 139
	(大間々町分)	新井(アライ)	上仁田山村… 144
赤粉(アカコ)	二渡村忍山… 87	新井山(アライヤマ)	東小倉村…… 120
赤坂(アカサカ)	堤村…… 23	新屋敷(アライシキ)	須永村…… 126
赤坂(アカサカ)	上久方村…… 60	新屋敷裏(アライシキウラ)	須永村…… 126
赤坂(アカサカ)	小友村…… 180	新屋敷前(アライシキマエ)	須永村…… 125
赤柴(アカシバ)	上仁田山村… 149	イ	
赤地(アカチ)	上仁田山村… 146	軍場(イクサバ)	二渡村…… 80
赤萩(アカハギ)	名久木村…… 155	池尻(イケジリ)	蕪町村…… 176
赤松(アカマツ)	山地村…… 112	石鴨(イシガモ)	山地村…… 109
肥土(アクト)	下広沢村…… 48	石久保(イシクボ)	飛駒村入飛駒 97
朝日沢(アサヒザ)	上菱村…… 192	石座久(イシザク)	上久方村…… 62
浅部(アサヘ)	浅部村…… 68	石泉(イシズミ)	上久方村…… 61
阿治路谷戸(アジジガイト)	高沢村…… 72	石ゾリ(イシゾリ)	浅部村…… 68
足下(アシモ)	如来堂村…… 167	石田(イシダ)	今泉村…… 19
足垂(アシダレ)	上広沢村…… 39	石田(イシダ)	小友村…… 180
足中(アシナカ)	如来堂村…… 167	石田前(イシダマエ)	小友村…… 180
吾妻(アズマ)	村松村…… 27	石塚(イシヅカ)	今泉村…… 18
吾妻沢(アズマザ)	東小倉村…… 119	石塚(イシヅカ)	天王宿村…… 173
阿陀窪(アタクボ)	上久方村…… 67	伊豆田(イズタ)	下菱村中里… 191
愛宕廻り(アタゴメグリ)	下新田村…… 170	伊勢窪(イセクボ)	上久方村…… 64
愛宕山(アタゴヤマ)	上広沢村…… 34	伊勢沢(イセザ)	上久方村…… 64
愛宕山(アタゴヤマ)	下菱村中里… 191	伊勢沢(イセザ)	高沢村…… 75
穴切(アナキレ)	上菱村…… 194	伊勢沢(イセザ)	飛駒村入飛駒 93
穴切赤坂(アナキレアカサカ)	飛駒村入飛駒 91	伊勢崎道上(イセサキミチウエ)	如来堂村…… 165
穴切赤渋(アナキレアカシブ)	飛駒村入飛駒 91	伊勢崎道下(イセサキミチシタ)	如来堂村…… 165
穴切石仏(アナキレイシブツ)	飛駒村入飛駒 92	伊勢ノ前(イセノマエ)	小友村一色… 184
穴切板ヶ沢(アナキレイタガサ)	飛駒村入飛駒 91	伊勢原(イセハラ)	如来堂村…… 167
穴切岩窪(アナキレイワクボ)	飛駒村入飛駒 91	伊勢原(イセハラ)	天王宿村…… 173
穴切扇籠(アナキレオウバラ)	飛駒村入飛駒 91	板倉(イタクラ)	飛駒村入飛駒 92
穴切屋後(アナキレオクアト)	飛駒村入飛駒 91	居館(イタテ)	上久方村…… 59
穴切隠レ窪(アナキレカクレクボ)	飛駒村入飛駒 91	一木(イツキ)	上広沢村…… 37
穴切口(アナキレグチ)	飛駒村入飛駒 92	一ノ沢(イツノザ)	中仁田山村… 143
穴切胡桃窪(アナキレクルミクボ)	飛駒村入飛駒 92	市畑(イチハタ)	高沢村…… 71
穴切坂畑(アナキレサカハタ)	飛駒村入飛駒 91	一夜(イチヤ)	二渡村忍山… 82
		一丁田(イツチョウダ)	本宿村…… 21

小 字 名	ページ	小 字 名	ページ
一 丁 田(イチヨウダ)	高津戸村…… 131 (桐生市分)	後 深 山(ウシロミヤマ)	二渡村忍山… 84
一 丁 田(イチヨウダ)	下仁田山村… 139	後 深 谷(ウシロヤ)	上広沢村…… 32
出 沢(イデガハ)	山地村…… 111	鷲 鳥 屋(ウツトヤ)	上久方村…… 67
井戸谷戸 (イトガイト)	二渡村…… 78	打 手(ウチテ)	須永村…… 129
居 鳥 岩(イトリヤ)	二渡村忍山… 86	内 山(ウチヤマ)	上久方村…… 64
稲 荷 台(イナダノイ)	上久方村…… 67	打 野(ウチノ)	上菱村…… 192
稲 荷 塚(イナツカ)	上久方村…… 65	打 ノ 平(ウツノヘイ)	飛駒村入飛駒 93
猪 ノ 入(イノイ)	小友村…… 182	舟 木(フネキ)	上久方村…… 63
井 ノ 上(イノウエ)	須永村…… 127	姥 ケ 入(ウバガノイ)	西小倉村…… 124
今 井 宿(イマジユク)	本宿村…… 21	姥 沢(ウバザリ)	中広沢村…… 42
今 倉(イクラ)	飛駒村入飛駒 97	姥 沢(ウバザリ)	上久方村…… 63
入 打(イウチ)	名久木村…… 160	姥 穴(ウバナ)	小友村…… 183
入 小 屋(イコヰヤ)	米沢村…… 178	馬 不 入(ウマイラス)	高沢村…… 76
入釋迦堂 (イシヤカント)	東小倉村…… 120	馬 不 入(ウマイラス)	小友村…… 182
入 リ 山(イリヤマ)	高沢村…… 76	馬 立(ウマタテ)	飛駒村入飛駒 99
岩 蕪(イワブ)	二渡村忍山… 90	馬 立(ウマタテ)	山地村…… 105
岩 木 戸(イワキト)	村松村…… 27	馬 留(ウマトメ)	二渡村忍山… 83
岩 木 戸(イワキト)	高沢村…… 77	馬留川西 (ウマトメガワニシ)	飛駒村入飛駒 95
岩 窪(イワクボ)	飛駒村入飛駒 95	馬 流(ウマナガレ)	二渡村忍山… 83
岩 久 保(イワクボ)	須永村…… 130	馬 道(ウマミチ)	山地村…… 108
岩 久 保(イワクボ)	下仁田山村… 137	梅 ノ 木(ウメキ)	小友村…… 183
岩久保西ノ入(イワクボニシノイ)	須永村…… 130	梅ノ木久保(ウメキクボ)	中仁田山村… 143
岩 崎(イワサキ)	高津戸村…… 134 (大間々町分)	梅 木 窪(ウメキクボ)	小友村…… 181
岩 下(イワタ)	下菱村中里… 190	梅ノ木通 (ウメキシヨウリ)	飛駒村入飛駒 99
岩 ノ 入(イワノイ)	堤村…… 25	梅 原(ウメハラ)	上久方村…… 58
岩 ノ 入(イワノイ)	山地村…… 112	裏 地(ウラジ)	蕪町村…… 175
岩 ノ 下(イワノタ)	高沢村…… 71	瓜 久 保(ウリクボ)	高津戸村…… 136 (大間々町分)
岩 ノ 下(イワノタ)	高津戸村…… 135 (大間々町分)	瓜 平(ウリヘイ)	高沢村…… 70
岩 目(イワメ)	上久方村…… 58	漆 ケ 沢(ウリシガザリ)	高沢村…… 75
	ウ	漆 原(ウリシハラ)	名久木村…… 160
上ノ久保 (ウエノクボ)	飛駒村入飛駒 99	上 平(ウラヘイ)	下菱村…… 187
上 ノ 台(ウエノダイ)	須永村…… 130	上 野 原(ウラノハラ)	新宿村…… 29
上 ノ 原(ウエノハラ)	蕪町村…… 175	雲祥寺前 (ウンスヨウジマエ)	須永村…… 129
上 日 向(ウエヒナタ)	下仁田山村… 141		エ
請 場(ウケバ)	中広沢村…… 41	越 後 城(エチゴジヨウ)	上久方村…… 65
兔 臼(ウサギウス)	高沢村…… 75	井 戸 沢(エトザリ)	飛駒村入飛駒 93
牛 谷 戸(ウシガイト)	須永村…… 127	榎 (エノキ)	下広沢村…… 46
牛ヶ久保 (ウシガクボ)	下仁田山村… 139	榎 ノ 入(エノキノイ)	下広沢村…… 46
牛 窪(ウシクボ)	上久方村…… 62	海老尾根 (エビオネ)	上久方村…… 66
後 沢(ウシロザリ)	飛駒村入飛駒 98	恵比寿谷戸(エビスカイト)	高津戸村…… 131 (桐生市分)
後 沢(ウシロザリ)	山地村…… 108	恵比寿谷戸(エビスカイト)	高津戸村…… 133 (大間々町分)
後 沢 台(ウシロザリダノイ)	飛駒村入飛駒 98		オ
後 田(ウシロダ)	上久方村…… 58	おいのが沢(オノガザリ)	高沢村…… 76
後 倉(ウシロクラ)	飛駒村入飛駒 98	大石ヶ谷戸(オオシガイト)	名久木村…… 161
後 倉(ウシロクラ)	小友村…… 180	大 石 窪(オオシクボ)	二渡村…… 78

小字名	ページ
大石畑(オイシハク)	高沢村…………… 70
大谷戸(オカヱト)	下広沢村………… 48
大谷戸(オカヱト)	下仁田山村… 138
大形(オカガタ)	上久方村………… 64
青木(オキ)	東小倉村………… 119
青木(オキ)	高津戸村………… 134
扇片(オキ)	上久方村………… 65
扇片下(オキシタ)	上久方村………… 65
青木前(オキマエ)	高津戸村………… 134
	(大間々町分)
大崩(オクスレ)	名久木村………… 162
大久保(オクボ)	一本木村………… 55
大久保(オクボ)	上久方村………… 67
大窪(オクボ)	二渡村忍山… 90
大久保(オクボ)	飛駒村入飛駒 97
大久保(オクボ)	山地村…………… 110
大久保(オクボ)	下菱村中里… 191
大小倉(オコクラ)	高沢村…………… 77
大古松(オコマツ)	飛駒村入飛駒 96
大沢(オサリ)	上久方村………… 62
大沢口(オサリグチ)	上菱村…………… 192
大下(オシモ)	上菱村…………… 193
大州(オシユウ)	二渡村…………… 81
大州沢(オシユウサリ)	二渡村…………… 81
大堰(オセキ)	上久方村………… 58
大滝(オダキ)	高沢村…………… 73
大瀧(オダキ)	山地村…………… 115
大浜(オハマ)	上久方村………… 58
大原(オハラ)	天王宿村……… 173
大平(オヒラ)	米沢村…………… 178
大舟ヶ沢 (オフネガサリ)	飛駒村入飛駒 92
扇平(オヘラ)	米沢村…………… 178
扇平(オヘラ)	小友村…………… 182
大防ヶ入 (オホウカヱリ)	下広沢村……… 51
大道西(オミチニシ)	中仁田山村… 142
大道東(オミチヒガシ)	中仁田山村… 142
大道東(オミチヒガシ)	如来堂村……… 164
大室(オムロ)	高沢村…………… 74
大持丸(オモツマル)	高沢村…………… 73
大弥五郎 (オヤコノロウ)	小友村…………… 182
大谷沢(オヤザリ)	高沢村…………… 77
岡城(オカシヨウ)	下久方村……… 56
岡平(オカシイラ)	上久方村……… 59
岡ノ上(オカノウエ)	上広沢村……… 37
岡ノ台(オカノダイ)	下菱村…………… 188
沖 (オキ)	西小倉村……… 121
小久保(オクボ)	上久方村……… 65

小字名	ページ
箴沢(オサザリ)	上久方村……… 67
箴沢口(オサザリグチ)	上久方村……… 67
箴沢前(オサザリマエ)	上久方村……… 67
落合(オチアイ)	飛駒村入飛駒 97
落合(オチアイ)	須永村…………… 125
落合神並 (オチアイノナミ)	飛駒村入飛駒 97
落合口(オチアイグチ)	飛駒村入飛駒 93
落々(オチオチ)	高津戸村……… 132
	(桐生市分)
落打(オチオチ)	上仁田山村… 153
落々久保 (オチオチクボ)	高津戸村……… 132
	(桐生市分)
烏兔土地 (オトチ)	小友村一色… 185
小友西ノ入(オトモニシリ)	小友村…………… 181
小友東ノ入(オトモヒガシシリ)	小友村…………… 181
女沢(メザリ)	米沢村…………… 178
尾無沢(オモサザリ)	小友村…………… 181
女淵(メフチ)	蕪町村…………… 175
鬼窪(オニクボ)	上久方村……… 61
鬼淵(オニフチ)	飛駒村入飛駒 101
尾ノ沢(オノザリ)	二渡村…………… 80
表石(オモテイシ)	名久木村……… 162
御屋敷(オヤシキ)	上久方村……… 60
大谷屋敷 (オヤヤシキ)	下久方村……… 56
折石(オリシ)	堤村…………… 23
押出(オシダシ)	下久方村……… 57

カ

皆沢(カイザリ)	飛駒村入飛駒 94
皆沢川西 (カイザリカニシ)	飛駒村入飛駒 94
皆沢川東 (カイザリカヒガシ)	飛駒村入飛駒 94
皆沢平(カイザリヘ)	飛駒村入飛駒 93
皆沢内松 (カイザリナエマツ)	飛駒村入飛駒 94
鏡石竹ノ窪(カガミシタケノクボ)	上久方村……… 66
柿ノ木(カキノキ)	堤村…………… 23
柿ノ木谷戸(カキノキゲト)	飛駒村入飛駒 97
柿ノ谷戸 (カキノゲト)	高津戸村……… 133
	(大間々町分)
角間(カクマ)	二渡村忍山… 89
嶽入(カケイリ)	高沢村…………… 74
懸ノ上(カケノウエ)	飛駒村入飛駒 95
風穴(カサアナ)	小友村…………… 179
鍛冶谷戸 (カジガト)	上広沢村……… 36
鍛冶谷戸 (カジガト)	高沢村…………… 69
鍛冶ヶ入 (カジガケイリ)	下広沢村……… 51
勝山(カシヤマ)	高津戸村……… 131
	(桐生市分)
勝山前(カシヤママエ)	高津戸村……… 132
	(桐生市分)

小 字 名	ページ	小 字 名	ページ
柏 久 保(カシクホ)	山地村…………… 104	加茂ノ入 (カモノイ)	下広沢村…………… 53
柏 倉(カシクハラ)	中仁田山村… 142	加茂ノ浦 (カモノウラ)	如来堂村…………… 163
葛 平(カツヘエ)	飛駒村入飛駒 101	加茂ノ下 (カモノシタ)	如来堂村…………… 163
桂 山(カツヤマ)	小友村…………… 183	萱 窪(カヤクボ)	上久方村…………… 64
花 台(カデイ)	高沢村…………… 71	唐 沢(カヲサ)	一本木村…………… 55
金 井 神(カナイカミ)	上広沢村…………… 34	唐 沢(カヲサ)	山地村…………… 111
金 屑(カクス)	高津戸村…………… 135	烏ヶ寝戸 (カラスカネド)	小友村…………… 182
	(大間々町分)	カラマキ (カマキ)	上菱村…………… 193
金 葛(カクス)	下菱村中里… 191	唐 松(カマツ)	二渡村忍山… 90
加 奈 地(カナン)	二渡村忍山… 85	川 久 保(カクホ)	上広沢村…………… 32
金 場(カハ)	米沢村…………… 178	川 久 保(カクホ)	下広沢村…………… 47
金 場(カハ)	小友村…………… 181	川 久 保(カクホ)	高沢村…………… 69
蟹 焼 沢(カニヤキザ)	小友村一色… 185	川 久 保(カクホ)	高津戸村…………… 134
金 越 地(カネコシ)	名久木村…………… 162		(大間々町分)
金 沢(カネサ)	上久方村…………… 61	川 久 保(カクホ)	如来堂村…………… 164
狩 野(カ)	須永村…………… 129	川 島 原(カシマハラ)	新宿村…………… 29
狩 野(カ)	米沢村…………… 178	川 端(カハタ)	上久方村…………… 59
庚 塚(カエツカ)	下広沢村…………… 47	川 面(カワモ)	高津戸村…………… 135
庚 塚(カエツカ)	二渡村…………… 80		(大間々町分)
鹿 ノ 前(カノマエ)	今泉村…………… 20	川 除 下(カヨクシタ)	新宿村…………… 29
蕪 町(カワ ッチョ)	二渡村忍山… 84	川 原(カハラ)	今泉村…………… 20
加 觸(カブレ)	飛駒村入飛駒 99	川 原(カハラ)	如来堂村…………… 163
華 房 沢(カホサ)	上久方村…………… 62	観 音 沢(カンノンザ)	二渡村忍山… 84
釜 谷 戸(カマガイ)	須永村…………… 127	観 音 堂(カンノド)	須永村…………… 127
釜神谷戸 (カマガイ)	飛駒村入飛駒 92		キ
釜須ヶ谷戸(カマカゲ)	上仁田山村… 146	木 落 シ(キオシ)	小友村一色… 184
上エノ久保(カミノホ)	山地村…………… 104	木 品(キナ)	高沢村…………… 73
上 小 友(カミトモ)	小友村…………… 179	雉子ノ尾 (キジノ)	今泉村…………… 20
上 久 保(カミホ)	高津戸村…………… 134	雉子ノ尾 (キジノ)	小友村…………… 181
	(大間々町分)	北 裏(キウラ)	新宿村…………… 29
上ミ谷戸 (カミゲート)	山地村…………… 104	北 沢(キザ)	山地村…………… 105
上 谷 戸(カミゲート)	山地村…………… 109	北 田(キタ)	下広沢村…………… 44
上 宿(カミヤク)	新宿村…………… 28	北 ノ 入(キノイ)	中仁田山村… 143
上中ノ作 (カミナサク)	山地村…………… 115	北 原(キハラ)	小友村一色… 184
上ノ谷戸 (カミカゲ)	須永村…………… 129	北 緑(キミドリ)	天沼新田…………… 177
上ノ谷戸前(カミカゲマエ)	須永村…………… 128	木 戸 場(キトバ)	飛駒村入飛駒 94
上ノ久保 (カミホ)	山地村…………… 114	茸 岩(キノイ)	二渡村忍山… 87
上ノ谷戸 (カミゲート)	西小倉村…………… 124	木 ノ 下(キノシタ)	堤村…………… 24
上 ノ 田(カミタ)	上菱村…………… 192	木ノ根坂 (キノネカ)	山地村…………… 109
上 ノ 原(カミハラ)	二渡村…………… 78	霧 ケ 谷(キカヤ)	上久方村…………… 63
上 ノ 谷(カミヤツ)	下久方村…………… 57	桐 久 保(キクホ)	下広沢村…………… 46
上 ノ 山(カミヤマ)	東小倉村…………… 116	切 通 シ(キトウシ)	山地村…………… 114
上 原(カミハラ)	新宿村…………… 29	切 葉 見(キバシ)	二渡村忍山… 85
上 藤 生(カフシユ)	山地村…………… 110	木 和 田(キワタ)	高沢村…………… 76
神 谷(カミヤ)	下菱村…………… 186	金 竜 台(キンリュウダイ)	上久方村…………… 62
上 湯 沢(カミユザ)	上久方村…………… 61		ク
鴨 押(カミ)	上仁田山村… 150	久 ヲ 沢(クガツサ)	中広沢村…………… 41
		久 津 平(クスタヘ)	山地村…………… 107

小 字 名	ページ
久 保(ホ)	二渡村…………… 81
久 保(ホ)	飛駒村入飛駒 98
久 保(ホ)	下仁田山村… 137
久 保(ホ)	下菱村…………… 188
久保谷戸 (ホガイト)	西小倉村…… 122
久 保 田(ホタ)	本宿村…………… 21
久 保 田(ホタ)	中仁田山村… 143
熊 野(クマノ)	小友村…………… 181
熊 ノ 窪(クマノクボ)	二渡村忍山… 88
熊 野 沢(クマノサ)	小友村一色… 184
熊 野 林(クマノバヤシ)	天王宿村…… 174
蔵 ノ 内(クラノウチ)	高沢村…………… 75
蔵 ノ 沢(クラノサ)	高沢村…………… 71
倉 ノ 沢(クラノサ)	飛駒村入飛駒 92
闇見小鳥窪(クミコトリクボ)	上久方村…… 65
栗 ノ 入(クリノイ)	上久方村…… 67
栗 生(クリユ)	浅部村…………… 68
車 場(クルマバ)	二渡村忍山… 83
胡 桃 沢(クルマザリ)	飛駒村入飛駒 93
久留見草利(クルマヅリ)	二渡村忍山… 85
黒 仁 田(クロナタ)	上久方村…… 62
桑 木 窪(クワキクボ)	小友村…………… 181
桑 原(クワハラ)	飛駒村入飛駒 95
桑 原(クワハラ)	山地村…………… 111
郡 境(クワンザカイ)	天沼新田…… 177

ケ

毛 合 坂(ケアイザカ)	飛駒村入飛駒 99
越 所 沢(ケトノサ)	飛駒村入飛駒 95
谷 ケ 入(ケゲイ)	小友村…………… 182
下巢越作 (ゲスオヅクリ)	二渡村忍山… 87

コ

小 入(コイリ)	西小倉村…… 122
高 円 作(コウエンヅクリ)	山地村…………… 110
庚 申 塚(コウシンヅカ)	下新田村…… 168
庚 申 塚(コウシンヅカ)	小友村一色… 184
高 禪 寺(コウゼンジ)	山地村…………… 115
小 谷 戸(コガイト)	上久方村…… 60
小ヶ谷戸 (コガイト)	上仁田山村… 145
小ヶ谷戸 (コガイト)	名久木村…… 155
小 久 保(コホ)	下菱村中里… 191
小 倉(コクラ)	飛駒村入飛駒 98
小 沢(コザリ)	飛駒村入飛駒 101
小 沢(コザリ)	小友村一色… 184
小 沢(コザリ)	上菱村…………… 193
小 沢 口(コザリグチ)	上菱村…………… 192
越 地(コシ)	名久木村…… 162
こしぼち (コホチ)	高沢村…………… 77
腰 卷(コシマキ)	一本木村…… 54

小 字 名	ページ
腰 卷(コシマキ)	須永村…………… 126
腰 卷(コシマキ)	中仁田山村… 142
腰 卷(コシマキ)	小友村一色… 184
腰卷ノ上 (コシマキノウエ)	須永村…………… 127
御 所 平(ゴシヨテエラ)	飛駒村入飛駒 98
小 曾 根(コソネ)	村松村…………… 27
子 田 界(コダカイ)	二渡村忍山… 90
小 滝(コダキ)	高沢村…………… 76
五 反 田(ゴタンダ)	下広沢村…… 45
五 反 田(ゴタンダ)	上仁田山村… 144
子 繫(コツナキ)	高沢村…………… 73
古 庭(コテイ)	上広沢村…… 37
古庭ノ入 (コテイノイリ)	上広沢村…… 39
小 畑 ケ(コハタケ)	小友村一色… 185
小 畑(コハタケ)	上菱村…………… 193
碁場小路 (ゴハノコウジ)	二渡村忍山… 82
古武小路 (ゴフコウジ)	下久方村…… 57
小 藤 生(コフシユウ)	山地村…… 109
小婦田原 (コフタハラ)	下広沢村…… 50
小舟ヶ沢 (コフネガサリ)	飛駒村入飛駒 92
五 本 木(ゴホノキ)	堤村…………… 24
駒 谷 戸(コマカイト)	今泉村…………… 20
駒 形(コマカタ)	上仁田山村… 148
駒 転(コマコロボシ)	小友村…………… 181
小 松(コマツ)	下久方村…… 57
小 松(コマツ)	上菱村…………… 194
胡麻小路 (ゴマノコウジ)	高沢村…………… 75
駒 見(コマミ)	上仁田山村… 146
小 丸 山(コマルヤマ)	上菱村…………… 194
小 麦 入(コムギイリ)	飛駒村入飛駒 95
小 持 丸(コモチマル)	高沢村…………… 73
小弥五郎 (コヤコロウ)	小友村…………… 182
小 谷 沢(コヤザリ)	高沢村…………… 77
小 谷(コヤツ)	小友村…………… 180
小 屋 作(コヤツクリ)	飛駒村入飛駒 94
小 谷 入(コヤノイリ)	上久方村…… 59
小 屋 場(コヤバ)	二渡村忍山… 88
小 屋 場(コヤバ)	東小倉村…… 119
小 谷 原(コヤハラ)	今泉村…………… 18
後 原(コヤハラ)	新宿村…………… 29
権 現 山(ゴンゲンヤマ)	上久方村…… 66
権 現 山(ゴンゲンヤマ)	高津戸村…… 135

サ

槐 原(サイカチハラ)	今泉村…………… 19
塞 神(サイガミ)	須永村…………… 128
境 上(サカイガミ)	下仁田山村… 141
坂 ノ 上(サカノウエ)	西小倉村…… 122

小字名	ページ	小字名	ページ
坂ノ上(カノエ)	須永村…………… 127	清水(シミス)	上広沢村……… 38
坂ノ上(カノエ)	下菱村…………… 188	清水(シミス)(備町4丁目)	飛駒村入飛駒 92
坂ノ上道下(カノエミシタ)	須永村…………… 127	清水(シミス)(備町5丁目)	飛駒村入飛駒 101
坂ノ下(カノシタ)	上久方村……… 59	清水(シミス)	山地村…………… 108
坂ノ下(カノシタ)	山地村…………… 102	清水(シミス)	上仁田山村… 153
坂ノ下(カノシタ)	西小倉村……… 121	清水(シミス)	名久木村……… 155
坂ノ下(カノシタ)	須永村…………… 126	清水下(シミスシタ)	下新田村……… 169
坂ノ下(カノシタ)	中仁田山村… 142	清水下(シミスシタ)	天王宿村……… 174
坂ノ下堀上(カノシタカノエ)	須永村…………… 126	清水通り(シミストノリ)	下新田村……… 169
坂ノ下道東(カノシタミチヒガシ)	須永村…………… 126	清水横道(シミスヨコミチ)	飛駒村入飛駒 92
サガ畑ケ(サガハタ)	山地村…………… 112	七五三盡(シメツクシ)	下広沢村……… 50
作網(サカ)	二渡村…………… 81	下窪(シメクボ)	上久方村……… 64
坂本(サカモト)	上広沢村……… 36	下久保(シメクボ)	高津戸村……… 131
坂本(サカモト)	二渡村…………… 78		(桐生市分)
佐倉(サクラ)	下広沢村……… 47	下宿(シモシュク)	新宿村…………… 28
桜久保口(サクラホクガチ)	飛駒村入飛駒 95	下田(シモタ)	下広沢村……… 48
桜塚(サクラツカ)	如来堂村……… 165	下大門(シモタノイモン)	上久方村……… 59
笹久保(ササホ)	名久木村……… 154	下西裏(シモニシウラ)	下新田村……… 171
笹籠(ササハラ)	飛駒村入飛駒 93	下ノ田(シモノタ)	上菱村…………… 192
笹平向(ササヘラムカイ)	飛駒村入飛駒 96	下東裏(シモヒガシウラ)	下新田村……… 170
殺木沢(サキキサリ)	小友村…………… 183	下湯沢(シモユサリ)	上久方村……… 61
皿久保(サラホ)	村松村…………… 26	釈迦堂(シヤカント)	東小倉村……… 119
皿久保(サラホ)	下仁田山村… 140	蛇現上(シヤケンジヨウ)	二渡村忍山… 82
笹谷戸(ササカノイ)	下仁田山村… 138	蛇倒(シヤトウレ)	飛駒村入飛駒 95
沢入(サライ)	下菱村中里… 191	蛇留淵(シヤルブチ)	飛駒村入飛駒 99
沢入口(サライゲチ)	下菱村中里… 191	十次ヶ久保(シウジヶホ)	高沢村…………… 75
沢田(サワタ)	高津戸村……… 133	寿宇殿(シウウノ)	須永村…………… 125
	(大間々町分)	拾式(シウシキ)	名久木村……… 159
三角原(サカカハラ)	天沼新田……… 177	十二平(シウニヒナヒラ)	蕪町村…………… 176
三丁免(サチヨウモン)	中広沢村……… 42	十八曲(シウハチマカマリ)	上久方村……… 66
	シ	宿(シユク)	下新田村……… 171
塩ノ瀬(シノセ)	上菱村…………… 192	宿(シユク)	天王宿村……… 173
祖父ヶ入(ジガノイ)	上菱村…………… 194	宿(シユク)	蕪町村…………… 175
慈眼寺山(ジガンジヤマ)	上久方村……… 59	宿ノ島(シユクノシマ)	小友村…………… 179
師々田(シタ)	東小倉村……… 117	宿東(シユクヒガシ)	高沢村…………… 74
地藏籠(ジゾウハラ)	飛駒村入飛駒 96	宿巡(シユクメグリ)	高沢村…………… 70
下小友(シタトモ)	境野村……… 30	十本原(シウボンハラ)	今泉村…………… 20
下出(シタデ)	小友村一色… 184	将某窪(シウキケホ)	上久方村……… 62
下日向(シタヒナ)	下仁田山村… 141	上人(シウニン)	上広沢村……… 35
四反田(シタンダ)	中広沢村……… 41	上人後(シウニンウシロ)	上広沢村……… 32
志度(シト)	飛駒村入飛駒 101	上人前(シウニンマエ)	上広沢村……… 35
志度平(シトデエラ)	飛駒村入飛駒 94	上張(シウウハリ)	下菱村…………… 189
芝(シハ)	西小倉村……… 123	菖蒲(シウウフ)	名久木村……… 158
芝原(シハラ)	高沢村…………… 71	初ノ沢(シウノサ)	二渡村忍山… 86
島谷戸(シマカノイ)	高津戸村……… 131	城谷戸(シロカノイ)	上久方村……… 59
	(桐生市分)	城ノ岡(シロノカ)	小友村…………… 181
清水(シミス)	今泉村…………… 19	城ノ前(シロノマエ)	上久方村……… 63
清水(シミス)	堤村…………… 23	神田(シノダ)	上久方村……… 58

小字名	ページ	小字名	ページ
陣 平(シンダ ^イ)	天王宿村…… 174	大 茂(ダ ^イ モ)	二渡村忍山… 84
新田開道 (シンデンカイト ^リ)	蕪町村…… 175	大 門(ダ ^イ モン)	下菱村…… 188
新 田 原(シンデンハラ)	新宿村…… 29	高 谷 戸(タカガ ^イ ト)	高津戸村…… 132 (桐生市分)
新 堀(シンボ ^リ)	一本木村…… 54	高ヶ谷戸 (タカガ ^イ ト)	名久木村…… 159
新 堀(シンボ ^リ)	上久方村…… 59	高谷戸入 (タカガ ^イ ト ^リ)	高津戸村…… 132 (桐生市分)
新 堀 前(シンボ ^リ マエ)	一本木村…… 54	高 沢(タカザ ^リ)	米沢村…… 178
神 明(シメイ)	上広沢村…… 38	高 芝(タカシバ ^ノ)	二渡村忍山… 85
		高 田(タカダ ^ノ)	今泉村…… 18
ス		高 田(タカダ ^ノ)	下菱村…… 186
杉 沢(サギサ ^キ)	上久方村…… 60	高 台(タカダ ^ノ イ)	上久方村…… 60
杉 ノ 入(サギノイ ^リ)	下広沢村…… 46	高 竹(タカダ ^ノ ケ)	山地村…… 108
杉 ノ 下(サギノシタ)	下久方村…… 56	高 竹 山(タカダ ^ノ ケヤマ)	山地村…… 113
杉 ノ 下(サギノシタ)	如来堂村…… 163	高 戸 口(タクト ^ノ ケチ)	飛駒村入飛駒 93
雀 谷 戸(スズカ ^ノ イ)	下菱村…… 187	高 戸 沢(タクト ^ノ サリ)	飛駒村入飛駒 92
砂 田(サダ ^ノ)	本宿村…… 21	高 戸 向(タクト ^ノ ムカイ)	飛駒村入飛駒 96
住 吉(スミヨシ)	小友村…… 180	高 仁 田(タカニ ^ダ)	山地村…… 113
須 森(スモリ)	飛駒村入飛駒 98	高仁田平 (タカニダ ^ノ ヘイ)	飛駒村入飛駒 100
諏 訪(スミ)	境野村…… 30	鷹 ノ 巢(タカノス)	高沢村…… 76
諏 訪(スミ)	高沢村…… 69	鷹 ノ 巢(タカノス)	二渡村忍山… 89
諏訪ノ入 (スミノイ ^リ)	下仁田山村… 138	鷹 ノ 巢(タカノス)	東小倉村…… 120
諏訪ノ後 (スノウシロ)	今泉村…… 20	鷹 ノ 巢(タカノス)	西小倉村…… 121
諏訪ノ前 (スノマエ)	今泉村…… 19	鷹 ノ 巢(タカノス)	小友村…… 182
		高 萩(タカハキ ^ノ)	高沢村…… 77
セ		高 畑(タカハタ)	下仁田山村… 138
清 台(セイダイ)	下久方村…… 56	高 畑 ヶ(タカハタ ^ケ)	小友村一色… 185
関 根(セキネ)	境野村…… 31	高 鼻(タカハナ)	上久方村…… 60
関 根(セキネ)	上仁田山村… 153	高 平(タカヒ ^ラ)	山地村…… 110
堰 場(セキハ ^ノ)	小友村…… 181	高 松 沢(タカマツサ ^リ)	上久方村…… 63
関 堀(セキボ ^リ)	須永村…… 126	高 間 々(タカマ ^マ)	上久方村…… 60
瀬 場(セバ ^ノ)	上菱村…… 192	多 賀 廻(タカメ ^ケ リ)	天沼新田…… 177
蟬 (セミ)	村松村…… 26	滝 沢(タキザ ^リ)	二渡村…… 80
蟬 口(セミガ ^チ)	飛駒村入飛駒 97	滝 ノ 入(タキノイ ^リ)	上仁田山村… 146
猿 石(セシ)	二渡村…… 80	滝 ノ 沢(タキノサ ^リ)	二渡村…… 81
仙 ヶ 沢(セキガ ^サ)	上久方村…… 64	滝 ノ 沢(タキノサ ^リ)	山地村…… 104
心 正 寺(セシジ ^ユ ジ)	東小倉村…… 118	瀧 ノ 沢(タキノサ ^リ)	上仁田山村… 150
膳 棚(セندگان)	堤村…… 25	瀧 ノ 沢(タキノサ ^リ)	下菱村中里… 191
膳 棚(セندگان)	高津戸村…… 131 (桐生市分)	瀧 宮 前(タキミヤマエ)	如来堂村…… 166
膳 棚(セندگان)	小友村…… 183	瀧宮間々上(タキミヤマウエ)	如来堂村…… 166
梅 檀 木(セندانギ)	天王宿村…… 173	瀧宮巡り (タキミヤメケ ^リ)	如来堂村…… 166
		瀧 山(タキヤマ)	如来堂村…… 166
ン		竹 ノ 下(タケノシタ)	小友村一色… 184
象ヶ久保 (ゾウカ ^ノ ホ)	高沢村…… 74	竹 山(タケヤマ)	小友村一色… 185
蔵 殿(ゾウト ^ノ)	今泉村…… 18	高 ノ 平(タコノヘイ)	高沢村…… 71
反 町(リマチ)	上広沢村…… 38	立 岩(タテイ)	下菱村中里… 191
		田 中(タナカ)	下広沢村…… 51
タ		田 中(タナカ)	下久方村…… 57
台 (ダイ)	中広沢村…… 40		
大黒尾根 (ダイコクオネ)	上久方村…… 66		
大 日 前(ダイニチマエ)	上菱村…… 193		
台 ノ 南(ダイノミナミ)	下新田村…… 172		
大 門(ダイモン)	上久方村…… 58		

小字名	ページ	小字名	ページ
田 中(タナカ)	上仁田山村… 152	寺 谷(テラヤツ)	下菱村… 186
田 中(タナカ)	下菱村… 186	天 神(テンジン)	下広沢村… 44
田 ノ 間(タノイダ)	上菱村… 192	天 神 前(テンジンマエ)	須永村… 126
田 ノ 入(タノイ)	堤村… 25	天 神 山(テンジンヤマ)	上久方村… 62
田 ノ 入(タノイ)	上久方村… 67	天 水(テンズイ)	下久方村… 56
田 ノ 入(タノイ)	小友村… 182	天 水(テンズイ)	下菱村中里… 191
田 ノ 入(タノイ)	上菱村… 193		
田 ノ 上(タノウエ)	上菱村… 192	樋 口(トイグチ)	上菱村… 193
田 ノ 下(タノタ)	上菱村… 192	土 井 下(トイシタ)	村松村… 26
田 端(タハタ)	二渡村… 79	戸樋ノ下 (トイノシタ)	下新田村… 169
田 福 庵(タフクアン)	下菱村… 187	堂院谷戸 (トウインガイト)	下仁田山村… 138
樽 久 保(タルクホ)	高沢村… 75	堂 谷 戸(トウカイト)	須永村… 125
太郎左衛門窪(タロウサエモンクボ)	小友村一色… 185	稲 荷 塚(トウツカ)	新宿村… 29
		稲 荷 穴(トウアナ)	如来堂村… 167
		東 北(トウキタ)	上菱村… 192
		峠 (トウゲ)	堤村… 25
		峠 (トウゲ)	東小倉村… 120
		峠 下(トウゲシタ)	東小倉村… 116
		東 西(トウサイ)	高津戸村… 136
			(大間々町分)
		当 実 平(トウジツツハ)	山地村… 102
		東勝寺前 (トウショウジマエ)	今泉村… 20
		藤四郎ヶ入(トウシロウガイレ)	下菱村… 186
		道祖神前 (トウソジンマエ)	下久方村… 56
		堂 ノ 入(トウノイ)	村松村… 27
		堂 ノ 入(トウノイ)	小友村… 183
		堂 場(トウバ)	上仁田山村… 146
		堂 前(トウマエ)	村松村… 27
		堂 前(トウマエ)	下菱村… 188
		堂 前(トウマエ)	下菱村中里… 190
		東間谷戸 (トウマガイト)	二渡村… 79
		ドフヤ久保(トウヤクホ)	山地村… 112
		堂 屋 敷(トウヤシキ)	本宿村… 22
		遠 上(トウカミ)	飛駒村入飛駒 101
		戸 倉 場(トウクラバ)	高沢村… 71
		閉 籠 里(トスロリ)	飛駒村入飛駒 98
		栃 久 保(トチクホ)	山地村… 115
		栃 久 保(トチクホ)	上仁田山村… 144
		堂 平(トウヘイ)	上久方村… 67
		堂 平(トウヘイ)	飛駒村入飛駒 98
		堂 所(トウコロ)	村松村… 27
		殿 入(トノイ)	高津戸村… 135
			(大間々町分)
		頓 ノ 入(トノイ)	下仁田山村… 138
		殿 入 西(トノイニシ)	高津戸村… 135
			(大間々町分)
		殿 谷 戸(トウガイト)	今泉村… 19
		殿 林(トウバヤシ)	境野村… 30

小 字 名	ページ	小 字 名	ページ
殿 山(トヤマ)	下菱村…………… 189	中 道(カミチ)	蕪町村…………… 175
飛 地(トビチ)	如来堂村……… 167	中 道 東(カミチカシ)	下仁田山村… 138
鳶 ノ 巢(トビノス)	堤村…………… 24	長 峰(カミネ)	東小倉村……… 118
鳶 ノ 沢(トビノサ)	小友村一色… 184	中 屋 敷(カヤシキ)	小友村一色… 184
友 ノ 助(トモノスケ)	下広沢村……… 50	中 ノ 作(カノサク)	山地村…………… 108
鳥 谷 戸(トリガイト)	二渡村…………… 80	奈 木 沢(ナギザリ)	飛駒村入飛駒 99
鳥 ノ 海(トノミ)	下仁田山村… 137	名下知窪 (ナゲチクボ)	二渡村忍山… 85
ナ		中 尾(カオ)	山地村…………… 103
内膳屋敷 (ナゼンヤシキ)	下菱村…………… 187	梨ノ木入 (ナシキイ)	高津戸村……… 136
中 (ナ)	上菱村…………… 192	夏 保(ナツボ)	(大間々町分)
中 居(カイ)	上広沢村……… 37	夏保ノ入 (ナツボノイ)	下広沢村……… 45
中 居(カイ)	二渡村…………… 79	鍋 足(ナベアシ)	下広沢村……… 46
中 小 友(カキトモ)	小友村…………… 179	鳴 淵 上(ナリブチウエ)	高沢村…………… 74
中 尾 根(カキネ)	上久方村……… 66		飛駒村入飛駒 92
中 尾 根(カキネ)	下菱村…………… 189	ニ	
中ヶ谷戸 (ナカガイト)	名久木村……… 159	新 堀(ニボリ)	須永村…………… 128
中 谷 戸(ナカガイト)	小友村一色… 184	新 堀(ニボリ)	下仁田山村… 137
中 河 原(ナカガハラ)	下新田村……… 172	西愛宕前 (ニシアタゴマエ)	下新田村……… 171
中 里(ナカサト)	上広沢村……… 35	西浦田端 (ニシウラタハタ)	如来堂村……… 166
中 里(ナカサト)	須永村…………… 127	西 側 上(ニシガワカミ)	如来堂村……… 165
中 里(ナカサト)	下菱村中里… 190	西側上浦 (ニシガワカミウラ)	如来堂村……… 165
中 里 後(ナカサトウシロ)	上広沢村……… 32	西 側 下(ニシガワシモ)	如来堂村……… 166
中 島(ナカジマ)	堤村…………… 25	西側下浦 (ニシガワシモウラ)	如来堂村……… 166
中 島(ナカジマ)	上広沢村……… 34	西 側 中(ニシガワナカ)	如来堂村……… 165
中 島(ナカジマ)	二渡村…………… 79	西側中浦 (ニシガワナカウラ)	如来堂村……… 166
中 島(ナカジマ)	須永村…………… 125	西 久 保(ニシクボ)	堤村…………… 24
中 島(ナカジマ)	上仁田山村… 153	西 久 保(ニシクボ)	山地村…………… 109
中 島(ナカジマ)	下菱村中里… 190	西 久 保(ニシクボ)	高津戸村……… 131
中 島(ナカジマ)	上菱村…………… 193	西久保沢 (ニシクボザリ)	(桐生市分)
中 島 前(ナカジママエ)	上広沢村……… 35	西清水 (ニシシミズ)	高津戸村……… 131
中 宿(ナカシユク)	新宿村…………… 28	西清水間々上(ニシシミズマウエ)	(桐生市分)
長瀬舟場 (ナガセフナバ)	須永村…………… 125	西下宿通り(ニシシモシユクトオリ)	如来堂村……… 165
中川桜窪 (ナカカワサクラクボ)	飛駒村入飛駒 95	西釋迦堂 (ニシジャカント)	如来堂村……… 167
中 川 西(ナカカワニシ)	飛駒村入飛駒 96	西 宿(ニシシユク)	下新田村……… 168
中 川 東(ナカカワヒガシ)	飛駒村入飛駒 94	西宿地藏堂(ニシシユクジゾウトウ)	東小倉村……… 120
中川細窪 (ナカカワホソクボ)	飛駒村入飛駒 96	西ゾロメキ(ニシゾロメキ)	須永村…………… 129
中 通(ナトオリ)	境野村……… 30	西高戸(ニシタカト)	須永村…………… 129
中 通(ナトオリ)	下菱村中里… 190	西 辻(ニシツジ)	西小倉村……… 122
中 西 裏(ナニシウラ)	下新田村……… 171	西童子原 (ニシトシヅハラ)	堤村…………… 24
中 野(ナノ)	上久方村……… 60	西 ノ 入(ニシノイ)	下広沢村……… 43
中 ノ 上(ナノウエ)	上菱村…………… 192	西 ノ 入(ニシノイ)	西小倉村……… 124
中之谷戸 (ナカノガイト)	東小倉村……… 117	西 ノ 入(ニシノイ)	小友村一色… 185
中ノ川端 (ナカノカワハタ)	上菱村…………… 192	西 ノ 上(ニシノウエ)	二渡村…………… 81
中 ノ 平(ナカノヘ)	高沢村…………… 72	西ノ谷戸 (ニシノガイト)	須永村…………… 125
中 林(ナカハヤシ)	下新田村……… 169	西 ノ 根(ニシノネ)	須永村…………… 130
中 東 裏(ナカヒガシウラ)	下新田村……… 170		
中 道(カミチ)	上久方村……… 59		
中 通(カミチ)	中仁田山村… 143		

小 字 名	ページ
西 堀 上(ニホリウエ)	下新田村…… 170
西 堀 下(ニホリシタ)	下新田村…… 171
西間々下 (ニシマシタ)	下新田村…… 171
西 山(ニシヤマ)	堤村…… 24
西 山(ニシヤマ)	高沢村…… 70
西 山(ニシヤマ)	西小倉村…… 123
西 横 根(ニシヨコネ)	二渡村忍山… 88
仁 田 所(ニタ ^ニ コロ)	本宿村…… 21
式 反 田(ニタダ)	上仁田山村… 145
二 丁 田(ニチヨウダ)	下広沢村…… 45
荷 附 場(ニツケバ)	飛駒村入飛駒 95
二 本 相(ニホンスキ)	飛駒村入飛駒 99
二 本 松(ニホンマツ)	天王宿村…… 173
二 本 松(ニホンマツ)	蕪町村…… 175
荷 場(ニシバ)	二渡村忍山… 83
	又
沼 ノ 上(ヌナウエ)	境野村…… 30
沼 田(ヌマガ)	堤村…… 23
	ネ
内 松(ネエマツ)	飛駒村入飛駒 94
内 松 奥(ネエマツオカ)	飛駒村入飛駒 94
根 岸(ネギシ)	須永村…… 126
ねばとり (ね ^ニ トリ)	如来堂村…… 166
根 本 沢(ネトサヅリ)	山地村…… 115
根礼ノ沢 (ネノサヅリ)	二渡村忍山… 85
	ノ
野 中 沢(ノナサヅリ)	二渡村…… 78
	ハ
梅林谷戸 (ハイリノガ ^ニ イ)	高沢村…… 70
萩 平(ハギ ^ニ テ ^ニ エラ)	山地村…… 106
橋 上(ハシガミ)	名久木村…… 160
橋 詰(ハシツメ)	二渡村…… 78
橋 詰(ハシツメ)	小友村一色… 184
橋 ノ 入(ハシノイ)	山地村…… 111
橋 場(ハシバ)	山地村…… 103
橋 前 場(ハシマエバ)	西小倉村…… 123
馬瀬ヶ谷戸(バセガ ^ニ イ)	上仁田山村… 144
畑 (ハタケ)	飛駒村入飛駒 99
畑 ケ 中(ハタケナカ)	東小倉村…… 118
八 王 子(ハチオウシ)	小友村…… 180
八王子坂下(ハチオウシ ^ニ カシタ)	小友村…… 180
蜂 ケ 沢(ハチカ ^ニ サリ)	東小倉村…… 117
八 幡 平(ハチマンテイ)	下仁田山村… 140
八 幡 山(ハチマンヤマ)	下菱村…… 189
八幡山下 (ハチマンヤマシタ)	下菱村中里… 190
八 反 田(ハツタダ)	中広沢村…… 42
八 鎮 房(ハツチンボウ)	如来堂村…… 163
花 柄(ハナガラ)	下仁田山村… 141

小 字 名	ページ
鼻 撮(ハナツマミ)	高沢村…… 71
羽 ば み(ハネバ ^ニ ミ)	高沢村…… 74
羽 場(ハバ)	下菱村…… 188
馬 場(ハバ)	須永村…… 129
馬 場 中(ハバナカ)	本宿村…… 21
羽 場 山(ハバヤマ)	小友村…… 180
浜 ノ 京(ハマノキョウ)	境野村…… 30
浜ノ京天神台(ハマノキョウテンジ ^ニ ンダイ)	境野村…… 31
浜ノ京西原(ハマノキョウニシハラ)	境野村…… 31
浜 ノ 原(ハマノハラ)	新宿村…… 29
原 (ハラ)	本宿村…… 22
原 (ハラ)	浅部村…… 68
原 (ハラ)	飛駒村入飛駒 98
原 (ハラ)	下仁田山村… 139
原 (ハラ)	下菱村中里… 190
原 ノ 入(ハラノイ)	名久木村…… 161
播磨谷戸 (ハリカ ^ニ イ)	東小倉村…… 119
番 場(ハシバ)	山地村…… 104
	ヒ
燧 石(ヒウチイ)	高沢村…… 75
火 打 沢(ヒウチサヅリ)	二渡村忍山… 90
樋 合(ヒエ)	上久方村…… 66
東 (ヒガシ)	堤村…… 24
東愛宕前 (ヒガシアタゴ ^ニ マエ)	下新田村…… 170
東 裏(ヒガシウラ)	新宿村…… 29
東 側 上(ヒガシガ ^ニ ウラミ)	如来堂村…… 164
東側上浦 (ヒガシガ ^ニ ウラミウラ)	如来堂村…… 164
東 側 下(ヒガシガ ^ニ ウラシモ)	如来堂村…… 163
東側下浦 (ヒガシガ ^ニ ウラシモウラ)	如来堂村…… 163
東 側 中(ヒガシガ ^ニ ウラナカ)	如来堂村…… 164
東側中浦 (ヒガシガ ^ニ ウラナカウラ)	如来堂村…… 164
東清水間々上(ヒガシシミズ ^ニ マウエ)	如来堂村…… 164
東下宿通り(ヒガシシモ ^ニ ヅク ^ニ ト ^ニ リ)	下新田村…… 168
東釋迦堂 (ヒガシジャカント)	東小倉村…… 120
東 宿(ヒガシシユク)	須永村…… 129
東ゾロメキ(ヒガシゾ ^ニ ロメキ)	二渡村忍山… 88
東 高 戸(ヒガシタト)	飛駒村入飛駒 93
東高戸口 (ヒガシタト ^ニ グチ)	飛駒村入飛駒 93
東 辻(ヒガシツジ)	須永村…… 129
東 原(ヒガシハラ)	飛駒村入飛駒 101
東童子原 (ヒガシト ^ニ シ ^ニ ハラ)	西小倉村…… 121
東 ノ 入(ヒガシノイ)	小友村一色… 185
東ノ久保 (ヒガシクボ)	飛駒村入飛駒 100
東 ノ 前(ヒガシノマエ)	中広沢村…… 40
東 堀 上(ヒガシホリウエ)	下新田村…… 170
東 堀 下(ヒガシホリシタ)	下新田村…… 170
東 谷(ヒガシヤ)	名久木村…… 157
東 横 根(ヒガシヨコネ)	二渡村忍山… 88

小字名	ページ	小字名	ページ
引入 沢(ヒキレザリ)	上広沢村…… 33	細谷 戸(ホリカト)	二渡村…… 79
引 田(ヒキタ)	上菱村…… 193	細ヶ 入(ホリカトリ)	小友村…… 182
菱 小 屋(ヒシコヤ)	上久方村…… 63	細 窪(ホリホ)	上久方村…… 64
備前谷戸 (ヒゼンカト)	高沢村…… 69	細 久 保(ホリホ)	二渡村忍山… 89
経 玉 木(ヒタマキ)	上久方村…… 65	細 久 保(ホリホ)	小友村…… 181
樋 瓜(ヒヅメ)	本宿村…… 21	細 田(ホリダ)	村松村…… 26
稗 ノ 澤(ヒノサ)	東小倉村…… 120	細 田(ホリダ)	米沢村…… 178
平 井(ヒライ)	上久方村…… 61	星 落 沢(ホリザリ)	二渡村…… 80
平 井 沢(ヒライサ)	上久方村…… 62	堀 上(ホリエ)	天王宿村…… 173
平 石(ヒライシ)	上仁田山村… 151	堀 上(ホリエ)	天沼新田…… 177
平ヶ 谷(ヒラガヤ)	高沢村…… 76	堀ヶ久保 (ホリカホ)	高津戸村…… 132
平 久 保(ヒラホ)	上仁田山村… 147		(桐生市分)
平 棚(ヒラタナ)	小友村…… 181	堀 下(ホリシタ)	天沼新田…… 177
比 良 平(ヒラテエ)	上久方村…… 67	堀 添(ホリゾエ)	下菱村中里… 190
平 行(ヒラナ)	飛駒村入飛駒 99	堀 縁(ホリツチ)	天沼新田…… 177
比良ノ峯 (ヒラミネ)	上久方村…… 67	堀 ノ 内(ホリノウチ)	東小倉村…… 118
平 仁 田(ヒラニダ)	上久方村…… 65	本 社(ホンジヤ)	西小倉村…… 121
広 見(ヒロミ)	米沢村…… 178		
広 見(ヒロミ)	小友村…… 180	前 谷 戸(マエカト)	二渡村…… 80
		前 沢(マエザリ)	上久方村…… 62
深 町(フカマチ)	堤村…… 23	前 田(マエダ)	中広沢村…… 42
深 町(フカマチ)	中広沢村…… 42	前 原(マエハラ)	下久方村…… 56
吹 上(フキアゲ)	上仁田山村… 147	前 山(マエヤマ)	蕪町村…… 176
吹 上 原(フキアゲハラ)	新宿村…… 29	曲 坂(マカッサカ)	小友村一色… 185
福 島(フクジマ)	中広沢村…… 40	曲 手(マカッテ)	飛駒村入飛駒 100
福 島(フクジマ)	下広沢村…… 44	曲 田(マカッリタ)	村松村…… 26
袋 久 保(フクロホ)	高津戸村…… 135	曲 松(マカッリマツ)	小友村…… 179
	(大間々町分)	町 屋(マチヤ)	下久方村…… 57
藤 沢(フジザリ)	二渡村忍山… 90	松 立(マツタテ)	村松村…… 27
藤 ノ 木(フジノキ)	中広沢村…… 41	松 ノ 棒(マツノボウ)	上菱村…… 193
不二山前 (フジヤママエ)	下新田村…… 169	松 宮(マツミヤ)	境野村…… 30
藤 生(フジユウ)	上広沢村…… 33	間 々(ママ)	天沼新田…… 177
藤 生 山(フジユウヤマ)	山地村…… 114	間々久保 (ママクホ)	下仁田山村… 138
藤生山口 (フジユウヤマグチ)	山地村…… 114	間 々 下(ママシタ)	下菱村…… 187
舞 台(マエダイ)	下広沢村…… 49	間 々 通(ママトオリ)	天沼新田…… 177
二 ツ 堂(フタツドウ)	須永村…… 127	丸 子(マルコ)	上久方村…… 62
二 渡(フタワタ)	浅部村…… 68	丸 山(マルヤマ)	本宿村…… 22
淵 ノ 上(フチノウエ)	高沢村…… 70	丸 山(マルヤマ)	高沢村…… 71
淵 ノ 上(フチノウエ)	飛駒村入飛駒 99	丸 山(マルヤマ)	東小倉村…… 116
舟場通り (フナバトオリ)	下新田村…… 169	丸 山(マルヤマ)	下仁田山村… 137
普 門 寺(フモンジ)	下菱村中里… 190	ま る 山(マルヤマ)	名久木村…… 158
		丸 山 前(マルヤママエ)	東小倉村…… 116
保 井(ホーイ)	今泉村…… 19		
坊 谷 戸(ホリカト)	堤村…… 25	三 島(シミ)	須永村…… 130
棒ヶ谷戸 (ホリカト)	上仁田山村… 145	三 ツ 塚(ミツツカ)	新宿村…… 29
坊 ヶ 入(ホリカトリ)	一本木村…… 55	三ツ塚開戸(ミツツカイト)	新宿村…… 28
酸 漿 沢(ヒマスキサリ)	小友村…… 182	三 ツ 淵(ミツツチ)	上仁田山村… 147
細 入(ホリイ)	飛駒村入飛駒 93	三 ツ 堀(ミツホリ)	境野村…… 30

小 字 名	ページ
三 叉(ミツマタ)	上久方村…… 67
御 堂(ミドウ)	堤村…………… 24
御堂ノ入 (ミドウノイ)	上広沢村…… 39
水 無(ミナ)	上久方村…… 62
南 (ミナ)	上久方村…… 59
南 堀 前(ミナホリマエ)	新宿村…………… 28
南 堀 向(ミナホリムコウ)	新宿村…………… 28
南 峯 (ミネ)	下久方村…… 57
蛭 久 保(ミズクホ)	高沢村…………… 73
宮 谷 戸(ミヤガイト)	二渡村…………… 80
宮 谷 戸(ミヤガイト)	下仁田山村… 139
宮ヶ谷戸 (ミヤガイト)	名久木村…… 158
宮 頭(ミヤガシ)	下久方村…… 56
宮 沢(ミヤサリ)	上久方村…… 61
宮 ノ 上(ミヤノウエ)	上広沢村…… 38
宮 ノ 裏(ミヤノウラ)	下広沢村…… 50
宮 ノ 平(ミヤノヘ)	二渡村…………… 81
宮 ノ 原(ミヤノハラ)	中仁田山村… 143
宮 田(ミヤタ)	村松村…………… 26
宮 谷(ミヤツ)	小友村…………… 180
宮 西(ミヤニシ)	下久方村…… 57
宮 ノ 前(ミヤノマエ)	上菱村…………… 192
宮 ノ 向(ミヤノムカイ)	飛駒村入飛駒 93
宮 原(ミヤハラ)	下広沢村…… 49
宮 原(ミヤハラ)	下久方村…… 56
宮 原(ミヤハラ)	西小倉村…… 122
宮 東(ミヤヒガシ)	下久方村…… 56
深 山(ミヤマ)	上久方村…… 67
深 山(ミヤマ)	下仁田山村… 141
深 山(ミヤマ)	小友村…………… 180
宮 前(ミヤマエ)	本宿村…………… 22
宮 前(ミヤマエ)	村松村…………… 26
宮 前(ミヤマエ)	上広沢村…… 38
宮 前(ミヤマエ)	須永村…………… 129
明 作(ミヨウカク)	山地村…………… 115
茗 荷 沢(ミヨウカサリ)	小友村…………… 182
明 神 裏(ミヨウジノウラ)	飛駒村入飛駒 96
三 夜 沢(ミヨサリ)	上広沢村…… 35
宮 内(ミヨチ)	下久方村…… 56

ム

向 佐 倉(ムカイクラ)	一本木村…… 54
向 田(ムカイダ)	中広沢村…… 42
向 田(ムカイダ)	中仁田山村… 142
麦 久 保(ムギクホ)	山地村…………… 111
麦 久 保(ムギクホ)	東小倉村…… 120
麦生小路 (ムギョウコウジ)	下仁田山村… 140
村 松 沢(ムラマツサリ)	村松村…………… 26
室 ノ 手(ムロンテ)	中仁田山村… 142

小 字 名	ページ
茂 倉(モクハラ)	上菱村…………… 193
茂 倉 沢(モクハラサリ)	上菱村…………… 194
餅 丸(モチマル)	二渡村忍山… 86
本 宿(モトシユク)	本宿村…………… 22
元 屋 敷(モトヤシキ)	小友村一色… 185
粃 谷(モミヤ)	上菱村…………… 193
粃 山(モミヤマ)	中広沢村…… 40
森 沢(モリサリ)	上久方村…… 58
森 山(モリヤマ)	小友村一色… 184
諸 沢(モロサリ)	二渡村…………… 81
諸 沢(モロサリ)	山地村…………… 102
門 口(モンクチ)	新宿村…………… 28

ヤ

薬 師 堂(ヤクシトウ)	今泉村…………… 18
薬 師 前(ヤクシマエ)	浅部村…………… 68
櫓 下(ヤクハラシタ)	西小倉村…… 121
八 坂 下(ヤサカシタ)	天王宿村…… 174
屋 敷 裏(ヤシキウラ)	下菱村中里… 190
屋 敷 通(ヤシキトウリ)	一本木村…… 55
屋 敷 前(ヤシキマエ)	中広沢村…… 42
屋 敷 山(ヤシキヤマ)	山地村…………… 110
野 州(ヤシユウ)	飛駒村入飛駒 99
谷 津(ヤツ)	上広沢村…… 34
谷 (ヤツ)	下久方村…… 57
谷 (ヤツ)	下仁田山村… 141
谷 (ヤツ)	下菱村…………… 186
谷 ノ 前(ヤツノマエ)	下久方村…… 57
谷 山(ヤツヤマ)	下菱村…………… 189
柳 谷 戸(ヤナギガイト)	本宿村…………… 22
柳 谷 戸(ヤナギガイト)	西小倉村…… 122
柳 沢(ヤナギサリ)	高沢村…………… 74
柳 谷(ヤナギヤツ)	小友村…………… 180
柳 原(ヤナギワラ)	上久方村…… 64
柳 原(ヤナギワラ)	名久木村…… 157
梁 瀬(ヤナセ)	今泉村…………… 19
山 谷 戸(ヤマカイト)	小友村一色… 184
山 神(ヤマカミ)	小友村…………… 181
山 神 坂(ヤマカミザカ)	米沢村…………… 178
山 神 前(ヤマカミマエ)	小友村…………… 179
山 際(ヤマギリ)	高津戸村…… 134
	(大間々町分)
山 際(ヤマギリ)	下菱村中里… 190
山 久 保(ヤマクホ)	下仁田山村… 140
山 崎(ヤマサキ)	名久木村…… 154
山 根(ヤマネ)	下広沢村…… 51
山 根(ヤマネ)	上久方村…… 60

小字名	ページ	小字名	ページ
山ノ神(ヤマノカミ)	高津戸村…… 133 (大間々町分)	雷電山(ライデンヤマ)	下菱村…… 189
山ノ神前(ヤマノカミマエ)	高津戸村…… 133 (大間々町分)	竜台(リュウダイ)	如来堂村…… 163
山ノ越(ヤマノコシ)	如来堂村…… 166	竜土(リュウト)	下広沢村…… 47
山ノ越(ヤマノコシ)	小友村…… 179	竜土入(リュウトイ)	下広沢村…… 51
山廻リ(ヤマケリ)	下新田村…… 169	六反谷戸(ロクタンガト)	本宿村…… 21
山畑(ヤマハタ)	高津戸村…… 134 (大間々町分)	六反谷戸(ロクタンガト)	下久方村…… 57
		六句(ロクク)	下菱村…… 187
ユ			
湯沢峯(ユザワミ)	上久方村…… 64	脇合ノ田(ワキアヒタ)	須永村…… 129
湯沢峯下(ユザワミシタ)	上久方村…… 64	脇沢(ワキザワ)	高沢村…… 77
柚木(ユズキ)	高沢村…… 70	鷲沢(ワシザワ)	二渡村…… 79
柚木入(ユズキイ)	高沢村…… 70	和七ヶ沢(ワシチカザ)	二渡村忍山… 83
湯ノ平(ユノヒラ)	二渡村忍山… 86	和田(ワタ)	須永村…… 128
湯ノ前(ユノマエ)	二渡村忍山… 90	和田道上(ワタミチウエ)	須永村…… 128
湯船(ユネネ)	上仁田山村… 150	和田道下(ワタミチシタ)	須永村…… 128
湯本(ユモト)	二渡村忍山… 84	蕨平(ワラビデエ)	飛駒村入飛駒
湯山(ユヤマ)	高沢村…… 76	われ石(ワレシ)	二渡村忍山… 88
ヨ			
與市谷戸(ヨイチカト)	東小倉村…… 117		
要害(ヨウガイ)	高津戸村…… 135 (大間々町分)		
用水堀端(ヨウスイリハタ)	如来堂村…… 163		
永明下(ヨウメイシタ)	須永村…… 125		
永明山(ヨウメイヤマ)	須永村…… 127		
横萱(ヨコカヤ)	二渡村忍山… 87		
横萱向(ヨコカヤムカイ)	二渡村忍山… 88		
横畑(ヨコハタケ)	飛駒村入飛駒 98		
横町(ヨコマチ)	如来堂村…… 164		
横道(ヨコミチ)	下仁田山村… 140		
横山(ヨコヤマ)	蕪町村…… 176		
横山(ヨコヤマ)	小友村…… 183		
与治右衛門窪(ヨジエモンクボ)	小友村一色… 185		
芳ヶ入(ヨシカゲイ)	小友村…… 181		
吉毛(ヨシケ)	今泉村…… 20		
吉田(ヨシタ)	下久方村…… 57		
葎ノ目(ヨシノメ)	西小倉村…… 121		
寄日(ヨシヒ)	山地村…… 104		
米沢(ヨシザ)	米沢村…… 178		
米餅(ヨシモチ)	飛駒村入飛駒 95		
米沢(ヨシザ)	山地村…… 107		
嫁ヶ久保(ヨメガクボ)	高沢村…… 76		
寄居(ヨシイ)	上広沢村…… 36		
寄山(ヨシヤマ)	小友村…… 179		
ラ			
雷電山(ライデンヤマ)	小友村…… 180		
雷電山(ライデンヤマ)	小友村一色… 184		

現行町名さくいん

町名	ページ	町名	ページ
ア			
相生町1丁目	163	琴平町	28・30
2丁目	168	サ	
3丁目	173	境野町1丁目	30
4丁目	175	2丁目	30
5丁目	177	3丁目	30
稲荷町	21・28	4丁目	30
梅田町1丁目	58	5丁目	30
2丁目	68	6丁目	30
3丁目	69	7丁目	30
4丁目	78・82	桜木町	28
4丁目合併分	91	新宿1丁目	28
5丁目	102	2丁目	28
5丁目合併分	97	3丁目	28
永楽町	23・26	末広町	21・23・26
大間々町	133	タ	
織姫町	28	堤町1丁目	23・26
カ			
川内町1丁目	116	2丁目	21・23
2丁目	121	3丁目	21・23
3丁目	125	天神町1丁目	56
4丁目	131	2丁目	56
5丁目第1町会	137	3丁目	56
5丁目第2町会	142	巴町1丁目	21・23
5丁目第3町会	144	2丁目	21・23
5丁目第4町会	154	ナ	
清瀬町	28	仲町1丁目	18
小梅町	28	2丁目	18
小曾根町	23・26	3丁目	18

町名	ページ	町名	ページ
錦町1丁目	28	菱町4丁目	190
2丁目	28	5丁目	192
3丁目	28	平井町	58
西久方町1丁目	56	広沢町間ノ島	30
2丁目	56	1丁目	32
／＼		2丁目	34
浜松町1丁目	28	3丁目	36
2丁目	18・28	4丁目	40
東1丁目	18	5丁目	43
2丁目	18	6丁目	47
3丁目	18	7丁目	54
4丁目	18	▽	
5丁目	18	美原町	21・28
6丁目	18	宮前町1丁目	21・23
7丁目	18	2丁目	21・23
東久方町1丁目	56	宮本町1丁目	26・56
2丁目	18・56	2丁目	23・26
3丁目	18・56	3丁目	26
菱町1丁目	178・179	4丁目	26
2丁目	179・184・186	三吉町1丁目	28
3丁目	179・186	2丁目	28
		元宿町	21・23・28

町別小字表

「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名

表1 [町名] 仲町、東
[村名] 今泉村

村名	小字名	仲町一丁目	仲町二丁目	仲町三丁目	東一丁目	東二丁目	東三丁目	東四丁目	東五丁目	東六丁目	東七丁目
今泉村	蔵殿									○	○
	石塚	○	○	○				○		○	○
	小谷原		○	○						○	○
	薬師堂		○	○							
	常木			○							
	高田		○								
	阿武久田	○	○								
	梁瀬		○					○	○	○	
	清水							○	○	○	
	槐原								○		
	保井						○				
	諏訪ノ前	○			○	○	○	○			
	殿谷戸	○	○								
	石田	○	○		○						
	土溢シ	○									
	雉子ノ尾	○									
	駒谷戸	○			○						
	東勝寺前	○			○	○					
	諏訪ノ後				○	○	○				
	川原					○	○				
吉毛					○	○					
十本原					○						
鹿ノ前	○			○							

表2 [町名] 琴平町、小梅町、三吉町、新宿、浜松町、錦町、桜木町、織姫町、
 稲荷町、美原町、清瀬町
 [村名] 新宿村、本宿村、今泉村、境野村

村名	小字名	琴平町	小梅町	三吉町一丁目	三吉町二丁目	新宿一丁目	新宿二丁目	新宿三丁目	浜松町一丁目	浜松町二丁目	錦町一丁目	錦町二丁目	錦町三丁目	桜木町	織姫町	稲荷町	美原町	清瀬町
新宿村	門口	○						○										
	南堀向	○	○					○										
	三ツ塚開戸		○	○	○	○						○						
	南堀前	○	○				○	○										
	下宿						○	○										
	中宿					○	○	○										
	上宿					○												
	北裏					○												
	東裏						○	○										
	後原									○								
	浜ノ原									○	○							
	上原										○	○						
	稲荷塚										○	○				○		
	上野原											○			○	○	○	○
	川除下															○	○	
	新田原																○	○
	吹上原												○		○			○
三ツ塚											○	○		○				
川島原		○										○	○	○			○	
本宿村	今井宿														○	○		
今泉村	小谷原								○									
境野村	関根	○																

——町別小字表「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名——

表3 [町名] 巴町、元宿町、末広町、宮前町、永楽町、小曾根町、堤町、宮本町
 [村名] 村松村、堤村、本宿村、新宿村、下久方村

村名	小字名	巴町一丁目	巴町二丁目	元宿町	末広町	宮前町一丁目	宮前町二丁目	永楽町	小曾根町	堤町一丁目	堤町二丁目	堤町三丁目	宮本町一丁目	宮本町二丁目	宮本町三丁目	宮本町四丁目	
村松村	細田				○			○									
	曲田								○								
	長ノ塚							○	○				○				
	土井下							○					○				
	宮前													○			
	宮田													○			
	蟬													○	○		
	皿久保													○	○	○	
	村松沢																○
	松立														○	○	○
	堂前														○	○	
	小曾根									○	○				○		
	堂ノ入															○	
	吾妻															○	○
堂所																	○
岩木戸																	○
堤村	柿ノ木	○	○		○												
	清水				○			○									
	深町				○			○	○								
	沼田				○		○		○	○							
	折石						○			○							
	赤坂			○		○				○							
	木ノ下					○					○						
	御堂									○							
	東									○				○			
	鳶ノ巣									○							
	西久保									○							
	西ノ入									○	○						
	五本木					○					○						
	膳棚										○						
	岩ノ入										○						
	坊谷戸										○	○					
	天津沢											○					
	中島											○					
	峠											○					
	田ノ入											○					

——— 町別小字表 「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名 ———

村名	小字名	巴町一丁目	巴町二丁目	元宿町	末広町	宮前町一丁目	宮前町二丁目	永楽町	小曾根町	堤町一丁目	堤町二丁目	堤町三丁目	宮本町一丁目	宮本町二丁目	宮本町三丁目	宮本町四丁目	
本宿村	砂田				○		○										
	仁田所		○		○												
	馬場中	○	○														
	今井宿		○	○													
	久保田		○	○	○		○										
	一丁田				○		○										
	六反谷戸			○		○											
	樋爪			○			○										
	堂屋敷			○													
	本宿			○													
	原			○							○						
	宮前			○		○					○						
	柳谷戸			○		○											
丸山										○	○						
新宿村	川除下			○													
	新田原			○													
下久方村	吉田												○				

町別小字表 「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名

表4 [町名] 境野町、広沢間ノ島
[村名] 境野村

村名	小字名	境野町一丁目	境野町二丁目	境野町三丁目	境野町四丁目	境野町五丁目	境野町六丁目	境野町七丁目	広沢間ノ島
境野村	浜ノ京					○		○	
	松宮					○	○		
	中通		○		○	○	○		
	諏訪	○	○		○		○		
	下小友				○	○			
	沼ノ上	○			○				
	殿林	○							
	三ツ堀	○	○	○			○	○	
	浜ノ京西原						○	○	
	浜ノ京天神台							○	
	間ノ島下河原								○
	間ノ島上河原							○	○
	関根			○					

表 5 [町名] 東久方町、天神町、西久方町
[村名] 下久方村、今泉村、桐生新町

村名	小字名	東久方町一丁目	東久方町二丁目	東久方町三丁目	天神町一丁目	天神町二丁目	天神町三丁目	西久方町一丁目	西久方町二丁目
下久方村	宮 東	○	○		○				
	清 台	○	○		○	○			
	宮 頭	○			○				
	杉ノ下	○			○	○			
	岡 城		○	○					
	大谷屋敷			○					
	前 原		○	○					
	赤 城 下		○						
	宮 原				○	○			
	道祖神前					○			
	天 水	○				○	○		
	宮 内						○		
	田 中					○	○		
	町 屋						○		
	古武小路					○			
	押 出					○			
	六反谷戸				○	○		○	
	上ノ谷							○	
	宮 西							○	
	谷							○	
谷ノ前							○		
峯							○	○	
吉 田								○	
今泉村	十本原		○						
	駒谷戸			○					
	鹿ノ前			○					

表6 [町名] 菱町一丁目～三丁目
[村名] 米沢村、小友村、小友村一色、下菱村

村名	小字名	菱町一丁目	菱町二丁目	菱町三丁目
米沢村	細田	○		
	米沢	○		
	広見	○		
	金場	○		
	扇平	○		
	女沢	○		
	高沢	○		
	大平	○		
	山神坂	○		
小友村	曲松	○		
	風穴	○		
	中小友	○		
	上小友	○		
	山神前	○		
	宿ノ島	○		
	寄山	○		○
	山ノ越			○
	小谷			○
	広見			○
	宮谷			○
	赤坂		○	
	八王子坂下		○	
	住吉		○	
	石田前		○	
	石田		○	
	深山		○	
	雷電山		○	
	柳谷	○		
	羽場山		○	
	八王子		○	
	後倉			○
	十貫山		○	○
	城ノ岡	○		
	芳ケ入	○		
	山神	○		
	駒転場	○		
金場	○			

村名	小字名	菱町一丁目	菱町二丁目	菱町三丁目	
小友村 (続き)	雉ノ尾	○			
	熊野		○		
	堰場	○			
	細久保	○			
	梅木窪	○			
	桑木窪	○			
	平棚	○			
	尾無沢	○			
	小友西ノ入	○			
	小友東ノ入	○			
	茗荷沢	○			
	大弥五郎	○			
	小弥五郎	○			
	高萩	○			
	烏ヶ寝戸	○			
	細ヶ入	○			
	谷ヶ入	○			
	馬不入	○			
	酸漿沢	○			
	間ノ山	○			
	田ノ入	○			
	猪ノ入	○			
	扇平	○			
	殺木沢	○			
	梅ノ木	○			
	姥穴	○			
	間ノ原	○			
	桂山	○			
	膳棚	○			
	堂ノ入	○			
	横山	○			
	小友村 一色	山谷戸		○	
		北原		○	
熊野沢			○		
下出			○		
中谷戸			○		
庚申塚			○		

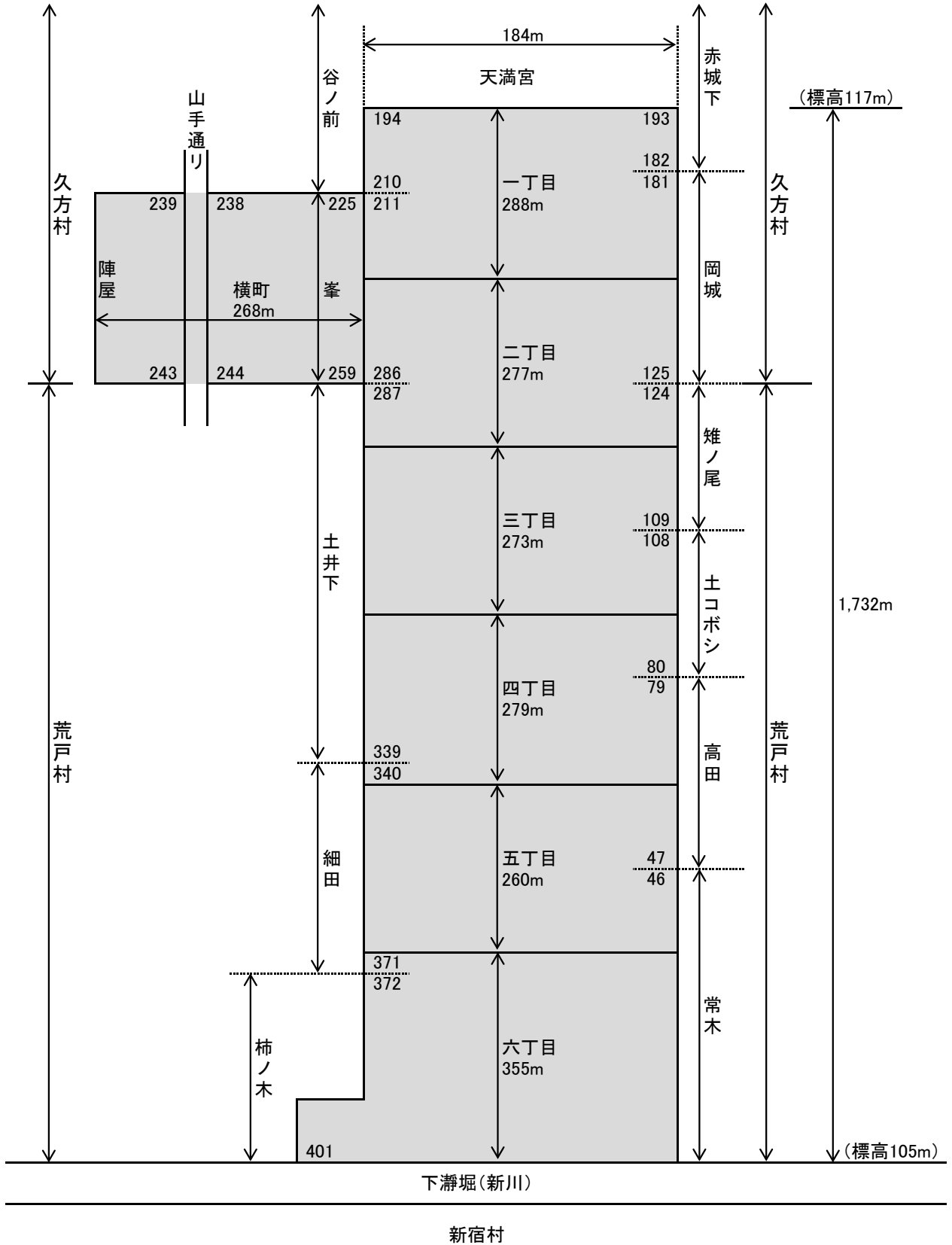
——— 町別小字表 「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名 ———

村名	小字名	菱町一丁目	菱町二丁目	菱町三丁目
小友村 一色 (続き)	橋 詰		○	
	森 山		○	
	腰 卷		○	
	小 沢		○	
	雷 電 山		○	
	木 落 シ		○	
	鳶 ノ 沢		○	
	伊 勢 ノ 前		○	
	竹 ノ 下		○	
	中 屋 敷		○	
	曲 坂		○	
	竹 山		○	
	西 ノ 入		○	
	元 屋 敷		○	
	蟹 焼 沢		○	
	高 畑 ケ		○	
	小 畑 ケ		○	
	東 ノ 入		○	
	与治右衛門窪		○	
	太郎左衛門窪		○	
烏 兎 土 地		○		
下菱村	高 田		○	
	田 中		○	
	神 谷		○	
	藤四郎ヶ入		○	
	寺 谷		○	
	谷		○	
	田 福 庵		○	○
	内 膳 屋 敷		○	
	雀 谷 戸		○	
	間 々 下		○	
	上 張		○	○
	上 平			○
	六 句			○
	大 門			○
坂 ノ 上			○	
羽 場			○	

村名	小字名	菱町一丁目	菱町二丁目	菱町三丁目
下菱村 (続き)	堂 前			○
	岡 ノ 台			○
	蔓 卷 田			○
	久 保			○
	八 幡 山			○
	殿 山			○
	谷 山		○	
	雷 電 山			○
	中 尾 根		○	

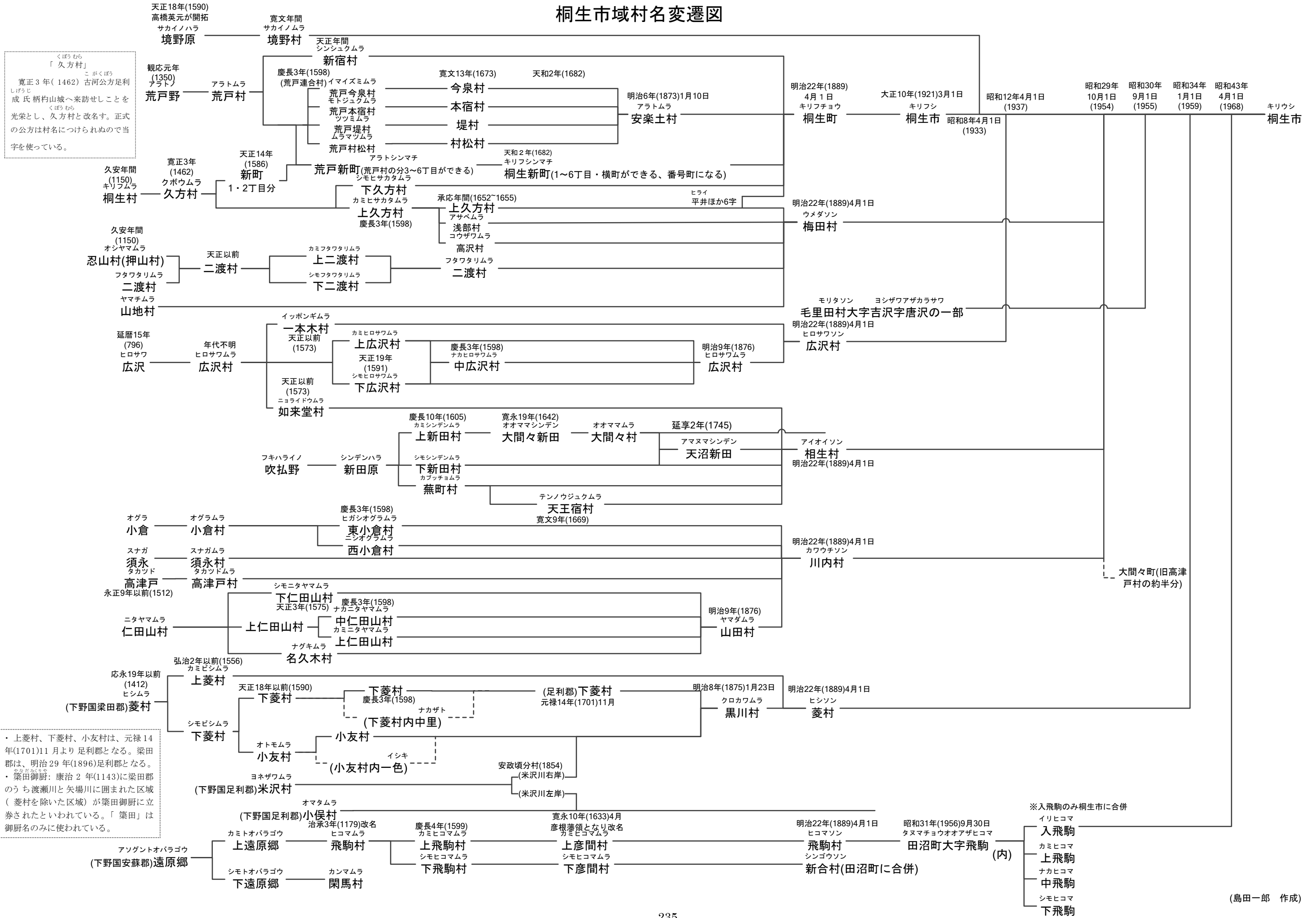
——— 町別小字表 「一町が一村で成立している町」以外の、町を構成する小字名 ———

荒戸新町「字」推定図



※数字は地番

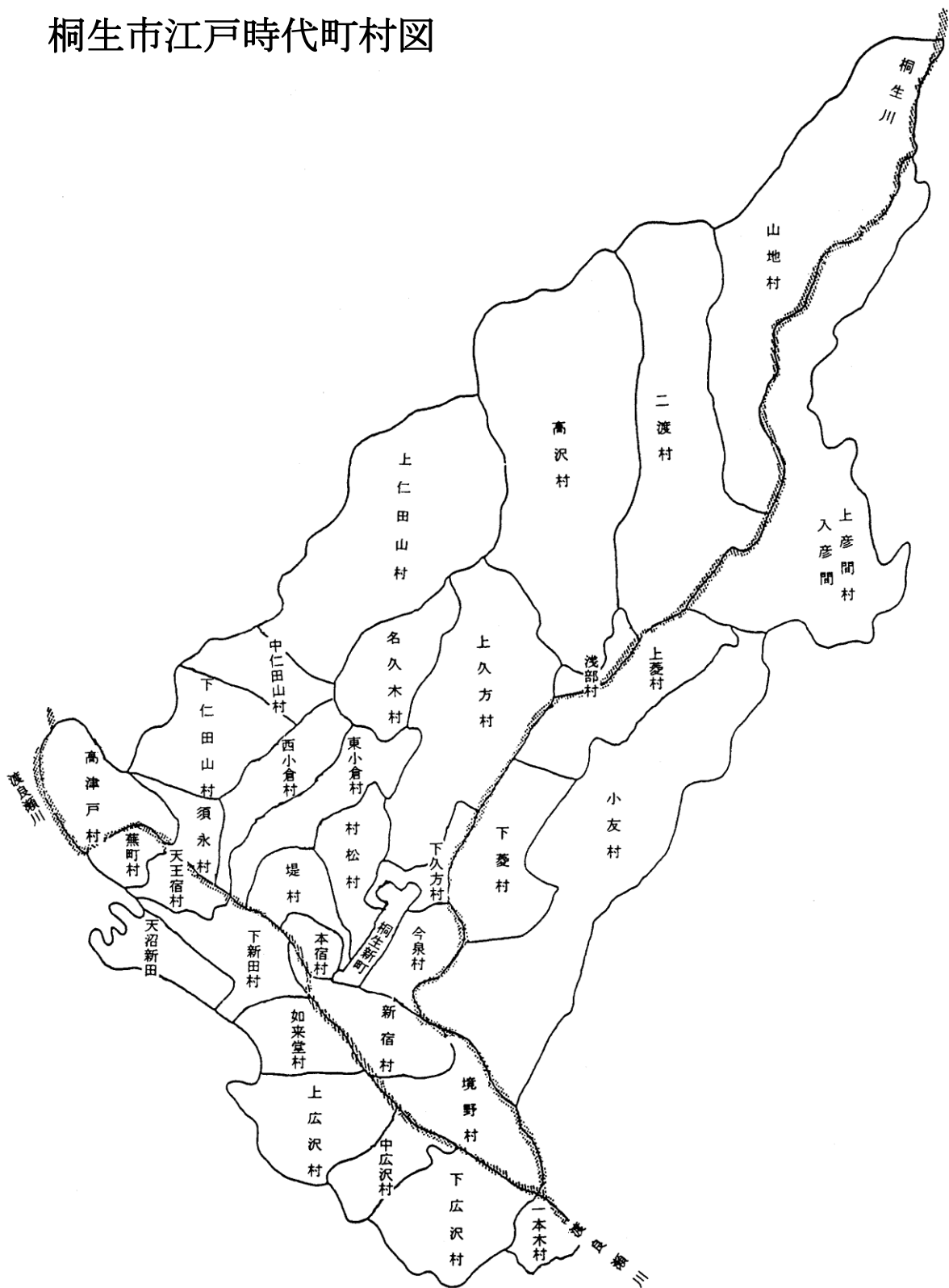
桐生市域村名変遷図



くぼりむら 「久方村」 こがくぼり 寛正3年(1462)古河公方足利しげうじ成氏柄杓山城へ来訪せしことをくぼりむら光栄とし、久方村と改名す。正式の公方は村名につけられぬので当字を使っている。

・上菱村、下菱村、小友村は、元禄14年(1701)11月より足利郡となる。梁田郡は、明治29年(1896)足利郡となる。
 ・築田御厨: 康治2年(1143)に梁田郡のうち渡瀬川と矢場川に囲まれた区域(菱村を除いた区域)が築田御厨に立券されたとされている。「築田」は御厨名のみに使われている。

桐生市江戸時代町村図



<著者紹介>

しまだいちろう

島田 一郎

1930年7月13日 桐生市本町6丁目に生まれる。

30歳の頃、柳田國男氏の「地名の研究」を読み、地名と出会う。

その後各地の地名考の収集を始め、50歳を過ぎた頃から生をうけた

桐生市の地名の調査に着手する。字アザと小字コアザを分け、すべてに解説を

つけるという手法は今までの日本の地名考になかったものである。

地名と出会ってから40年たち、本書の発刊となった。

住所 376-0021 群馬県桐生市巴町1丁目 1121

著書 「桐生市小字名索引」(桐生市立図書館、平成9年)

桐 生 市 地 名 考

定価 1000円

平成12年 2月29日 初版発行

平成12年12月 1日 第3版発行

著者 島 田 一 郎

編集・発行 桐 生 市 立 図 書 館

郵便番号 376-0022

群馬県桐生市稲荷町6番2号

電話0277(47)4341

